

◆ 創作ノート①(明治40年～大正5年)

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
夕鶴(ゆふばと)	野をまよひ、八千草に一もとは 秋 幸(さち)を、/露にさく 白菊の蕊 (しべ)にしむ	①	1		
歓楽	胸の海に、/潮さゝはどよみ	①	2		
亡友	草に早き、白露は、/風に散りて、 暮れにけり。文(ふみ)の窓。	①	4		
ゆふべ	暮るゝ早き山の寺、/鐘は誰かひく う撞(つ)く、	①	5		
秋の蝶	あゝ、あゝ、/翅(つばさ)のかぎり に、何処(いづこ)をやどりとは、	①	6		
金鈴銀鈴	黄金白銀(こがねしろがね)、鈴 (すず)はよき鈴。/あ、きくは何処 (いづこ)。	①	7		
山の湖	森を七重八重(なゝへやへ)、垣と、 /めぐらし、たゝへし水面に、	①	8		
セント セシリヤ	散る散る、ヒラヒラヒラと、/花ぞ 散り来。	①	10		
残雪	雪ぞ真白に、輝くばかり、/冬の 大野を飾りし	①	12		
鬼ごっこ	こはや一鬼は、名もこはや。/にげ よ一鬼の、目をにげよ。	①	14		
かへれ[友][母]	雁(かり)わたりて、秋草(あきぐさ) に落しける/涙かや。	①	15	目次の標題は「かへれ 母 演奏会 かへれ 友」	
栄ゆく国	窮りなしや 御国の御栄、/天地と もに栄(さか)ゆく神国(かみぐに)	①	16		
ながれ	海へ、海へ、只一すぢに、注(そゝ) ぐかな。流れ。/うまず、たえず一 すぢに、一すぢに 昼も海へ夜も海 へ注ぐ。	①	17		
ころころ小球	奇しき球よ。ころころころころ ころ/奇しき球よ。ころ、ころ、 ころ、ころ、ころ、ころ、	①	18		
流れぬ流	時の流れ、いとも早し。/隙(ひま) ゆく駒、とびゆく征矢(そや)、	①	19		
故郷の鐘の音	今こそ、故郷は響くか、鐘の音。/ わが家の窓すぎて、響くか、鐘の音	①	20	目次の標題は「故郷の 鐘」	
花	盛りの花の枝に、朝風わたれば、千 羽の胡蝶ぞ/とびまがふ。ヒラヒ ラ、舞ふよ、万羽の胡蝶	①	21		
雲雀	堇花(すみずみ)さく野中の春は、/おつる雲雀 よ、あがる雲雀。	①	22		
少女のなげき	運動会に、ころび、まけたる上に、 /袴を破り、かなしき小石。	①	23		
神楽	笛や太鼓に、ラララ、ラララ、/宮 は賑はし、ラララ、ラララ、	①	24		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
春野の一路	彩霞たなびく空に 天馳鳥うたひ／ 花みな薫る野原に 千羽の胡蝶舞ひ たつ。	①	25		
陽炎	天の園生の露ぞ、花の露ぞ降りき て、／夜の中に咲き揃ひぬ、夜の間 に薫さきぬ。	①	27		
ちんちろりん	ちんちろ、ちんちろりん ちんちろ ちんちろりん。／垣根に路辺に、夜 もすがら、	①	29		
花のなげき	都は彩の錦織りて朝夕彩の霞かゝ る。／都は彩の雲こそたなびけ、	①	30		
花見	山辺に堤に、桜は盛りぞ、／雨さへ 風さへ、今日しも知られじ、	①	31		
卒業	桂(かつら)／峯の桂(かつら)、しど にかをるなり。	①	32		
夕の楽	五百重の浪、黄金の鱗と染め残し つゝ、／日は入らんとす、	①	34		
磯の春	春の海、潮さして、しほさるのどよ み。／波がしら、白き花—白き花と 見せて。	①	36		
楽友	学びの友どち、／友どち集へば	①	40	「(学生聯合音楽会の 歌として。)」と注記	
水辺の柳	流れに垂るゝ糸柳は、／雨ふる朝、 珠をぞ貫く。	①	43		ポケット唱歌集
父母の家	夏を避けて人は往く。／夏を避けて 遠く往く。	①	44		ポケット唱歌集
花と楽(友垣)	園の花の紅—一人こそは愛でめや。 ／天の楽の高鳴—一人こそは聞かめ や。	①	46	目次の標題は「花と 楽」	ポケット唱歌集
暮影(ゆふかげ)	しづかに流るゝ風の音／桐の葉お のゝき日ぞ暮るゝ	①	47		ポケット唱歌集
夏はゆく	海山こえて おごそかに／日にのみ 立ちし 雲の峯	①	48		ポケット唱歌集
雲	軽くやすく行く雲にのらばや／海に 山によき雲にのらばや	①	49		ポケット唱歌集
古戦場の秋	ゆふづゝ一つ空にかゝる／戦場(い くさば)のあとに風ぞさわぐ、	①	50		月刊楽譜(二ノ九) 大正二年九月号
冬の讃美	あゝ、あゝ、あゝ、あゝ。／天の苑 にかをる花、	①	51		
帰郷	幾とせぶりなる わが故郷／幾とせ 見ざりし 丘よ川よ、	①	53		『音楽界』明治四十 四年九月号
東京／本所 茅場小学 校々歌	茅ぞ茂りし武蔵大野に／国の都のひ らけにぎはふ	①	54	目次の標題は「茅場小 学校々歌」	
福山中学校々歌	熊峯千古の雪ふらず／葦川、水は深 からず	①	55	目次には標題の記載は ない。	
誠之舎々歌	天にひゞくは何の楽／地にひらくは 何の華	①	56		福山学生会雑誌 三十 四号 明治四十三年

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
[題未詳]	母はいふけふは早やねよ父はいふい つそのことに夕刊を売れ、	①	58	目次の標題は「和歌 大正二年天長節の日の 歌会」。短歌8首	
渚にて	波打越えて、ゆくは、船か人か。/ されど艦のこゑと唄声と、	①	58		
この日のわかれ	学びの業なりし此の日。/(このよ ろこびに、何の涙、	①	59		
野の曙	高らかにこそ、鐘はひびき、/ 曙つぐる。	①	60		
東京本所 江東小学校 改 築/改名 記念式の歌	栄行く御代のしるしとて/栄誉ある われらの学び舎は	①	62	目次の標題は「江東小 学校記念式々歌」	幼年世界大正三年十 二月号 記事
青島陥落祝歌	万歳!! 万歳、万歳!!/ 陸路(くが ち)より攻め、海より寄せ、	①	63	目次の標題は「青島占 領祝捷歌」	
日本国民の歌(その一)	はなやかに、桜咲く国。/敷島の 大和の国は、	①	64	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
日本国民の歌(その二)	燦として、爛として、/不朽不滅の 大日輪が	①	65		
新年の歌	きのふの山、/きのふの川。	①	66		少年世界 大正四年 一月号 婦人画報 大正十年正月号
日本国民の歌(その三)	高く、清く、美しき富士は神山、 国の宝。/時と処にけじめなく、	①	68		
日本国民の歌	ひんがしに美(うま)し国あり大八洲 /神がしろしめす 三千年	①	69		中学世界 大正五年 一月号
二月の歌(雪)(南天と 紅梅)	ゆふべの嵐、夜の間ををさまり/ しづけきしづけき朝は、あけにけり。	①	70	目次の標題は「二月の 歌」	少年世界 大正四年 二月号
春の歌	氷と雪とに、とざられたる野山に、 /けふこそ、	①	72		
春の雨(コドモ唄)	春の雨が降る。ちらほら/咲いた 南の小枝の桜の花	①	72	目次には標題の記載は ない	
三月の歌(柳と桜)	そよ、そよ、そよーら、その風の/ 流れて入りて、街中吹けば	①	74	目次の標題は「三月の 歌」	少年世界 大正四年 三月号
青葉の一葉	風は流れるサラサラと、/青葉は揺 れる、ユラユラと、	①	76		
春、「不知火」に寄す る歌	萌ゆる、萌ゆる、若草萌ゆる。/ 野山に春の若草萌ゆる。	①	78	目次の標題は「不知 火」へ	九州の雑誌「不知 火」より求めら るゝ、再三にして。
岡山ことばの歌	一、讃岐へゆく船/岡山言葉はなつ かしゃ。/お見んさい、御ろんざ い。おえん[ぞ][が]な。	①	80	目次の標題は「岡山こ とばのうた 一、二」	
風は吹く吹く(花びら と蝶)	風は吹く、吹く、花に吹く。/ 花の梢にサラサラと。	①	84	目次の標題は「風は吹 く吹く」	少年世界 四月号
鯨王、日高亀市翁頌徳 銅像除幕式々歌	海をめぐらす日の本の/ おの子の亀鑑、世のかゞみ、	①	86	目次の標題は「日高翁 除幕式」	
少女の願	響くは島の歌、/かゝるは花の雲。	①	88		
田圃の蒲公英	ポツ、ポツ、たんぼぼ、たんぼの中 /の小径に咲けば、	①	90		少年世界 五月号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
風のうた	風は何処から吹いて来る、／そして何処まで吹いて行く。	①	92		少年世界 七月号
砂の砲台	美しい白い浜辺の砂を盛上げて／皆で築いたこの砲台は、砂の砲台。	①	94		少年世界 大正四年八月号
夕立晴	キラキラ、キラリ、ポチヨンとおちた。／夕日に光つて、軒からおち	①	96		
遠かみなり	三日も降れば、くさくさすると／雨をば呪ふ人間は、	①	97		淑女画報 大正四年八月号
沙浜に生きてゐる波	舟も浮ばず風さへ吹かぬ海を懐ける沙／浜には、	①	99	目次の標題は「沙浜に生きてる波」	中学世界 大正四年八月号
森の歌磯の歌	涼しき風こそ森には吹け。／涼しき森には泉ぞ湧く。	①	104		カード楽譜 八月号
新作 毬うた	とんとん手毬はあぢきなや、／わりなや、せつなや、やるせなや、	①	105	目次の標題は「毬うた」	「家庭と玩具」第一号
雪	降る、降る、雪が、花の様。／降るのは花ぞよ、雪ぢやない。	①	106		「家庭と玩具」
海遊び	午下り、風やみて、潮今ぞ満ち来(く)る、／薄雲は、はれゆきて、波今ぞ、寄せ来る。	①	107		
隣の唱歌	あれ面白や、二階の唱歌、／あの歌声と節も善し。	①	108		
君が門	君が門、柳緑に桜は白し、／おぼろ月夜の静けさよ。	①	109	目次の標題は「君か門」	
かまきり	「そのむかし／龍車に向ひしわれなるを、	①	110		少年世界 十月号
鎌倉郡 川口小学校々歌	流れてやまぬ片瀬川／満干たがへぬ汐時や、	①	111	目次の標題は「川口小学校々歌」	
林檎	林檎はきれい、赤くてきれい。／林檎は円い、まるまるこえて。	①	112		大正少年唱歌第三集
運動会の朝	今日はずれい運動会よ、／旗取、駈っこ、バスケツトボール、	①	113		大正少年唱歌第三集
木舟泥舟	鬼の船は木の船で／前へ前へと勇んで進む。	①	114		大正少年唱歌第三集
お月様	お月様、お月様、／何うして今夜は、そのやうに	①	115		大正少年唱歌第三集
天長節	今日は目出度い天長節よ／どうしてお祝ひ致ませうか。	①	116		大正少年唱歌第三集
飛行船	唸りを立て、青空に、／浮んですゝむよ、飛行船。	①	117		大正少年唱歌第三集
蓄音機	箱の中から声が出る、／ラツパの奥から声が出る、	①	118	目次の標題は「蓄音器」	大正少年唱歌第三集
落葉	木の葉が落ちた、／すゞしい影をしてゐてくれた、	①	119		大正少年唱歌第三集
腰かけ	遊戯や唱歌で疲れたら、／いつでも、此方へ腰かけて、	①	120		大正少年唱歌第三集

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
虫のこゑ	リン、リン、チリリン、虫がなく。 ／リン、リン、チリリン、虫がなく。	①	121		大正少年唱歌第三集
一月一日	今日は今年が一番はじめ、／一月一日 うれしいな、	①	122		
鸚鵡	鸚鵡は鳥でも口を利く、／人の真似 して口を利く、	①	123	目次の標題は「あうむ」	
犬と猫	私はお家の犬ですよ。／私がみないと わかるものが、お家へ入つてまゐります。	①	124		
梅に鶯	梅の木の枝に／梅の花咲いた。	①	125		
紀元節	昔、神武天皇が、／悪ものどもを平 らげて、	①	126		
雪	白い白い真白い、／雪が降る降る白 雪が、	①	127		
ストーブ	廊下は寒い風が吹く。／お庭は雪が 降つてます。	①	128	目次の標題は「ストーブ」	大正幼年唱歌第四集
活動写真	出て来る、出て来る、いろんな人 が、／あれ、あれ、小さな犬まで来るよ。	①	129		大正幼年唱歌第四集
積木	皆さん、之から積木をしませう。／ 積木でお家を建てませう。	①	130		大正幼年唱歌第四集
すごろく	すご六遊びはをかしいな／どんど んとんで、もう直きに	①	131	目次の標題は「すご六」	大正幼年唱歌第四集
重きつとめ	西月冷たき丘の上／斥候に出た小太 郎は	①	132	「(中澤偉吉氏筆の扉画に合せて)」と注記	少年世界 十二月号
ちんちろろ(鈴のうた)	ちんちろろ、ちんちろろ、ちろち ろ、ちろろ、ちんちろろ、／あかい おべつを母様が、おぬひになる時、	①	133	目次の標題は「ちんちろろ」	家庭と玩具 大正四年十二月号
まり歌(再出)	とんとん手毬は、あぢきなや／わり なや		134	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
大日本少年団々歌	東西古今例しなき／わが皇室の尊と さよ、	①	136		
帝国少年の歌	かゞよかに昇る日の国。／日の本の 大和島根は仇雲の	①	139	「(雑誌「帝国少年」創刊を祝すべく、たのまれて、)」と注記	帝国少年第一巻第一号
新年の歌	けふは新年おめでたう。／門松立 て、国旗を立て、	①	140		家庭と玩具 第三号 新年号
雪	降る、降る、降る。どんどん降る。 ／野山に降る、庭にも降る。	①	141		
日の国—海の国 (寄国祝)	きらきら昇る太陽は、／のぼる直ち に日本を	①	142	目次の標題は「日の国、海の国」	大正五年正月号 少年世界 ローマ字
野遊び	ヒラ、ヒラ。ヒラ、ヒラ。蝶々が舞 うて、／チピ、チピ。チピ、チピ、 小鳥が啼けば	①	144		大正幼年唱歌第五集

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
親亀子亀	親子の亀がお池から、／のそりのそりと匍ひ出して	①	145		少年世界 大正五年 第一号
トトテン節	春が来たぞよ、上野の山に、霞の奥に花が咲く、／私は(わたしや)かうしてをられない。	①	148		
井戸のほとり	井戸のほとりの無花木の木に、／小鳥が三羽、来てとまつたが、(それから)	①	149		
梅か鶯か—(どちらが早い)	どちらが本当か、私は知らぬ。／太郎のいふのを、きいて見れば—	①	150	目次の標題は「梅か鶯か」	少年世界 大正五年 二月号(ローマ字)
友のまとみ	山辺に歌へる小鳥の群。／集へば嬉しや、われらが友。	①	152		カード楽譜 第十三号
あうむ	鸚鵡が機嫌の善い時は、／人の真似して口を利く、	①	153		
お山	お山に登って驚いた、／元気を出して登つても、	①	154		
おべんとう	お腹が、ずみ分、すきました。／丁度、おひるになりました。	①	155	目次の標題は「おべんとう」	
堇たんぽぽ	堇は、紫、たんぽぽ、黄色、／どちらも奇麗に野にさきました。	①	156		
燕	電信線に三四羽の、／燕がとまつて、チピチピチピ。	①	157		
ひよ子	ひよ子、ひよ子、ピヨピヨ鳴いて、／おやのまわりでよろこびながら、	①	158		
かたつむり	お庭の隅のかたつむり、／ねむつてゐるかと思つたら、	①	159		
お玉ぢやくし	お玉ぢやくしが、大きくなつて／短い脚がだんだん生えた。	①	160	目次の標題は「お玉しやくし」	
御門	急いで来れば、見えた、見えた。／御門が見えた。	①	161		
春近し	春は来る一丘を越えて来る、／遠野の丘を越えて、どよもし来る、	①	162		
春の戯れ	花が散るのか、ヒラヒーラ、／蝶が舞ふのか、ヒラヒーラ。	①	164		
鬼が島	昔々、大昔、／鬼が島をば征伐に、	①	166	目次の標題は「鬼ヶ島」	
夕立	ピカピカ、光る電、／ゴロゴロなり出す雷に、	①	168		
東京市／京橋区 明石小学校々歌	都の東(ひんがし)隅田のほとり／旭の光のまづさすところ	①	169	目次の標題は「明石小学校々歌」	
尾道商業学校々歌	玉の光りの明らけく／海を照せし玉の浦。	①	170		
高崎高等女学校々歌	朝夕窓に仰ぎ見る／榛名の山の高さかな	①	172	目次の標題は「高崎高女校歌」	
きらめきうたふ星	深山の寺の鐘の音の／末の一つが野末に消ゆれば	①	174		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
わが歌ふ歌に	さおどるよ、心。歌を歌へば、 立つよ、心。歌を歌へば、	①	176		カード楽譜第二十三号
◆ 創作ノート②(大正5年～9年)					
沙の底の温み(散文詩)		②	1	標題のみ記載。目次の 標題は「沙の温み」	『第一義』二月号
夜なき鳥(短詩)		②	2	標題のみ記載	「SNAKE」第二月号
第七の絃	十三の絃みな弾くに第七の絃のみぞ 鳴る一すぢに鳴る	②	3	目次の標題は「第七の 絃(和歌)」。短歌48首	
晴天雨天	お日が出てゆく朝早く／何処へ出て ゆく、元気よく、	②	16		「小学園」
夜(よる)の間(ま)の溝 (みぞ)	かゝること何すればとてあやまりし などゝ／思うて君のかなしき	②	17	目次の標題は「夜の間の 溝(和歌)」。短歌63 首	
白鳥船(散文詩)		②	34	標題のみ記載	「SNAKE」四月号
[赤き襟]	赤き襟に赤き唇して色白のやゝおて んばに／なりききし子の	②	35	標題の記載はない。目 次の標題は「赤き襟 (和歌)」。短歌53首	
竹馬の脚	『竹馬なんて、をかしいな、／馬な ら脚が、前後、	②	48		少年世界 大正五年 十一月号
卒業式のうた(卒業生 用)	野山に花さき、春来る、春ぞ来る。 ／学びの庭にも、かぐはしき花咲き	②	50	目次の標題は「卒業式 のうた」	
池の氷	キヨロン、キヨン、キヨン、キヨキ ヨ、キヨロン、キヨン。／氷が鳴る のか、小石が鳴るか。	②	52	掲載紙誌の切抜貼付	
櫻子へ	ふと、病むてみずやと思ひ見しこと が、まざまざ／当り君病みてあり	②	53	目次の標題は「櫻子へ (和歌)」。短歌26首	
森に入りて	森は楽し、おもしろの鳥の歌の／満 ちてあり。	②	60		カード楽譜
文ちやんの[お ちゝ][初旅]		②	62	標題のみ記載。目次の 標題は「文ちやんのお ちゝ」	「児童」
おどけ詩／もの語り 鼠 の決死隊	猫は鼠が大好きで／鼠は猫が大嫌い、	②	63		幼年世界 大正六年 十一月号
文進堂エール	見よや、色濃き紫の／旗を朝日にひ るがへし、	②	67		
上下の白	米搗き麦搗き搗臼が／いくつもなら んで搗いてゐる。	②	68		少年世界
おろかな蛙 (が歩い て。)	おろかなカエルが考へた。／おれに は手もある足もある、	②	70	目次の標題は「おろか な蛙」	
ポプラといてふ	秋になつたらポプラが散る、散る、 ／黄いろ□□、ヒラヒラヒラヒラ	②	72	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	淑女画報 十月号
山の木野の木	木の葉が散るよ 山の木 野の木／ 木、木の葉が皆、ひらひら散るよ。	②	74		写真少年 一ノ一 「新選楽譜」(大正十 年)
前の電車と後の電車	電車の後から電車が走る／前の電車 がゴーゴー走れば	②	76		幼年世界 六年十月 号 (子猫の鈴)

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
針と糸	針はグングン縫って行く／糸はスルスル続いて行く	②	78		淑女画報 七年十月号 家庭雑誌 十年
秋田県／男鹿郡 鹿山小学校々々歌	朝夕仰ぐ鹿山の／姿も清く美しく	②	80	目次の標題は「鹿山小学校歌」	
東京市／浅草区 柳北小学校創立記念式々歌	黄菊 白菊 香も高く／咲きて祝ふか、この庭に。	②	82	目次の標題は「柳北小学校記念式歌」	
翠溪追悼会のうた	前を行き、ころがるように前をゆき、何か知らぬ物／われをみちびく	②	84	目次の標題は「翠溪追悼(和歌)」。「(大正四年頃)」と注記。短歌12首	
フロツク姿	雨が降るのに、傘をもさゝず／紳士が一人、街路(まち)を行く。	②	87		
新潟県中條町青年会々々歌	熊野の森の朝ぼらけ／ほがらに鳥のこゑすれば	②	88	目次の標題は「新潟県中条青年歌」	
だるまさん	真赤な着物にくるまつて、／ちつとも歩かぬだるまさん	②	90		淑女画報 七年九月
秋の心	そよぐ風のいとも静、／いつとは知らず胸に吹けば	②	92		淑女画報 七年十一月号
軍歌 許斐少佐		②	93	標題のみ記載。目次の標題は「許斐少佐(軍歌)」	写真少年 大正七年十一月号
比翼の鳥	灯、いとも花やかに／鶴、豊に舞ふ蓬萊の	②	94	目次の標題は「比翼の鳥(吉田晴風結婚祝歌)」	
少年通訳(西尾光次君)	大和島根に生れたる／我も男ぞ、少年ぞ。	②	96	目次の標題は「少年通訳」	「写真少年」 十二月号
新年	アレ、鶏が、コケコツコー、／大きな声で、コケコツコー、	②	101		
月に浮れて	向ふのお山で、ポンポコボン、／鼓の好きな狸さんが、月に浮れてポンポコボン、	②	102	「兎と狸」を改題	お伽の日本
ひよこ	ひよこが、ピョピョないてゐる／親のまはりで、三羽四羽	②	103		婦人画報 大正十年五月号 オハナシ
駱駝	どんないたづらしたのか駱駝／どこかで、うんと、たゝかれて	②	104		「白鳩」(お伽の日本)
小さな鯉	小さな鯉に麩をやると、／大きな鯉が浮いて来て、	②	105		オハナシ
風と七面鳥	怒つた、怒つた、七面鳥、／あかい顔して、キヨロ、ク、ク	②	106		白鳩
小猫の鈴	子ねこが、一人で、縁側で／頸輪の鈴をちろちろと鳴して、ぢやれてゐる中に、	②	107	「(著書の巻頭に)」と注記	
ぼちとたま	意地悪子供が、吠えられた、／お家のぼちに泣かされた。	②	108		特撰 新唱歌 (第六編)
鸚鵡	「鸚鵡、御早よう」、「お早う、鸚鵡」／何べん、よんでも、返事もせず、	②	109	目次の標題は「あうむ」	女学世界 大正九年九月号
蝸牛	蝸牛、蝸牛／眠つてゐるのか、寝てるのか。	②	110		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
親猿子猿	おさる、おさる／追つかけて遊ぶ、	②	111		大正九年一月、女学世界へ
家鴨	あひるが、ならんで、お池に浮んで／列を造つて、一しよに、進む。	②	112	目次の標題は「あひる」	女学世界 大正九年八月号
金魚	きれいな ガラスの金魚鉢／きれいな つめたい水一ばい	②	113		
白熊	動物園の白熊が、／両手をついて首を振る	②	114		オハナシ 第二号 お伽の日本
木馬	木馬 急げよ、はいしい、はいしい、／戦が、はじまる、急げよ、急げ。	②	115		小学少年 十年十二月号 お伽の日本
独楽	こまが、くる、くる。／くる、くる、まはる。	②	116	目次の標題は「こま」	新特撰楽譜 第四十四編
竹馬にのる歌	左の足も、長い脚／右の足も、長い脚	②	117	目次の標題は「竹馬」	
球つき遊び	緑の野原を、隅から隅へ／赤球二つ	②	118	目次の標題は「球つき」	
にこにこ人形	人形、人形、お人形、／わたしの人形、お人形、	②	119		
サンタクロース	サンタクロースのお爺さん、／今年も、きつと、お家へお出で。	②	120		「白鳩」十年十二月号
大相撲	東も横綱、西も横綱／大きな体、力も強い、	②	121	目次の標題は「すもう」	
紙風船	紙風船をポーンポン、／上手につきませう、高く、高く。	②	122		「我子の教育」
積木	積木、積木、／よく気をつけて、	②	123		
人形の病気	私の人形、どうしたんでせう、／顔も、足も、手も冷たくて	②	124		
お砂場	銀砂ざらざら盛り上げて、／お山が出来た、高い高い。	②	125	目次の標題は「お砂場遊び」	
蓄音機	ぐるぐる、ぐる、ぐる、ねちをかけ／はなせばくるくる、れこおとが	②	126	目次の標題は「ちくおんき」	「我子の教育」
しやぼん球	ふうふう吹けば、ふくらんで／きらきら光る、しやぼん球	②	127	目次の標題は「しやぼん玉」	「我子の教育」
犬と猫	私は、わんぱく大きらひ、／ワンワンワンワン、わんぱくの	②	128		(小学少年)
雀のおしやべり	垣根で三羽の子雀が、／並んで何かはなしてる。	②	129		
あくがれ	故もなきに胸のさわぐよ。／胸の海に潮の寄するか、	②	130		
高野山浄菩提院なる小夜子へ	浄菩提高野の山の山霧に法の燈の／くらき夜のあらむ	②	131	目次の標題は「小夜子へ(和歌)」。短歌18首	
日本製麻会社工場歌	都の東北赤羽町の／赤き煉瓦の大工場は、	②	134	目次の標題は「日本製麻KK工場歌」	
正直爺さん	裏の畠の榎の木の下を／掘れば掘るほどピカピカピカピカ	②	136		宝玉楽譜 第二編

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
ニコニコピンピンの歌	お日が照る照る、町に照る、／野に照る、海に、山に照る、	②	138		大正九年六月上旬 「宝玉楽譜」 第一集として上方屋平和堂岩瀬書店より発行 大正九年五月 アルス書房より発行
処女会／のうた 野の幸	霞にほゝゑむ岡辺の桜／陽炎もえたつ広野の菫、	②	140	目次の標題は「野の幸」	
春の風	知らぬ間に柳[に][の]芽が出てをりました。／何時の間に、吹いてみたのか、春の風。	②	143	掲載紙誌の切抜貼付	女学世界 大正九年四月号 新作箏曲
野の小川	岸のたんぽぽ、菫の花の、影を宿して、／霞む野末へ、ゆるく流れて、日を暮らす、	②	144		
五月のうた	もう夜が明けた うれしいな／雀もとつくに おきてゐる	②	145		小学少年 五月号 新特選楽譜
春野の花の集ひてうた ふうた	(菫)雪消の野路に、咲き出し菫、／ゆかりの色の、ゆかしき菫	②	146	目次の標題は「春野の花の唄」	(菫)(蒲公英)(桜草)(勿忘草)(菜の花)(蓮華草)(ばら)
なすのよー	ゆらりゆらりと波間の船の／棹の先なる扇の的よ、	②	148	目次の標題は「なすの与一」	
をんどりめんどり	私の育てた をんどりが、／体も太り 背ものびて、	②	150		
操山にて	風そよげば、梢に声あり、／「操山の松の緑のかはらぬ契」	②	151		
お角力	カツチカツチと柏子木たゝき／名を呼び上げた評判々々、	②	152		特選楽譜(大正十年版)
ジャンケンボン	ジャンケンボンヨウ、アイコデセウ、／あらあらだめよ、もう一度、	②	154		特選楽譜
箏曲 燕と少女	甲、 燕、燕、何してゐるの、／電信線に並んでとまり	②	155		少女画報 大正十年三月号
一つ星	あはれ夜更けのヴェランダに／一人仰げば何知らず	②	158		
鐘楼守	山の御寺の鐘楼守／病みしや今日も暮れたるに	②	159		
秋のお庭	チロ、チロ。チロ、チロ。チロ、チロ。／小さな声で、よい声で、	②	160		女学世界 大正九年十二月号
たのしいお家／お出迎	早くお家へ帰りませう／お家の御門で母さまが	②	161		
お出迎	はやく、お家へ帰りませう、／お家へ帰ると、母さまが、	②	161	「たのしいお家／お出迎」が書かれたページの欄外(上段)に記載	
僕は陸軍大将	僕は陸軍大将よ／いつもお馬でハイドウドウ	②	162		婦人画報 大正十年二月号
志きりに散る花	風は吹くとも見えぬ夕、／花ぞ、しきりに、ちるよ、ちるよ、	②	163	目次の標題は「しきりに散る花」	
子守歌	静かに眠れよ、手足をのばして／楽しき夢路を辿れよ、	②	164		
別るゝ日	別れて行けど心ぞ残る、／この日の別れ、忘らるべしや。	②	164		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
めん鶏をん鶏	私の育てた をん鶏が、／体も太り 背ものびて、		165	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
森のもれ日	森に響くは、／鳥の声か、風の戦ぎ か、水の音か。	②	166		
カーネーション	かなしや カーネーション／色ぞあ せゆく、	②	167		
◆ 創作ノート③(大正10年～11年)					
タンク	ゴト、ゴト、ゴト、ゴト、動き出 す、／ゴト、ゴト、ゴト、ゴト、廻 り出す、	③	1		
蝙蝠	鳥かとみれば 変な羽根／嘴がな く、耳がある	③	2		
天の岩屋	天も地も真の闇、ものすごき闇／只 光る 岩のかげ、天の岩戸。	③	3		
遠足の歌	天気も今日は日本晴／指折り数へて 待ちわびし	③	4		
花盛り	開いた開いた、野山のお花が開い た、／一面にきれいに開いた。	③	6	目次の標題は「花ざか り」	
古机	三十年も昔から／この教場にすゑら れて、多くの元気な子供らの	③	7		(第六集)
鹿の水かゞみ	山の奥から、水飲み、／鹿が谷へ と出て来たが	③	8	目次の標題は「鹿の水 鏡」	
水の旅	空からおちては木の葉の上へと／ポ ト、ポト、ポト、ポト、	③	10		
ワシントン	小さな手斧を片手に下げて／庭に出 て来た一人の子供	③	12		
てふてふ	長閑な春が広野に来れば／よろこび 舞ふよ、広野の蝶々が、	③	14		
白鳥	波も立たぬ池の面、／深い水、青い いろ、	③	15		
マラソン	後から後から、多勢来るよ、／勇 し、勇し、マラソン競走、	③	16		(第六集)
つばめ	風をきつて、とんで来る勇しの燕、 ／つぶての如く、矢よりも早く、	③	18		(第六集)
港	港の中の賑はしき／林とならぶ帆ば しらを		20	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
金鶏勲章	お弓にとまつた一羽の鶏(とび)が／ するどく光り、悪者共の	③	21		
ポスト	町の曲り角の真赤なポスト、／風に 吹かれ	③	22		大正少年六
川中島	勝気な大将謙信は、／味方の軍の真 先に	③	24		大正少年六
収穫	野には稲の豊けきみのり、／黄金の 波ぞ、かゞやきわたる。	③	26		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
養老	老はしつれど、何よりも／酒を好める父のあり。	③	30		
野菊	田んぼの中の細みちの、／ほとりに咲いた一本の	③	32		大正少六
塙保己一	目は見えざれど書物をば／人によませて一心に	③	34		大正少七
港	港の中の賑はしさ、／林とならぶ帆ばしらを、	③	36		大正少六
蓮華草	野を紅にそめなして／山のつゝちと色きそひ	③	38		大正少七
落葉のはなし声	同(おんな)じ枝の葉が二つ／風もないのに落ちたとき、	③	42		
羽子つきの歌	カツチン、カツチン、カツチン、カツチン、／高く、高く、勢、強く。	③	43	目次の標題は「羽子つき」	「幼児の研究」十二年正月号
羽子つき遊び	カツチン、カツチン、カツチン、カツチン、／高く、高く、力を、こめて、	③	45	全体を斜線で消してある。「裏面に改作」と注記。目次には標題の記載はない	(幼児の教育)十二年正月号
私の本箱	並んだよ、並んだよ、御本が並んだよ／二冊、三冊、七冊、十冊、	③	46		(蟻の塔)十一年十二月十日号
雪の塊	同じ枝にのこつた／昨日の雪の塊が	③	47	目次の標題は「雪のかたまり」	少女クラブ(十二年二月号)
正月を待つ歌	うれしいな、うれしいな／もうぢき正月、お正月	③	48	目次の標題は「正月をまつ歌」	「幼児之研究」十一年十二月号
青森市長島小学校々歌	いはれも尊とき学び舎の／名も長島の末永く	③	49	目次の標題は「青森、長島小学校々歌」	
二つの葉	同(おんな)じ枝の葉が二つ / 風も吹かぬに落つこちた	③	50	全体を×で消してある。標題の下に「「雪の塊」と改作 11.11.24」と注記。目次には標題の記載はない	
煙の踊	煙が踊る、とんさらり、／煙突の口で、とんさらり、	③	51		談話会
大風小風	大風大鬼力持、／手足をひろげて、大声で	③	52		「白鳩」十二月号
足が歩く	足が歩く、足が歩く／皆の足がテクテク歩く	③	53		「少女」十二月号
地面	地面は背中が重からう、／御門も御家も乗つてゐる	③	54		「白鳩」十一月
もみぢ	赤い、赤い、もみぢが赤い／もみぢの、葉つばが、真赤に赤い	③	55	目次の標題は「もみぢ」	「幼児之研究」十月号
運動会	今日はうれしい運動会／日本晴の運動会	③	56		「幼児の研究」十一月号
節約宣伝歌	飲むな飲ますな飲まさるな／口にはうまき酒煙草、	③	57	「(東京商業会議所の依頼によりて)」と注記	
となりの犬	今度となりへこして来た／軍人さんの犬は尻尾なし	③	59		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
[ほたるこい]	蛍来い、飛んで来い、／こんなに明るい昼、出て来い	③	60	標題の記載はない。目次の標題は「ほたるこい」	
生徒思ひ	行くなど、よくよく 止められたるに／川の深みに 溺るる生徒	③	61	目次の標題は「生徒思ひ」	
電燈来	来たぞ来たぞ、／明るい電気が、	③	63		
[題未詳]	赤い赤い、モミヂが赤い／もみぢの葉つばが、真赤にあかい	③	64	標題の記載はない。全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	「幼児の教育」十月号
夜の時計	夜の夜中に目がさめて、／大きな音でチクタク、	③	65		
牛淵雑詠	真夏の日真向に照れば輝きて／勇ましと見よ真白半ツボン	③	66	掲載紙誌の切抜貼付。短歌9首	
四角の歌	お部屋も四角 机も四角／机のわきの火鉢も四角。	③	67	目次の標題は「四角のうた」	「白鳩」十二年二月号
流れ星	夜の御空の原つばに／星の子供が出揃つて	③	68		「少女」十月号
一つ柿	五作畑(ばたけ)の柿の木の、天辺に／一つ残つて、大柿が、熟れてゐる	③	69		少年(十二月号)
海の夕日	お日様海におち込んで／海が真赤に染まつてる	③	70		「母の友」十月号
窓の雀	雀がさつきから窓に来て／あんなに本気で啼いてゐる	③	71		「白鳩」十月号
鬼瓦	酒屋の倉の大屋根の／黒い大きな鬼瓦	③	72		「少女」九月号
大羽根小羽根	ヒーラリや ヒーラリや／ヒラヒラ、ヒンラリ、ヒンラリや	③	73		童謡エハガキ「花と蝶」
野の春	蜂の楽隊 ブンブクブン／ブーン、ブーンの、ブンブクブン、	③	74		童謡エハガキ「花と蝶」
何花野花	兎君、ピヨン、ピヨン、／散歩にピヨン、ピヨン、	③	75		童謡エハガキ「花と蝶」
蝶を待つ花	咲きました、咲きました／お花は残らず咲きました、	③	76		童謡エハガキ「花と蝶」
うさ一	お兎も、兎子も、兎一も／みんな善い子よ、おとなしい。	③	77		童謡エハガキ「花と蝶」
蝶子夫人	ハイカラ蛙のダンスのけいこ／ツボンも上衣(コート)もカラーも借り物	③	78		童謡エハガキ「花と蝶」
だんだら模様	野の御馳走のいろいろを／お皿に盛つて待つてるに	③	79		童謡エハガキ「花と蝶」
円い椅子	気まぐれ きのが 野に生えた／野のまん中に によきによきと、	③	80		童謡エハガキ「花と蝶」
蛙の子	池のほとりの木の枝に／小鳥チクチク、チイチクチ	③	81		児童新聞 十二年六月末号
蟻の船頭	風もないのに、落ちて来て／お庭に溜まつた水の上に	③	83		「白鳩」八月号
お父様のひるね	お父様ねんね／眼鏡をかけて	③	85		少女 八月

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
真黒鳥	だまつて田圃を歩いてる／真黒鳥、	③	87		(白鳩)十一年七月号
大鳥	大きな鳥がヒヨツコヒヨコ／田圃の中を真直に	③	88		(樗の実 十月号)
汽車開通	あれ、／汽車が通る、汽車が通る。	③	89		(コドモノクニへ)
物の音	夜中の／戸の外に、	③	90		
東洋紡績、王子工場のうた	飛鳥の山の花吹雪、われらが紡ぐ糸の上に、／かゝるか風もかぐはしき、春は楽しき明暮の	③	91		
山丸製糸場 工女のうた (その一)	煮釜、とり釜、とり湯の中で／繭はにえ候、おどり候。	③	93	目次の標題は「山丸、工女のうた」	
山丸製糸の工女のうた (その二)	春はおもしろ、氷川の花見、お宮の御手洗水／花が散る、ヤレ、花が散る	③	95		
梟の夢商売の歌	ホーホー、売れて候／ねの字の夢が売れて候、	③	97	「久留島氏作童話「梟の夢商売」の中に入る。」と注記。目次の標題は「梟の夢商売」	
ふくろう	うつら、うつらの目がさめて、ホーホー、／お山の奥の大木の、ホーホーホー、	③	99	目次には標題の記載はない	(談話界 七月号)
物さし	物尺の目もりの黒筋は／観兵式の兵隊が	③	100		令女界 七月号
五本指	私のお手々の五本指／いつでも五本の一家内	③	101		「白鳩」六月号
大飛球	憂飛ばされた大飛球、／中堅越の本塁打	③	102		野球少年
窓	私が窓に のぞいたら、／右左から大屋根が	③	103		小学少年
おひるすぎ	雀と雀と話してる／おんなじ屋根の西東	③	104		野球少年(七月号)
天井裏のをどり	天井板でトラツ、ラ、ラ、ラ、ラ／お手をつないでトラツ、ラ、ラ、	③	105	目次の標題は「天井うらの踊」	小学園
指の手品師	旭があたる 戸にあたる／戸の節孔を つきぬけて	③	106		「少女」大正十一年五月号
花の筆入	一番上の姉様の／東京土産のお筆入	③	108		少女「七月号」
夢の金の杖	夢の王子がお帰りに／お忘れなされた金の杖	③	109		(白鳩 五月号)
雪兎	円いお盆の雪兎、／つめたからうよ、寒かると	③	110		「少女」十二年二月号
電信柱大男	電信柱、大男、／うーん、うーんと唸つてる。	③	111	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
[題未詳]	ポツポツポツと雨がふる。／真冬の屋根に、雨がふる。	③	112	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
電気燈	夜の夜中の行列は／長い廊下の電気燈	③	113	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
夜の行列	夜の夜中の行列は／長い廊下の電気 燈。	③	113	「電気燈」の改作。同 じ頁の欄外(上段)に記 載	「白鳩」四月号
ゑ	鉛筆でかいて／ゴムケシでけして	③	114		
野の電信柱	電信柱 大男／風に吹かれて唸つて る	③	115		(少女 四月号)
ポツポツ冬の雨	ポツポツポツ、雨がふる、 パラパ ラパラ、花が散る／真冬の冷た い 瓦屋根。	③	116		
ゴムケシと鉛筆	赤いきれいな筆入に／一緒に住んで る敵と敵、	③	117	目次の標題は「ゴムけ しと鉛筆」	
土の下の土	何か夜の間に出て来ては／お庭の隅 をほつて行く	③	119		「白鳩」十一年二月 号
むぐらの子	冷たい風も吹いて来ず／雨さへ雪さ へ降らぬ国	③	120		「白鳩」十一年三月 号
西洋人形一むねり人形	私の人形は新らしい／西洋人形、大 人形、	③	121	「ねむり人形」の誤 記。目次の標題は「西 洋人形」	コドモノクニ
白兔	白兔、白兔、／あなたのお家は ぬ くさうね	③	123		
咳の子	コホン、コホン。コホン、コホン、 コホン。／円い顔した咳の子が	③	124	全体を斜線で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
縄の電車	地面にするする白墨で／かいた二本 の電車路	③	125		「小学少年」十一年 二月号
土を掘れ	庭をほれ、ほれ、土をほれ、／ほつ ても、ほつても、土が出る	③	126	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
[題未詳]	今朝も雀がないてゐる、／毎朝窓に 来てはなく、	③	127	全体を打ち消し線で消 してある。目次には標 題の記載はない	
下駄	カラコンカラコン、カラコンカラコ ン、／今日から新(さら)の下駄は いて、	③	128	目次の標題は「カラコ ン」	(少女 十一年二月 号)
大雪	降つてる降つてる、積つてる。／雪 が降つてる、積つてる。	③	129		「音楽」
門松	千本万本 檜の穂を／ギラギラ お 日に光らせて	③	130		婦人界 大正十一年 新年号
日の出	あれ今お日の出／立派な日の出	③	131		「少女」 大正十一 年新年号
雪の富士山	出て見よ／出て見よ	③	132		少女 一月号
お正月さん	来ました、来ました、お正月さん が、お土産に、／凧もつて、独楽も つて、	③	133		(白鳩)十二年正月号
旗日	立派な立派な今日の町／右に左に軒 なみの	③	134		(白鳩)十一年新年号
白マント	うれしや、私の大すきな／富士山、 今日から、白シヤツポ	③	135		「コドモの国」十一 年二月号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
をかしや富士山	をかしや富士山、／だんだん涼しく なつて来て、	③	136	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
蟻のボート	ボートの形の 小さなお菓子が／お 庭に一つ、落ちてゐる	③	138		
生糸業、創始五十年の 賀の歌	昇る朝日の勢みせて／栄え栄ゆるわ が日の本の	③	139	目次の標題は「生糸創 業五十年」	
富岡製糸場工女の歌	くるり、くるくるたゆまずめぐる／ わが糸車、元車、	③	141	目次の標題は「富岡製 糸場」	
大鳥	田圃をだまつてとんでゐる／何うし て、そんなに真黒い。	③	143	全体を×で消してあ る。目次には標題の記 載はない	
コスモスボート	垣根の外まで、すらすら伸び出て、 ／真上を向いて、一輪咲いてるコス モスに、	③	144		『白鳩』九月号
黎明(あけぼの)	うすら明りの 東の空に、／人の子 われ等の耳には聞えぬ	③	145		
市立／小石川 柳町小 学校々歌	我等が かしらに 戴くは／大和心 の 桜の花よ。	③	147	目次の標題は「柳町小 学校々歌」	
運命 (花)	同じ野路に、同じ春を／咲き出し花 の何すれば、	③	150		
少女か	触れなば散るらん花とは知れど、／ ほかにはとるべき花なきに似て、	③	151	「苦しみ」を改題	婦人画報 大正十年 六月号
山かげ日かげ	あまりにひくきわが運命／われから 知りて、しみじみと、	③	152		「白鳩」第一卷第三 号(大正十年六月号)
希望	星一つかゞやけり、／希望の星の、 かゞやけり。	③	153		
喜	御空に歌ぞ響く、／天の扉もれて は、響き来、	③	154		
龍宮踊	やんあれ やんあれ、／手拍子そろ へて、足拍子そろへて、	③	155		
鈴蘭	深山の奥の谷かげに／小さく咲き出 し鈴蘭の	③	157		婦人画報 大正十年 三月号
鳩のうた	ほろ、ほろ、ほろと、やさしいこゑ で／鳩が体を、すりよせながら、	③	159		「白鳩」第一卷第一 号 大正十年四月号
梅と鶯	(少女) お庭の梅が満開で／あゝ、 いゝ匂、いゝ匂	③	161		
子守うた	ねんねん、ねんねん、ねんねしな、 ／いゝ子よいゝ子よ、ねんねしな、	③	163		「独法師」第一号
近衛騎兵	皆、大きな馬にのり、／お馬車の後 前護衛する	③	165		「白鳩」第一卷第二 号
雨	雨が降る、降る。静かに、静かに、 ／音もきこえず 降る降る降るよ	③	166		
那須の与一	ゆらりゆらりと波間の船の／棹の先 なる扇の的よ、	③	167	目次の標題は「那須与 一」	新特選楽譜(十一年八 月号)第六十五編
小鳥をにがす歌	親にはぐれて 日暮の庭に／声をも 立てずに、ふるへてゐた小鳥、	③	169	目次の標題は「小鳥を にがす」	「白鳩」大正十年八 月号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
立山登山歌(富山市弟妹倶楽部立山登山隊のために)	登れよ、山へ、登ろよ、山へ、／山は立山。越中一の、	③	171	目次の標題は「立山登山歌」	
月見草 ー赤星にー	ほのかに星の またゝけば／われひとりなる 砂浜に	③	173	目次の標題は「月見草」	「白鳩」十一月号
姫百合小百合	やさしゆかしの花よ、花よ、／谷間に、野末に、隠れてありとも、	③	174	「(少女によせて、「少女画報」に答へて。)」と注記	
煙突の煙	煙突、煙突。高いな高いな、／黒煙、黒煙。ムクムク、モクモク。	③	175		「白鳩」十年九月号
夕日	ぎん ぎん、ぎら、ぎら、夕日が沈む／ぎん、ぎん、ぎら、ぎら、日が沈む。	③	176		「白鳩」十年十月号
夜明の富士山	あれ、富士山も夜があけて、／目がさめかけて、まだ睡むい。	③	177		「宝の玉」

◆ 創作ノート④(大正11年～13年)

こんころ踊	こんころ踊がはじまつた／こんこん、ころころ、こんころこん	④	2		
氷雨	鳩や雀は何処へ往(い)た／小犬(こいぬ)もいつか逃げてつた	④	4		少年(十二年二月号)
霜銀柱	ギラギラ、ギンギラ、銀柱／千本柱、万柱	④	5	目次の標題は「霜柱」	
レールが走る	レールが走る／レールが走る	④	6		
咳の子	コホン、コホン、コホン、コホン、コホン、／のどの奥から咳の子供が	④	8		「三越カレンダー」
霜柱を踏む歌	踏めよ、踏めよ、左、右、／土をかぶつた霜柱	④	9		「郷土」
柳の芽	雪が消えたか、消えないか／春は来たのか、来ないのか	④	10		「少女」十二月月号
藪	風の吹く日の竹藪は／皆そろつて手をあげて	④	11	目次の標題は「藪の笑声」	
日向ぼつこ	南二階の縁側の／紅モスリンのおふとんに	④	12	全体を×で消してある。目次には標題の記載はない	
日向ぼつこ	南二階の縁側の／紅モスリンのお布団に	④	13		「白鳩」十二年月号
蛙の国	地面の底の蛙の国で／蛙仲間のひそひそ話	④	14	目次の標題は「春は来たよ」	「小学少年」十二年三月号 新特撰楽譜〔No.102〕
山の芽野の芽	野には草の芽／山には木の芽	④	16		少年クラブ(十一年三月号)
春支度	ひばり／ひばり	④	18		少女クラブ(十二年四月号)
鳥の子	河原に下りた子鳥が／のぞいて見てゐる水たまり	④	20		少年(十二年四月号)

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
水が急ぐ	水が急ぐ、川を急ぐ、／谷から出て来て、ながれてながれて	④	21		「復習と受験」十二年四月号
絵	絵を画かう、絵を画かう、／白い画用紙野原が広い	④	22	目次の標題は「絵をかかう」	コドモノクニ
山の水車	山の水車は／夜の夜中も	④	23		コドモノクニ
寝る時起きる時	私は時計の字が読めぬ／夜は何時に寝ませうか	④	24		「幼児之研究」(十二年二月号)
淡雪	淡雪、牡丹雪／真白牡丹の花片か、	④	25	目次の標題は「牡丹雪盲目雪」	少女物語 十三年二月号
雪の心	大枝小枝、淋しかろ／花も、葉もなく、淋しかろ	④	26		
時計の子供	チツク、タツク、チツクタツク、／隣の部屋の時計の子供	④	28		「少年」四月号
氷滑り	スー、スー、スー、／氷滑り、氷滑り、	④	30		(南満鉄小学唱歌)
町並木	柳の並木／ポプラの並木	④	32		
雨だれ太鼓	トンタンタン、トンタンタン／雨だれ太鼓が、トンタンタン	④	34		「幼児之研究」十二年三月
浮れ鼠	雨の降る日のお午すぎ／裏のお倉のお二階で	④	35		「少女」五月号
雨だれと雛子	雨は止んでも まだ落ちる／屋根からおちる ポチヨン、ポチヨン	④	36		「少女クラブ」五月
靴店雑誌店	靴屋にお靴がならんでる／子供のお靴もならんでる	④	37		日東タイムス
お伽まつり	花が、お花が、お伽の花が／見えぬ野山の果の果まで	④	38	中央お伽倶楽部会歌。掲載紙誌の切抜貼付	
牡丹の芽	牡丹の芽／小さな芽	④	40		少年クラブ 五月号
達磨店の地震	地震だ 地震だ／達磨店の地震だ	④	42		日東タイムズ
茨城県多賀郡日立村／日立第四尋常高等小学校々歌	茜さす国 常陸の国の／日立第四の我が学び舎に	④	44	目次の標題は「日立校々歌」	
大日本少年団々歌	花は薫るよ、花の香に／日は輝くよ、日の光り	④	46	目次の標題は「少年団々歌」。掲載紙誌の切抜貼付	日東レコード吹込
たんぼぼ	たんぼぼ たんぼぼ／たんぼの たんぼぼ	④	48		「幼児之研究」十二年五月号
花の市	今日はたんぼの花の市／赤い花屋は蓮華店	④	49		(音楽グラフ創刊号) 社会教育 十三年五月号
梅雨	お日様／御病気 今日 如何。	④	50		社会教育 十三年六月号
裏山の水車	温泉町の裏山で／夜が明けるまで笛を吹く	④	51		
(雨と)松葉針	お庭の松の松葉針／一の枝、二の枝、三の枝	④	52	目次の標題は「松葉針」	令女界 七月号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
針店の客	里の松の木の針店の／針買ふお客は 雀ツ子	④	53		「少女」六月号
ハーモニカ・ホテル	ハーモニカ、ハーモニカ／ハーモニ カ、ホテル、	④	54		「少年」六月号
雨だれ真珠	ピカリ、ピカリ、真珠球／ピカリ、 ピカリ、ダイヤモンド	④	56		「幼児の研究」六月 号
蓮華と菫	(蓮) 菫さん、菫さん、／今日も朝 から温かで	④	57		音楽グラフ 二号
琴	琴をひきましょ／コロリン シヤン	④	60		
汽車が登る	汽車が登る、／汽車が登る、山を見 ながら、	④	61		新聞同盟
椅子のお客様ごっこ	お客様 おかへり／玄関に 見送り	④	62		「幼児之研究」 七 月号
谷の運動会	運動会、運動会／谷の桜の花片の運 動会、運動会	④	63		新聞同盟
電線の雨しづく(雨の 提灯行列)	五本 十本 電線が／ならんだなら んだ何十本	④	64	目次の標題は「電線の 雨しづく」	コードモノクニ
小曲 夕の来れば	夕の来れば／星のまたゝく	④	65		
魔法つかひの雨	雨が降る 雨が降る／魔法つかひの 雨が降る	④	66		
猫の髭(きつてみるや い)	髭をきらう、髭をきらう、／お日様 眩しい縁側で	④	67	目次の標題は「猫の 髭」	課外学習(四年)十二 年十二月号 「三 州婦人」
電気が来ない	「電気が来ない、電気が来ない／何 のお部屋にも、電気が来ない	④	68		童話研究(二巻五 号)(十二年五月号)
虹の橋	虹の橋 わたれ／七色錦、虹の橋わ たれ	④	70		学習三年 十二年第 三号
両手を合せた石の地蔵	野路 二つに分れるところ、／石の 地蔵が両手を合せ	④	71		芸術教育 八月号
蛍の行方	町へ来て、見た 蛍の行方／里の田 圃の真闇暗も	④	72		「三州婦人」十四年 七月号
丘の上	今日も／遠くの遠くの方で	④	74		少年クラブ 八月号
ことさらに	ことさらに／暗夜の空の底[遠][深] く	④	75		日東タイムス
一本土筆	つんつん、つうくし、つくしん坊、 ／たんばに一本、立ちん坊、	④	76	目次の標題は「土筆」	少年 十三年五月一 日号
波のあかんぼ	海のお部屋の灯をけして、／親波子 波皆寝てる	④	77	目次の標題は「波の赤 ん坊」	学習 八月号 (三州 婦人)
初雪	涼しくなった／山々さむい。	④	78		少女(十三年九月号)
日暮	村の境の／酒屋の屋根で、	④	79		幼児之研究 十三年 一月号
笑ってる子供(鏡の中 の子供)	鏡の中で／笑ってる子供	④	80	目次の標題は「笑つて る子供」	少女 十二年十二月 二十日号
金の芽銀の芽	金の芽が光る、／銀の芽が光る	④	81		少女 十二年十一月 五日号 三州婦人 十四年三月号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
春の行方	ひら、ひら、野山の花散る。／風さへそよがぬ夕を、	④	82	掲載紙誌の切抜貼付	新響楽譜
千万とんぼ赤とんぼ	とんぼ、とんぼ、／千匹とんぼ	④	83		「子供の友」(十二年十一月号)
帰りゆく燕	どこまで帰つて行つたらう／矢よりも早いつばくらめ	④	84		「子供の友」
闇夜	外は闇夜だ 真暗だ／黒い 真黒い 闇夜だよ	④	85		少年 十三年一月 三州婦人 十四年二月号
風のお手手	風のお手手は 大きなお手手、／あまり大きくて 見えないお手手	④	86		少年 十二年十一月二十日号
雨の釣糸	するする するする／千すぢ	④	87		
夜中の鏡	夜中の鏡／井戸の底の鏡	④	88		少女 十三年一月
傘舞台	傘 番傘 蛇の目傘／花を匂がいた 絵傘	④	89		少女 十二年十二月五日号
風の矢	風の吹く日の／矢を見たか	④	90		少年
ラツパ	太い赤紐／まきつけて	④	91		「お月さま」
大震災後／少年団主催 野外小国民学校の歌	手足に みなぎる血汐のうなり／心の海にあふるゝ力	④	92	目次の標題は「少国民野外学校の歌」	
菌の迷ひ子	よくも続いた雨上り、／ぬれたお庭はさびしいな	④	94	目次の標題は「迷ひ子の菌」	(金の船 十三年六月号)
大時計小時計	お居間の時計は大時計／柱時計の、かけ時計	④	95		(課外学習)二年 十三年一月号
木の葉船	やれ漕げ／それ漕げ	④	96		
[ドア]	外では あられが パラパラパラリ ／内では ストーヴ トロトロトロリ	④	97	作品名の「ドア」を打消し線で消してある	(課外学習 一年)十三年一月号
燕の電信	つばくらめ、つばくらめ、／電信線の つばくらめ、	④	98		小学少女 十三年五月号
のろのろ電車	ぎんぎら光るレール路／土堀の屋根の銀レール	④	99	目次の標題は「なめくじ電車」	小学少年 十三年五月号
我等が眠る夜さへも	我等が眠る夜さへも／海へ海へと、たへ間なく	④	100	「震災後の復興歌として、教育音楽会よりの依嘱二首の中」と注記	
海の初日	海の初日が 今のぼる／海に ぎらぎら 今のぼる	④	102		[社会教育]創刊号(十三年一月)
七軒村の電気	遠い山道 まよはず来たよ／お山の 上の 七軒村の。	④	103		少年クラブ 十三年三月号 大特撰楽譜 第三百三十三篇(十四年九月発行)
つくしん坊	土筆が頭を 持ち上げて／土の中から のぞいてる	④	104		課外学習 新特撰楽譜No.99
雨の糸	銀の細糸 ガラス糸／光つてきれいな 雨の糸	④	105		課外学習 四年(十三年四月号)
雪の日本	日本国中 大雪よ／果から果まで大雪よ	④	106		「社会教育」十三年二月

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
大池小池	大きいお池は 雪が好き／降つても 降つても 皆たべる	④	107		[幼児之研究](二月号)
空の電燈	夜だけ見える 空の町／町一杯の 電気燈	④	108		「芸術教育」三月号
小さな芽	静かに、しとしと降つてみた／雨は 夜の間に止んでゐて、	④	109		少年クラブ 十三年
自転車の車輪	自転車一台／二つの車輪	④	110		少年 十三年六月号
だいたい大将	お座敷の床の上／三宝に飾られて	④	112	(ローマ字)	コドモ新聞 十三年 新年号
四ひきのお馬	お馬が通る／白馬黒馬	④	113		(幼児の研究)三月
ケーブルカー	雨の降る日のケーブルカー／電線づ たひのケーブルカー	④	114		コドモノクニ 十三年 五月号
猫柳	小使部屋の裏畑の／小さな畑の猫柳	④	115		少年クラブ 十三年
酒屋の坊はん	酒屋の坊はん／出て お見んさい	④	116	(岡山言葉にて)	「揺籃」
御空の[振り子][時計]	今日も朝から かつちん こつちん ／追羽根おもしろ かつちん こつ ちん	④	118	目次の標題は「御空の 振り子」。(ローマ字)	東京日々新聞 十三年一月初刷
岩と波	きのふも波が攻めてゐた／今日もあ んなに攻めて来る	④	119		少年 十三年三月五 日号
和楽の光	野山をどよもす歓呼の響／御空ぞ かゞよふ 和楽の光	④	120	「文部省の囑托によ り、十二年十二月二十 四日夜 試作の第一 案」と注記。目次の標 題は「和楽の光(奉祝 歌)」	
奉祝歌	日出づる御国の日嗣の宮の／此の日 の御典を寿ぐ声は	④	122	「12. 12. 25夜、第二 案」と注記。目次には 標題の記載はない	
奉祝歌	今日しも挙げます、かしこき御典／ よろこびことほぐ我等の声は	④	123	「文部省図書局、武笠 青木両氏と 会議に て。12. 12. 26」と注 記。目次には標題の記 載はない	
眼開きて遥かに見ずや	眼開きて遥かに見ずや／野路の尽き ぬと見えしはしばし	④	124	「震災後復興歌 二首 の中」と注記。目次の 標題は「眼開きて」	
ひよこの卵	ひよこは小さいね 可愛いね／ひよ この目ん目は 小さいね	④	125		少女 十三年二月五 日号
琴柱(十三小人)	琴の小川の 瀬はいくつ／瀬を渡り ゆく はすかひの	④	126	目次の標題は「琴柱の うた」	少女 十三年二月二 十日
大きい時計と小さい時計	大きい時計も 時間をきざむ／小さ い時計も 時間をきざむ	④	127	目次の標題は「大きい 時計と小さな時計」	少年 十三年二月五 日号
竹田の[長土手][川堤]	竹田の川堤 一里土手／上下竹田を つきぬけて	④	128	目次の標題は「竹田の 川堤」	「郷土」
むぐらもち	冷たい風も吹いて来ず／雨雪降らぬ よい国の	④	130		大少七
汐干狩	汐は遠くへのこらずひいて／干潟、 ひろびろきれいな砂地	④	131		大少七

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
馬	馬は大した元気もの／生れた日から すぐ歩く	④	132		
初夏の風	歌ふは小鳥か声清く／匂ふは小百合 か香も高し	④	133		
マリーの／きてん かな つんぼ	敵に追はれた自国の兵士／かくして やるにも戸棚がなくて	④	134	目次の標題は「かなつ んぼ」	第七集
堇	紫色こく咲き出し花よ／広野の春日 に 微笑み匂ふ	④	135		第七集
航海	港は遥かに松原もみえず／マストに 唸りて風の音つよし	④	136		第七集
雨だれ	軒をおつる雨だれ／楽しき歌声	④	137		第七集
スケイティング	風を切つて、矢の如、／滑り行く速 さや、	④	138	目次の標題は「スケイ ティング」	第八集
蓮華草	野を紅に染めなして／色をきそへる 蓮華草	④	139		第七集
遠乗	トラララ、トラララ、トラ、ララ ラ、／鬣靡かせ 我が駒の	④	140		第七集
鷺(わし)	怒れる肩のその力／おちつき払ひし 眼の光	④	142		大、少、八
ダリヤ	大輪に、大輪に、／ダリヤぞダリヤ ぞ	④	143		大、少、八
忠君/愛国/唱歌 東宮殿下	地震に砕かれ 火に攻められて／荒 野となりたる都のあとに	④	144	「12.12.31暁一時局に 概して、四首」と注 記。目次の標題は「東 宮殿下」	
忠君/愛国/唱歌 皇后陛下	地震に御殿は壊れたれど／家をもや かれし民をおもひ	④	146	「(同)」と注記。144 頁の「四首」の二番 目。目次の標題は「皇 后陛下」	
忠君/愛国/唱歌 二重橋	二つ並んだ立派な橋と／昔のまんま の大きな御門	④	147	「(同)」と注記。144 頁の「四首」の三番 目。目次の標題は「二 重橋」	
明治神宮	松の緑の風清けれど／山の高さに [おはすにあらず][まつれるならず]	④	148	「(同)」と注記。144 頁の「四首」の四番目	大正少年唱歌第十集
月夜	清き空に、かゝりて／月は夜を守る か	④	149		大正少、八
ざくろ	ざくろ、ざくろ、／枝も重げの大ざ くろ。	④	150	目次の標題は「さく ろ」	第八集
百舌鳥	暮れ行く里の丘の上／一もと高きは 何の木ぞ、	④	151		第八集
春の牧場	温かき日かげさして /若草の萌え そろへば	④	152		第七集
競馬	蹄の先には／火花を 散らして、	④	154		大正少年第八集
田植唄	揃うた、揃うたよ、ほら、植手が揃 うたよ。／稲の出穂より、ほら、 尚、よく揃うたよ。	④	155		大正少年唱歌第九集

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
ナイアガラ	懸崖 十五丈／一時に落つる	④	156		第九集
山の秋	空清く、気はすみて／秋は、今、最中なり。	④	157		大正少年第八集
たそかれの曲	夕陽静かに 西に沈み／夕餉支度の煙なびく。	④	158		大正少年第八集
白孔雀	高きとまり木に／動かざる白孔雀よ、	④	159		大正少年第八集
田植	水をたゝへたる田の面を／燕かすめて とびかひ	④	160	「(前に別歌に改む)」と注記、全体を斜線で消してある。目次には標題の記載はない	第九集
麦打	日和つゞき、麦はうれて／夕日 入れども 忙(せわ)しき村よ	④	160	目次の標題は「麦打うた」	第九集
海の朝	翹白き鳥ぞ一羽／波に近く 何処(いづこ)行くか。	④	162		大正少年九
緑の天地	夏のすでに来ねれば／天地は、濃緑、	④	165		大正少年第九集
若葉の頃	御空にみつる雲雀／のうたごゑ	④	165		

◆ 創作ノート⑤(大正13年)

広島県福山師範学校々歌	雲井に高き熊ヶ峯／登れば目路のいや遠く	⑤	2	目次の標題は「福山師範校歌」	
曲り角のポスト	雨の日にはぬれ坊主／曲り角のぬれ坊主	⑤	4		(幼児研究) 四月号
窓かけの手品	雨のふる日の[窓かけ][カーテン]が／つまらないから ふざけてる	⑤	5		「金の船」十三年五月
蟻の遠足	今日は朝から暑くもなく／そよ風そよそよ遠足日和	⑤	6		少女 十三年四月五日号
モートル	すかたん とん とん、モートルとんとん／米屋ではたらく モートル男	⑤	7		「金の星」十三年四月
[題未詳]	お月さま、まるいよ／円顔 笑顔	⑤	8	目次には標題の記載はない。未完成の作品か	
高下駄(あした)と障子	つぎはぎだらけの古障子／それでも、やつぱり障子は障子	⑤	9		少女 十三年十一月号
縁側町の列車	闕のレールは二すぢ三すぢ／縁側町を真一文字	⑤	10		芸術教育 十三年十月号
雨上り	かんかんかんかん鐘が鳴る／学校じまひの鐘が鳴る	⑤	11		少女 十三年十月号
親松子松	起きたい起きたい男松／大きい親松 仆れ松	⑤	12		少年 十三年十一月号
あの子も寝てる	あの子も寝てる／この子も寝てる	⑤	13		日本一 十四年四月号
竹の垣	風の日に／植木屋が直してた	⑤	14		少女倶楽部 (十三年六月)
雨の玉	玉、玉、／金の玉	⑤	16		少女 十三年

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
お月さんとあそぼ	お月さんとあそぼ／かくれんぼしてあそぼ	⑤	18		「幼児之研究」 五月号
星が流れて	星が流れて消える時／森のふくろがポーと啼く。	⑤	19		芸術教育 十三年六月号
路ン中の小石	路にころころ ころんでる小石、蹶つとばされて 踏んづけられて	⑤	20		復習と受験 十三年九月号
風のあし	見たか、風の足 足のうら／風の足のうら	⑤	21	目次の標題は「風のあしあと」	婦女界 十四年十一月号
日が永くなつて	日が永くなつて／裏のはなれの縁側で	⑤	22	目次の標題は「日が永くなつた」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年四月二十五日
蔦の葉太鼓	井戸のほとりで ポツタンポツタン／大きくひろげた蔦の葉太鼓	⑤	23		金の船 十三年七月号
森の服屋	森の服屋は／小鳥がお客	⑤	24	目次の標題は「森の服屋」	国民新聞
波の子	舟漕いで遊べ／漁士の子供	⑤	25		音楽グラフ 十三年六月号
やせたお月様	待つても待つても、月の出がおそい／毎晩、はよから、出てゐた月が	⑤	26		小学少女
柳のブランコ	一の枝、二の枝、三の枝、／柳の枝の ブーランコ、	⑤	27		幼児之研究 十三年六月号
やみ夜のお使	流れ星、流れ星、／闇夜のお使、流れ星	⑤	28	目次の標題は「暗夜のおつかひ」	国民新聞
たんたら太鼓	とたんの屋根から、ポテポテおちては／太鼓を叩くよ、雨だれ雨だれ	⑤	29		「小学少女」 国民新聞
天狗松(クキーンまつ)	鎮守のお山の天辺(てつぺん)で／御幣の形に大枝張つて	⑤	30		小学少年
八百屋のお店	八百屋のお店で 外見てる／林檎の子供が、外見てる	⑤	31		子供の友 十四年六月号
東京府下／中野町 桃園小学校々歌	朝日もはやき武蔵大野／野中に栄ゆる中野の町は	⑤	32	目次の標題は「桃園小学校々歌」	
森の歌	森に響く声よ／森の声よ。	⑤	34	目次の標題は「森のうた」	
岡山師範、創立五十年記念式の歌	操の山の小松も／松の緑をいやまして	⑤	36	目次の標題は「岡山師範、記念歌」	
水車	水車は めぐる 雨ふる日も／たゆまず めぐる 風の日も	⑤	38		(新響楽譜)
おはやう	東のお山に、／お日様上つて	⑤	40		幼児之研究 十三年七月号
涼しい晩	涼しい晩だ、皆で涼まう、／橋(はし)の下(しも)から、	⑤	41		金の船 十三年八月号
赤い裁縫箱	赤い裁縫箱、ちりめんの小箱／中にや 何々何の糸。白糸	⑤	42	掲載紙誌の切抜貼付	国民新聞 十三年八月二十一日
お日様と鳩(こだから幼稚園々歌として)	ホロロン、ホロリや、ホンホロリン、ホンホロリン／やさしい声して鳩がなく	⑤	44	目次の標題は「お日様と鳩(こだから幼稚園の歌)」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
とうがらしとんぼ	とんぼ、とんぼ、／まつかな、とんぼ	⑤	45		少年
むかで百足	むかで百足 下駄はかず。／スリツバもはかず 轆はかず。	⑤	46	目次の標題は「むかでの百足」	金の船 九月号
虹(八尋言葉にて)	ねえやん／あゝやん	⑤	47	目次の標題は「八尋の虹」	「郷土」 十三年八月号
踊のうた／誰そや来て胸の扉たゝく	誰そや 来てたたく／誰そや 我が胸の扉たゝく、たゝく。	⑤	48	目次の標題は「踊のうた」。印刷物の切抜貼付	
窓にきく声	うすくもりして、／空もひくゝ、	⑤	50	前頁に印刷物の切抜貼付	
物干竿	大人か、子供か、物干竿は、／親子のとんぼの思案顔	⑤	53		「金の船」 十三年十一月
歌時計	時計の振子の囃子につれて／親針子針は舞の役	⑤	54		社会教育
夜明の白ダリア	夜明のお庭の歌の声／何ときれいな歌の声	⑤	55		「金の船」 十三年十月
畠の小松	畠の中の一つ松／一の枝右へ伸ばしてる	⑤	56		金の船 十三年十二月号
テニスボールの眼	テニスのボールに／目があるか	⑤	58		幼児之研究(九月号) 十三年
怒つてるテニスボール	テニスのボールが／怒つてる。	⑤	59		社会教育
空の輝き	空に妙なる歌声は／天の御苑の童女等が	⑤	60	「(女子運動奨励歌)」と注記	
聖なる乙女	蒼く澄みたる大空の／高きに一つ白雲の	⑤	62		
波がしら	海ひろびろと風が吹く／風に吹かれた波がしら。	⑤	64		三州婦人 十三年十一月号
月の星ヶ浦	月の夜更の星ヶ浦／秋はまだ来に虫のなく	⑤	66		
空の飴屋	飴は売れるか 売れないか／空の飴屋の笛上手	⑤	67		国民新聞
ポプラといてふ	秋が来たとして ポプラが散る散る／黄いろい蝶々の まねしてヒラヒ	⑤	68		
キューピーさん	キューピーさん、／キューピーさん	⑤	70		国民へ 幼年童謡第一集
鳥と柿	それ来た鳥／どこかで かアかア、	⑤	71	掲載紙誌の切抜貼付	国民へ
ダリア	ダリア、ダリア／ましろいダリア	⑤	72		幼年童謡第一集
円い明るいお月さま	まんまるまるいお月様／あかるいあかるいお月様	⑤	74	目次の標題は「お月さま」	伴奏付 幼年童謡第一集
ブラブラのうた	ブーラ、ブーラ、ブラブラブーラ、／時計の振子か ブラブラブーラ	⑤	75		幼年童謡第二集
大麦小麦	出たよ一寸／伸びたよ二寸	⑤	76		「日本一」 十四年二月号
[題未詳](番外)	水の子供の水の玉／はね上り好きの水の玉	⑤	77	目次には標題の記載はない	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
百合	白い百合おしやれ／おしろひつけた	⑤	78		
麻布区三河台小学校々歌	朝日朝風きよら[かに][けき]／わが麻布なる三河台	⑤	79	目次の標題は「三河台小学校々歌」	
逃げない小蠅と寝てる坊や	小蠅がとまる／にげてはとまる	⑤	80	目次の標題は「逃げない小蠅(と寝てる坊や)」	国民
耳なし兎	月の夜更の小山のかげを／ゆきつ戻りつ耳無し兎	⑤	82		子供の友 十四年九月号
東京市外／大久保町 戸山小学校々歌	戸山ヶ原の朝風に／わが手 わが足 勇み立ち	⑤	84	目次の標題は「戸山小学校々歌」	
コスモス	コスモス コスモス／うす桃色のも	⑤	86		幼年童謡第四集
朝のうた	朝日が お庭に、さしてゐる／小鳥も歌を はじめてる	⑤	87		幼年童謡第二集
誕生日	今日は・・・さんの誕生日／今日で、・・・さん、	⑤	88		幼年童謡第二集
僕のうた	僕は太そう丈夫です／よく寝ておきて	⑤	89		幼年童謡第二集
緑小学校々歌	岸の小草も栄えゆく／隅田の春よ 緑、緑、	⑤	90		
風の親子供	親の大風こゑ上げて／お庭の大松ゆすぶつた。	⑤	91	目次の標題は「風のうた」	金の船 十四年
日があたる	日があたる 日があたる／上の窓あけると 上の方にあたる	⑤	92		日本一 十四年三月号
北風	どどどん、どどどん、／戸を叩く、叩く。	⑤	93		「国民」
子蜘蛛のお家	裏の土蔵の床下へ／たつた一つの風穴は	⑤	94	掲載紙誌の切抜貼付	「国民」 十四年七月十四日
母様手縫の洋服	「母様行ってまゐります」／御門を出るのは出たけれど	⑤	95		
試験場で	試験場で／どうしたはずみか 思ひ出し	⑤	96		少女 十四年三月号
牛の正月	牛よ お家の黒牛よ／ことしは、ほんとにお目出度う	⑤	98		国民新聞
お天気	お天気だ、お日和だ。／鳩が寺から下りてゐる	⑤	99	目次の標題は「お天気お日和」	小学少年 十四年五月号
雨の日の小鳩	クツ クツ 小鳩／雨降る朝の	⑤	100	目次の標題は「お寺の小鳩」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年七月九日
水車小屋	カッタリツコ、ジャンブリコ／カッタリツコ、ジャンブリコ	⑤	101		少女クラブ 十四年四月号
柿のすずなり	西片町は／学者町	⑤	102	(西片町童謡ノ一)	福山学生会誌
太かい椎の木	阿部様の／御門の前の広つ場の	⑤	103	(西片町童謡ノ二)	福山学生会誌
夜中の羽根つき	夜中の客間で／かつちん こつちん	⑤	104		国民新聞 十四年一
咳と嚏(くしゃみ)	あれ、誰だらう 誰だらう、／粉雪ちらちら	⑤	106	目次の標題は「咳とくしゃみ」	
おめでたうの歌	あつちでも、こつちでも／子供が羽根つく、	⑤	108		東京日々新聞 十四年一月九日

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
大風絵凧	広っ場の、／ほとりの店の	⑤	110		日々新聞 十四年一月
日本晴(尋常二三年)	上つてる 上つてる、／凧がどつさり上つてる	⑤	112		芸術教育 (十四年二月号)
成城中学校々歌	日かげ あまねき水野ヶ原／三光星なる校章(しるし)ぞはゆる	⑤	114	標題の上部に(中止)とある。目次には標題の記載はない	

◆ 創作ノート⑥(大正14年)

湯ヶ原の夜まはり番	湯ヶ原の／温泉町でも	⑥	1	目次の標題は「湯河原の夜まはり番」	国民新聞 十四年一月八日「小学生新聞」
急げよでで虫	急げよ でで虫／日が暮れる	⑥	2		日本一 十四年五月号
山と雲	山が／雲まで	⑥	4		国民新聞 大正十四年一月十二日 芸術教育(四月号)
池の風	風が何か／ささやくと	⑥	5	掲載紙誌の切抜貼付	国民 五月
戸口	雨は降つても／寒くても	⑥	6		金の船 十四年三月号
冷たいあんよ	まだ日のさゝぬ／屋根の霜 白い	⑥	7	目次の標題は「冷たい足」	国民 十四年一月十九日
切符きり	ちやつきちやつき、ちやきちやき、／切符を切ります、	⑥	8	掲載紙誌の切抜貼付	国民
小曲 蠟燭と	身をほろぼして／生命をすてて	⑥	10		
赤い目んめ	兎のめんめは赤めんめ／赤いめんめで うれしかる	⑥	11	目次の標題は「赤い目ん目」	「子供の科学」十四年十月号
私の柳	私かうゑた柳の木／高く伸びて枝も出て	⑥	12		
雨の一本杉	今日は朝から雨降りだ／お宮の森にも降つてゐる	⑥	13	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年三月三十日
雪の子	雪の子供も風の子か／風の吹く日はよるこんで	⑥	14		音楽グラフ
にらみつこ	馬は頭を下げてゐる／鶏は頭を上げてゐる	⑥	15		音楽グラフ(十四年三月号)
雪どけ	ぼつたり ぼつたり／雪どけだ 雫だ ぼつたり	⑥	16		家庭 コドモ新聞 二月
町の飴売(日ぐれの村)	日暮れの村を笛吹いて／町の飴売が町へと帰る	⑥	18	目次の標題は「町の飴売」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年十月三十日
橋のたもとの柳の木	いくつもならんで垂れてゐる 柳の枝のブーランコ	⑥	19	目次の標題は「橋の袂の柳の木」	子供の友 十四年七月号
早起き	お日様、山に顔出した／私は窓に、顔出した	⑥	20	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年六月十八日
夜ふけの月見草	誰も通らぬ川土手に／夜露が下りて、	⑥	21	目次の標題は「月見草」	国民
大漁船	エンヤラ、エツサ、／日が登る	⑥	22	目次の標題は「鯉船」	大正少年唱歌第九集

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
二歳駒	弟の如く慈しみ／心をこめて育てたる	⑥	24		大正少年唱歌第十集
村の道ぶしん	溝をさらへ／草を刈りて	⑥	26		大正少年唱歌第十集
燕の巣ごしらへ	燕の巣ごしらへ、／土運び、	⑥	28	目次の標題は「燕の巣造り」	幼年園 十七年五月号
稲穂	里の藪から／土手の藪から	⑥	29	目次の標題は「稲穂の雀」	婦女界 十二月号
鶏の声	御空の星の／またたき繁く	⑥	30		大正少年唱歌第九集
(椿の)苗千本	赤い椿に雨がふる／白い椿に雨がふる	⑥	32	目次の標題は「椿の苗」	(小説と講話 十四年三月五日号)
村の日の出	隣の村の／山からのぞいて旭日があたる。	⑥	33		国民 十四年二月十七日
大豆のさやが (春の野)	大豆のさやがふくらんで／麦の穂波のうねる時	⑥	34	目次の標題は「大豆のさやが」	金の船 十五年九月号
川の泡	海はまだ遠い／日はまだ高い	⑥	35		日本一 十四年六月号
一本葦	学校の裏の／はたけの土手の	⑥	36		日日
あわてたゴム風船	持ちかへる間に手をぬけて／頭ふりふり逃げて行く	⑥	37	目次の標題は「ゴム風船」。全体を×で消してある	婦女界 十四年七月号
つづり方	今日はきれいな字がかける／明るい部屋での綴り方	⑥	38		国民
弟と二人のお留守居番	弟と二人のお留守居番／雨戸は早くしました	⑥	39	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年二月十四日
お宮山	村の鎮守のお宮山／姫松小松のまん中に	⑥	40	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年九月二十四日
つばきの小鳥	丘の椿の葉が光る／雨ですつかり洗った葉	⑥	41	目次の標題は「椿の小鳥」	
今日吹く風	今日吹く風は 春の風／山吹き野を吹き 子供咲き	⑥	42		国民 十四年三月三日
朝顔の花のかず	朝顔は、／何りん咲いたろ、ひらいたろ、	⑥	43		幼年園 十四年七月
燕のお家	スーイと上手に／御門をこえて	⑥	44	目次の標題は「つばめのお家」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年五月二十四日
橋の船	橋の上で／流れる水を	⑥	45		
蛙のあそび	蛙は、いつでも／うれしかろ、	⑥	46		金の船 五月号 音楽講義 十四年九月号 唱歌
雪の手足	雪の手足の白いこと／あんまり長い旅をして	⑥	48		国民 十四年二月十日
兎の耳	兎の耳は／なぜなぜ長い、なぜなぜ長い。	⑥	50		婦女界 十四年九月号
お寺から下りて	山のお寺の鶏が、／遊びに下りて日が暮れて	⑥	51		芸術教育(十四年三月号) 吉田先生の師範学校教科書

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
つくしんぼ	草の根つこよ／すこし退(ど)け	⑥	52		国民 四月
留守居のお餅	お餅は二つ、やきました。／やいて一つづゝ、たべました。	⑥	53	目次の標題は「留守居の餅やき」	国民 三月
お雛まつり	赤いもうせん 緋もうせん／赤い段々 緋段々	⑥	54		
親子のあひる	氷がやつととけかけて、／池に入つた親あひる	⑥	56		国民 三月 可愛い芸術
松の鱗	鳥居の前の大松の／皮のうろこをはぎませう	⑥	57		「日本一」十四年七月号
お月様におんぶ／蛙の子ども	蛙の子供、／お月さんにをんぶ	⑥	58	目次の標題は「蛙の子供」	ニツポン一 八月号
蛙の子	ポツカリ、お池に浮んでる／まんまん円いお月様に	⑥	59		金の船 昭和二年七月号
土筆と山羊	牧場つゞきの川土手に／つんつんつん出た土筆の穂	⑥	60		少女世界 十五年四月
お池の鏡	お池の鏡にうつるのは／紫長い藤の花	⑥	61	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年五月十四日
不思議	来てごらん来てごらん 早く早くきてごらん／めんにはとりは	⑥	62		国民 昭和二年六月十三日
正月二月三月	正月に／暗ければ	⑥	63		
村の早起(日の出時)	村の鎮守は松山に／こんもり繁つた杉の森	⑥	64	目次の標題は「村の早起」	国民 十四年九月二十日 国民附録
跡見女学校創立五十年記念会式祝歌	都大路に 常春の／跡見の園の教へ草	⑥	66	目次の標題は「跡見創立、記念祝歌」	
気持のよい雨	雨が降る、降る／静かに、静かに	⑥	68		婦女界 十四年六月号
千住青年団々歌	花や漂よふ川の面／風は薫るか欄干に	⑥	70		
神村小学校々歌	伊勢宮山に弥しげる／松と栄をきそひつゝ	⑥	72		
ひよこびよびよ	雛子、ピヨピヨ、／雨が降る	⑥	74	目次の標題は「雛子びよびよ」	コドモ新聞 十四年五月十五日号
鼠と雷	鼠は、雷の親戚で／鼠の親戚、雷で、	⑥	75		
学校の雀	雀、お早う。／今朝も学校の門の扉の	⑥	76		
親波子波	親の大波、／子供の小波、	⑥	77		小学少女 昭和二年七月号
大とび小とび	雀、子雀、親雀／学校の軒で	⑥	78		朝日新聞「家庭朝日」十四年七月五日号
草山のわらび	お日様に／ポカポカと	⑥	80	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年五月二日
電信線	強いね、きついね、／電信線	⑥	82	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年九月一日
夜の大工さん	夜の大工さん／何たてる	⑥	84		国民 六月

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
筆の穂・朝顔	きれいな筆の穂、朝顔の蕾／朝はよ、露で、	⑥	86		国民 二年七月十日
朝顔ラジオ	小人の世界のラジオ店／店は裏庭、竹の垣	⑥	87	目次の標題は「朝顔」	(子供の科学) 九月号
朝の朝顔、晩の朝顔	朝は、／ニツコリ	⑥	88		小学少女 十四年七月
星よ出よ出よ	星よ出よ出よ／きら、きら、きら	⑥	89		婦女界 八月
炎天	夏の休みの運動場、／朝から	⑥	90		国民
こんな坂	小さなトンネル／大きなトンネル	⑥	91	目次の標題は「こんな坂」	幼年園 十四年八月号 初等教育 唱歌研究会楽譜 昭和三年三月号
大雪溪	谷を埋めて積りし雪は／真夏もとけぬ氷の阪と	⑥	92		大正少年唱歌第九集
電車のマラソン	東の車庫から チンチンゴーゴー／西の車庫からチンチンゴーゴー	⑥	93		朝日新聞
朝霧	朝霧こめた街道の角を曲つて出て来たものは／青物積んだ大八車、	⑥	94	目次の標題は「朝ぎり」	「我が家」七月号
鬼の物尺	鬼の物尺／火の見の梯子	⑥	95	掲載紙誌の切抜貼付	中外商業 昭和二年三月七日
脚をひろげた王子様／蜘蛛の王子様	朝日がさして、きらきら／五色の糸のハンモック	⑥	96	目次の標題は「脚をひろけた王子様」	国民 十四年九月三日
雀が、雀が	雀が 雀が 泣いてゐる／孵したばかりの子雀を	⑥	97		「童謡」 十四年八月 可愛い芸術 第四輯 昭和二年五月
広告塔の電気燈	ぱつとつては、すつと消え／すつと消えては、ぱつとつく	⑥	98	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年九月八日
里芋の葉つば	早く目ざめた里芋の葉つば／葉のまん中を囲まして	⑥	100	目次の標題は「里芋の葉」	少年クラブ 十四年十月号
開墾	大岩かつちん ほり出して／小岩もかつちん、ほり出して	⑥	101		大正少年唱歌第十集
秋晴	浮びてし／白雲一つ	⑥	102		大正少年唱歌第十集
鈴蘭	桃桜散るはをしまずやがて我が鈴蘭の花／咲くとしおもへば	⑥	104	目次の標題は「鈴蘭十五首」。短歌15首。掲載紙誌の切抜貼付	
村の橋	いつか、どこかで見た様な／橋のたもとの石地藏	⑥	107		子供の友 十四年十月号
長岡高等工業学校々歌	休むひまなく遙けき旅を／永劫につづくる信濃の川の	⑥	108	目次の標題は「長岡高工、校歌」	
緑の天地	夏のすでに来ぬれば／天地は、濃みどり。	⑥	110		大正少年唱歌第九集
福山市東 尋常/高等 小学校々歌	海の東に輝やきて、／旭、蔵王の峯に映え	⑥	112	目次の標題は「福山東小学校々歌」	
静岡高等学校運動部、応援団々歌	東西南北に連る群山を／遙かに見下して	⑥	114	目次の標題は「静岡高校、声援歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
やんちや日まはり	暑い日ざかり日まはりが／あれ 首 をふる 首をふる	⑥	116	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年九月十 五日 子供
日でり	田圃の夜ふけのひそひそ咄／日照り 二十日の八月末の	⑥	117		国民 十五年八月九 日
小狸小兎	こんこん小山の小狸は／お腹鼓も打 たないで	⑥	118	掲載紙誌の切抜貼付	幼年クラブ 十五年 三月号
犬に何やろ	犬に何やろ 何をやろ／あれあれ尾 をふる 首をふる	⑥	119		婦人クラブ 十五年 五月号
大蟻小蟻	大蟻二ひき 何さがす／うろたへ気 味に右ひだり	⑥	120	掲載紙誌の切抜貼付	国民新聞 十五年八 月二十二日
夕立の後	大夕立は 今やんだ／やんだばかり の庭先で	⑥	121	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四、九、五
蟻の親／子蟻の迷子	小犬も子猫も にはとりも／あわて て、もどつた 夕立が	⑥	122	目次の標題は「小蟻の 迷子」	「可愛い芸術」
山の上	誰もきかない山の上／朝はやくから 啼いてゐる	⑥	123	目次の標題は「山の小 鳥と名なし草花(山の 上)」	「金の船」 三年八 月号
伸びろ竹の子	伸びろ竹の子／昼間も伸びろ	⑥	124		コードモノクニ 十五 年六月号
出目金魚	夜の中に死んだ出目金魚／こわや その眼は何にらむ	⑥	125		国民新聞 十五年七 月
夢見花／夏の四つ花	赤い花 怒り花／赤いカンナが	⑥	126		童話 十五年四月号
泣いたゆめ／春のゆめ	はねまわりすぎ／とびすぎて	⑥	128	目次の標題は「泣いた ゆめ」	四年生 十五年五月 号
ちくおんき	今日は朝から雨ふりで／皆いやだろ 箱の中	⑥	129		
一枚板橋	一枚板橋シーナシナ／誰かゞ渡れば シーナシナ	⑥	130		(三年生 十一月)
野ひばり	ピイチクピイチク雲雀が昇る／遊び にお出でと、お日様に	⑥	131		子供の友 十五年四 月号
寺の日暮	山のお寺の鐘撞き男／早く日暮の鐘 撞かないか	⑥	132	目次の標題は「寺の日 ぐれ」	母子草 十四年十月 号
大きなかくれんぼ	お日様と／お月様と	⑥	133	目次の標題は「かくれ んぼ」	「三年の優等生」昭 和二年二月号(創刊 号)
雨の日／クレヨン画	一ひら 二ひら／ちりかけた	⑥	134	目次の標題は「雨の 日」	金の船 昭和二年四 月号
ゲゲゲのグググ(蛙の 土産)	蛙ヒヨコヒヨコ 二ヒヨコ 三ヒヨ コ／四ヒヨコ 五ヒヨコ 六七ヒヨ コ	⑥	135	目次の標題は「ゲゲゲ のグググ」	少女世界
ゐなりさま	大きい鳥居／小さい鳥居	⑥	136	目次の標題は「いなりの 狐」	国民
雪の里	遠い山々 坊主山／真白坊主の雪の 山、	⑥	137		子供日キ 十五年
梅の木三本	一等大きい梅の木の／梅の花、	⑥	138	目次の標題は「梅三 本」	愛の友 十五年一月 号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
汽船の小鳥	瀬戸内海の 大きな港 小さな港/ 次から次へと廻つて行くよ	⑥	139	掲載紙誌の切抜貼付	県人会誌へ 国民 昭和二年五月二十三日
くらげ	ふわり ふわり、/くらげよ、くら げ。	⑥	140		少女世界 十五年四 月
青い旗赤い旗	何の旗 お好き/青い旗 おすき	⑥	141		小学少年 十四年十 二月
がらあき電車	夜更に走る/がらあき電車	⑥	142		少女世界 昭和二年 二月号
かけつくら	風と葉ばと[が][の]/かけつくら	⑥	143		愛の友 十一月
はだかの雛子	はだかのひよこ/ピヨヨ ピヨ	⑥	144		子供の友 十五年五 月号
ケンケン子雉	ケンケン子雉/山雉	⑥	145		日の丸 十二月
蛙のボート	人まね こまね/蛙の子供	⑥	146		(子供の友) 十五年 八月号
藪の枇杷	一つ大きい藪の枇杷/竹の垣根の曲 り角	⑥	147		国民 十五年八月二 十二日
星の親子	星の子供もうれしさう/皆早やく出 て大空で	⑥	148		子供の友 十五年十 二月号
桃太郎 犬猿雉子	ワンワンワン、/日本一の桃太郎さ んのお伴の中で	⑥	149	目次には標題の記載は ない	
舌切雀のおぢいさん	雀よ、子雀、可愛い雀/なぜ のり なめた なぜなめた	⑥	150	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年十二月 十九日
日暮時	日暮時 日暮時/どこの家でも 日 暮時	⑥	151	目次の標題は「日が暮 れる」	婦人クラブ 十五年 十月号
お山の細みち	お山のお山の細みちは/誰々(だれ だれ)通る、誰(だれ)通る	⑥	152		(三年生 十二月)
毛糸の肩巾	誰かつくつた 毛糸の肩かけ/あ たゝかさうにふくらんで	⑥	153	目次の標題は「毛糸の 肩かけ」	子供の友 十五年二 月
犬のひきこし	隣の引越/がつたんこ	⑥	154	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年十月四 日
亀と鯉	亀はお耳が聞えます/私が、お手手 を パチパチと	⑥	155	目次の標題は「亀と鯉 とのお耳」。掲載紙誌 の切抜貼付、標題は 「亀の耳・鯉の耳」	中外商業 十五年二 月二十二日
夢	夢が、/ほんとであればよい	⑥	156		国民 昭和二年六月 二十一日
ありがたう	途中で雨にあつた時/私の知らない をばさまに	⑥	157	掲載紙誌の切抜貼付、 標題は「どうもありが たう」	こども日々 十五年 一月二十三日
狸の土舟	兎と狸と ぎつちらこ/舟の漕ぎつ こ ぎつちらこ	⑥	158	掲載紙誌の切抜貼付、 標題は「木舟泥舟」	国民 十四年十二月 六日
花咲ぢいさま	咲かそ 咲かそ/お花を咲かそ、枯 木に	⑥	159		
一寸法師	ひろいひろい大きな海を/おそれも しないで一寸法師	⑥	160	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年二月四 日

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
文福茶がま	茶釜に 二ヨキ二ヨキ手が生えて／ 足まで生えて 驚いた	⑥	161	目次の標題は「茶釜」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年十一月二十七日
軽いつづら	軽くても、／つづらは軽くて小さくても	⑥	162		「児童文学の研究」十四年十一月号
舌切雀のかへるうた	私が糊をなめました／おるすにだまつてなめました	⑥	163	目次の標題は「かへる雀」	中外商業 十五年一月
◆ 創作ノート⑦(大正14年～昭和元年)					
みなかの町へ	行つてまゐります／お母様	⑦	2		コードモノクニ 十五年二月号
アンデルセン／五十年祭 お伽ペジエントの合 唱歌「おとぎの大王 様」	国は小さなデンマルク／さびしい町のオデンセに	⑦	4	目次の標題は「おとぎの大王様」	
お父さまの歌留多とり	「父さま、歌留多を取りませう」／ 父さまおはこは「三笠の月」	⑦	6	目次の標題は「お父様のかるととり」	
父さまの羽根つき	父さま お上手／羽子つき お上手	⑦	7	目次の標題は「お父様の羽つき」	少女世界 十五年一月 芸備の友
福山市／地吹町 私立門 田高女校歌	芦田の川の川床に／つもる真砂も瀬に 涸に	⑦	8	目次の標題は「門田高女校歌」	
どうもほんとに、あり がたう	受けとりそこねて ながしたボール ／立つて見てみた どこかの子供が	⑦	10	目次の標題は「どうもほんとに、有難う」	子供の友 十五年一月号
きれいなお正月	山に並んで生えてみた／姫松小松町 に出て	⑦	12		東京日々新聞 金の船 十六年一月
お正月さん	お正月さん 元日さん／今日はほんとに 嬉しがる	⑦	13		遊戯と唱歌 昭和六年一月号
どこまで来てゐるお正月	学校は休みになりました／どこまで 来てゐるお正月	⑦	14	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十四年十二月二十七日
野川の真昼	きれいな水の 深みの底で／野川の 真昼 ちよろちよろ跳る	⑦	15	掲載紙誌の切抜貼付	中外商業 十五年一月
広告燈／青文字赤文じ	やれとべ それとべ 滑るな、落ちるな ／ピヨイ、ピヨイ ピヨイ、ピヨイ	⑦	16	目次の標題は「青文字赤文字」	国民
雪とキューピー	夜の間に雪がつみました／お庭に忘れた キューピーに	⑦	17	掲載紙誌の切抜貼付	中外 十五年二月
雪どけ	ピツチヨン、ピツチヨン／ポーポー ポーポー	⑦	18		可愛い芸術
粉ひきや	ジャブリ、ジャンブリ、ジャンブリ ／水車 くるくる ジャンブリコ	⑦	19		愛児の友 十五年四月
すまふとり花	里の野川の砂土手の／砂は銀砂 金の 砂	⑦	20		良友 十五年五月号
春来い春来い	春来い 春来い 山に來い／山で木が 待つ 鳥が待つ	⑦	21	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年二月二十八日 明日の教育 三年二月
S坂	くるくる大きくS字に登る／西片町の 新坂の	⑦	22		
大阪放送局の歌	大大阪を真中にして／いらかの上に、 森のかげに	⑦	24		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
愛国婦人会／隣保館内 江東コドモクラブの歌	陽ぞ輝やける日の本の／都の名どころ 水清き	⑦	26	目次の標題は「江東コドモクラブの歌」。印刷物を貼付	
全上 托児所の歌／ [小鳥]	小さなあんよで 枝から枝へ／小さな はねで 大空高く	⑦	27	目次の標題は「江東托児所の歌(小鳥)」	「桐の花」
お月さんとかけっこ	お月さんと駆っこ、一、二、三、／ 私は田圃の畔のみち	⑦	28		コドモノクニ
兄さん来たナ	兄さん来たナ、来てゐるナ、／あそ このステツキ	⑦	29		コドモノクニ 十六 年一月号
招き竹	青竹 若竹 背長竹／風に吹かれて 招き竹	⑦	30	掲載紙誌の切抜貼付	中外商業 十五年八 月八日
伸びたよ若草	伸びたよ若草一寸二寸／風は、そよ そよ春風だ	⑦	31	目次の標題は「伸びるよ若草」	写真通信 三月
此の露は／露の涙	ゆふべも／空は はれてゐた	⑦	32		国民 十五年六月二 十三日
どぜうの丸のみ	あひるのえさは／川どぜう	⑦	33	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年八月二 十二日
チュンチュン雀よ／雪 どけ	チュンチュン雀よ うれしいね／雪 がとけたね 屋根の雪	⑦	34	目次の標題は「チュンチュン雀よ」	金の船 十六年三月
何がそんなにホーホケ キヨ	ホーホー、ホケキヨ、ホーホケキヨ ／ケキヨケキヨ、ホケキヨ、ホーホ ケキヨ、	⑦	35		国民
まつびるま	鳥がどこかで チツピイピツ／風は ふいてる そよ、そよ、そよ	⑦	36	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年七月七 日
日向の本よみ	日向の本読、まぶしいね／御本が光 る 絵が光る	⑦	37		国民 十五年七月十 二日
隣りのお爺さん	そーれ、となりのおぢいさん／垣根 の外で今日もまた	⑦	38	目次の標題は「隣のおぢいさん」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年十二月 六日
一軒家	今日も煙がたつてゐる／森のほとり の一軒や	⑦	39	目次の標題は「一軒屋」	コドモノクニ 十五 年十二月
長岡高工校歌(改作)	洋々として旅をゆく／信濃の川の水 清し	⑦	40		
ひよろひよろポプラ	ひよろひよろポプラ、ひよろポプラ ／この頃すゐぶん背が伸びて	⑦	42		教育週報 十五年七 月四日
石ころばたけ	石ころばたけ 一くわ／かちり	⑦	43		教育週報 十五年
雪(ゆき)ん中の雀	雀、雪(ゆき)ん中、風の中／今日 も朝から 餌拾ひ	⑦	44		子供の友 十六年一 月
村の夕ぐれ	山へ帰るか たんぼの鳥／野中の地 蔵の一本杉に	⑦	45		桐の花 十六年三月 号 誠之
風呂やの鏡	風呂屋の鏡／大きな鏡	⑦	46		誠之 桐の花 十五 年十二月 女性新聞 十六年一月
山の池の椿	椿がおちた、一輪おちた／山の、し づかなお池におちた	⑦	47	目次の標題は「お山の椿」	明日の教育 十六年 二月
月の世界の女の子	月の世界にゐるでせう／女の子が ゐるでせう	⑦	48	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年十二 月二十四日

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
石曳	うんさうんさ石引だ／お宮のしめ石柱石	⑦	49	目次の標題は「石引」	コドモアサヒ 十五年十月号
温室	ガラスの屋根に、ガラスの壁に／明るき家の温かきかな。	⑦	50		大正少年唱歌第十集
かんすの火事	竈のかんす／シヤンシヤンたぎる	⑦	51		教育 十五年十二月
海の入日	大魚 小魚 それにげろ／海に落ちるぞ お日様が	⑦	52		中外商業 十五年七月十一日
木の葉ちるちる	木の葉散る散る 夜も散る／夜はお星様 散る葉を見てる	⑦	53		
山のでつぺんの一本杉	山のお山の てつぺんの／一本杉は ひとりもの	⑦	54		コドモアサヒ (三年一月号)
グレース・ダアリング	波ぞ唸る 風ぞ荒るゝ／嵐にまじる 夜深の声は	⑦	55	目次の標題は「グレースダアリング」	
伝書鳩	円く小さき珠に似て／目のやさしさよ可愛さよ。	⑦	56		大正少年唱歌第十集
新那須即興	霧だ 大した山霧だ／お部屋の中までスースーと、	⑦	58	目次の標題は「新那須[即興][の夏]」	国民
雀の巣立ち	子雀、巣を出て／お庭に下りて	⑦	59	目次の標題は「雀の巣立ち」	写真通信 三年六月
葉つばのダンス	赤い葉つば／黄ろい葉つば	⑦	60		(写真通信) 十一月
屋根棟のペンペン草	母家のわら屋根 棟瓦／瓦のすきまに のび出した	⑦	61		国民 十五年十一月十三日 可愛い芸術 女子師範読本
うろこ雲	西は夕やけ 日ぐれどき／東の空に たなびいて	⑦	62		国民
とんかちこ	一本一本 とんかちこ／口から出しては とんかちこ	⑦	63		「明日の教育」昭和二年四月号
青い虫(新那須、山樂所見)	真昼 明るい ゑん側の／しきみを 右往き 左往き	⑦	64	目次の標題は「青い虫」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年九月二十七日
親雀	雀が 雀が ないてある。／かへしたばかりの子雀を	⑦	65	目次の標題は「親すずめ」	中外商業 二年五月九日 可愛い芸術 第三輯
ころげたこけた	ころげた こけた／だあれが、こけた	⑦	66		コドモアサヒ 昭和二年二月号
もう夜があけた／ほこりのうた	もう夜があけた／雨戸のすきから 旭がさせば	⑦	67	目次の標題は「もう夜があけた」	女性新聞 大塚講話会 十五年十月二十日
芒と春の風	朝も さわさわ／昼も さわさわ	⑦	68		明日の教育 十六年三月
金姫銀姫	きんきら、きらら、金の星／ぎんぎら、ぎらら、銀の星	⑦	69		小学少女 十五年十一月
星をとりたや	毎晩はやく／出て来ては	⑦	70		
気まぐれ竹の子	藪の垣根の地の底を／くゞつて、	⑦	71		子供の友 二年五月号
銀に降る雨	雨が降る降る 銀の糸／糸は千すぢ万のすぢ	⑦	72		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
春日まわり	赤い燈籠 木の燈籠／小さい大きい いろいろの	⑦	73	目次の標題は「春日詣り」	愛児の友 金の船 二年五月号
風と雨と葦	堤のかげの朝の風／小川のふちの晩 の風、	⑦	74		小学少女 二年四月
外れた羽子	円いお尻を かつちんこ／黒いお尻 を かつちんこ	⑦	75		
お月様のお家	夜だけ／御出のお月さま	⑦	76		愛の友 十五年十一月 曲一「金の船」 十二月号
屋根の雀よ／富士の雪 帽子	屋根の雀よ 見えるのか／今日は よい晴 日本晴	⑦	77	目次の標題は「屋根の 雀よ」	愛の友 十五年十二月
ほら穴あんぐりさん	岩穴 洞穴 おばかさん／お口あん ぐり あんぐりさん	⑦	78		幼年クラブ 十五年 三月
銀の貝	どこで この貝 拾ったでせう／貝 の内側 ときいろで	⑦	79		金の船 二年十月号
新芽のせのび	お山のほとり／田ん圃の小みち	⑦	80	目次の標題は「新芽の 背伸」	少年クラブ 「亡 羊」昭和二年六月
お年玉の御本	りつばな御本 よい御本／りつばな 表紙 よい表紙	⑦	81	目次の標題は「お年玉 の本」	金の船 十六年二月 号
もぐらと小犬	地面の下をもぐもぐと／もぐりもぐ つて庭の隅	⑦	82		
たんぼのおみやげ	おそくそだつた雀の子／遠出は も すこし出来ませぬ	⑦	83	目次の標題は「たんぼ のお土産」	「教育」 十五年十 月号
梅の早咲	となりのさくらもぐつすりこ／向の 桃もぐつすりこ	⑦	84		金の船 十六年二月
二つ目玉	二つ目玉をガラガラさせて／まつく らやみの峠をこえて	⑦	85	掲載紙誌の切抜貼付	国民 十五年十二月 二十七日
長耳さん	もしもし兎(うさ)さん長耳さん／ほ んとに長耳いゝことね	⑦	86		婦人の友社 子供日 記(十六年用)
兎ラジオ	兎よ 長耳 ビンと立て／なぜアン テナを 張らないの	⑦	87		小学四年 十六年一 月号
雲雀が上る	雲雀が上る うたごゑ高く／あんな に早く 親鳥のぼる	⑦	88		子供日記 十六年
トロツコ	ガツタンコツコ、トロツコだ／そら きた速いぞ	⑦	89		幼年クラブ 昭和二 年三月号
親針子針	親針子針 旅ゆく親子／あるきつゞ けて	⑦	90		
児童図書館	皆が ちつと本見てる／皆が 好き な本見てる	⑦	91		小学四年 二年三月 号
雨の軽業	あんな軽業 出来ないネ／ポツンと 落ちては 砂の中	⑦	92		教育 昭和二年二月 号
公園のブランコ	公園のブランコ／大きなブラン コ	⑦	93		(写真通信) 三年五月
幸福の国	幸福の国は、どこかいな どこかい な／人のこゑではないこゑが、ない こゑが	⑦	94		亡羊

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
吹雪の日	飛んでゆく、かけてゆく、こなの雪 ／風と一緒に渦まいて、	⑦	95		童謡 写真通信 十二月
新那須小唄	頭禿げても那須大山は、お江戸／こ ひしとこがれてる	⑦	96		
立木の煙／トンネル出 口の白煙	煙よ、／立木にからまりついて、	⑦	98	目次の標題は「立木の 煙(トンネル出口の白 煙)」	金の船
あうむのお家	丸かご 小かご／赤青きれい	⑦	99		「明日の教育」 十六 年一月号
一人のるすゐ	今日は、僕ひとり、たゞ一人、／だ まつてひとりでおるすゐ番	⑦	100	目次の標題は「ひとり のるすゐ」	せうがく一年 三年 九月号
朝の雪、昼の雪、夜の 雪	朝ふる雪は サーラサラ／木の葉、 木の葉にサーラサラ	⑦	101	目次の標題は「朝雪、 昼の雪、夜の雪」	金の船 十五年十二 月号
冬の風	今日また来てるもう来てる／日は暮 れてまだすぐだのに	⑦	102	目次の標題は「気早な 夜風」	「一年の友」 十六年 二月号
峠みち	留守居がいやで ついて来た／町の 帰りの峠みち	⑦	103	掲載紙誌の切抜貼付	中外商業 十五年十 月十一日 郷土 「新定女子国語読 本」巻一
但馬所見／はまべの汽 車みち	海だ 浜辺だ 漁士村／村は そろ ひの瓦屋根	⑦	104		「桐の花」 三月号
はまべの子	汽車をみて かけて出て／手を上げ た	⑦	105		桐の花 十五年十一 月号 明日の教育 二年五月
ひよろ松	ひよろひよろひよろ松／せいたかの つば	⑦	106		金の船 昭和二年三 月号
十五夜は	十五夜は をへました／おだんごも たべました	⑦	107		
お掃除当番	お掃除当番 すましてもどる／峠の 上から 見かへれば	⑦	108		芸術教育 郷土
不出来なお舟／さゝ舟	さゝ舟小舟／流にういて	⑦	109	目次の標題は「不出来 なお舟」	中外商業 十五年十 一月十日
早起時計	父様の時計は／一番鶏よ	⑦	110		金の船 十五年十二 月号
松江小唄	松江大はし夜中に戻りや／星が流れ て灯もうつつ	⑦	112		
いーやいや	そーれ いやいや、／いーや いや	⑦	114		子供の友 二年六月
黄いろいカナリヤ	黄ろい栗が大好で／黄色い羽根した	⑦	115	目次の標題は「黄ろい カナリヤ」	二年生の友 (四月号 昭和二年)
ころがり坊	達磨ころころ ころがり坊／左へこ ろころ ころがり坊	⑦	116		コドモアサヒ
兎の親子	雪の夜深の山奥の／岩窟の家に灯を つけて	⑦	117		小学 可愛い芸術 二年
温泉町から	母さま電車で チンゴゴ／父さ まお馬で、ハイドードー	⑦	118		「可愛い芸術」 第一 号
春の夜の風	うすべにのうすべにの／花びらを花 びらを	⑦	119		「金の船」 十六年四 月

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
ギツチヨンチヨン	毎あさはよから、ギツチヨンチヨン ／風もない日の真昼間	⑦	120	目次の標題は「ぎつち よんちよん」	「金の船」 二年七月 号
卒業の晴着	二月は寒い 風寒い／夜風もこぼる 山の家	⑦	121		金の船 十六年二月
子猿の酒買	使だ 使だ えつさつさ／急ぎの使 だ えつさつさ	⑦	122		金の船 十六年一月 号
霜	日毎に冬の近づきて／身もひきしま る心地する	⑦	123	目次の標題は「霜(そ の一)」	少年唱歌第十集
冬景色／冬の山家	鎮守の森に 一本高さ／古き銀杏は 一葉もあらず	⑦	124	目次の標題は「冬景 色」	金の船 十五年十二 月号 小学読本 卷 十
ころころころばせ雪達 磨	ころころころばせ雪達磨／お手手の 先がうづいても	⑦	126	目次の標題は「ころこ ろころばせころばせ雪 だるま」	子供の友 昭和二年 二月号
平和なる村	春は花咲く丘のみち／秋はみのりの あぜのみち	⑦	127		大正少年唱歌第十集
リンカーン	父の建てたる掘立小屋は／戸なし、 窓なし、床もなし、	⑦	128		大正少年唱歌第十一 集
冬田の案山子	稲刈った後の／冬田の案山子	⑦	130		金の船 十五年十二 月
霜	軒端にみならぶ鳩幾羽／羽根すりよ せて声低く	⑦	131	目次の標題は「霜(そ の二)」。掲載紙誌の 切抜貼付	国民 昭和二年一月 十九日
燕帰り来る	燕来(きた)る、燕来る 燕来るよ、 ／南の国より波路をこえて	⑦	132	目次の標題は「燕来 る」	大正少年第十一集
春の月	菫野花野春野の末に／月はのぼりて みたりけり	⑦	133		国民 大正少年唱歌 第十一集
瀬戸内海	春は島々 霞に眠り／夏は海山 み な緑	⑦	134		大正少年唱歌第十一 集
金の船	朝日きらきら きんきらら／波もき らきら きんきらら	⑦	136		金の船 十五年十二 月号
青山師範校歌	楽しきは青山、濃くも映ゆる緑。／ 木かげには、	⑦	137		
鹿の親子／松の木の着 物	竹の着物を着せられた／鹿のお家の 松の木に	⑦	138	目次の標題は「鹿の親 子と松の木の着物」	国民
親鹿子鹿	鹿だよ 角だよ／二本だよ	⑦	139		金の船 十六年二月
村の子のうた	朝な夕なよくきゝなれし福山の紡績 の／汽笛なつかしき汽笛	⑦	141	目次の標題は「村の子 のうた(和歌)」 短歌 7首	福山学生会誌 十五 年末の六十三号
鼠がとれた	鼠がとれた 来てごらん／大きな鼠 だ いゝ気味だ	⑦	142		コドモノクニ
土筆の学校	つুকし、／つくしんぼ	⑦	144		コドモアサヒ(三年四 月)
月夜の案山子	田圃の案山子 昼間の案山子／日が 暮れかけると 人かと見えて	⑦	145		国民
大雪達磨	白い、真白い 大きなお顔／がつか つ頭の 凸凹頭	⑦	146		国民 二年一月九日

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
兔です	兔です、兔です、／因幡の兔の孫の子の	⑦	148	掲載紙誌の切抜貼付	国民 昭和二年一月六日
チョコレートトイズ、ライオン	チョコレート トイズ／チョコレート トイズ	⑦	150	目次の標題は「チョコレート、トイズ」	スウキート

◆ 創作ノート⑧(昭和2年)

長崎市立高等女学校々歌	桜吹く国 日出づる御国／開け栄ゆる源泉(みなもと)なして	⑧	1	目次の標題は「長崎市立高女、校歌」	
東京府／中野町 桃園第二小学校々歌	心も広き武蔵野に／旭まづさすよるこびの	⑧	2	目次の標題は「桃園第二小学校々歌」	
理科少年団々歌	流れ巡りて川はゆく／吹きてそよぎて風はゆく	⑧	4	目次の標題は「理化少年団々歌」	
雀のどろぼう	雀の持ち逃げ 藁泥棒／大事な藁では ないけれど	⑧	6		「金の船」 二年五月号
昼間の探照燈	二階の窓の日あたりで／鏡をてらして遊んだら	⑧	8	目次の標題は「昼間の探照燈」	国民 二年五月十六日
田圃の道路	田圃の道路は傷だらけ／曲るところに曲り傷	⑧	10		
犬のお鼻	犬のお鼻に さわつて見たか／犬のお鼻を よく見たか	⑧	11		一年の友
チョコレート	ぎんぎらぎんの銀紙を／そ一つとあけると出て来るは	⑧	12		スウキート
市村小学校々歌	朝日夕日に笑むに似て／容姿雄々しき蔵王山、	⑧	13		
巢立ちの日	空はあをあを日本晴／軒の雀のお家では	⑧	14		二年の友 二年八月号
島の船	沖から来る風、何の風／沖から来る風 島の風	⑧	16		金の船 二年六月
金魚のしやぼん玉	金魚のしやぼん玉／ぷつく ぷつく ぷつく ぷつく	⑧	17		「金の船」 二年六月
からかさ車	雨は やんでる／白雲 とんでる	⑧	18		
賤ヶ嶽	山の口(崖カ?) 路狭けれど／片鎌槍を打ちしごき	⑧	20		大正少年唱歌第十一集
軍艦三笠	大海戦の度毎に／我が艦隊の先登で	⑧	22		
下谷／根岸 愛隣幼稚園々歌	可愛い二葉 小さい葉／のちには大きい大きい木	⑧	24	目次の標題は「愛隣幼稚園々歌(二葉のうた)」	「桐の花」十一月
海の風山の風(その一)	海から吹きます 海の風／あさ風ひる風よるの風	⑧	25		スウキート 「金の船」八月号
夏です／海の風山の風(その二)	夏です 海です 広いです／朝でも 昼でも 日暮でも	⑧	26	目次の標題は「カ(その二)」	「国の礎」
火鉢のあくび	朝からあいてる窓の中／桜の花が散りこんで	⑧	27	目次の標題は「お火鉢のあくび」	「せうがく二年」三年四月
雪達磨	どこへ行つたら／雪達磨	⑧	28		
泣いてる蜻蛉	蜻蛉が、蜻蛉が泣いてゐる／暮れた野路のうすやみで	⑧	29	目次の標題は「泣いてるとんぼ」	「金の船」三年九月号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
花園(その一)	色あでやかに 目もあやに／咲きほ こりたる花園	⑧	30		大正少年唱歌第十一 集
花園(その二)	野辺に山辺に咲きみちし／色さまざ まの花みなが	⑧	31		
月夜の雪達磨	への字のお口が大きいな／にらんだ 目玉も大きいな	⑧	33		国民
吹雪の風呂や	吹雪はげしい町中の／お湯屋のガラ ス戸、湯気こめた	⑧	34		
お山の大禿	大きなお山の大禿だ／大きな大きな 大禿だ	⑧	35		幼年クラブ 二年十 一月号
鉄瓶御輿	鉄瓶おみこしだ／ピンシヤン、シヤ ン、シヤン	⑧	36		金の船 三年二月
もみぢ山	赤いべべ着た赤い山／黄いろいべべ 着たきいな山	⑧	37		金の船 二年十月号
雨祭	雨の降る日は雨祭／家のまはりで雨 太鼓	⑧	38		スウキート 三年四 月
椎の実の家出	椎の実は／椎の木の	⑧	39		
お猿のお顔は	お猿のお顔は 赤いのさ／生れた時 から 赤いのさ	⑧	40	目次の標題は「お猿の お顔」。掲載紙誌の切 抜貼付	中外 二年十一月十 日
夜風の話しごゑ	きいたか、夜風の話しごゑ／野川の 岸の芒の穂	⑧	41		金の船 二年十二月 号
風の子	「子供は風の子」／ほんとかえ	⑧	42		国民
鳥の買物	鳥に、鳥に問うて見よ／朝から晩ま で野で山で、	⑧	43		国民
踏切	さア、お通り、／汽車さん お通 り、	⑧	44		子供の友 二年十一 月
うれしい蛙(三びき蛙)	父さん蛙が ゲロゲゲロ／そこで ゲロゲロ 母さん蛙、	⑧	45		国民
とんかつか	とんとんかつか とんかつか／桶の たがはめ、とんかつか	⑧	46	掲載紙誌の切抜貼付	「中外」 二年八月 十五日
口鉄砲	口鉄砲で ホーイホイ／雀が来てて も だまつてる	⑧	47	掲載紙誌の切抜貼付	「国民」 二年十一 月一日
汽車路の蟬	汽車だ、列車だ、急行だ。／レール に沿った	⑧	48		国民
青田の鳥	青田つゞきの／広い田圃を	⑧	49	掲載紙誌の切抜貼付	国民 二年八月十八 日
山の大豆	山の畠の晴つゞき／大豆が太つて、 ひからびて	⑧	50		国民
燕がまた来て	燕が又来て、嬉しいね。／すいすい 出たりはいつたり	⑧	51	目次の標題は「夏が又 来て」	
三匹羽虫	がらあき夜汽車が田圃を走り／田圃 の羽虫を一匹乗せました	⑧	52		国民
かんぴやう	かんぴやう畠の／日ぐれの百姓、	⑧	53		中外
お猿の皮むき	お猿の皮むき、／らつきやうの皮む き、	⑧	54		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
首ふり鼻ふり	熊が首ふる／鉄の格子の	⑧	55		せうがく三年 (三年五月)
雪達磨の睨みつこ	だまって座つて向き合つて／笑顔もしない雪達磨	⑧	56		幼年の友 (三年二月)
運動場の日暮雨	しみじみ雨が降つてる／運動場の日暮時	⑧	57		可愛い芸術
野火と山の枯萱	燃えひろがつて近くなる／野火見下してふるへてる	⑧	58		国民 子供の友
そろばん汽車	おもちやの汽車が走ります／関のレールは真直ぐね	⑧	59		
野路の三つ角	野路の三つ角曲り角／朝は右から左から	⑧	60		可愛い芸術(第10輯) 三年二月
かんぺう	かんぺう ごろごろ路つぱた／路に立つてる馬の背の	⑧	61		せうがく二年 三年十月
峠の鳥	峠の茶屋にみた鳥は／鳩より少し小さくて	⑧	62		処女の友 三年五月
赤土阜	日でりつゞきの赤土畑に／白いペンキで青地にかいた	⑧	63		家庭の科学
ねとぼけて／(月夜の鶏と鳥)	月の光の明るさに／星の鶏寝とぼけて	⑧	64	目次の標題は「ねとぼけて」	コードモノクニ 二年十二月号
隣の子	隣りへ越して来た／家にも子供がおりますよ	⑧	65		国民 家庭の科学
峠の跡	自動車道が開けたら／峠の茶屋は引越した	⑧	66	目次の標題は「峠の茶屋のあと」	国民
赤土山の赤松林	赤土山の赤松が／赤肌ならべてすすくと	⑧	67	目次の標題は「赤土山の赤松」	金の船 二年十一月号
ひより雨／ばけた狐	雨だ 天気雨だ ひより雨だ／はれる空から、バラバラだ	⑧	68	目次の標題は「日和雨」	国民
葦の笛	葦の葉巻いて／葦の笛	⑧	69		資生堂月報 三年一月号 桐の花
峠の一本杉	峠の一本杉が見え出した／あれから先は下り坂	⑧	70		金の船 二年十二月号
親子の釣竿	大人の釣つてる釣竿は／太くて長い竿でした	⑧	71		可愛い芸術 桐の花
桐の木村	桐の木うゑた 桐うゑた／畠にうゑた 野にうゑた	⑧	72		
朝鮮の子供	朝鮮で生れた朝鮮の子供が／朝鮮の服きて、朝鮮の靴はいて	⑧	73		家庭の科学
赤い実	はちきれさうな赤い実だ／ぷりぷりまあるい小さな実	⑧	74		少女クラブ
三日つゞきのお休み	今日は土曜だ 半どんだ／明後日(あさつて)旗日、明日日えう	⑧	75		小学少女 二年十一月号
水番(みづばん)人(水んど)	揃つた 出揃つた稲の穂だ／風はそよそよ、稲の花	⑧	76	目次の標題は「水番人」	中外
鐘(かんかん)	けいこがはじまるよとカンカンカン／皆教室へ 一二、一二	⑧	77	目次の標題は「学校の鐘」	資生堂月報 三年二月号 写真通信 三年三月

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
出たぞこうもり	出たぞ こうもり／町外れ	⑧	78	目次の標題は「こうもり捕り(町はづれ)」	中外
牧場の秋花	雨が五日も降りまして／馬の出て来ぬ牧場(ぼくちやう)に	⑧	79		国民
野中の駅	急行列車が通るまで／僕等の汽車はとまります	⑧	80		(写真通信) 四月
啼かぬ蟬	夜汽車の窓に／とびこんだ	⑧	81		「可愛い芸術」十五輯 童話研究 四年十一月号
鳥と屋根のごま	鳥が種をまきました／まく気はなくてまきました	⑧	82	目次の標題は「鳥とごま」	スウキート
駅長さん	急行列車が出た後を／ぢつと見て立つ駅長さん	⑧	84		コードモノクニ 三年二月
私のうゑた向日葵	私のうゑた日まはりは／塀より高く伸びました	⑧	85		国民
ギーコーカツコー	ギーコー ギーコー／ギーコーギーコー	⑧	86	目次の標題は「霧の湖」	日本童謡
川舟三艘	石炭つんだ石炭舟の／帆は白くつて一つだよ	⑧	88		スウキート 二年九月末 汲泉七十五号
ひらいしん(雷避け)	雷(かみなり)落ちろ、雷(らい)落ちろ、／家を焼く雷、こわす雷	⑧	90	目次の標題は「避雷針」	せうがく三年(三年七月号)
キューピーの噴水	公園の噴水 キューピーさん／風は横風	⑧	91		(写真通信)三年六月
雷と八つ手の手	お庭の隅の大きな手／八つ手がみんな手をひろげ	⑧	92		スウキート 二年九月末
お稲荷さま	野中に／こんもり杉の森	⑧	93	目次の標題は「稲荷さま」	コードモアサヒ 二年十二月号
猫の散歩	裏の細径 草の露／散歩について来た猫が	⑧	94	目次の標題は「小猫の散歩」。掲載紙誌の切抜貼付	国民 二年十一月十一日
野の風小風／吹くな山風	出たよ、稲の穂、野に一面に、／穂は、今日あした お花の盛り、	⑧	95	目次の標題は「野の風小風」	
西瓜島	西瓜島の番小屋に／昼間つつてる蚊帳の中	⑧	96		国民
稲の葉を上る露	エツチラオツチラ上つてく／稲の葉、長い葉上つてく	⑧	97	目次の標題は「稲葉を上る露」	国民
板橋鉄橋	板橋(いたばし)は、鉄橋(てつきやう)を見て思ふ／鉄橋は、板橋を見て思ふ	⑧	98		早大、講義録 新天地
山門(の夕暮)	夕日うすれる山門の／椽(のき)から出たり入つたり	⑧	99	目次の標題は「山門の夕暮」	「日本童謡」二号
寺のやね	雪が上(あが)つてはれた日の／大やね小やね瓦やね	⑧	100	目次の標題は「(雪が上つて)寺のやね」	子供の友
野中の西洋館	土盛り上げて野の中に／西洋館が建ちました。	⑧	101		金の船 三年一月号
鳶の子	とんとん、とんでる鳶(とんび)の子／河原で何をさがしてる	⑧	102	目次の標題は「河原に下りた鳶」	(写真通信) 九月

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
親馬子馬	小さい子供がお馬をつれてく／手綱一本、お馬は二匹。	⑧	103		愛児の友 二年十一月号
金太郎さん	まるまる肥えた金太郎さんは／熊とお角力、ハツケヨイヤ	⑧	104		
[昭和二年八月二十五日午前十一時、那須御用邸にて、／澄宮殿下に拝謁して]	まづ父にこのよろこびを伝へまく筆をし／とれどことばあらず	⑧	106	短歌6首。目次には標題の記載はない	
ほうくろ大将	一つ大きなほうくろう／お鼻のわきのほうくろう	⑧	108	目次の標題は「ほうくろ大将／拝謁して」	
五月	放ち飼ひする牛の子の／何よろこびて走り来し	⑧	110		大正少年唱歌第十一集
日本大学第二中学校々々歌	旭光匂ふ大八州／咲かば誉の桜花	⑧	111	目次の標題は「日大 第二中学校々々歌」	
広島県 世羅中学校々々歌	朝、仰げば新山の／松の緑に啓示あり	⑧	112	目次の標題は「世羅中学校々々歌」	
ピクニック	母上さへ うれしげに／父上さへ たのしげに	⑧	114		大正少年唱歌第十一集
さいころキヤラメル	さいころさいころ こうろころ／すご六しようよ こうろころ	⑧	115		スウキート 三年一月一日
親子のうゑ木や	大きな缺で 大きな木／ちやつきちやつきと	⑧	116	目次の標題は「親子の植木屋」	「コドモノクニ」
新年まことにおめでたう／兄弟松兄弟竹	山に並んで生えてみた／兄弟松が町に出て	⑧	118	目次の標題は「新年まことにおめでたう」	アサヒグラフ 一月十八日号
ちやつきちやき	お庭のつゝち、ちやつきちやき／松、ひば、檜の木 ちやつきちやき	⑧	120	掲載紙誌の切抜貼付	国民 二年十二月二十五日
王子御殿御用 子守唄	ちゆんちゆん雀も 寝てみます／雀のお家で 寝てみます	⑧	122	目次の標題は「皇子御殿下用子守唄」	アサヒグラフ 三年二月二十二日
宝の花	此の世に、珠より黄金より／すぐれて尊とき此の宝、	⑧	124	目次の標題は「宝の花(お子守唄)」	
昼のお守唄	お庭の揺籃 ゆうらゆら／柳のゆりかご ゆうらゆら	⑧	125		
木枯	山路を下る瘦馬の／嘶き寒き木枯に	⑧	126		大正少年十二
寒鴉	窓越に見る山の端の／まばら瘦せ松、風や吹く	⑧	127		大正少年十二
かへりゆく雁	柳枯れたる川堤に／立つとともなく佇めば	⑧	128		大正少年十二
都の寒月	瓦の屋根に 石の路に／電信線に鉄の扉に	⑧	131		大正少年十二
常盤木	花を誇りし木といふ木／みな落葉して、野も山も冬かれて	⑧	132	全体を×で消してある。「(P. 142に改作)」と注記	大正少年十二
奈良の春と夏	大仏殿の鐘の音の／一つ一つに散りて来る	⑧	133	目次の標題は「奈良の春夏」	
ポコボン カツチン	かつちんかつちん 追羽根小羽根、／くるくる元気で上つて下(お)りて	⑧	134	目次の標題は「ポコボン、カツチン」。「昭和五年十二月二十六日改作」と注記	朝日グラフ

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
鈴蘭	小さく円く よき形／振りなばり んりん響かずや	⑧	136		大正少年十一
秋	露しとゞ散り 羽根ぬらし／寺の山 門 鳩なけば	⑧	138	目次の標題は「秋(改作)」。「(昭和四年六月四日改作)」と注記	
秋の草	葉末に露の きよらにきらめきて／ 朝日に映ゆる野路の糸萩の	⑧	141		大正少年十二集
常盤木	風は音も寒く、今日も吹きて／乱れ 散るか、木の葉、野に山に。	⑧	142	目次の標題は「常盤木(改作)」	大正少年唱歌第十二集

◆ 創作ノート⑨(昭和3年)

山色新	山はみな映えまさるなり／あらたま る心に見れば	⑨	1		
愛知県一宮中学校々歌	雲に聳ゆる御嶽に／剛(たけ)きわれ 等の矜(ほこり)あり	⑨	2	目次の標題は「一宮中学校歌」	
栃木県石橋中学校々歌	不断の啓示、永却(とは)のこゑ／二 荒の山に 霊ありや	⑨	4	目次の標題は「石橋中学校歌」	
北海道名寄中学校々歌	清く流るゝ天塩川／われとわが道拓 きては	⑨	6	目次の標題は「名寄中学校歌」	
青森市橋本小学校々歌	青森湾の朝の波／洋々として広きか な。	⑨	8	目次の標題は「橋本小学校歌」	
三原女師、附属小学校々歌	筆影(ひつえい)、米田(よねだ)、桜 山／山は、早緑 濃緑の	⑨	9	目次の標題は「三原附小、校歌」	
茨城県水海道高女校歌	岸にほゝゑむ野の花を、／流にうつ す鬼怒川の	⑨	10	全体を×で消してある	
(道路開き)道づくり	橋を渡った山よせの／畑(はたけ)の 崖をくづして	⑨	12	目次の標題は「路づくり」	
御用邸のおまはりさん	きれいな橋のまん中で／おまはりさ んが川見て	⑨	14		幼年クラブ(三年五月号)
遠いおくに	遠いお国の友達へ／日本からのお土 産は	⑨	15	(弘田氏を送る子供唄)	
茨城県立 水海道高等女学校々歌	筑波の峯の朝ぼらけ／雲どよもして 高鳴るは	⑨	16	目次の標題は「水海道高女校歌」	
東京書籍株式会社慰安会 関西旅行の歌	指折り数へて待ちかねし／今日こそ 我社の慰安会	⑨	18	目次の標題は「関西旅行歌」	
秋	露しとゞ散り 羽根ぬ[れて][らし] ／寺の山門、鳩なけば	⑨	26		大正少年十一
市外三河島にある 日本原毛株式会社々歌	都のほとり 荒川の／波に声あり 心あり	⑨	28	目次の標題は「原毛会社々歌」	
黒猫子猫(みずぎの日の黒猫によせて)	黒猫子猫／ぴんとはねたしつぼ	⑨	30	目次の標題は「黒猫子猫」	
子雀	子雀 巣を出て お庭に下りて／あ つちへ とんでは チューンチューン	⑨	31		
メーハン女史歓迎の歌	ニツコリ笑顔の富士山を／幾度も御 覧になつたでせう	⑨	32		
天の川	天の川／お水が一ぱい きれいだろ な	⑨	34	掲載紙誌の切抜貼付	朝日こども欄 (三、八、二四)

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
オツカナ ビツクリ	オツカナ ビツクリ 枝の先／何 かゞ葉つばを皆たべた	⑨	35		中外
一年生	大きいカバンの、一年生だ／中の御 本は一冊だ	⑨	36		
赤い自動車	稲の実のつた田の中の／国道筋だよ 土けむり	⑨	37		家の光
ひらへら舞	ひらへら へつたり／ひらへら舞へ	⑨	38		中外 三年九月
お金を拾って警察署 に届けた犬、エムの歌	恐い役目のをちさんが／探し出して は見つけては	⑨	40	目次の標題は「お金を 拾って届けたエムの 歌」	
[士官の][兵隊]兄さん	今夜はちつとも恐くはない／こん こん狐も下りて来い	⑨	45	目次の標題は「士官の 兄さん」	幼年クラブ(四年一月 号)
京都府船井郡聯合青年 団々歌	霞堤(かすみだひら)の桜花／「温 雅」の色ぞ豊かなる	⑨	46	目次の標題は「船井郡 聯合青年団歌」	
早起富士山(家事)	富士山 富士山／早起さんね	⑨	48	目次の標題は「早起富 士さん」	コドモノクニ 三年 十二月号
いちけん坊 かぢかん 坊	小指 細指 いちけん坊／これつば かりのすり傷に	⑨	49		
きまり	いつでも前には 前の車輪／いつで も後に 後の車輪	⑨	50	目次の標題は「二つの 車輪」	
何の鈴チロリン	チロ チロ チロリン 何の鈴／昨 日貰って すぐつけた	⑨	51		処女の友 十月号
渋柿甘柿	渋柿くさつて／くさつておつこちろ	⑨	52	掲載紙誌の切抜貼付	朝日新聞 十月十九 日
星の怪我(あをい星)	高窓小窓 あいた窓／夜中にお目目 のさめた時	⑨	53	目次の標題は「星の怪 我」	せうがく(二年) 小 学館 三年十一月号
崖の白百合	取りたい取りたい白百合が／皆よく 咲いて	⑨	54		コドモノクニ
高知師範学校々歌	流 不断の鏡川／筆山(ひつざん) 影を映す時	⑨	56		
桐の家	桐の葉 広い葉 大きい葉／桐の葉 かげの	⑨	58		可愛い芸術 三年九 月号
風と雨と朝の光	コトコト あけてくれよ／コトコト あけてくれよ	⑨	59		蛍の光 第一号(桐の 花)
犬をつれた隠れん坊	太郎は隠れて木戸の内／美代子は立 つてる倉の壁	⑨	60	目次の標題は「犬をつ れて隠れん坊」	幼年クラブ キン ダーブック
朝鮮 大田高等女学 校々歌	日毎伸び[ては栄え][ゆき茂り]ゆく ／宝文山の若松は	⑨	62	目次の標題は「大田高 女校歌」	
水戸市立高等女学校々 歌	闇にもしるき梅が香の／その気高さ や床しさや	⑨	64	目次の標題は「水戸市 立高女校歌」	
那須の朝晴	旭だ 晴天だ 日曜だ／早くさめて は飛び出では	⑨	66	目次の標題は「新ナス の日本晴」	日本童謡 四年九月 号
こぼれこごめ	親鶏 ココココ／雛子 呼ぶこゑ	⑨	67	目次の標題は「こぼれ 米」	
鞆幼稚園々歌	小さなお船は仙酔へ／大きなお船は 遠方へ	⑨	68	目次の標題は「鞆幼 稚園歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
鬼のにらみつこ	赤いお屋根はお酒屋さん／青いお屋根もお酒屋さん	⑨	69	目次の標題は「赤鬼と青鬼」	幼児の友 四年十二月号
黍の葉サーベル	風の斥候／一とびに	⑨	70		可愛い芸術 三年十七輯
鉄瓶主人(てつびんあるじ)／火鉢屋ホテル	宿屋は、新築 長火鉢／離れ座敷のチャブ台に	⑨	72	目次の標題は「宿屋火鉢や」	資生堂月報 四年十月号
蝗のかくれん坊	田圃涼しい夕風に／蝗の子供の隠れん坊	⑨	74		日本童謡 三年九月号
野中の新道	野のまん中の新道は／櫟林を 突きぬけて	⑨	75		日本童謡 三年九月号
砂丘の蟻兄弟	砂丘のかげの蟻兄弟／小松林の家を出て	⑨	76		
お山へ行こよ野原へ行こよ	お山へゆこよ、／お山へゆこよ	⑨	78	目次の標題は「お山へ来いよ野原へ来いよ」	家の光 昭和七年
風の足音	日暮、裏藪、何の音、／サワサワ、サワサワ、	⑨	79		日本童謡 三年十月号
にげた二羽の雀	向ひ合つてる棟と棟／雀が雀と話してる	⑨	80	目次の標題は「雀の話」	家の光
庭掃き	雨が上つて 三日目だ／お日和つゞいて、庭掃きだ。	⑨	81		新日本小学唱歌
山の郵便	山の温泉 汽車へ九里／ずみ分遠いな 淋しいな	⑨	82	目次の標題は「山(温泉)の郵便」	
お寺のとんぼ	ひらひら とんぼ／小さなとんぼ	⑨	83		朝日新聞
お腹のへつた三日月さん	三日月様は お腹がへつて／ぺこんとへこんで	⑨	84		
女猫	飼ひ手のない猫、女猫／やさしい声の猫だのに	⑨	85		あけぼの 二号
松並木のひねくれ松	松だ 並木だ／レール沿	⑨	86	目次の標題は「ひねくれ松」	可愛い芸術 三年十一月
枝でしなびたはだんきやう	ことし一夏／海岸へ	⑨	87		
いちぢく	まだ実の青い無花果の／青い葉つば	⑨	88		
明るい水田(みづた)	野みちは暮れても／暮れない水田	⑨	89		「可愛い芸術」(二十二輯)
鞆町婦人会の歌	松は緑に砂白く／絵に似て名もよき島々の	⑨	90		
浅野セメントスレート部門司工場の歌	雲井に笑める紫の／峯は戸上か、何示す	⑨	92	目次の標題は「浅野セメントスレート部門司工場の歌」	
地藏の石臼	地藏様／台石の、石臼を	⑨	94		幼年クラブ
見張の大百合	町の出口の三つ角は／左も右も登り道	⑨	98		向上の少女 昭和四年八月号
大傘小傘	細雨長雨七日雨／お庭の隅の木の下の	⑨	99		
田草とりのお姉さん	田草とりのうたのこゑ／向の山にひゞきます	⑨	100	目次の標題は「田植をしてるお姉さん」	コドモノクニ

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
お月様をさがす星の子	待つてても 待つてても／出て来ないお月さま	⑨	101	目次の標題は「お月様を探す星の子」	可愛い芸術
二軒の雨だれ	おうちのお屋根の雨垂は／おうちのお庭へ ぼつたんたん	⑨	102	目次の標題は「二軒の雨だれポツタンチヨロリン」	
菜たね島のをんどり	畠は 日ざかり／花ざかり	⑨	103		小学館
二階建	新道沿の一軒家／引越して来て今日三日、	⑨	104		可愛い芸術 「あけぼの」
コケコケコ	ひよ子が大きくなって／親のやうになつて、	⑨	106	目次の標題は「私のひよ子」	
三つ星七つ星	今夜も三つ星光つてる／少しねぢれて並んで	⑨	107		
白井嶺南大人、音楽記者二十五年の賀	人生は五十年といふそのなかばひたぶ／るに君がかなで来し琴	⑨	108	目次の標題は「嶺南大人におくる和歌」。短歌7首	
聖上那須御登山(昭和三年八月十五日)	大君に仕へまつりて若駒の二十三／頭那須登りゆく	⑨	110	目次の標題は「那須の御登山の陛下」。短歌7首	
少年団歌(第三) —そなへよ つねに—	麗ら、朗らの大空[も][に]／黒雲湧きて荒るゝ日の	⑨	112	目次の標題は「少年団歌」	
電気とランプ	月の世界に あるだろか／星の世界に あるだろか	⑨	115	目次の標題は「電気といふものランプといふもの」	
一そうポツン	空は晴れてる青空だ／親に離れて鳶の子	⑨	116		幼児の友 日本童謡四年三月号
ペタコンジヤボジヤボ	朝からペタコン、ペタコンだ／長雨上つて 三日目だ	⑨	118		コドモノクニ
汽車の親子	機関車は 汽車の親／力が強い 足速い	⑨	119		(小学三年)四年一月号
大坊主小坊主	田圃のたんぼぼ大坊主／白髪頭の丸坊主	⑨	120	目次の標題は「ばけ坊主」	小学二年 昭和四年六月号 昭和幼年唱歌第三集
アサノウチ	コケコツコ、／ヨガアケタ	⑨	121		
千葉／県立 佐原中学校々歌	競ひて群立ち 天を衝き、／銚杉若き意気示す	⑨	122	目次の標題は「佐原中学校々歌」	
豆いり	豆いり パチンコ、ツーンツーンパチン／はちけて 飛び出す コンコロコン	⑨	124		幼年クラブ 四年二月号
暇の夜みち	広い野原にほの白う／月の沈んだ暇みち	⑨	125		
障子の孔	誰だか障子にあけた孔／小さな指であけた孔	⑨	126		面白い理化
鳴子と雀	鳴子は、鳴らうか鳴るまいか／鳴りかけて見た	⑨	127		面白い理化
チンチロ鈴虫	チンチロ鈴虫 何処行つた 大きな爪切入れてやり	⑨	128	目次の標題は「チンチロこほろぎ」	可愛い芸術
渡り鳥	渡り鳥一夕風だ／お山を	⑨	129		日本童謡 十一月号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
革のお靴	靴は編上げ 新の靴(おはつだよ) / もうゴム靴ではないんだよ	⑨	130		幼児の友 三年十一月号
稲刈(豊年万作御代万歳)	今日も 日和だ 早起だ / 鎌だ 砥石だ 弁当だ	⑨	132		
お菓子の箱	リボンがついて鈴ついて / きれいなきれいなお菓子箱	⑨	134		Sweet 十一月号
大花ござ	野原の花ござ、大花ござ / たんたら模様	⑨	135	目次の標題は「青畳」	
ほんとの一軒屋	何か童話にあるやうな / お山の奥の谷間に、	⑨	136		家の光 日本童謡 昭和七年八月号
汽車ごっこ	「皆、のつたか」 / 「のつてるよ」	⑨	138		幼年倶楽部 昭和四年六月号
石地蔵	お地蔵さまは石地蔵 / いつ来て見てもにつこりと	⑨	140	目次の標題は「お地蔵様」	コドモノクニ
メロンを送られて	まろやかに げにまろやかに美しき / メロンいだける子の頬のまろき	⑨	141	目次には標題の記載はない。短歌1首	
ニコピンうちはを送るとて	海の風それも涼しく心地よくこれも / またよしニコピンの風	⑨	141	目次には標題の記載はない。短歌3首	
麴町区々歌	朝日に緑 弥まして / 千代田の宮に栄えつゝ	⑨	142	目次の標題は「麴町区区歌」	
岡山県 笠岡商業学校々歌	四時の眺 絵にまさる / 瀬戸内海ぞ波静か	⑨	144	目次の標題は「笠岡商業学校々歌」	
朝鮮 / 全羅北道 全州公立高女校歌	雲のかげ、また 月のかげ / 空とぶ鳥のかげうつし	⑨	146	目次の標題は「全州高女校歌」	
台湾 台中高女校歌	咲くや苦楝(せんだん) 紫の / 色も床しきその花は	⑨	148		
前橋市 敷島小学校歌	水も豊けく、大利根の / うまず流るゝ強さ見よ	⑨	150	目次の標題は「前橋市敷島小学校歌」	
東京市 赤坂小学校歌	日ごと 夜ごと 緑ますか、 / 神社(みや)の常盤木。	⑨	152	目次の標題は「東京、赤坂小学校々歌」	
米子小唄(来い来い節)	米子よいとこ大山東、西にや錦海(きんかい) / 中の海	⑨	154	目次の標題は「米子小唄」	
豊橋市立商業学校	神明宮の風清く / 森巖森に流れたり	⑨	165	目次の標題は「豊橋 市立 商業、校歌」	

◆ 創作ノート⑩(昭和3年～4年)

煙突の競争	大きい煙突 小煙突 / 煙の出しつこ飛ばしつこ	⑩	2	目次の標題は「煙突」	
遠い夜汽車	夜汽車 ゴーゴー お山の向 / 上りか下りか 線路は遠い	⑩	3		
田圃のひでり	日でりつゞきの田圃の蛙 / 稲と一しよに空みては	⑩	4		国民
鼻のトンネル	お父さまの一 鼻のトンネル レールなし / 上り下りの二つ孔	⑩	5		コドモアサヒ
二列三列(桐並木)	ここでは皆 二列だよ / 二本づゝだよ 桐並木。	⑩	6	目次の標題は「二列三列」	昭和少年 第四集

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
お正月ですから	「父さま鼓を一寸貸して」／「お正月ですからー」ポン ポコ ポン	⑩	8	「キンダーブックの絵にそへて」と注記	
雪合戦	赤旗立てて赤組だ／白旗立てて白組だ	⑩	9		
鹿児島第一師範学校附属小学校々歌	旭かがやく武岡の／名にもこもるは剛健の	⑩	10	目次の標題は「鹿児島第一師範附小校歌」	
福山学生会雑誌の巻頭に	ことほぎのよろこびのうたみちみちぬ／村の村ごと 町の町ごと	⑩	12	目次には標題の記載はない。短歌3首	
百五銀行々歌	日毎月毎 末広に／年を重ねて弥栄に	⑩	14	目次の標題は「第百五銀行々歌」	
千葉県立 長狭中学校々歌	太平洋上 旭のぼり／永却にたがへず このあかとき	⑩	16	目次の標題は「長狭中学校々歌」	
茨城県 / 稲敷郡 龍ヶ崎高女校歌	朝日夕日 [に][の] 富士筑波／遠くほゝゑみ近くゑみ	⑩	18	目次の標題は「龍ヶ崎高女、校歌」	
栃木県立 大田原高女校歌	那須野ヶ原の朝日かげ／恵の露のかがやきに	⑩	20	目次の標題は「大田原高女、校歌」	
つみくさ	風は あるよな ないやうな／真昼の川の 帆かけ舟	⑩	23		
長野県赤穂青年会々歌	美はしきは赤穂一われらがふるさと／駒ヶ嶺は 朝日夕日に	⑩	24	目次の標題は「赤穂青年会々歌」	
高知県立安芸中学校々歌	妙見山(やま)の朝風に／心も清き若人が	⑩	26	目次の標題は「安芸中学校々歌」	
山梨県立巨摩高女校歌	たえず旅ゆく釜無の／清き流は 何つぐる	⑩	28	目次の標題は「巨摩高等女学校々歌」	
雨のふる日の幼稚園	雨がさ 雨ぐつ 雨外套／雨のふる日は雨支度	⑩	30	目次の標題は「雨の降る日の幼稚園」。「キンダーブックの絵にそへて」と注記	
裏の木戸	乳屋の後からお米屋さん／お米やの後からお豆腐屋	⑩	31		資生堂月報 四年七月号
岡山県立高梁中学校々歌	日夜 不断の旅をゆく／高梁川の清流に	⑩	32		
静岡県立 周智郡 / 森町 周智農林学校々歌	旭かがやく 富士の峯／夕雲映ゆる秋葉山	⑩	34	目次の標題は「静岡県立周智農林学校々歌」	
和楽の天地	高く 遠く きらめくや／低く 近く ささやくや	⑩	36		
京浜学園々歌	神山富士の不易の容姿(すがた)、／千古不滅の尊とき啓示(さとし)。	⑩	38		
山梨県北都留郡七保村、／山岳部の歌	朝に映えて 夕に煙り／七つの部落(むら)を護るとばかり	⑩	40	目次の標題は「山梨県、七保村山岳部の歌」	
雪のペンキ屋	雪のペンキや 屋根をぬる／門のやね	⑩	42		昭和少年 第七集
曳き舟	川上へ 曳き舟だ／石炭 一ぱい 積み込んだ	⑩	43	目次の標題は「引き舟」	コドモノクニ 四年十二月
蝗の馬乗り	蝗の馬乗り、ハイドウドウ／馬の背中の稲束で	⑩	44	目次の標題は「蝗の馬のり」	教育 日本童謡(第八号)

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
芒ととんぼ／夕やけと んぼ	けさ出たばかりの芒の穂、／河岸に なゝめの芒の穂	⑩	45	目次の標題は「芒とと んぼ」	資生堂(五年十月号)
夜明の一つ星	引つ込め／夜明の一つ星、	⑩	46		
[題未詳]	東の山は 表門／西のお山は 裏御 門	⑩	47	目次には「無題 東の お山は」と書かれてい る	
鯉のお花見	お池のまはりの花ざかり／さいて る、ゆれてる、	⑩	48	目次の標題は「鯉の花 見」	
星の王子様お姫様	一番星見つけた 一番星は山の上／ 二番星見つけた 二番星は森の上	⑩	49	目次の標題は「一番星 二番星」	昭和少年 第七集
お池のほとり／白い桃 赤い桃	白い桃咲いた／赤い桃咲いた	⑩	50	目次の標題は「白い桃 赤い桃」	昭和少年 第九集
意地悪お窓	意地悪お窓 曇り窓／何も見せない ガラス窓	⑩	51		
お寺の大屋根	町のまん中 大きなお屋根／高く て立派な 大きなお屋根	⑩	52		小学館
夜の運動場	広いな 夜の運動場／あんまり広 くて 淋しいな	⑩	53		
夜の町とお月さま	静かだな／夜の町	⑩	54	目次の標題は「夜の町 とお月様」	
お池の手品師	お池は手品師 逆立手品師／お家の 逆立	⑩	55		小学館
ひとりつ子	ちよろちよろ 小流れ 花あやめ／ 流を見てゐる一人つ子	⑩	56		昭和少年 第七集
我等の前途	山に広野に霞をこめて／やがて迎へ む 吾等の春よ	⑩	57		大正少年唱歌第十二 集
広島県沼隈郡 瀬戸村 青年団歌	雲に聳ゆる熊ヶ峯／容姿 気高く 微笑みて	⑩	58	目次の標題は「瀬戸村 青年団々歌」	
帰りゆく雁	何か 事の 有りげに／なきて	⑩	60		大正少年唱歌第十二 集
スキー	真白に埋めて 夜の間の雪／峯にも 谷にも降り積りぬ	⑩	61		大正少年唱歌第十二 集
春近し	土橋の下の水増して／岸の小草も萌 えそめぬ	⑩	62		大正少年唱歌第十二 集
障碍物競争	みんなが身軽に、一とびに、／縄を ばピヨンピヨン、ほら、ピヨンピヨ	⑩	63		フレーベル館
炉辺(へん)のまとみ	日ねもす吹きし風止みて／雪に暮れ たる山の家	⑩	64		
尺取り虫(緊縮のうた)	グリーンと、グリーンと、／グリーンと、 グリーンと。	⑩	65		(JOAKノタメ)
茨城県立工業高校々歌	吉田ヶ丘の朝風に／奇しき 科学の 扉を拓く	⑩	66	目次の標題は「茨城県 立工業学校々歌」	
石川県 七尾高女校歌	袖ヶ江湾の彩霞／帆かげ のどけき 春のあさ	⑩	68	目次の標題は「石川県 立七尾高女、校歌」	
後庭の笑声(追羽子)	振袖重き追羽子を／そらして落して 逃げてゆく	⑩	70		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
ガラス窓	意地悪小窓 ガラス窓／近よるたん びに、寄る度に	⑩	71		
春は近し	今朝咲き初めし紅梅の／花の蕾を かくすかと	⑩	72	目次の標題は「春近づ きぬ」	
彩霞	鶏の声 稚児の声／折々 牛の声も して	⑩	73		
動物園の春	しきりに散れる花片を／幾つもおの が背にのせて	⑩	74		
藤	砂の白さに 紫の／花のこぼれし美 しき美しさ	⑩	76		文部省 高小一年
春のゆく	野山の花の紅は／風に吹かれて、夕 映の	⑩	77		
桐の花	母家と倉との中庭に／蕙をしきて 妹と	⑩	78		
緋牡丹の花	咲きほこりたる緋牡丹を／風に吹か せじ散らさじと	⑩	79	目次の標題は「少女と 牡丹」	
雛の宵	ぼんぼりに灯を入れるゝとて／電燈こ とさら消すもよし	⑩	80		文部省 高小一年
風薫る(山家の初夏)	鳥の音しげき山あひの／青葉若葉に 日の光り	⑩	81	目次の標題は「風薫 る」	文部省 高小一年用
朝逍遥(夏暁)	靄はれてゆく蓮池に／風そよふけば 円き葉[に][の]	⑩	82	目次の標題は「朝逍 遥」	
五月雨晴(つゆはれ)	屋根に 雀の 幾日振(いくにちぶ り)に／旭を待ちて 高らになければ	⑩	83		文部省 高小一年用
村の山	雪の降る日は 白い山／雨の降る日 は 霞む山	⑩	84		日本童謡 五年新年 号 昭和少年第七集
海は広いな	広いな／広いな	⑩	85		家の光 昭和少年第 七集
ビスケット(ワン、ワ ンワン)	ワン、ワン ワン／ 「それ一つ ビスケット」	⑩	86	目次の標題は「ビスケ ット」	幼年クラブ 四年十 二月
静岡県立／掛川高女、 校歌	桔梗ヶ丘の朝風に 御国の誇、我が 誇、	⑩	88	目次の標題は「静岡 県、掛川高女、校 歌」。「(P.152ニ改 作)」と注記	
新那那(須)雑詠	大君を迎へまつりて夏ながらほがら ／になくや那須の鶯	⑩	90	目次の標題は「新那須 雑詠」 短歌7首	
和歌山県立伊都中学 校々歌	澄むや紀の川、不断の流／藍なす淵 に啓示ぞ深き	⑩	92	目次の標題は「和歌山 県、伊都中学、校歌」	
私立 中野中学校々歌	武蔵野台の旭かげ／匂ふ桜のほこら しさ。	⑩	94	目次の標題は「中野中 学校々歌」	
夏の月	日ねもす汗に働きて／帰り来るや せど川に	⑩	96		新日本小学 第十集
藻の花	城の姫ぎみ、うすぎぬに／あかつき はやき沼沿に	⑩	98		文部省 高小
夕立そゝぐ	雷(らい)一しきり／風一わたり	⑩	99		文部省 高小二年用
夏木立	町はづれなる丘の上／屋根の瓦の紅 き家(いへ)	⑩	100		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
赤衣裳	金魚の赤帯赤い袖／金魚に誰がやり ました	⑩	101		面白い理化
土とれ燕	土とれ土とれ、親燕／もつともつと とれとれ、こわがらず	⑩	102		
蛙のプール	蛙がアがア／雨ざアざア	⑩	103	目次の標題は「蛙の競 泳」	国民 昭和少年 第 四集
光る露	お庭の青い草の葉で／きらきら光る 露の玉	⑩	104	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「ツユノ タマ」	(せうがく一年生) 昭和九年六月
とつてはいけない百合 の花	お庭の芝生の百合の花／ただ一本さ いた花	⑩	105		
ポチが吠えたよ	貰ったばかりの／ポチが吠えたよ	⑩	106		コドモノアサヒ 五 年一月号
那須野の芒	「今日は」「今日は」／誰におちぎ をする芒	⑩	107		
親鳥ないた	けさまた鳴いたよ、／コケコツ コー、	⑩	108		
海の風、空の風	沖には風がふいてゐる／白帆の船が 幾艘も	⑩	109	目次の標題は「(風が 吹いてる)南の風、空 の風」	昭和少年 第五集
「あたたんあたたん」	「あたたん」「あたたん」／坊やの ことば	⑩	110		資生堂 五年八月号
線香花火の手品	線香花火の手品師は／火で花を出 し、芒出し	⑩	111		面白い理化
かひこ休みは今日まで	かひこ休みは、今日までで／明日は 学校だ、うれしいな	⑩	112	目次の標題は「蚕休 み」	国民 昭和少年 第 七集
親燕	子供いく羽でねてみると／親鳥二羽 は風の中	⑩	113	目次の標題は「燕の 巢」	国民
海の底	海の底／波の下	⑩	114		面白い理化
ひかうきの唸	ひかうき ひかうき 唸ってる／ど こ、どこ、あんなに唸ってる	⑩	115		子供の友 五年二月 号
祭のお米(おまつり米 (まい))	ガツタリ ゴツトリ 坂みちだ／お 米の俵をつんでゐる	⑩	116	目次の標題は「米の一 つぶ汗のつぶ」	希望社
赤いガラス	赤いガラスでのぞいたら／お山は火 事だ 山火事だ	⑩	118	目次の標題は「ガラス ののぞき目」	面白い理化 五年二 月
まくわ瓜	投げ込んだつて ポツクリコ／すぐ 浮いて出て、ポツクリコ	⑩	119		国民 昭和少年 第 四号
雨ふれ雨ふれ	私の雨傘、絵からかさ／きれいな柄 長の小傘	⑩	120		幼年の国 五年二月 号
電気燈のあいさつ	電気燈(でんき)が夜来て／何といふ	⑩	121		
森にある木	森にある木は何の木／たくさんある のは	⑩	122		子供の友 八年十月 号
煙突のはなし	煙突と／煙突と	⑩	123		小学館 三年生 昭 和五年二月号
よこつちよ	風 よこつちよ／雨、よこつちよ	⑩	124		コロンビアレコード 日本童謡 五年七月

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
金魚買ひ	誰かゞ買ふまで待つてましょ／金魚屋の前まで	⑩	125		
日本のお星様	子供と子供が競争で／とばしたとばしたシヤボン玉	⑩	126	目次の標題は「日本のお星様(金の星、銀の星)」	
引つ込め竹の子	踏まれて怪我するよ／地ん中へ	⑩	127		
睡蓮と蛙(池の子蛙)	蛙が遊んでる／男の子供、女の子	⑩	128	目次の標題は「けうだいい蛙」	昭和少年 第五集
早おき	コケコのをんどり／朝何時	⑩	129	目次の標題は「早起き」	国民 キンダーブック 昭和九年四月号
子兎踊	えいところ、うんところ、よいつところサ。／まんまるまーい満月を	⑩	130		大阪三越 四年十月 昭和幼年 五集 コドモキング 八年五月
早く大人になりたいな	大空を ゆつたりと／どこへでも行ける飛行船	⑩	131	目次の標題は「早くのりたい飛行機に」	幼年の科学 幼六
雛子の食べつくら	四方からとんできて／八方から突つづく	⑩	132		コドモノクニ
鶏舎の番雛子の番	鶏舎(とや)の戸口をのぞいたら／雛子は一羽もみなかつた	⑩	133		コドモアサヒ 五年七月号
涙の山	ろうそく、熱かろ 苦しかる／頭の先につけられた	⑩	134		面白い理化
たばこずき	煙草のお好きな／父さまの煙草は	⑩	135	目次の標題は「たばこ」	
山寺のお燈明	夜はまつくら／黒いお山だ、	⑩	136		
ゴトゴトさんザワザワさん	「誰だ」、／「ゴトゴト」	⑩	137		
新那須小唄	新那須は夏もホホケキョ鶯ないて／セルの着物に 日暮は羽織	⑩	138		
朝の鐘(ゴーン) 晩の鐘(ゴーン)	ゴーン ゴーンで 夜があけた／朝の鐘	⑩	140	目次の標題は「朝の鐘 晩の鐘」	学校へ上ルマデ
水かれ水車	水は、かれがれ野の水車／廻らずなつて	⑩	141		国民
三日月	さわれば／きれろぞ	⑩	142		
桑の葉を摘まうよ	桑の葉をつまうよ／近い川瀬の音きながら、	⑩	143	目次の標題は「桑摘」	国民 新日本小学唱歌集
鈴蘭の鈴(チリリン)の音	誰が振る鈴、／ならず鈴	⑩	144		
桑の実	葉なし 枝なし／畠の桑の幹に	⑩	145		
学校の屋根替	おやすみのまに／屋根替出来て	⑩	146		子供の友 五年十月
土橋の花と蛙	蛙、上見ろ／土橋の草に	⑩	147	目次の標題は「土橋の蛙」	幼年クラブ 五年五月号
鼻黒小僧、鼻白小僧	炭屋の小僧さんお鼻黒／大きな俵は墨俵ガツサリガツサガツサリ	⑩	148		少女倶楽部 四年十二月号
蟻の引越	えつさ、えつささ／引こしだ	⑩	149		
一ぴき蛍	谷の夜みちの一ぴき蛍／まひ子になつたか	⑩	150		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
豚の大ぐひ	豚の大ぐひ大きなお腹、／ウキー ウキー	⑩	151		幼年の科学 八年七月号
静岡県掛川高女校歌	桔梗ヶ丘の空高く／輝やき昇る旭の 御旗	⑩	152	目次の標題は「静岡県掛川高女校歌(改作)」。「(P. 88)原案」と注記	
◆ 創作ノート⑪(昭和4年～5年)					
よい子の花、わるい子の花	よい子の花は／夜の間の露が	⑪	1	目次の標題は「よい子の花」	
母さまとお月様	母さま 私も見たいのよ／ゆふべ 私もお月様に	⑪	2		
御茶碗御箸	御飯です 御飯です／皆そろつて 御飯です	⑪	3	目次の標題は「御茶碗お箸」	「学校へ上ルマデ」
もうもの子牛	「もう乳やめよか、のむまいか」／ もうもの子牛の思ふこと	⑪	4	目次の標題は「もうものお牛」	コドモアサヒ
子蟹	宿の洗面所に／誰がおいたか 小茶 碗一つ	⑪	5		
雨のパッチン沓	雨 雨 はよ止め／雨早く 止んで くれ	⑪	6	目次の標題は「雨のパッチン沓」	
御ひるはん時	お倉の横の柿の木 蟬はなかなく なりました	⑪	8	目次の標題は「おひるはん時」	
とんぼの群	とんぼ とんぼ、とんぼ、／皆おん なじの	⑪	9		
富士山の志み	風よ、吹いてつて富士山の／お顔の しみを吹いておあげ	⑪	10	目次の標題は「富士山のしみ」	中外 昭和六年十一月十五日
今日から一年生	今日からほんとに学校だ／かばんを かけて沓はいて	⑪	11		日本童謡 昭和五年三月
めいぢのミルクキャラメル	ポチ ポチ、ワンワン／ 知ら[ん だろ][ないね]	⑪	12	目次の標題は「めいぢ・ミルクキャラメル」	
鹿児島女師／第二高女 校歌	朝風清き城(しろ)山の／楠の老木の 深緑	⑪	18	目次の標題は「鹿児島女師／第二高女校歌 No.54」	
鹿児島女師附小校歌	輝き昇る旭に匂ふ／桜の花のうるは しさ、	⑪	20	目次の標題は「同附小、校歌 No.55」。「(P. 34に改作)」と注記	
帝国製麻株式会社／鹿 沼製品工場の工場歌	朝揚げば男体の／秀峰、永劫に語ら ねど	⑪	22	目次の標題は「帝国製麻、鹿島工場々々歌 No.56」	
和歌山県立／紀北農業 学校々歌	朝に渡る紀の清流 滔々、不断の楽 しき旅路	⑪	24	目次の標題は「和歌山県紀北農林、校歌 No. 57」	
満洲／安東中学校々歌	晨に仰ぐや鎮江山／空をどよもし雄 叫ぶや	⑪	26	目次の標題は「満洲安東中学校々歌 No.58」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
福井県／鯖江 女師／高女 校歌	朝に仰ぐ日野山(さん)の／高きを [永劫の][おのが]希望にて	⑪	28	目次の標題は「福井県鯖江 女師／高女 校歌 No.59」	
京都府聯合処女会々歌	野山をこむる八重霞／色香めでたき 花衣	⑪	30	目次の標題は「京都府聯合処女会々歌 No.60」	
広島県沼隈郡／赤坂小学校々歌	朝 霞の城山(ジヤウヤマ)に／姫松 小松栄えつゝ	⑪	32	目次の標題は「広島県沼隈郡赤坂小学校々歌 No.61」	
鹿児島女師／附属小学校々歌	旭かがやく桜島／桜の花の気高さは	⑪	34	目次の標題は「改作」。「(P.20の改作)」と注記	
三重県／私立励精中学校々歌	旭に匂ふ山桜／花に不易の啓示あり	⑪	36	目次の標題は「三重県励精中学校々歌 No.62」	
上海、日本高女校歌	長江千里、豊けき水の／朝、夕の啓 示ぞ深き—	⑪	38	目次の標題は「上海、日本高等女学校々歌 No.63」	
ブーメラン(濠州の飛道具)	ブーメランが とんでゆく、とんで ゆく／大きな毛虫が とぶやうに	⑪	40	目次の標題は「ブーメラン」	
クツクー	日暮 遠山 黒い山、／何だかない てる谷の奥	⑪	42		面白い理化
兄弟船	あれ 小さなお舟が つゞいてる／ あれ よく似た帆かけ舟	⑪	44		
春の野のかけつくら	フラフラフラと／とんでゆく。	⑪	45		
春の野のかけつくら	フラフラと、／フラフラと、	⑪	45	「(7.8.3改作)」と注記。前項「春の野のかけつくら」と同じページの欄外(上部)に記載	
山形県立／酒田中学校／鳥海寮々歌	朝日夕日に雄々しく聳え／鳥海、永 劫に何をかさとす	⑪	46	目次の標題は「山形県酒田中学、鳥海寮々歌 No.64」	
詩人たるべく—	君よ、我よ、世の大人よ—幼児と共 にあるの／心を有たんかな	⑪	48	目次の標題は「短章」。「(キングの為に)」と注記	
ガラスの金魚鉢	水一ぱいのガラス鉢の中を、金魚が ／泳ぐ。	⑪	48	目次の標題は「短章」	キング 昭和五年八月号
青森県／上北郡 七戸小学校々歌	朝日に映ゆる八甲田／八幡嶽を仰ぐ るよ	⑪	50	目次の標題は「青森県七戸小学校々歌 No.65」	
広島県忠海中学校々歌	朝、気高き黒瀧(くろだき)の／峯に 不易の叫びあり。	⑪	52	目次の標題は「広島県立忠海中学校々歌 No.66」	
山の風	夕立 ざアざアいまやんだ／お屋根 の上の電線に	⑪	54		
赤とんぼ	二階のお窓にきてごらん 電信線 に、一文字に／並んでとまつた赤と んぼ	⑪	55		新日本小学唱歌 一年生用、九月発行
犬猿雉子	日本一の桃太郎さん／私もお伴を致 しましよ	⑪	56		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
かけっこ	かけっこ、かけっこ、一、二、三、 ／皆が、さつと、かけ出した。	⑩	58		
子兎踊	ピョンピョンピョコリン／ピョンピ ョンピョコリン	⑩	59	目次の標題は「子兎踊 (ピョンピョコリン)」	「キング」の写真に 合せて(昭和五年九月 号)
お芋堀	畑一面のあをい海／葉つばの葉波 ささら波	⑩	62		少女倶楽部 昭和五 年十月号
愛媛県立今治中学校々 歌	朝夕 仰ぎて 胸内に／高まる理想 は 石錠の	⑩	64	目次の標題は「今治中 学校々歌 No.67」	
神奈川県立(吉田島)農 林学校々歌	朝日かがよふ足柄平野／草木に風の さゝやく声は	⑩	66	目次の標題は「神奈川 県立農林学校々歌 No. 68」	
岐阜県中津高女校歌	恵那山 空にそびゆるは／希望(の ぞみ)の高峯(たかね)の永劫(とは) の象徴(しるし)	⑩	68	目次の標題は「中津高 女校歌 No.69」	
東京府下、羽田第三小 学校々歌	扇ヶ浦の朝風に／「進取」の幸をば しめしつゝ	⑩	70	目次の標題は「羽田小 学校々歌 No.70」	
福岡県立、糸島中学 校々歌	今津の浜に 今も尚残る／城塞みる 時は、若き血のをどる	⑩	72	目次の標題は「糸島中 学校々歌 No.71」	
ロバ ガ ニゲル	ロバ ガ ニゲル／ロバ ガ ニゲ ル	⑩	74		昭和幼年第二集 小 学館
ニンジンタベルウサギ サン	ウサチヤンウサチヤン 白ウサチヤ ン／サツキカラ 何ヲタベテルノ	⑩	75		昭和幼年 第一集 少女クラブ
イヌ ト ネコ	真白イ小犬ガ ワン ワン／黒イ 小犬モ ワン ワン	⑩	76		教育(音楽協会)
オフネ	コイデ ミタイナ コギタイナ／コ ゲバ オフネハ ギツチラコ	⑩	77		(教育音楽)
いろはかるた	雨のふる日は なにしてあそぼ／友 だち集めて かるたであそぼ	⑩	78		(教育音楽)
ケーブルカー	ケーブルカーが 山に登るよ／グン グンお山に登つてゆくよ	⑩	79		(昭和幼年) 幼年の 科学
オイモ	キナカ デ ホツタ オイモデス／ 大キイ オイモ デ ゴザイマス	⑩	80		
ヨロヒヲキタイ	ヨロヒヲキタイ キテミタイ／ムカ シノ ツヨイ 大将ガ	⑩	81	目次の標題は「ヨロ ヒ」	(昭和幼年 第二集)
ワクノボリ	一ダン 二ダン ワクノボリ／三ダ ン 四ダン ワクノボリ	⑩	82	最初の一連を×で消し てあり、「→(昭和幼 年／第二集)」と注記	(昭和幼年 第二集) 中外
ワクノボリ	オテテ、シツカリ、ワクノボリ／ア ンヨ、シツカリ、ワクノボリ	⑩	82	「(6.4.14改作)」と注 記。前項「ワクノボ リ」と同じページの欄 外(上部)に記載	
おみやとおてら	お宮に何がありますか／石のだんだ ん大鳥居	⑩	83	目次の標題は「お宮と お寺」	(昭和少年 第一集) 少女世界
牛と馬	ウノジノツクモノ 牛ト馬／牛ハ ノソソソ ノツソソ	⑩	84		(昭和少年 第二集) 面白い理化 中外
ワタシノハコニハ	ワタシノハコニハ 山ト川／タカイ トコロガ 山デスヨ	⑩	85	目次の標題は「ワタシ ノハコオニハ」	面白い理科 昭和少 年 第一集
アヒルノカズヲ数ヘマ セウ	アヒルガ幾羽モ ウイテキル／コチ ラニキルノト 向フノト	⑩	86	目次の標題は「アヒル ノカズ」	昭和幼年 第二集

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
夕立ヤンデ	夕立ヤンデ スズシイナ／青空ミエテ スズシイナ	㊦	87		昭和少年 第二集
オウチニアカリガツキマシタ	オウチ ニ アカリガ ツキマシタ ／ノミチ ハ マダマダ アカルイニ、	㊦	88		昭和少年 第二集
カキノタネトニギリメシ	サル[ガ][ノ] モツテル カキノタネ ／カニガ ホシイ ト イヒマシタ	㊦	89		昭和少年 第一集
天津日本居留民国立天津小学校々歌	旭に映ゆる桜花／御国の矜とかざしつゝ	㊦	90	目次の標題は「天津小学校々歌 No.72」	
タンボノアメ、山ノアメ	タンボニ アメガ フツテキル／タンボニ ミノカサ カシテヤレ	㊦	91	目次の標題は「タンボノ雨・山ノ雨」	昭和少年 第三集
泣く白兔	私が悪うございます／わにざめ だまして とんで来た	㊦	92		教育音楽
岐阜県中津小学校々歌	朝日に夕日にそびえつゝ／御空に ほゝゑむ恵那の峯	㊦	93	目次の標題は「中津小学校々歌 No.73」	
ユキドケ	スズガナル スズガナル／ユキノトケル日、 スズガナル	㊦	94	目次の標題は「雪ドケ」	コドモアサヒ 七年三月号
地下鉄道	ドコマデ イツテモ、ハシツテモ、 ／電車ハ 電燈 ツケタママ	㊦	95	欄外上部に「燈」とある	昭和幼
カバチヤン	カバチヤンカバチヤン 出テオイデ ／水ノ中カラ 出テオイデ	㊦	96		昭和幼年 第三集
キリン	キリン ノ クビハ ナガイナガイ ／ナガイ クビヲ ナゼナゼノバス	㊦	97		コドモキング 八年六月号
マリガツキタイ	ワタシハマリガ ツキタイナ／大キイ ゴムマリ、白イ毬	㊦	98		昭和幼年 第二集
ピョントハネタ虫	ドコカラオヘヤニトンデキタ虫ヲ、 ／ピョントハネタ、ピョントハ	㊦	99	目次の標題は「虫ガピョントハネタ」	昭和幼年 第一集
スベリ台	スルスル スベル スベリ台／ハシゴ 上リモ順番ニ	㊦	100		子供の友 昭和幼年第三集
ラヂオ体操	どなたもお早うございます／ラヂオ 体操いたませう	㊦	101	目次の標題は「ラヂオ体操」	昭和少年 第一集
ペリカンノジマン	大キナ嘴 自慢デゴザル／重サウニ ミエテモ 軽々ト	㊦	102	目次の標題は「ペリカン」	昭和少年 第二集
ペンギン	ヨタヨタ、アンヨハ短カイナ／ペン ギン、アンヨハ短カイナ	㊦	103		昭和幼年 第一集
ハチガサスヨ	ハチガサスヨ サスヨ サスヨ／オ シリニケンヲ カクシテル	㊦	104	「昭和六年十月改作」と注記	
サルハヒツカク	サルハヒツカク、キヤツキヤツキヤ ツ／メダマ、クルクル	㊦	105		昭和幼年、一
園長先生	園長先生 ニーコニコ／唱歌も遊戯 も おはなしも	㊦	106		昭和幼年、一
遠足	あゝ、嬉しいな嬉しいな／さア 遠 足に出かけませう	㊦	107	「昭和六年の方へ改作」と注記	
おざうに	早くおざうにたべたいな／おいしい おざうにたべたいな	㊦	108		
白熊さん	白い熊さん／白熊さん	㊦	109		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
やねの上の雀	やねの上の雀／チュンチュンなけよ	⑩	110	目次の標題は「屋根の上の雀」	昭和少年、一
めえめえ親山羊子供山羊	めえめえ親山羊、子供山羊／ならんで立つて ぬれてゐる	⑩	111	掲載紙誌の切抜貼付	昭和少年、二 中外六年十一月一日
発動機船	コト コト コト／朝日ののぼる [朝日][日の出]の海へ	⑩	112		
灰神楽	すこしけむたい みろりばた／とり火 樽火 やけた栗	⑩	113		
島の鳩	小さい島に 木が一ぱい／森のまん中、屋根一つ	⑩	114		
日暮山霧	日暮 山霧 白い霧／谷一ぱいにわいてます	⑩	115		昭和少、二
アンテナ線がゆれてます	アンテナ線が ゆれてます／子供時間の独唱の	⑩	116		昭和少、三
ドロコどろ路	ドロコどろ路 雨上り／半分できた新道を	⑩	117		
馬の背のキューピー／馬方／(土手の馬方)	穂先の折れた枯芒／すれすれ出てる五日月	⑩	118	目次の標題は「馬方の土産」	国民 小学館
藪の垣根の烏瓜	裏の竹藪、藪垣の／枇杷のならない枇杷の木の	⑩	119	目次の標題は「烏瓜」。掲載紙誌の切抜貼付	国民
似たもの	何かが何かに似てますか／お手々を開けば似てゐます	⑩	120		セウガク一年生 昭和八年十二月号 小学館
三日月さん (鎌)	山に一面芒の穂／野にも一面芒の穂	⑩	121		小学館
愛知県安城高女校歌	朝風清く笑む野の花に／高く床しく、きらめく星に	⑩	122	目次の標題は「愛知県安城高女校歌 No.74」	
物売り	今日もう来た豆腐屋さん／豆腐屋さんのおきまりは	⑩	123		
三重県立河芸高女校歌	真砂は清き 鼓ヶ浦に 日毎夜毎を歌ふは誰そ、	⑩	124	目次の標題は「三重県河芸高女校歌 No.75」	
夢のコスモス	広い 明るい庭でした／庭一面にコスモスが、	⑩	126	「大西雅夫君夫人と愛児雅明君の追悼に「子巢母巢」によせて」	
ワンニヤアヒンモウ、コケコケコ 大樽のおはなし	樽がころころ ころんでく／樽は大樽 空の樽	⑩	129	目次の標題は「ワンニヤアヒンモウ、コケコケコ」	少年クラブ 小学館
坊やのことば	坊やの言葉は ばア、ばア、／おばあ様見ると ばア ばア、	⑩	132	目次の標題は「坊やの言葉」	
山畠の草とり	山の畠で 一人で 草とり／とつてもとつても つきない	⑩	133	目次の標題は「山畠の草取」	
茨城県立真壁農学校々歌	日に夜にそゝぎ 旅をゆく／桜川水清くして、	⑩	134	目次の標題は「茨城県立真壁農学校々歌 No.76」	
神奈川県奈珂中学校々歌	広畑ヶ丘空はれて／相模大野の末遠く	⑩	135	目次の標題は「神奈川県奈珂中学校々歌 No.77」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
雪よ降れ降れ(1)	雪よ降れ降れ 降れ降れ雪よ／降つて来い来い 空一ばいに	⑪	136		新日本小学唱歌 第四輯
雪よ降れ降れ(2)	雪よ降れ降れ、降れ降れ雪よ／チラチラ ヒラヒラ 空一ばいに。	⑪	137		
私立中野中学校々歌	武蔵野台の旭かげ／匂ふ桜のほこらしさ	⑪	138	目次の標題は「中野中学校」	
ポコポンカツチン	かつちんかつちん 追羽子小羽子／クルクル上つて クルクル下りて	⑪	140	掲載紙誌の切抜貼付	国民
お正月うれしいね	お正月 うれしいね／母さまも ニコニコと	⑪	142	掲載紙誌の切抜貼付	幼、少、五

◆ 創作ノート⑫(昭和6年)

お芋ころころ	お芋ころころ／大きい親芋	⑫	1		昭和幼年 第三集
ポッポの歌	ポッポのポッ、ポッ、／ぼっぼっぼのぼっぼっぼ	⑫	2	目次の標題は「ポッポのうた」	
つな引	赤帽かぶつて、赤組だ。／此方の先生 赤帽で	⑫	4		国語読本 卷二 一、ウンドウクワイ
お客あそび	お客あそびのお友達／外から来たのは お千代[さん][です]	⑫	5		国語読本 二 オキヤクアソビ
キクノハナ	お庭に いろいろ咲いた菊／みんなきれいでよい匂ひ	⑫	6	掲載紙誌の切抜貼付	国語読本 三 キクノハナ 中外 六、九、二七
犬ノヨクバリ	オサカナ クハヘタ ヨクバリ犬ガ／トホリカカツタ ハシノ上カラ	⑫	7		国語読本 六 犬ノヨクバリ
月ノ出	岡にならんだ松の木の／間が明るくなつてきて	⑫	8		国語読本 八月
栗拾ひ	落栗拾ひに行かないか／昨夜(ゆふべ)の風で 栗山の	⑫	9		国語読本 卷二、九、クリヒロヒ
鼠のちゑ	「このごろ 仲間を 次々に／猫が、とつて 困るから	⑫	10		国語読本 十二
モチノマト	ムカシ ノ ヒト ノ ハナシデス／ユミヲイルノガ大スキデ	⑫	11		国語読本 十四
イヌトネコ(改作)	白犬一匹 ワーン ワン／黒犬一匹 ワーン ワン	⑫	12	目次の標題は「イヌトネコ(その一)」	
イヌトネコ	白い小犬が ほえてゐる／黒い小犬も ほえてゐる	⑫	13	目次の標題は「イヌトネコ(その二)」	
動物園	いつ来て見ても 人だかり／あけつぱなしの象の家	⑫	14	掲載紙誌の切抜貼付、標題は「動物園風景／いつ来て見ても」	新日本小学唱歌
(番外) 岸辺福雄先生 帰朝歓迎子供会の歌	霞の中に富士山が／今日 見え出して、うれしいなうれしいな	⑫	17	目次の標題は「岸辺先生歓迎のうた」	
健康／教育 眠りのうた	西のお山に お日様は／静かに かくれて夜が来て	⑫	18	目次の標題は「眠りのうた」	
野山に出でし／日と風のうた	あまねく かゞやけ／日こそ かゞやけ	⑫	20	目次の標題は「野山に出でよ」	
那智俊宣訃	うぐひすも音をひめてなくか／天の小琴つなくすべなくきれにし	⑫	21	目次には標題の記載はない。短歌1首	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
星の子供よ	今日は三日の三日月／三日月船には 誰が乗る	⑫	22	目次の標題は「三日月 舟星の子供よ」	
引舟[と][の]煙	一そう 二そう 三四そう／五そう 六そう 七八そう	⑫	23	目次の標題は「引舟の 煙」	少女クラブ
渋柿甘柿	渋い柿たべた／誰がたべた	⑫	24		国民
煙の環	パツ パツ、ポツ、ポツ、煙の環、 ／発動機船の煙突が	⑫	25		昭和少年 第四集
健康／教育 健康のう た	山の高きに登るにも／海を遥かに渡 るにも	⑫	26		「こども衛生」
健康／教育 りんごの やうに	りんごのやうに／まるまるこえて	⑫	27	掲載紙誌の切抜貼付	中外 「こども衛 生」
岡山県立玉島高女校歌	朝に夕に仰ぎては／白華の山に 見 はるかす	⑫	28	目次の標題は「玉島高 女校歌 No.78」	
東京高等師範学校桐花 寮の歌	野山の霞 後にして／都大路の花吹 雪	⑫	30	目次の標題は「桐花寮 のうた No.79」	
Pen Pin Pan	Radio, Radio J-0-A-K. /Radio, Radio J-0-B-K.	⑫	32		
野原は広い	野原は広い、どこまで広い／あれあ れ広い。どこまでも。	⑫	33		昭和幼年 第二集
谷の煙	谷から あれあれ煙が上る／谷の鳥 へ けさ早く	⑫	34		
東京市立／第六実業学 校	日夜[こゑなく][休まず][息むな く][わかたず]ひたすらに／ながれ 来にける隅田川	⑫	34	目次の標題は「市立第 六実業校歌 No.80」	
栗拾ひ	落ちてる落ちてる それふむな／き れいな栗だ よい栗だ	⑫	36	目次の標題は「栗ひろ ひ」	家の光
工場小唄(木曾節適用)	今日もナ ナカノリサン／今日も元 気で、 ナンヂヤラホイ	⑫	38	目次の標題は「工場小 唄(木曾節)」	
工場小唄(その二)(上 州小唄に合せて)	朝は早よから工場に通ひ／仕事だい じに働いて	⑫	44	目次の標題は「工場小 唄(上州小唄)」	
朝鮮の子供も	素足に藁靴ひつかけて歩く／女の 人だよ	⑫	48		
工場小唄(伊那節に合 せて)	ア、 今日も急いで行かうよ 工場 ／私、 待つてる待つてる、あの機械	⑫	50	目次の標題は「工場小 唄(伊那節)」	
「落葉」の和歌	朝毎の霜にやかかれて焦されてうめき わなゝ／く桑の残り葉	⑫	54	目次の標題は「和歌十 首」。短歌10首	
千葉県市原中学校々歌	世界に矜る富士の峯の／よき名負ひ たる丘の上に	⑫	57	目次の標題は「市原市 中学校歌 No.81」	
香川県立高松商業校歌	緑に映ゆる紫雲山／松に不易の色も 濃く	⑫	58	目次の標題は「高松商 業校歌 No.82」	
新潟市立高女校歌	日夜の旅路遥けくも／まことの道 の一すぢに	⑫	60	目次の標題は「新潟高 女校歌 (第八十三)」	
朝鮮 大邱高等女学 校々歌	文の林に分け入るや／不断の歩み つゞけまし	⑫	62	目次の標題は「大邱高 女校歌 (第八十四)」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
奈良県立高田高女校歌	朝日に輝き 夕日に映えて/[は れ][すみ]渡りたる大空高き	⑫	64	目次の標題は「奈良県 高田高女校歌 (第八 十五)」。「(P.148に 改作)と注記」	
島根県松江高女校歌	開けそめにし神代のまゝに/旭 豊 けき 我が意宇(オウ)の湖	⑫	66	目次の標題は「松江高 女校歌 (第八十六)」	
浜松市立浜松高女校歌	作左の森にかゞやく朝日/赤石そめ て静けき夕日	⑫	68	目次の標題は「浜松高 女校歌(第八十七)」	
広島県立府中高女校歌	目路いと広く見[わたして][おろし て]/亀ヶ嶽、また城山は	⑫	70	目次の標題は「府中高 女校歌(第八十八)」	
荷車ひいて来たお馬	左へ右へ 一、二、/馬が あち向 こつち向	⑫	72		読売少年新聞
兵隊さんの機関士	兵隊さんが機関士になつてる/上衣 をぬいで	⑫	74		朝日コドモ 六年八 月二十日
高いぞ高いぞハイドウ ドウ	高いぞ高いぞハイドウドウ/お馬に のるのは はじめてのつたんだ	⑫	76		家の光
汽車のよいこゑ	汽車のとまった間でも/唸つて唸つ て廻つてる	⑫	78		朝日
夜中の鈴虫	チロチロリン チロチロリン/たつ た一びき いつまでも	⑫	79		朝日
金魚を助けて	金魚売の/意地悪爺さんにすてられ た	⑫	80		朝日
雪が降る降る	雪が降る降る/積つた上に、雪が降 る降る	⑫	81		
孔雀の尾	一本々々きれいな尾/並んでまあ るく広がる尾	⑫	82		小学館 六年十二月 号
可愛いゝらんちゅう	夜店で買って来た金魚の子/あかい 可愛いゝらんちゅうを	⑫	83	目次の標題は「可愛い らんちゅう」	
ポチの初汽車	初めて汽車にのりました/ポチもお 伴でございます	⑫	84		
父様のお見送り	父様汽車でのお帰りが/お母様御一 緒におばあさまお見送り	⑫	85	目次の標題は「父様の 御かへり」	読売少年新聞
夜中のポチ	夜中にポチが吠え出した/泥棒が来 たんぢやないんだよ	⑫	86		
お父様のお父様	僕のお父様は お父様/お父様のお 父様は おぢい様	⑫	87		昭和幼年 第四集
町と村の寺の鐘	町には町の寺がある/どのお家より 大きくて	⑫	88		朝日コドモ
終電車	がらあき電車が チンゴゴ/前 で忙しい運転手	⑫	89		
大分県竹田中学校々歌	暁早くそのかみの/臥牛城頭、輝き て	⑫	90	目次の標題は「竹田中 学校々歌(第八十九)」	
平壤師範学校々歌	朝臨むや 大同江の/清く豊けく 日夜も息まぬ	⑫	92	目次の標題は「平壤師 範学校 (第九十)」	
曲る長土手	曲る長土手 レール土手/谷間に入 る汽車の土手	⑫	94	目次の標題は「曲る土 手」。掲載紙誌の切抜 貼付	中外
備後尾道	備後尾道ア、朝から、ポツポ、ポツ ポ/長い町中、東から西から、	⑫	95	掲載紙誌の切抜貼付	中外

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
尾道の蝶々	今日は朝から西の風／波のあれてる 瀬戸越えて	⑫	96	目次の標題は「尾道の蝶」	
ポツポ船	朝から晩まで ポツポポツポツポ ポツポ／おんなじ所を ポツポポツ ポポツポポツポ	⑫	97		コドモキング 八年 四月
和歌山県新宮第一小学校々歌	[旭][朝日]に舞へる丹鶴の翅振／闇 にもしるき梅の薫	⑫	98	目次の標題は「No.91 和歌山県新宮第一小学 校々歌」	
森の囀り(森の歌ご ゑ)	高く低くうたひて／森にみつる鳥の 音	⑫	100		
我が春(今日の春)	見わたす限り野山をこめて／霞ぞ かゝる 今日の春。	⑫	101	目次の標題は「我が 春」	
若人五月のうた	青葉若葉に薫る風／山路に野路に萌 ゆる草	⑫	102A	目次の標題は「若人五 月」	
誠之館福山中学校々歌 (第二歌)	日夜の旅路急ぐとも／敢て先をば争 はず	⑫	102C	目次の標題は「誠之館 福山中学校々歌」。 「昭和七年第十四頁に 改作」と注記	
画をかく兄さん	画をかく兄さん お上手ね／字をか く姉さん お上手ね	⑫	104	全体を×で消してある	
蜂がさすよ	蜂がさすよ 蜂がさすよ／蜂はお尻 に かくしてるよ	⑫	105		
遠足	あゝ嬉しいな嬉しいな／暑くも寒く もない日です	⑫	106	「(P.119改作)」と注 記	
競技	大空はれて、吹く風かをり、心もは づみて／手足はをどる	⑫	108		
三笠艦	寄る波静けき海のほとり／白浜の磯 に立てる三笠、	⑫	109		
いざ事あらば	高らかにこそ ラツパの音／静けさ 破りひゞかば	⑫	110		
母校	今 我に遠き我が故郷／今 如何に おはすわが師わが友	⑫	111		
漁村の朝	朝靄は はれわたり／海 ほがら ほがら	⑫	112		
五月晴	五月の風吹けば／枝も葉も伸びて	⑫	113		
秋晴の野山	大空はすみわたり、／うらゝけき日 かけ	⑫	114		
ロバサンロバサン	ロバサンロバサン、ウサギウマ／ダ マツテダマツテ トコトツト	⑫	115		家の光 コドモキン グ 八年五月号
毬がつかたい	私は毬が つきたいよ／大きいゴム 毬 白い毬	⑫	116	目次の標題は「まりが つかたい」	昭和幼年 二集
四季の鈴	チロチロチロリン、チロチロチロリ ン／誰が振る鈴、ならず鈴	⑫	117		
遠足	あゝ うれしいなうれしいな／お日 様 キラキラ よい[日和][天気]	⑫	118	目次の標題は「遠足 (改作)」	少、五
早く絵や字をかきたい な	絵をかく兄さん お上手ね／字をか く姉さん お上手ね	⑫	120	目次の標題は「絵を書 く兄さん・字をかく姉 さん」	昭和幼年 第三集

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
雪達磨の造りっこ	サラリ サラサラ何の音／ひつきり なしに サラサラサラーリ	⑫	122	目次の標題は「雪だる まのつくりっこ」	少女倶楽部 昭和七 年二月号
森に獣	森には、けだもの 棲んでゐる、/ 大きな森には何がある。	⑫	124	目次の標題は「森の 獣」	
雪の中の雪達磨	雪[の][ン]中の雪達磨／ゆふべは寒 くて困つたろ	⑫	125		
串にささった串団子	串にささった串団子／一(ひい)二 (ふう)三(みい)四(よう)、五つ	⑫	126		朝日新聞 「コドモ ノ本」
椎の実が落ちた	椎の実がおちた、／小砂利にこつつ んこ。	⑫	127		
煙突から煙	煙突から出る黒煙／昨日もムクムク 出た煙	⑫	128	全体を斜線で消してあ る	
ミンミン蟬がなくて ゐる	ミンミン蟬がなくてゐる／向の森 で、なくてゐる	⑫	129		昭和幼年 第三集
太鼓はドンドン	太鼓は ドンドン よくなるね、/ ドンドン、ドンドコ、ドコドコドン	⑫	130		昭和幼年 第四集
てんとう虫	ポツンと、障子に 音立てゝ／天と う虫が とんできた	⑫	131		幼六
そ一つとかくれる隠れ ん坊	そ一つと、かくれる隠れん坊／動い ちやいけない隠れん坊	⑫	132		幼五
駱駝の背のたん瘤	駱駝の背中のたん瘤の／お山をこえ る坂路は、	⑫	133	目次の標題は「駱駝の 背中のたん瘤」	
林檎は赤い	赤い、赤い、林檎は赤い、／きらき ら光つて、林檎は赤い	⑫	134		
ケーブルカーが山に上 る	ケーブルカーが、グングン上る、/ 上る、上る、山に上る	⑫	135		幼年の科学
ふくれた風船	ふくれた風船、ゴム風船／皆のお顔 がうつつてる	⑫	136		
南京玉は きれいだな	キラキラギラギラ光る玉／小さい小 さい赤い玉	⑫	137	目次の標題は「南京玉 はきれいだな」	
トンネルは暗い	トンネル、トンネル、暗い穴／汽車 の大きな音ばかり	⑫	138		
朝日が出てる	朝日が出てる、／大きな日の出。	⑫	139		昭和少年 第三集
鈴が鳴る	チロロン、チロロン、鈴が鳴る／皆 の手首につけた鈴	⑫	140	目次の標題は「鈴がな る」	
絵本は面白い	絵本を見ましょ、／皆で見ませう、	⑫	141		
田舎でお芋掘	ここが田舎でございます／広い畠で 御座います	⑫	142		
愛知県立国府高女校歌	朝日夕日に明らけき／三河大野の宝 殿の里	⑫	144	目次の標題は「No.92 愛知県立国府高女校 歌」。「(改作、次頁 ニアリ)」と注記	
(改作)	朝日輝き夕日照る／三河穂の原 古 府の里。(司府の跡)	⑫	147	目次の標題は「右の改 作」	
奈良県立高田高女校歌	朝日に輝き 夕日に映えて／すみ渡 りたる大空高き	⑫	148	「(P. 64の改作)」と注 記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
選手出場の歌	待ちたる日なり、この日なり／待ち かねたる時は来ぬ。	⑫	150		
◆ 創作ノート⑬(昭和7年)					
茨城県立境中学校々歌	雲 はれてゆく筑波峯の／空どよも すや暁の鐘	⑬	0	目次の標題は「茨城県 境中学校歌」2、3頁に 二番と三番の改作	
リスハ木ノ上	リスハ木ノ上 枝ノ上／チヨロリ、 チヨロチヨロ、速イコト	⑬	4		小学館
蟹の横匍ひ	蟹の横ばひ、脚八本／がさがさ、急 いで、行きかけて、	⑬	5	目次の標題は「蟹の横 匍ひ」	
門番失敬	門番 お早う！／毎朝 ニコニコ 早くから	⑬	6		
手の指五本	手の指五本／左も右も	⑬	7		ツバメノウチ 昭 和八年新年号
伸びた竹の子	伸びたよ伸びたよ、竹の子竹の子、 ／昨日頭を出してた竹の子	⑬	8		
ガボガボシユウシユウ	ガボガボシユウシユウ威勢よく／お 屋根の上で 泳いでる	⑬	9		「小学館」
五月だ端午だお節句だ	五月だ 端午だ お節句だ／男の節 句だ、武者人形	⑬	10	目次の標題は「五月だ 端午だ」	
楽しい春	山には桜、野に菜種／どちらを見て も花ざかり	⑬	11		
早起き	どこかで 汽笛がなつてゐる／雨戸 あけると、お日の出だ	⑬	12		
まどみ	小鳥のお家の日暮です／手毬のやう な巣の中に	⑬	13		講談社 キング 四 行詩
船出	進取の風に帆を張りて／誠実の舵 [をあやまたず][ましぐらに]	⑬	13		講談社 キング 四 行詩
広島県立福山誠之館中 学校々歌(第二校歌)	日夜不断の旅行きて／希望の海の近 づけば	⑬	14	目次の標題は「94 広 島県立福山誠之館中学 校歌 第二校歌」	
同上(第一校歌)(広 島県立)	黎明(あけぼの)の鐘の音高く／我が 学び舎の礎成しよ	⑬	16	目次の標題は「95 〃 第一校歌」	
仲直り	ほんとにほんとに嬉しいな／是から 皆で元どほり	⑬	17		
高知市追手筋／土佐高 等女学々歌	御空に高く陽の照[りて][るや]／野 山を、海を、わたる風、	⑬	18	目次の標題は「96 土 佐高女校歌」	
秋近し		⑬	20	標題のみ記載	
若き我等	仰ぎ見よや 富士の高峯／雲に聳え 永劫の容姿—	⑬	22		
豊橋市立商業第二校歌	山の暁早起、朝日子／雲は輝き 燃 えて映えて、	⑬	24	目次の標題は「97 豊 橋市立商業第二校歌」	
鼎倶楽部の歌	仰げ[寿山][大武]の朝日かげ／天地 に光輝 あまねきを—	⑬	26	目次の標題は「98 鼎 倶楽部の歌」	
神戸、楠幼稚園卒業 生、同園会の歌	薫も著き楠の園に楽しく生ひ立ちし ／双葉 年ごと榮えては	⑬	28	目次の標題は「99 楠 幼稚園、同園会の歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
満洲 撫順高女	祖国日本の気高き矜、／朝暎、輝やく永安台の	⑬	30	目次の標題は「100 撫順高女校歌」	
福山市 霞町小学校	仰げ、旭に輝やく御旗／日に進みゆく御国のしるしー	⑬	32	目次の標題は「101 霞小学校々歌」	
広島県立／呉高等女学校々歌	日夜の旅路つゞけては／二河の流の、海に入る。	⑬	34	目次の標題は「102 呉高女校歌」	
三重県立／神戸中学校歌	朝日かゞやき風清らけく／本多の杜の不断の啓示	⑬	36	目次の標題は「103 神戸中学校」	
北海道／帯広中学校歌	雲は、霽れゆく朝日影／紫紺には [ゆる][えて]、大雪の	⑬	38	目次の標題は「104 帯広中学校々歌」	
広島県／深安郡 自彊尋常／高等 小学校々歌	朝日に映ゆる蛇園山／希望も高くさとすらく	⑬	40	目次の標題は「105 自彊小学校々歌」	
遠足	風そよぎ空はれて、日はうらら、／身も軽し、いざや行かん、	⑬	42	目次の標題は「野遊び (遠足)」	中等音楽
富士山の峯	東海、日は出づ、大和島根、／雲表気高く、そゝりたち朝日に	⑬	43		
夏休	暑さも物かは、今こそ真夏／真夏を喜び迎へし我等。	⑬	44	目次の標題は「夏休み」	
(別案)	焼く如、暑きを喜ぶ我等、／真夏を喜び迎へし我等、	⑬	45	前頁「夏休み」の(別案)	
タンポポサイタ	タンポポサイタ、／ノミチニサイタ	⑬	46		
秋の野みち	チンチロロ、チンチロロ、チロロ、チロチロ、チンチロロ、／ドコマデイツテモ、アルイテモ、	⑬	47	目次の標題は「秋の野路」	小学館
水戸市五軒町小学校々歌	流も永劫に一すぢに／豊けくそゝぐ那珂川の	⑬	48	目次の標題は「106 五軒町小学校々歌」	
愛媛県立東宇和高女校歌	宇和の広野をめぐりはすれど／朝霧分けて、只一すぢに	⑬	50	目次の標題は「107 愛媛県立東宇和高女校歌」	
新潟市豊照小学校	御国の姿 さながらに／豊旗雲にあかねさし	⑬	52	目次の標題は「108 新潟市立豊照小学校々歌」	
雪達磨と雪兎	兄さんが、友だちと、／作った大きな雪達磨	⑬	54		セウガク一年生、増刊(ナカヨシ童話集)
緑の芝生で踊りませう	ひらひらひらひらり／蝶々は花壇でとんである	⑬	55		
おつかひ帰り	村の境の土橋まで／急いで帰って、友達と	⑬	56		少年倶楽部の需にて、二篇
ジョンとおつかひ	自転車 ズリリン、おつかひだ／隣の村の叔父さんへ	⑬	57	目次の標題は「ジョンとお使ひ」	少年倶楽部の需にて、二篇
今夜は、十五夜お月さま	今夜は 十五夜 お月さま／月の光は おざしきの	⑬	58	目次の標題は「今夜は十五夜お月様」	日本童謡
花ざかり	皆、出て遊べ 花ざかり／桜や菜種の花ざかり	⑬	60		国語読本巻三
早起き競争	工場の汽笛がなつてゐる／まだまだ外はうすぐらい	⑬	62		国語読本巻三
私の雛子	雛子、ピヨピヨ、親鳥の／胸のあたりに のぞいてる	⑬	63	目次の標題は「私のひよ子」	国語読本巻三

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
弓流し	汐に引かれて流れゆく／弓を敵には 渡すまい	⑬	64		読本巻六
いろいろかはったチョコ コレイト	キューピー、ライオン、象、兎／円 いの、角いの、いろいろに	⑬	66		
大畑小学校々歌	遙けき旅路／日に夜[に][を]つぎて	⑬	68	目次の標題は「(No. 109) 新潟市大畑小学 校々歌」	
藪の中道	藪の中道 涼しいね／何かおいしい 餌があるか	⑬	70		
満員列車	急行列車だ 満員だ／どの腰かけも 腰かけも	⑬	71		コドモノクニ
女うし	大きい黒い牛だけど／おとなしい牛 だよ	⑬	72	目次の標題は「をんな 牛」	キンダーブック
柳の提灯	柳の提灯、涼しいな／ついたりきえ たり、灯はあをい	⑬	73		
雨がしとし	雨がしとし、／窓にしとし、庭にし とし、	⑬	74	目次の標題は「雨がし としと」	
よくよく雨がつゞきま す	よくよく雨がつゞきます／あけても くれても雨ばかり	⑬	75		
ブラジル移住民の歌 (その一)	仰げ 御空の輝きを／光、豊けく あまねきを。	⑬	76		
ブラジル移住民の歌 (その二)	大天地に照りわたる／朝日仰ぎて 今日もまた	⑬	78		
水禽小舎	あひるの仲間は、あひる声／鶴は、 [のんびり][せわしい] 鶴の声、	⑬	80	目次の標題は「水禽小 屋」。「桂花集」とし て末尾に短歌一首あり	日本童謡
ついて来る犬	僕を誰かと間違へて／小さな犬が ついて来る	⑬	82	「桂花集」として末尾 に短歌一首あり	
芝生の鶏	めつたに開かない露路門を／のつそ りはいった鶏さん	⑬	83	「桂花集」として末尾 に短歌一首あり	
餅草つみ	大きな餅草 かごーばい／大よろこ びで帰つたら	⑬	84	目次の標題は「餅草 摘」。「桂花集」とし て末尾に短歌一首あり	小学館
秋の夏帽	窓から街路(まち)筋見下すと、／帽 子に、手が生え、足が生え	⑬	85	「桂花集」として末尾 に短歌一首あり	
地藏様ねむい	どこまでこめた野の霞／雲雀も昼の 御はん時、	⑬	86	目次の標題は「ねむい 地藏様」。「桂花集」と して末尾に短歌一首 あり	小学館 子供国 八 年五月号
見えない風の子	お庭の白萩 花ごとの／露の白玉 銀の玉	⑬	87	「桂花集」として末尾 に短歌一首あり	
かくれん坊した縫針	水とりかへに持上げた／花瓶の下 に、こつそりと	⑬	88	目次の標題は「隠れん 坊した縫針」。末尾に 短歌一首あり	
蛭すいすい	蛭、すいすい川の風／川ばた細みち 草のみち	⑬	89	末尾に短歌一首あり	セウガク二年生 昭 和九年六月号
だしぬけの雨	お庭の敷石、みがき石／きれいな石 に ポツポツと	⑬	90	末尾に短歌一首あり	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
燈台道	畑は芋畑 海の風／畑の中道、両側の	⑬	91	末尾に短歌一首あり	
あうむの息	青い金網、青い窓、／ あけつばなしのあうむのお家、	⑬	92	末尾に短歌一首あり	子供の友
花見しないか燕	お家の巣で寝た つばくらめ／雨戸の開くのを待ちかねて	⑬	93	末尾に短歌一首あり	小学館
耳づくホーホー	ホーホー、ホーホー／こちらの森から、ホーホー	⑬	94	目次の標題は「耳づくホーホー／(鼻と鼻)」	
左様なら子鼠	子鼠左様なら、引越すよ／エスも明日から、居ないから、	⑬	95	目次の標題は「子鼠左様なら」。末尾に短歌一首あり	子供の友 昭和七年十二月号 昭代女子国文
七五三(その一)	今日はめでたい七五三、／上の妹、七つです。	⑬	96		少女倶楽部
日本男児の歌	[光明(ひかり)][光輝(かがやき)]と[力量(ちから)][威勢(いきほひ)]と、大天地に／満して昇るや、朝日かけ。	⑬	98		日本男児 創刊号
七五三(その二)	五つか三つの男の子(お坊ちやま)／三つか、七つの女の子、(お嬢さま)	⑬	100		
七五三(その三)	大きい妹は、はや七つはや七つ、／小さい妹も、はや三つはや三つ	⑬	102		
徳島県小松島高女校歌	小松島湾、朝日に映えて、／きらめく波の あかきは心、	⑬	104	目次の標題は「(110)徳島県小松島高女」	
満洲建国を祝ふ童謡／「満洲晴」	夜明だ 旭だ キラキラだ／満洲晴に はれてゆく	⑬	105	目次の標題は「満洲晴」	
雪の(学校の全校)遠足(雪ふり)	高い空から、つづくよつづくよ／ひらひらちらちら、後から後から	⑬	107	目次の標題は「雪の学校の全校遠足」	二年生のひらがな童話 昭和八年正月号
オシャウガツうれしいね	お正月／うれしいね	⑬	108	目次の標題は「お正月うれしいね」	子供園 昭和八年正月号
やよ小犬	垣根の外に 回り出で／道ゆく人を、はじめて見て、	⑬	109		
うれしいばかりの親鶏子鶏	親鶏子鶏、コッココ、コケコケ、ピーヨピヨ／何故だか今日も うれしいばかり	⑬	110	目次の標題は「嬉しいばかりの親鳥子鳥」	「富士」 昭和八年新年号
大きいおふとん、小さいおふとん	大きい おふとん かけぶとん／長い おふとん しきぶとん	⑬	111		「幼年の科学」創刊号
かげとかげ	お日様 出たよ／雲から 出たよ。	⑬	112		「幼年の科学」創刊号
冬田の案山子の、後半	(二)早よ行つて御らん 俵のお山、／夏 秋 つゞけて 立つてゐた	⑬	113	目次の標題は「冬田の案山子の第二番」	
高あし踊	カツ、カツ、／皆、せいたか、カツ、カツ、	⑬	114	目次の標題は「高脚踊」	
春の譜	春、春。／春は酣。	⑬	117		
瑞穂幼稚園々歌	野山に、海に、大空に／輝やく陽をあび	⑬	119	目次の標題は「(111)瑞穂幼稚園々歌」	
広島県新市小学校々歌	木の葉くぐりて、集ひ来て／やすまず なほも流れ行く	⑬	121	目次の標題は「(112)新市小学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
京都府／宮津青年団々歌	海を貫ぬく長洲は／破邪の剣とかざやきて	⑬	123	目次の標題は「(113) 宮津青年団歌」	
カナリヤのこゑ	かごの中広い／朝日が一ぱい	⑬	125		日本童謡
達磨撞	運動会の達磨撞に／我、人生を観る	⑬	128		九段精華スポーツ
もうぢき三年生	知らぬ間に、一柳の芽が伸び 草が伸び／春のお支度しました。	⑬	130	目次の標題は「もうぢき三年生」	セウガク二年生 三月号
和歌山県／女子師範学校／日方高女	曙の波 夜半の波／あかの浦回到、毛見岬に	⑬	131	目次の標題は「(114) 和歌山県女師校歌」	
朝鮮全羅北道／群山公立中学校々歌	湖南平野の暁の風、／若稲の露、輝く見ずや。	⑬	133	目次の標題は「(115) 郡山中学校々歌」	
朝日が出てる	朝日が出てる、大きな日の出／幾つも浮いてる小さな雲が	⑬	135		昭和少年 第三集

◆ 創作ノート⑭(昭和8年)

お手々ポンポン	お手々 ポンポン、盲鬼／後で ポンポン、それポンポン	⑭	0		「幼年の科学」
東京市／荏原区 小山尋常小学校々歌	朝風清らかに、／夕風澄める	⑭	2	目次の標題は「No.116 小山小学校々歌」	
福寿草	ふくよかに／ふくら[んで][みて]	⑭	4		
大蛇たいぢ	おそろしおそろし 八岐の大蛇／頭が八つ、尾が八つ、	⑭	5	目次の標題は「大蛇退治」	
金の鴉	昔 神武天皇が／悪者征伐なさる時	⑭	6		
生きてる様な鯉のぼり	ゆふべの雨はよくはれて／青葉に、きらら、五月の日、	⑭	8		
鯉よ来い来い	鯉よ 来い来い、浮いて来い／パチパチ、パチパチ	⑭	9		
広島県／福山市 深津小学校々歌	朝日輝く大山に、／仰げば蔵王の峯高く	⑭	10	目次の標題は「117 深津小学校々歌」	
ラツセル機関車	あけても くれても 大雪吹雪／雪に埋れた レール路 汽車路	⑭	12		昭和八年二月五日／朝日新聞コードモ欄
葉けいとう	葉けいとう、葉けいとう／仲よく並んで、どこへいく	⑭	13		幼年の科学 花の巻
広島師範学校々友会歌	朝風清き臥虎の山／旭に映えて、濃緑の	⑭	14	目次の標題は「118 広島県師範、校友会々歌」	
とうもろこし	トウトウ トウトウ、／とうもろこし、	⑭	16		幼年の科学
学校ダンス	御空は広く、二羽の鳶の／追はれつ追ひつ 遊べり。	⑭	18		女学校一年生 第二学期用
運動場	風そよら吹く広庭に／日かげ豊にさして、うらら	⑭	19		女学校二年生 第二学期用
やよ犬小犬	垣根の外に 自ら出でて、／道ゆく人を初めて見て、	⑭	20		小松氏「女学校音楽教本」
子供は	子供は 生きてる／動いてる	⑭	21		桐の花 二十号

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
迎春譜	胸の野に みつる花の薫／いづ [く][こ]かひびき来る春の角笛を聞 け。	⑭	22	目次の標題は「迎春 譜」	
古戦場	吹く風は さわやかに／空はれて、 のどかなれど、	⑭	23		
田舎の夕暮	淡藍(うすあゐ)に 夕げの煙の／た なびきて、野にあり、	⑭	24	全体を斜線で消してあ る	
岸辺園長還暦祝ひの歌	お目出度う お目出度う／園長先生 お目出度う。	⑭	25	目次の標題は「岸辺園 長還暦祝」	
基隆高女校歌	朝風 清き 旭ヶ丘に／今日も笑ま しく さしそふ日かげ、	⑭	26	目次の標題は「119 基隆高女校歌」	
高知県 女子師範／立高 知第二高女 校歌	朝日に夕日に、希望気高く／映ゆる か筆山、	⑭	28	目次の標題は「120 高知女師・第二高女校 歌」	
東京市立牛込実務女学 校	玉の宮居に程近く／市ヶ谷台上、な つかしき	⑭	30	目次の標題は「121 東京牛込実務女学校々 歌」	
旅七日	嬉しきは いもねぬ夜の汽車にして ／をさな児めけど唱歌してゆく	⑭	32	目次の標題は「旅七日 (和歌)」。短歌19首	
山梨県立都留高女校歌	高く気高く大空に／永却に聳ゆる富 士の嶺の	⑭	36	目次の標題は「122 都留高女校歌」	
莓の迷ひ子	蝶々も蜂も／いつたり 来たり	⑭	38		
仲よし庭木	檜の木、桐の木、楓の木、／庭一ぱ いにひろげても	⑭	39	目次の標題は「木と葉 と仲よし」	
雨後の月	五日も六日も続いた雨が／日暮に晴 れたら ぼつかりと	⑭	40		
森の泉	朝風そよふき木々は目ざめ／豊かに 湧き出る森の泉、	⑭	41		
狐のお嫁さん	あらあら、パラパラ雨の音／日和は よいに、照つてるに	⑭	42	目次の標題は「狐のお よめさん」	幼年の科学(6)
水車くるくる	水車くるくる／朝から晩まで、休ま ず ねむらず	⑭	44		幼年の科学(7)
水でつぼう	鉄砲 々々、水鉄砲／ちゆつちゆ の、ちゆーちゆー、水鉄砲、	⑭	46	目次の標題は「水でつ ぼう」	幼年の科学(7)
へちまブーラリ、へう たんブラリ	ブーラリ、ブラブラ、へちま、へち ま、へちま／ブーラリ、ブラブラ、 へうたん、へうたん、へうたん	⑭	47		幼年の科学
へちまとへうたん	太郎はへちまをうゑました／「へち ま」の立札、立てました、	⑭	48		
案山子さん	もしもし、／兵隊姿の案山子さん	⑭	52		幼年の科学
とんとんとんぼ	とん とん とんぼ 赤とんぼ／あ かい かはいい 赤とんぼ	⑭	54		幼年の科学
かまきりちやうらう	かまきりちやうらう かまぎつちや う／鎌は大鎌 右左	⑭	56		
広島県／三原小学校	朝風清く 水清き／沼田川、永劫に ささやくは、一	⑭	58	目次の標題は「123 三原小学校々歌」	
広島市千田小学校々歌	朝日輝く大空に／鯉城 雄々しく聳 えつゝ	⑭	60	目次の標題は「124 千田小学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
豊橋中学校	東海 旭は照る大和島根／参州の野 (や)は、歓喜にみちて一	⑭	62	目次の標題は「125 豊橋中学校々歌」	
東京市麻布区／東町小 学校	日毎東に昇る陽の／光の中に、ひた すらに	⑭	64	目次の標題は「126 東町小学校々歌」	
きつつき	真昼静かな山の奥／コツ、コツ、コ ココツ、コツツコツ、	⑭	66		朝日
ウツドペカー	森の木、山の木、木の洞(うつろ)／ うつろの中に、巢をくつて	⑭	68		幼年の科学 八年十 一月号
切石船の女の子	引舟つゞくね東京湾、／ならんで引 かれる舟何そう、	⑭	69	目次の標題は「切石舟 の女の子」	
黒かがし赤かがし	あちらの田圃の黒かゞし／黒いおべ べの黒かゞし	⑭	70	目次の標題は「黒かゞ し赤かゞし」	
ねの吉ぢいさん	塵取箱を左手に／右手に長柄の外簞	⑭	72		
わらびのジャンケンポ ン	わらびとわらびとジャンケンポン／ 三日の雨が 今朝やんで	⑭	74		コドモノクニ
あられコンコロコンコ ン	あられ コンコロ コンコン 板 廂、／はねてははねては ポツスン	⑭	75		子供の友
稲刈つた後の案山子	稲刈つた後も、／夜でも立つてる	⑭	76		
風です雪です吹雪です	風です 雪です 吹雪です／はやま つしろに積んで来た	⑭	77	目次の標題は「風で す、雪です」	
三月四月早く来い	春よ来い 早く来い／三月四月 早 く来い	⑭	78		
梯子段	一段一段上る段／上へ上への梯子段	⑭	79		子供の友 昭和十二 年五月号
秋の空がらんどう	秋の空、どこまでも、／がらあきの がらんどう	⑭	80		子供の友
踏切、メ切、大通り	一列 二列、三四列／自然に次々並 んだな	⑭	81	目次の標題は「踏切メ 切大通」	子供の友
子雀と若竹	やぶの かげの／納屋の 軒で	⑭	82		幼倶
ポプラのかげで	ポプラのかげの／風 そよそよ	⑭	84	目次の標題は「ポプラ の葉かげ」	
学校かへり	学校じまひの鐘、かんかん／「先生 左様なら、」「左様なら」	⑭	85		幼倶
朝顔の聴音機	どの窓もまだ開かないに／どこから か 敵の飛行機が	⑭	86		
三日月船ね	広いね、青いね、空は海ね／空の海 こぐ	⑭	87		幼倶
山の泥棒	顔黒、手黒、あんよ黒／体全たい まつくろの	⑭	88		
いつも出る星見える星	いつも出る星 見える星／村の外れ の橋に来て	⑭	90		
早よ お起き	はよ お起き／夜があけました。 いゝ天気	⑭	92	目次の標題は「はよお 起き」	(昭、幼)コドモノテ ンチ
やんちや風	空つ風、やんちや風、／をとゝひ、 きのふ、よい風で	⑭	93	目次の標題は「空つ 風」	子供の友

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
芋をほりましょ	お芋畠でお芋ほり／蔓でつながる、 芋、芋、芋、	⑭	94		家の光
あ、いたつた	あ、いたつた、／私の長い影法師が	⑭	95	目次の標題は「あつ、 いたつた」	
日本晴	この頃、毎日 日本晴／この田舎へ も 飛行機が	⑭	96		幼倶
サンタク爺さん来さう な晩	日暮頃から、さらさらさらり／静か に、雪になりました	⑭	97		子供の友
三毛さん	子ねこの三毛さん 母さん似／円い お顔で可愛いゝ眼	⑭	98		朝日新聞
目白おし	文鳥、にはの、目白おし／朝日のさ しこむ鳥かごで	⑭	99		
富士山のジャンプ	静岡すぎて 夜があけた／東京行の 汽車の窓	⑭	100		朝日
若い日に	急ぐ 日暮の野路でも／咲いてる花 なら つんで行こ	⑭	101	目次の標題は「小唄 (若い日に)」	
あんまり早く	窓あけられて／まぶしい朝の日の光	⑭	101		
いろんな人が見てるから	いろんな人が見てるから／返したく もない桃の実を	⑭	102		
炭焼親子	炭焼竈は土の竈／お山の奥の大土竈	⑭	103		「幼年の科学」
金が流れる／明るい夕 焼／きんら雲、きんら 波	金がとんでる、金、金、金、／空一 ぱいにとんでる金	⑭	104	目次の標題は「金が流 れる」	
雀の子と栗	里で育つた雀の子／お山珍らし、今 日も来て、	⑭	105		
秋の雨はれた日	秋の雨／はれた日は	⑭	106		
鐘つきとんぼ	真昼静かな寺の庭／大きな楠(くす) の木のそばの	⑭	108		
つくしんぼ	五六インチのつくしんぼ／いつま で、ひよろりと、	⑭	109	目次の標題は「五六イ ンチの土筆坊」	コドモノテンチ
魚釣三ちゃん	魚釣三ちゃん 釣が好き／釣竿三本 びく一つ	⑭	110		
おねだ[れ][り]	ねえ、お父様、おねがひね／ね、 ね、いいでしょ、そのおひげ、	⑭	112		
月は出てゐるんだよ	月は出てゐるんだよ、月は登つて るんだよ／きつと、もうすぐ、	⑭	114		日本童謡第二十一号
物置の鼠	まひる静かな裏庭の、／物置の、	⑭	116	目次の標題は「物置の ねずみ」	
村のたき火	風は西風、雪の風／学校までは村二 つ、	⑭	118		幼年の科学
現人神	御空に輝ける陽の如永劫に、／強 く、高く、尊とく、おはします、	⑭	119		
田家の夕暮	淡藍に、夕げの煙の／たなびきて 静けく、(にほやかに)	⑭	120		女学唱歌
暁の海	海原を、こめし、夜の霧、はれわたり、 ／波路いとも遙か、	⑭	121		女学唱歌

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
冬は来ぬ	遠山の頂早くも真白に、／垣根におく霜の、朝毎しげく	⑭	122		女学唱歌
春は酣	春、春、春／春は酣	⑭	123	「昨秋の「春の譜」改作」と注記	金子教授編／昭代女子国文、卷十の為
広島市教員協会々歌	輝き昇る朝日に笑みて／伸びゆく若松 姫小松、	⑭	126	目次の標題は「127 広島市教育協会々歌」	
広島市竹屋尋常小学校々歌	ほがらに、きよらに、／朝日のさせば、	⑭	128	目次の標題は「128 広島市竹屋小学校々歌」	
広島県立吉田高女校歌	緑も深き姫小松／清き操の郡山、	⑭	130	目次の標題は「129 広島県吉田高女校歌」	
お餅焼き	餅やき網は 黒い網／のせたお餅は白い餅、	⑭	132	目次の標題は「お餅焼き」	幼年の科学 昭和九年新年号
猫のひとつみ	お倉の隅の 闇の中で／ギラリ、またギラリ、	⑭	134		幼年の科学 昭和九年新年号
物干の白いゆげ	物干竿は長い竿、はしからはしまでほしてある／ 大人のシャツ、シヤ	⑭	136	目次の標題は「物干竿」	「幼年童謡」
氷の鏡	朝日のおそい縁側の／手水鉢、	⑭	138	目次の標題は「氷の丸鏡」	
甘楽民謡(補)	甘楽よいとこ、朝日も早く／桑の葉の海、きらきらと、	⑭	140	目次の標題は「甘楽民謡」	
お風呂の三日月	おとなりの／屋根棟で	⑭	142		
お風呂場のガラス窓	寒い日暮のお風呂です。／湯槽のふちを 越すほども	⑭	144		
オヒナマツリノオキヤクサマ	モモノハナ／エボンボリ	⑭	146		小学館
市立／一中 至大荘の歌	暁(あかつき) 早く みちわたる／ 天地の光輝 仰かずや。	⑭	148	目次の標題は「130 至大荘の歌」。「(P.158に改作)」と注記	
群馬県／北甘楽郡 甘楽郷土歌	緑色濃く 旭日に映ゆる／桑葉の海に、風わたり	⑭	150	目次の標題は「131 甘楽郷土歌」	
歓喜	野に山に、小鳥なく日、／霞の奥に、きそひ咲きて	⑭	152		文部省 高三
希望	見よや、野路の草に見よや、／枯れはてたりとみえながら、	⑭	154		文部省 高一
奉祝／童謡 継宮さま	日の出だ日の出だ 日の光／日本国中、日の出時、	⑭	156	「昭和九年三月十七日音楽学校より中継放送」と注記	
至大荘のうた	(夏) あかつき早く みちわたる／ 天地の光輝 仰かずや	⑭	158		

◆ 創作ノート⑮(昭和9年)

神戸市／楠幼稚園々歌	春はさくらの咲くお庭／秋はもみぢの散るお庭	⑮	0	目次の標題は「No.132 神戸、楠幼稚園々歌」	
興国の民	起てよ若人、我等が友、／聞け、暁の鐘の音を、	⑮	2		文部省唱歌 高小、二
代々木の宮	朝日の如く、／正しく強く 一すぢ直く開け進む	⑮	4	「(二十八頁ニ改作)」と注記	文部省唱歌 高小、二

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
舟に乗りて	舟にのりて、川を下る／ゆるき流、	⑮	6		文部省唱歌 高一
登山	真夏なれども 真冬の装(よそほひ) ／暁寒き 小屋を出でて	⑮	8	目次の標題は「峡谷を よぢて(登山の朝)」	文部省唱歌 高一
皇太子殿下御誕生奉祝 歌(一)	黄金の玉と昇る旭に／玉の宮居の ことさらに	⑮	10		
同じく奉祝歌(その二)	昇る朝日に、天地の／明けわたる 時、尊とくも	⑮	12		
同じく奉祝歌(その三)	千代田の宮の松ヶ枝[の][も][は]／ 此の日 ことさら 色はえて	⑮	14		
同奉祝歌(その四)	大和島根は 光にみちて／明けゆく 朝、旭と共に	⑮	16		
仲よし煙突	煙突、々々、高いね高いね、／雲ま でとゞくね	⑮	18		
お月さん寒からう	お月さん高い空、寒いでせう／さつ き着てみた やわらかさうな	⑮	19		
風よ、下りて来い	困つたなア！／あんなにうまく上つ てた	⑮	20		時事新報 日曜附録 のゑにそへて昭和九 年一月二十七日夕刊
てん手まり	まつかな大きなお花の絵／きれい にかいたゴムの毬	⑮	22	目次の標題は「てんで まり」	
美代ちゃん	お歳は九つ、名は美代ちやん／私の 仲よし、笑顔よし	⑮	23	目次には標題の記載は ない	
花まつり	花は まさかり、春四月／八日 め でたや 有りがたや、	⑮	24		「我が家」(昭和9 年)4月号
第一東京夜間中学校々 歌	御空に深くきらめくは／希望、不滅 の星のかけ	⑮	26	目次の標題は「No.133 第一東京夜間中学校々 歌」	
明治神宮	朝日の如く、正しく、強く／直く、 開け進む	⑮	28	「(P.4の改作)」と注 記。目次には標題の記 載はない	文部省唱歌 高小第 二学年
きこりのはなし	昔の美濃のきこりの嘸／毎日 お山 で薪とり	⑮	30		
金ノホシ、銀ノホシ／ 昼間のシヤボン玉、夜 の星／シヤボン玉とオ ホシサマ	子供が／子供が	⑮	32	目次の標題は「昼間の シヤボン玉、夜の星」	コドモノテンチ
蟹の横ばひ	蟹の横ばひ 足八本、／左に四本 右四本、	⑮	33		コドモノテンチ (幼)
朝のおやくそく	父さま、お早うございます／今日も 朝から日本晴	⑮	34	全体を×で消してあ る。「P.38に改作」と 注記	
ねませう	ねませうねませう、私もねませう、 ／小鳥は、小鳥のお家でねんね、	⑮	35	全体を×で消してあ る。「P.42に改作」と 注記	
村の少女子	野にはうるはし 花のむしろ／空に は、雲雀の歌ごゑおもしろ	⑮	36		「家庭」
朝のおやくそく	父さま、お早うございます。／もう お日様も昇つてゝ	⑮	38	「(P.34の改作)」と注 記	キンダーブック (幼)

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
指兄弟 つめけうだい	右のお手手の指五本／左のお手手の指五本	⑮	40	目次の標題は「指爪兄弟」	キンダーブック 幼 俱 昭和十年一月号
ねましよう	お庭のお花も寝てみましょ、／とつ くに、お庭で、寝てみましょ	⑮	42	「(P. 35の改作)」と注 記	
お靴とお下駄	大人のお靴、／子供のお靴	⑮	44		小学館 幼俱
名無し傘	雨がひるまへ止んだらば／日暮の暗 い傘棚に	⑮	46		幼年クラブ
停車場	朝ははよから夜中まで／ひききりな しの汽車電車	⑮	47		京文社 三年
銅像	[日かげあまねき][朝日かがやく] 宮城前に／建武の昔の、関の声か、	⑮	48		京文社 四年
権太／本斗小学校々歌	朝日かゞやく斗校陵／笑みて浮ぶや 海馬島、	⑮	50	目次の標題は「No.134 権太 本斗小学校々 歌」	
東京市本郷区／元町小 学校々歌	旭輝く日の本の／国のはじめの尊と しや……	⑮	52	目次の標題は「No.135 元町小学校々歌」	
桶屋のたがはめ	グルリ廻して、トントントン、／桶 屋のたがはめ、トン、グルリ。	⑮	54		家の光 幼俱
お日様のタオル	お日様、お早うございます。／まだ ねむさうなお顔付	⑮	56	目次の標題は「雲のタ オル」	エホン唱歌
雲のおやつ	湯気 湯気 フーフワ／鉄瓶の口 から フーフワ	⑮	57	目次の標題は「湯気」	小学館
ひよろろ草原	日暮 冬枯 広野原／原にまばらの 枯つ草	⑮	58	目次の標題は「ひよろ ろ草つ原」	少女俱
ニッポン音頭	九千余万の日本人が／皆、自慢の皇 室は(皇室は)	⑮	60		家庭 (12-7.8.)
鬼ごっこ(A)	ジャンケンポンよ／アイコデシヨ、	⑮	64	目次の標題は「鬼ごつ こ(その一)」	幼俱
ブランコ(A)	ブーランコ、／ブーランコ、	⑮	66	目次の標題は「ブラン コ(その一)」	家の光
雛まつり(A)	真赤な もうせん 緋もうせん／雛 壇 きれいに、雛まつり、	⑮	68	目次の標題は「雛まつ り(その一)」	桃源
栃木県／真岡中学校々 歌	朝日 たださす 白布ヶ丘に／健児 我等は 今日もまた、	⑮	70	目次の標題は「No.135 真岡中学校々歌」	
東郷大将(A)	日本海の荒波に／敵の艦隊、撃滅し	⑮	72		
元帥東郷	至誠一貫、これ信、これ義／質実剛 健、みな世の鑑、	⑮	74	目次の標題は「元帥東 郷(その一)」。 「(P. 80ニ改作)」と注 記	
鬼ごっこ(B)	ジャンケンポンよ、アイコでシヨ、 ／鬼がきまつて ばらばらと	⑮	76	目次の標題は「鬼ごつ こ(その二)」。「(昭 和十三年一月五日、再 度改作)」と注記	
ブランコ(B)	ブーランコ、ブーランコ／ 前へ、 後へ ブーランコ	⑮	77	目次の標題は「ブラン コ(その二)」	幼
雛まつり(B)	まつかな もうせん、緋もうせん／ 金の屏風にだいらさま	⑮	78	目次の標題は「雛まつ り(その二)」	文部省 国語読本 巻四

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
元帥東郷(B)	富士の神山 日に輝きて／高く雲間に 聳ゆる如く、	⑮	80		
嗚呼東郷元帥(B)	日本海は 晴れたれど／狂へる波にとびかひて	⑮	82		
たき火	はいて 集めた 落葉のお山／もえるよ もえるよ 日暮方	⑮	84		少女倶楽部
靱の海	国立の公園となる瀬戸うちの、海の／うちなる海は、この海	⑮	85	目次の標題は「靱の海(短歌)」。短歌5首	
鬼ごっこ(C)	じゃんけんぽんよ、／あいこでしよ	⑮	86	目次の標題は「鬼ごっこ(その三)」	文部省 国語読本 巻四
若草	里の小路のほとりにも／いつしか若草 萌えそめて	⑮	88		
月下の古戦場	澄みわたる夜の空に、／月ぞ明る	⑮	90		
東京市(芝区)／御田高等小学校々歌	朝風すみて、清らの庭に、／玉の皇居を、伏し拝み	⑮	92	目次の標題は「No.136 御田高等小学校々歌」	
尾道市／久保 尋常／高等 小学校々歌	朝日に松の色はえて／希望は高し瑠璃の峯。	⑮	94	目次の標題は「No.137 尾道市久保小学校々歌」。「(P.98に改作)」と注記	
千葉県(柏町)／東葛飾中学校々歌	小金ケ原の朝露清く、／湛へて手賀の沼[広][深]し	⑮	96	目次の標題は「No.138 東葛飾中学校々歌」。「(P.102に改作)」と注記	
久保小学校々歌	朝日に松の色はえて／希望は高し、瑠璃の峯。	⑮	98	「No.137 改作」と注記	
広島県／沼隈郡 熊野尋常小学校々歌	清き流の山田川／学びの海[は遠く][の暗くと][遙けく]も	⑮	100	目次の標題は「No.139 熊野小学校々歌」	
千葉県立東葛飾中学校	小金ケ原の朝露清く／湛へて手賀の沼の広き、	⑮	102	「P.96 No.138の改作」と注記	
憲兵隊本部建設(精華学校所見)	学校の前の広つばで、／朝から地響、休みなし	⑮	104	目次の標題は「憲兵隊本部」	
冬来る	里の小川の板橋に／此の頃、朝毎、	⑮	106		文部省 高小唱歌 第一学年用
鯉のぼり	五月の空は 晴れわたり／風の薫れば、矢車の	⑮	108		文部省 高小一 唱歌
とつげよ我が娘	今日こそ吉日。／とつぎて行けよ、いとし我が娘、	⑮	110		
妻を迎へて	昼は日ねもす／夜は夜もすがら	⑮	112		大日本婦人会 「家庭」 十月号
東安小学校々歌	旭に映えて、聳え立つ／権現山の朝ぼらけ、	⑮	114	目次の標題は「140A 東安小学校々歌」	
霰三題	廂を叩く音高く／生命ある如、あらそひて	⑮	116		文部省唱歌 高小、二
山茶花三題	朝寒の 生垣に、／はやも来て、	⑮	118	目次の標題は「山茶花」	文部省唱歌 高小、三
冬の興	朝口を、真冬の庭の生垣に／ふとしもよれば、老梅(ろうばい)の	⑮	120		文部省唱歌 高三 男

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
早春	遠山は、[雪や降れる][時雨なるか][時雨るゝや]／雲のとざしてかくれたり。	⑮	121		
田うゑ(その一)	すげ笠、あみ笠、赤だすき／皆で、朝から 田植唄、	⑮	122		
福山市福山南小学校々歌	御国の姿 さながらに、／昇る朝日に、ほゝゑみて、	⑮	124	目次の標題は「140B 福山市南小学校々歌」	
京城女子公立実業学校	風も清らの南山に／日毎、栄ゆく濃緑の	⑮	126	目次の標題は「141 京城女子公立実業学校」	
森に歌へば	心のまにまに、伸び茂れるに、／洩れ日、明るき森に歌へば、	⑮	128		
虫ぼし	部屋中、家中、縁側までも、軒下までも、／衝立ならべて、綱、かけわたして、	⑮	128		
鎌倉	竹の園生の御身にあれど／冷たくくらき 土牢の中に	⑮	130		
チクオンキ(レコード、クルクル)	ワタシモ イモウトモ、大スキナ／ドウエウノ レコード かけませう	⑮	131	目次の標題は「ちくおんき」	コドモアサヒ
田うゑ(その二)	朝から 田んぼ の にぎはしき／家毎 さう出で、田植だ 田植だ	⑮	132	目次の標題は「田植(その二)」	
校舎新築	新しきペンキの香 心地よく、今日もピアノに興多き秋。／槌の音、日毎よそほひ、美しの家	⑮	133	目次の標題は「校舎新築(短歌)。短歌16首」	
専売局工場歌	陽光(ひかげ)あまねき工場に／今日も楽しく、いそしめば	⑮	134		
湯河原ぶし	(春)登り下りの笑顔に笑顔、／花が物いふ、桜山	⑮	136	目次の標題は「湯河原歌謡」	
ましろい球を(卵にお醤油)(あてもの)	ましろい玉を、／だゑん形の玉を	⑮	142	目次の標題は「ましろい球」	
クリスマス	サララ、サラサラ、降る降る粉雪、／雪も 喜んで、降るクリスマス。	⑮	144		
新ニコピン草(五児近況)年賀状	夜更までおけいこ事に「女中」学に、時に弟／妹の先生忙しく、長女ニコピン	⑮	146	目次の標題は「新ニコピン草」	
四月がくれば三年生	もうさきだした(よ)桃の花／すぐに桜も 花ざかり	⑮	148	目次の標題は「四月が来れば三年生」	小学館「せうがく二年生」 三月号
秋畔荘九景	白ゆきに化粧してあり秋川の川原／の石も君を迎へて	⑮	149	目次の標題は「秋畔荘九景(短歌)」。短歌8首	

◆ 創作ノート⑮(昭和10年)

たんぼぼ、ぼつぼつ花ざかり	野みち 細みち 草のみち／一すぢみちの 両わきに	⑮	2		コドモアサヒ
満洲国皇帝陛下奉迎歌	たんぼぼ、すみれ、れんげ草／桜も野山に 花ざかり	⑮	4	目次の標題は「満洲国皇帝奉迎歌」。「太平レコードの為」と注記	
お手玉(その一)	赤青紫、きいろにみどり、／みんな、きれいな 五色のお手玉。	⑮	8		コドモアサヒ

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
お手玉あそび(その二)	雨の降る日のお手玉あそび、／お人形ねかして、小さなおこゑ。	⑩	10		幼
満洲帝国皇帝陛下奉迎	昇る朝日に輝きて／この歡喜に勇みては	⑩	12	目次の標題は「満洲皇帝陛下奉迎歌(その一)」	
その二	野山に あまねき 春の色／散ることもなく、とことには、	⑩	14	前頁の「その二」	
萁をどり	国の為／たとへ一葉も 粗末にするな	⑩	15	「国の為」「樂しの工場」「萁の名よみこみ」からなる。目次の標題は「萁をどり／歌謡」	
気をつけませう	気をつけませう、気をつけませう、／せんせい お早う、	⑩	25		キンダーブック
十国峠雑詠	初夏の箱根路七里登りゆく二台／のバスに帽子振り合ふ	⑩	26	短歌5首	
魚つり(赤い浮木)(とんかりあたま)	ピクリ、ピクリ、ピクリピクリ／風が ゆるのか、ピクリピクリ	⑩	27	目次の標題は「魚つり」	家の光
親子の魚つり	魚をつるのはお父さん／ざるをかかへて、おとなしく	⑩	28		コドモアサヒ いつもにここに
海水浴で弟は	海水浴で弟は、／こはがるくせに波乗を	⑩	30		家の光 十年八月号
海水浴	夏だ、真昼だ 満潮だ／赤だ 黄色だ 青白だ	⑩	32		主婦の友 十年八月号
日の丸	富士山の 頂上で／今日も 大きな日の丸が	⑩	33		
おいはひ日	今日は めでたい お祝ひ日／ 百万、千万、家毎に	⑩	34		キンダーブック 昭和十一年一月号
日本高等女学校／帝国女子専門学校／静修女学校／校歌	朝日に匂ふ桜花／日本少女の気高さを(と)	⑩	36	目次の標題は「No.142 帝国女子専門校歌(一)」。「P.76に改作」と注記	
広島県／芦品郡 服部小学校々歌	天地の物みな／形を、色を、正しくも	⑩	38	目次の標題は「No.143 服部小学校々歌」	
子供もはたらけ	はたらかう、はたらかう／子供ながらも 元気よく一、	⑩	40		家の光
ヘイタイサン	ラツパニアハセテ、ススメヨススメヨ、ヘイタイサン／ヘイタイサン	⑩	42	目次の標題は「ヘイタイ」。「サイタサイタサクラガサイタ」と注記	
日ノ丸ノハタ	アサヒ、アサカゼ、ヒノミハタ、／ヒノ丸ノハタ、イサマシヤ	⑩	43	「(改作)」と注記	
ココマデオイデ	ココマデオイデ、／ホラホラ アブナイ、	⑩	44		
ハト	ハトハ オ宮ノヤネガスキ、／ヤネニ ナランデ	⑩	45		
ヒバリ	ピークル、チークル／ピークル、チークル	⑩	46	目次の標題は「ヒバリ(ピークル、チークル)」	
ヒカウキ	上る上る、／ひかうき上る。	⑩	48		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
ポチトオツカヒ	ポチポチ、行カウヨ、オ使ニ、ノヲ ヂサンノオウチハ隣村	⑩	49	目次の標題は「ポチト (オツカヒ)」	
電話ごっこ	「若し若し、あなたは雪子さん」ノ 「はい、さうですよ雪子です。」	⑩	50	目次の標題は「電話ゴ ツコ」	幼
シヤボン玉	赤、青、紫、様々のノきれいな色に	⑩	51	目次の標題は「シヤボ ン玉(プープー、クル リクルリ)」	
朝の月	うつすら白い朝の月ノ円い頭の二十 日月	⑩	52		ナカヨシ(十一年六 月)
舌切雀	舌切雀のお宿はどこだノ雀のお宿は やぶの中	⑩	53		
ホタルコイ	ホ、ホ、ホタル コイノカハイイ提 灯、豆提灯	⑩	54		いつもにここにこ
箱庭あそび	土をもりあげ 山にして、ノ山に は、五本、木をうゑて、	⑩	56	目次の標題は「箱庭ア ソビ」	
一カラ十マデノ仲よし	さいた さいたノあさがほ さいた	⑩	57	目次の標題は「一カラ 十マデ」	
兎と亀とのかけくらべ	兎と亀とのかけくらべノ兎が勝つに きまつてる	⑩	58	目次の標題は「兎ト亀 トノカケクラベ」	
桃太郎軍の三勇士	するどいこゑの犬太郎のノ大きな吠 声、一こゑに、	⑩	59	目次の標題は「桃太郎 軍ノ三勇士」	
一バン星	出テキタ、出テキタ、一バン星ノ今 日モ、早イナ、杉ノ木ノ	⑩	60		
月ノ出	アカルクアカルクナリマシタノムカ フノ大きな森ノ上	⑩	61	目次の標題は「オ月サ マ」	
アシタノオ天気	マツテタマツテタ遠足日ノイヨイヨ 明日ニナリマシタ	⑩	62	目次の標題は「アシタ ハ天気」	いつもにここにこ
お馬の御馳走	お馬の御馳走、大きな桶ん中。ノ鼻 の先つつこんで	⑩	63		幼年倶楽部 十三年
お人形の御病氣	病氣で ねてゐる かはいノお人形 さんのノ母さんは 花子さん	⑩	64	目次の標題は「お人形 の病氣」	
カゲエ	ヲヂサン上手ナ カゲエノ犬ガノオ ロヲアケテハ ワンワンワン	⑩	65		
ユキノ日	音モナク雪ガフル、雪ガフツテツム ノオ庭ノ椿ノ葉ガ、ミンナ、	⑩	66	目次の標題は「雪の 日」	
貨物列車	貨物列車ガトホリマスノミンナ同ジ 黒イハコ	⑩	67		
和歌山市立高女校歌	日ねもす夜すがら 只ましぐらにノ 行手[も][や]正しく、紀の大川の	⑩	68	目次の標題は「No.143 和歌山市立高女校 歌」。「改作、P. 98に あり」と注記	
静岡幼稚園々歌	賤機山から、よく見えるノ野山も町 も、海までも	⑩	70	目次の標題は「No.144 静岡市立幼稚園々 歌」。「(P. 94に別 稿)」と注記	
福山盈進商業学校々歌	眼 四[界][海]に放つべくノ偉容儼 たり熊ヶ峰	⑩	72	目次の標題は「No.145 福山盈進商業学校々 歌」	
北海道瀧川高女校歌	峯の月、野路の花、ノうつし来て、	⑩	74	目次の標題は「No.146 北海道瀧川高女校歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
日本女学校／帝国女子 専門／静修女学校／校 歌	ほがらにも 豊けくも、昇る旭の／ 勢見せて栄えゆく、	⑩	76	目次の標題は「No.147 帝国女子専門他二校々 歌々歌」	
横浜市保土谷区／帷子 小学校々歌	朝日朝風清らの園生に／互みに励ま し いそしむや	⑩	78	目次の標題は「No.148 横浜市保土谷区帷子小 学校々歌」	
新潟市浜浦小学校々歌	野に谷に／ひたすらの	⑩	80	目次の標題は「No.149 新潟市浜浦小学校々 歌」	
ニコピンだるまの讃	それ、『ニコピン』は、「ニコニコ ピンピン」にして、「平和／円満、 進取活動」なり。略して、『ニコピ	⑩	82		
鉛の兵隊さん	鉛の兵隊さん ラツタツタ／赤、 青、きれいな軍服が	⑩	84		
九年後のお出まし	面壁九年の少林寺／今こそ出づる よろこびに	⑩	89		
高女四年の障碍物競争	一瞬の静寂！／息づまるスター ト！！	⑩	90	目次の標題は「障碍物 競争」	
盈進商業学校、前校長 銅像除幕式 創立三十 五年祭	ヨロコビカサナルコノヒヨリ／ヒカ リ、ビナンノテンチニミチテ	⑩	91	目次には標題の記載は ない	
降る降る春の雨	降る降る／春の雨が降る	⑩	92		コドモアサヒ 昭和 十一年三月号
静岡市市立幼稚園々歌 (別案)	賤(しづ)機山から見下せは／静岡 広くて賑かだ	⑩	94	目次の標題は「No.144 静岡市市立幼稚園々 歌」。「(原案、P.70 にあり)」と注記	
中央音楽一三階即興	暮れてゆく隣やしきの広庭に今日／ も出て来る人あらざりき	⑩	96	短歌4首	
名古屋市立第三幼稚園	日本晴の大空に／きらきらひかる、 金の鯨	⑩	97	目次の標題は「No.150 名古屋市立第三幼稚 園々歌」	
和歌山市立高女	日ねもす 夜すがら 一すぢに／行 手をかへず 紀の大川の	⑩	98	目次の標題は「No.143 和歌山市立高女」。 「44の改作」と注記	
笠岡高女	海路陸路のたよりよく／眺は広き岡 の上	⑩	104		
御領尋／高 小学校々 歌	稚若、姫松、深みどり、／栄行く御 代のしるしとて、	⑩	106	目次の標題は「御領小 学校」	
東京市立／蔵前工業学 校々歌	日夜 希望の海[原へ][目ざし]／不 断の歩、つゞけ[たる][来し]	⑩	108	目次の標題は「東京市 立蔵前工業学校」	
◆ 創作ノート⑩(昭和11年)					
岡山県立／笠岡高女校 歌	海路 陸路のたよりよく／眺は広き 岡の上	⑩	2	目次の標題は「岡山県 立笠岡高女校歌」	
広島県／深安郡 御領小 学校	稚松 姫松、深みどり／栄ゆく御代 のしるしとて、	⑩	4	目次の標題は「広島県 御領小学校歌」	
花咲爺さん花やさん	花咲爺さん／日本国中、やけあとの	⑩	6	目次の標題は「花咲爺 さん花屋さん」	コドモアサヒ

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
東京市／世田谷区 田原町／第三荏原尋常小学校	朝夕仰ぐ 神山富士の／正しき姿、清らの心。	⑰	8	目次の標題は「東京市第三荏原小学校歌」	
(時事七首)(二・二六事件)	将軍も馬を下りて順逆を一兵に／説き吹雪に立たす	⑰	10	短歌7首	
愛林童謡／木のおかげ	葉と葉と並んで涼しいな／何して遊ば、木の下で。	⑰	12		
波のり	真夏、大波、男波／沖から沖から、よせて来て	⑰	14		コドモアサヒ
ひばり会々歌	歌ふよ、歌ふよ、雲雀が／[空一ぱいに][大空ひろく]こゑひゞかせ	⑰	16		
愛知県立／刈谷中学校々歌	朝日かゞよふ 碧海が丘に／仰ぐ無電の鉄塔よ、	⑰	18	目次の標題は「愛知県刈谷中学校歌」	
東京／市立 蔵前工業学校々歌(改作)	咲くや、不断の幸の花！／打ふるハンマー、轟く庭に。	⑰	20	目次の標題は「東京市立蔵前工業学校々歌」	
番外	たまさかのいたつきもよし琴／きゝて、琴のうたよむほどの	⑰	22	短歌3首	
福岡県早良高女校歌	昇る旭に 笑まふ如／今日も希望に聳えつゝ	⑰	24		
かうもり来い(ひらへらダンス)	かうもり来い／ひらへら、ひらへら、	⑰	26	目次の標題は「かうもり来い」	コドモアサヒ
福山西小学校々歌	朝日に匂ふ 山さくら／御国のほこり、わがほこり	⑰	28		
運動会	手足きたひ、技をねりて／待ちに待ちし 今日ぞ。	⑰	30	「(大阪市住吉区姫松、昭和園)」と注記	
旅愁	御空に浮ぶ白雲さへも／(つくづく見れば)	⑰	31	「(水野氏唱歌集の為に)」と注記	
明治製糖会社々歌	都に鄙に、南に北に、／互みにいそしむ、	⑰	32		
大分県 女師／第二高女 校歌	御国のさかえさながらに 昇る朝日も豊の海に	⑰	34	目次の標題は「160大分県 女師／第二高女 校々歌」	
番外	まだそこにおはしけるかやよきうた／の数ます日々のよろこびの中に	⑰	36	目次には標題の記載はない。短歌8首	
わたり鳥	とんで行く行く何の鳥／おほぜい先になり、後になり、	⑰	38	目次の標題は「わたりどり」	コドモアサヒ 十月号
春が来た	野にも来て、山に来て、／里に来て、	⑰	39		小学国語読本 卷三 対応
なはとび	皆がすきな／縄とびしませう、	⑰	40		小学国語読本 卷三 対応
うさぎ	兎、兎、白兎、／お目々は、どうして、	⑰	41		
とび	とびがなく、春の空、／風も吹かない 空高く。	⑰	42		小学国語読本 卷三 対応
うちの子ねこ	子ねこ、をかしや／子犬を見ても	⑰	43		小学国語読本 卷三 対応 Kinder Book
大きいじまんの大蛙	「母さん、母さん／大きな牛が、お水をのみに、	⑰	44		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
さゝ舟を追ふ蝶々	笹の葉を、／まいて造つた笹の舟、	①7	46	目次の標題は「ささ舟」	
とんぼ	とんぼ、とんぼ／油断をするな、	①7	47		小学国語読本 巻三 対応
一寸法師	一寸法師は、小さな体、／小指位の 小さな体、	①7	48	「(十四年三月末も改作)」と注記	
エンサカホイ	雨のやむのを待ちかねて、／荷をつ み上げた荷車が、	①7	50		
玉手箱(その一)	さア開きませう、玉手箱／龍宮土産 ぢや ありませぬ、	①7	51		放送局依頼
玉手箱(その二)	軽いと思へば 軽い箱、／重いと思 へば 重い箱、	①7	52		
ハゲイトウ	ハゲイトウ、キレイダネエ／アカ ヤ、キイロヤ、	①7	54	目次の標題は「はげい とう」	
赤とんぼ	ユフヒ[ヲアビテ][ニソマツテ]／一 レツニ、	①7	55		幼年知識 十月号
ニコピンかるた	い つも、ニコニコ、いつもピンピ ン／いつも、ニコニコピンピン、よ い子供	①7	56		
凧合戦	風は西風 つよい風／みるみる身軽 に 上る凧。	①7	68		コードモアサヒ 十一 月号
たぬきの腹つゞみ	さあさ、皆で鼓のけいこ／月の明る い お山の上で、	①7	71		
風の子	僕等は風の子、男の子、／吹け吹け 西風、北の風	①7	72		
ひなまつり	今日は 楽しい、雛まつり、／三月 三日よ、お節句よ、	①7	73		
福島県喜多方高女	朝日夕日に聳えて立てる／磐梯、飯 豊(イイデ)の峯仰ぎては	①7	74	目次の標題は「No.161 喜多方高女校歌」	
トケイノウタ	チクタク、チクタク、／トケイノア シオト(トケイハウゴク／ススム)	①7	78		
ツクシ	ツクシ、ツクシ、スギナノコ／ミン ナガ オナジ マルボウズ、	①7	79		
送別の歌	学びの窓に、さす日かげ／早くも [見ゆる][見する][きざす] 春のい	①7	80		
早春	思ひもかけぬ雲雀のこゑ／草にも木 にも	①7	81		尋三
雪合戦	夜の中に 降りつみて、／見わたす かぎり 銀世界。	①7	82		尋四
国旗掲揚の歌	大空高く、輝き昇り／天地照らす朝 日の御はた	①7	84		尋四以上
清水市／岡小学校々歌	朝日さしそふ神山富士の／雪に久遠 の輝見[よ][ず]や	①7	88	目次の標題は「No.162 清水市岡小学校々歌」	
前橋市立高等家政女学 校々歌	旭にほゝゑみ、大空高き／赤城の山 のさとすらく、	①7	90	目次の標題は「No.163 前橋市立高等家政女学 校」	
蛙の船頭さん	笹のお船に、ピヨンと乗つた／蛙の 船頭さん、どこへ行く	①7	92		尋一

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
鈴ふるお馬	シヤンコロ、シヤンコロ、シヤン コ、シヤンコシヤンコ、／お馬の頸 のきれいな紐に、	⑰	93		
えんそく	うれしいうれしい、日本晴だ／今日 は、僕等の遠足日、	⑰	94		(尋一)
楽隊あそび	太郎さんもお出でなさい／花子さん もお出でなさい	⑰	96		
見よ見よ月を	見よ見よ、月を、／円い円い、まん まるい	⑰	97		
鼠の嫁入	ワタシノ ムスメハ ヨイムスメ／ [オ日サマ][クモサン][カゼサ ン][カベサン] アナタハ セカイ	⑰	98		
お正月	門松、いつばい[きれい]に たちま した／どこの家にも 立ちました	⑰	100		
花さかぢいさん	ココホレ、ワンワン／ココホレ、ワ ンワンワン	⑰	101		
夕やけ鳥	夕焼小焼、／とんでかへる鳥	⑰	104		
支度競争	ヂリ、ヂリ 何の音／学校のはじま るベルの音	⑰	106		子供の友
クスダマワリ	シツカリシツカリ、／ソラサズ、ナ ゲロヨ、	⑰	108		Kinder Book
障碍競争	とべ、とべ、高く。／諸手をふつ て、大地をけつて	⑰	109		
お誕生日おめでたう	オメデタウ！／ユア、バース、 ディ！！	⑰	110	目次の標題は「ユア、 バースディ」	
大工さん	もしもし、大工さん、大工さん／ど なたのおうちがたちますか	⑰	112		
ロングスリツパ	スルスルすりつぱ、忙しや／ほん に、すこうし、すこしだけ	⑰	114		
オ出マシ	ヒロイナヒロイナ大東京／ソノマン ナカノ宮城ニ	⑰	115	目次の標題は「お出ま し」	キンダブック 昭和 十二年新年号
新年のごあいさつ	御門と、御門と、ごあいさつ／新年 おめでたう ございます	⑰	116	目次の標題は「新年の ごあいさつ／おめでた う」	
わらひごゑ	あちらでも／こちらでも	⑰	117	目次の標題は「はい おめでたう」	
まだまだお正月	まだまだ、お正月うれしいな、／つ きましよ、羽子を、追羽子を。	⑰	118	目次の標題は「まだお 正月」	
にはか雨(夕立)	私が、学校へ行く時には／空は曇つ てもみなかつた	⑰	119	目次の標題は「にはか 雨」	
砂利みち	お医者で順番まつてると、／お窓の 外を、ジャリジャリと	⑰	120		子供の友
帰りの小雨	学校かえりの小糠雨／少うし ぬれ てるお洋服	⑰	121	目次の標題は「小雨」	
おまる	赤いインキの赤いまる／きれいに咲 いた花のやう	⑰	122	掲載紙誌の切抜貼付	東日小学生新聞
寒さ	急にお寒くなりました／遠くのお山 は知らぬ間に	⑰	123		東日小学生

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
汽車の音(さへきゝますと)	あれあれ聞える汽車の音／汽車の音さへ聞きますと	①7	124	目次の標題は「汽車の音」	
筆箱の中の鉛筆	私の筆箱、蓋とると、／きちんと順番おきまりに、	①7	125		
画ですけれども	まあ かはいゝ／よくよく見てると、ピイピイと	①7	126		(子供の友)
あやまち	[ねえや][いもうと]のこわした植木鉢／はだかで投げ出された花の株	①7	127		(子供の友)
私のポツクリ	私のポツクリ、曇つき／金のししゅうの鼻緒つき	①7	128		
(トケイ)	時計は いつでも／カツチン、カツチン	①7	129	本文に標題の記載はないが、目次の標題は「トケイ」	
早出当番	まだたれも来ぬ学校の／廊下を急ぐ鞆の音、	①7	130	目次の標題は「お当番」	東日小学生新聞
おはかまあり	おぢい様のお墓は田舎村／杉の木木の 岡の上、	①7	131	目次の標題は「お墓まあり」	
茶わんの絵	私の去年の茶碗の絵／白地に赤の自動車ポンプ	①7	132	目次の標題は「お茶碗」	大阪朝日
風の日	お庭の木の葉が／たくさん散つて	①7	133		
四年生になつて	修身の御本を／開いてみたら	①7	134		
お家のお庭	お家のお庭は ひろい庭／お池があります 円い池	①7	135		
露のすべり台 朝の庭	雨は夜の間にやんでみて、／お庭の何(ど)の木のどの葉にも	①7	136	目次の標題は「露のすべり台」	
花火パチパチ	花火パチパチ／花火のほひ	①7	137		いつもにここに
とんぼをにがそ	おへやにはいつて、ガラス戸で／とんぼがひとりで、ばたばたしてた	①7	138	目次の標題は「とんぼをにがさう」	
手のたこまめ	公園に器械体操があつたので／正子ちゃん だつこして させますと、	①7	139		大阪朝日
まめまき	ばんのごはんがすんでから、／大きなおこゑの父さま[の][と]、	①7	140		
せつぶん	今日はせつぶん お豆まき／早くばらばら、豆だまで	①7	141		コドモノクニ 昭和十二年二月号
愛知県成章中学校々歌	朝、渥美の風清く、／樟の嫩葉も映ゆるか、旭。	①7	142		
雨の降る日に	雨の降る日に、／二階で見ると、	①7	144		
朝から雨ふり	今日は、朝から 雨ふりで／庭の木が、みな ぬれてある、	①7	146	目次の標題は「朝から雨降り」	キンダブック
梅の花よく咲いた	梅の花よく咲いた／二階の広い日本間の	①7	147		キンダブック
広島県／沼南実業学校々歌	朝日、希望の白帆にあびて／出で行く 梶湾(シワン)の船に見よ	①7	148	目次の標題は「No.165 広島県沼南実業学校々歌」	
栃木県立／大田原中学校々歌	旭光、あまねき 那須の大野／一路[浜よく][旅ゆく][無言の]那珂の	①7	150	目次の標題は「栃木県大田原中学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
伊勢の竹笛	小さな短かい竹の笛、／お伊勢まみりのおみやです、	⑰	152		
はいはい人形	はいはいしてゐる ふみ子ちゃん／ことし二つの色白さん	⑰	153		
妹と私との誕生日(栗キントン)の日	二月八日は 妹の／お誕生日です、きまりです、	⑰	154	目次の標題は「栗きんとん」	
さびてる鉄	すこうし、さびた私のはさみ、／切りばかしの時、ゑのぐがついて、	⑰	155		
青い教室	皆の右の手青い色／図画のお時間に、つきました。	⑰	156	目次の標題は「青い(色)教室」	
とけいのうた	少しも休まず、ねもせずに／面白さうに、元気よく	⑰	157		
金の鯨	大空高くはねあげた／尾の先までもきんきらら	⑰	158		
今日の春	見渡す限り、野山をこめて、／霞ぞかゝれる、今日の春。	⑰	160		

◆ 創作ノート⑱(昭和12年A)

山の芋畑	山の芋畑 豊年畠／日毎ころころ子芋がふえて	⑱	1		
お月さまお湯上り	お月さま、(お風呂から 今お出ましになりました)／円いほつぺがまつかです、	⑱	2	目次の標題は「お月様のお湯上り」	
山はだまつてる	山は だまつてる／だまりこくつてる	⑱	4		
雀追ひ(ホーイホーイ豊年だ)	ホーイ、ホーイ、豊年だ／ホーイ、ホーイ、雀追ひ	⑱	6	目次の標題は「雀追ひ」	
昔の鶯、今の鶯	鶯は／梅の木で、	⑱	8		
牛とし三人	赤ちやん 二つの牛のとし／はいはい上手、をんぶ好、	⑱	10		
山と海と町と里と／日の出、月の出	山の子供は、かういった／「朝日は、山から出るんだよ、	⑱	12	目次の標題は「山と海と町と里と」	キング
夜ざくら	をとゝひ、きのふ、今日[三日][までも]／よくも つゞいて、花ぐも	⑱	14		コドモアサヒ 四月号
茨城県立／水戸商業学校々歌	雲表高き筑波嶺は／剛くも毅き象徴にて、	⑱	16	目次の標題は「No.168 茨城県立水戸商業校歌」	
撫順東公園小学校	朝風清き誉ヶ丘に、／かゞやく、仰げ、	⑱	18	目次の標題は「No.169 撫順東公園小学校々歌」	
ひかうきごっこ	三だい三だい、また三だい／日本晴の大空を	⑱	20		「保育」 第一号
大雪だるま	兄さんと僕とで、裏庭で／円(まる)めて、固めて、	⑱	21		
[気になる][黒の]尾	ワンワン、／黒いから、黒といふ名、	⑱	22	目次の標題は「気になる尾」	東日小学生新聞

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
雪ふり	雪ふり、雪ふり、／どこまで、いつても、白いね、白いね	⑱	23		
弟の墓	小さな弟の／小さなお墓、	⑱	24		
椿の葉鏡	ほこりで白くなつたから、／お水をかけて洗つたら	⑱	25		
私のお裁縫箱	私のお裁縫箱、／よいお裁縫箱、	⑱	26		
重いつよい弟	重いこと、重いこと、／私の弟、名は健生、	⑱	27	目次の標題は「重くて強い弟」	
ふしぎな霧	ゆふべは、／ふしぎな白い霧、	⑱	28		
刈込の音	パチパチ、パチンパチン／木に登つてる植木やが、	⑱	29	目次の標題は「植木の刈込」	
[たる][子供]みこし	わつしよいわつしよい、わつしよい、しよい／おみこしおみこし、子供のおみこし、	⑱	30	目次の標題は「子供のみこし、樽みこし」	
輝く朝日	輝く朝日に、雲はれて、／[碧空万里][虚空一環]、風もなく	⑱	32	「(亜欧連絡大飛行声援歌)」「(応募せず)」と注記	
お船のおせつく	毎朝わたる、組板橋の下に、／けさ二艘とまつた	⑱	34		
秋の野で(とるのはよさうか)	芒の穂が伸びた。／私より高く、空まで伸びた。	⑱	35	目次の標題は「秋の野で」	
つぼみの桜	咲くな、さくらよ、／つぼみの桜。	⑱	36		
大さうじ	どこのお家も 大さうじ／パタパタ、はたきで、 はたいてる	⑱	37		東日小学生新聞 幼
おばけ大会	おばけ大会 大おばけ、／入口、すぐの大入道。	⑱	38		幼俱
早出当番	誰よりも一番早い、早出当番、／気もちよひ	⑱	40		
にはか雨(夕立)	ざアざア、いやな俄雨、／ごろごろ 恐いごろごろさん	⑱	42		幼年クラブ 十三年九月号
涼しい雨	涼しい雨ふり、お久し振ね、／お庭のすみの花石榴	⑱	43		家の光
朝顔[朝][早]起き	朝顔早起 ねむくない／夜の間に夜露をよく吸つて、	⑱	44	目次の標題は「朝顔早起き」	小学生新聞
折紙のあたま	折紙は、／どちらへ向けても、まつ四角	⑱	45		「おとつれ」
長唄 雪だるま	昼間の風も 入日と共に、／すつかり止んで、日が暮れて、	⑱	46		
小猿の酒買(つゞき)	危ないぞ危ないぞ、えつさつさ／株つが、出てるぞ、えつさつさ	⑱	49	目次の標題は「小猿の酒買(つゞき)原作、大正十五年」	
てるてる坊主(一)	てるてる坊主、ありがたう。／うれしや、けさの此の天気	⑱	50	目次の標題は「てるてる坊主(その一)」	コドモアサヒ 六月号
てるてる坊主(二)	明日こそ、待つて待つてみた／楽しい楽しい遠足日、	⑱	51	目次の標題は「てるてる坊主(その二)」	東日小学生

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
神辺小唄	お城山から、神辺見れば／ならぶ煙突(ホンマニナ)	⑱	52		
ささなみ音頭	山は富士山、湖水は琵琶湖／日本一の湖畔の生れ、	⑱	60		
日本特殊鋼株式会社々歌	日毎、栄ゆく皇国の、／すがたさながら昇る日に、	⑱	64		
「日特」愛国会[の唄][々歌]	国際親善、はた平和／ほゝゑみ、よろこび、さいはひの	⑱	66	目次の標題は「No.171 同 愛国会々歌」	
長唄／雪合戦	降る降る雪が一。／積る積る、雪が一。	⑱	72	「(P.46「雪だるま」姉妹篇)」と注記	
銀世界／大雪	ゆふべ庭木に、さらさらさら一／風もないのに、さらさらさら一。	⑱	74	目次の標題は「長唄「銀世界」」	
近畿和歌行	旅十日、あて行く少女百人の名ゆゑ／カードをえらびて書きね	⑱	76	目次の標題は「和歌、近畿和歌行」。短歌190首	
上海居留民国立／日本商業学校々歌	旭光匂う桜花／はえある校章とかざさずや	⑱	90	目次の標題は「No.172 上海、日本商業学校々歌」	
満洲／吉林高等女学校々歌	朝日に匂ふ山桜／聖き容姿(すがた)	⑱	114	目次の標題は「満洲吉林高女校歌」	
東京市大岡山 尋常 小学校々歌	御国の象徴(しるし)、我が矜り、／旭の御旗、しめすらく一	⑱	116	目次の標題は「東京市大岡山小学校歌」	
奉天、敷島 尋常 小学校々歌	朝日輝やく、敷島の／大和心か、桜花。	⑱	118	目次の標題は「満洲奉天、敷島小学校々歌」	
台湾 嘉義高女校歌	御空の王者と、そゝりたつ／新高山も白雲に	⑱	120	目次の標題は「No.176 台湾、嘉義高女校歌」	
新那須詠草(その一)	真夏と[は][も]知らでや鳴ける鶯に今日／も楽し[き那須の高原][く涼し新那須]	⑱	122	目次の標題は「和歌、新那須詠草(その一)」。短歌10首	
児童オペラ／浦島太郎	序辞／鶴は千年／亀は万年、	⑱	124		
霜やけお手々	私のお手々 霜やけお手々／しもやけ、私、大きらひなのに、	⑱	147		
お猿のお家	お猿さんのお家は、お猿さんばかり／お山のてつべんのお猿さん	⑱	148		子供の友 いつもここにこ
えゝまたあした	「何だか、もう、おそいのね」／「さうよ、もう、おそいわね」	⑱	150		子供の友 いつもここにこ
花瓶の写生	私の写生は、花瓶です。／一輪ざしをかきませう	⑱	151		
電線ゆらゆら	電線ゆらゆら、／大ゆれ、大ゆれ、	⑱	152		
雪ですれ	「雪ですれ」「雪ですよ」／「つむかしら」「つむで[せう][すよ]」	⑱	153		
おゑんまさままり	おゑん様は昔から／嘘をつく子の舌を抜く	⑱	154	目次の標題は「おゑんまさま」	
お彼岸の入(お墓まあり)	お彼岸の入で、朝の中、／皆で、自動車で、墓まあり、	⑱	156	目次の標題は「お彼岸の入の墓まあり」	
湯たんぼちゃん[ちよぼちゃん]	お腹の中に、お湯一ぱい／ねるに、くるくる、くるまつて、	⑱	158	目次の標題は「湯たんぼさん」	キング

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
をしどりさん子雀さん	泉水のほとりのをしどりさん／金網 の中に 箱一ぱい	⑱	159		コドモアサヒ (十二年十一月号)
十六ミリ	今夜も十六ミリ、うつしませう、/ 弟の可愛いゝ歩き振	⑱	160		
おそなへのおもち	ポツタンポツタンつきたての／お供 餅の大きいの	⑱	161		
ジャングルジムの鬼ご っこ	ジャングルジムの鬼ごっこ／わくを 上つて、にげて行け	⑱	162		
霜焼菓	霜焼につける霜焼菓／ていねいにつ けてねましたら、	⑱	164		
ねえや	小さい時から長くいたねえやが／お いとまとなまりました。	⑱	165		子供の友
初雪	初雪がふりました。／大層つままし た。	⑱	166		
あすから学校	明日からは、学校うれしいな。はや く先生にあひたいな	⑱	167	目次の標題は「明日は 学校」	小学生新聞
教室のさくら草	私達の教室の／可愛いゝ鉢の桜草。	⑱	168	目次の標題は「教室の 桜草」	
赤ちやんのお風呂	赤ちやん、大そうお風呂好き、／私 も、前からお風呂好き	⑱	169		キング
前歯のかけた山本さん	私のすきなお友達、／前歯のかけた 山本さん	⑱	170		
卵わり	きれいな卵ばかりね、／おんなじ 大きさのばかりね、	⑱	171	目次の標題は「卵割 り」	「おとづれ」 第四 号 十二年十月号
文鳥ちつちつちつ	文鳥、ちつ、ちつ、／私によく馴れ て、ちつ、ちつ、	⑱	172	目次の標題は「文鳥、 ちつ、ちつ」	キング
羊の手袋	大きなデパート 松屋にないの、/ 伊勢丹、三越、白木にもないの、	⑱	173		
お父様御病気	私は、今日は、さわぎません／昨夜 からお父様、御病気ですもの、	⑱	174		
夏服	今日から、皆が、夏服で／急に夏ら しく、なりました。	⑱	175		
新しい筆	買って貰ったばかりの／親筆子 筆、	⑱	176		

◆ 創作ノート⑱(昭和12年B)

今度のまり	今度のまりは、よくはづむ。ポンポ ンポンポン ポーンポン。／大き すぎなくて、丁度よく、	⑱	1	目次の標題は「今度の 毬」	いつもにこにこ
旦那のおみこし	おみこし見たいに、わつしよいわつ しよい／太つたお父様を、わつしよ いわつしよい	⑱	2	目次の標題は「旦那の 御輿」	
お二階の梅	お二階のお客間、きれいなおへや。 ／明るいお床の間に	⑱	4		
洋服おはつの小使さん	洋服きたね、小使さん、／やつぱり 僕たちと同じに金ボタンだね、五つ だね。	⑱	6	目次の標題は「洋服を 着た小使さん」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
新那須詠草(その二)	日の暮ををしみて鳴きし日ぐらしの 夜／明よろこびなくや新那須	①9	7	短歌37首	
アカシアのかれつば	学校の帰りに／停留場の近くまで	①9	14	目次の標題は「アカシアの枯れつ葉」	
お家の雀	朝見たら／お庭の椿で、チュンチュン ンチュン	①9	15		
私も明後日から	私も明後日から、かけて来ます。／ みんな笑つても平気です。	①9	16	目次の標題は「私もあ さつてから」	
男の子のお祝ひ日	招魂祭でお休み日、端午の節句の二 三日、／朝早く、汽車で父さまと	①9	18		
お庭のかしは	お庭のかしはの大きな葉／地面に、 一めん、ちつてゐる。	①9	20		
鉛筆三本	えんぴつ三本、／みどりに、ぼたん に、うす茶いろ、	①9	22		
あらふしぎ	あらふしぎ／先生にエハガキ出した 日に	①9	23		
今度の絵手本	今度の絵手本、よい絵手本、／すき な絵、きれいな絵ばかり。	①9	24		幼
私はおばあさん	私は明日から おばあさん／目がね を、かけて来ますから、	①9	26		幼
お二階できく音	お二階で、夕方きこえる音は／ペポ ペポ、ポツポツ、又ペツポー、	①9	28		
冬は不思議	冬は 不思議な事ばかり／泉水の水 は、すきとほつてきて、	①9	30	掲載紙誌の切抜貼付	
新那須詠草(その三)	口笛に流行唄を合せ来し熊笹小径／ の御用聞二人	①9	32	短歌31首	
夏はくおくつ	夏はくおくつ、白いくつ／半日はい て歩いたら、	①9	37		
十六ミリとママー人形	をぢさんは、十六ミリを／此の間お 買ひになりました。	①9	38	目次の標題は「ママー 人形」	
まつかな夕日	まつかなまつかなきれいな夕日、／ 電線に並んだ西向とんぼ	①9	39		
ゆふべの大雨	ゆふべ[は][の]大雨、大あらし／お 庭の隅のいちぢくは	①9	40		
おそろひのお湯のみ	今日から、学校はおべんたう、／お はし、おゆのみ、おふきんも	①9	41		
今日から十月	今日から十月 黒い服、／朝は、市 電も省線も、	①9	42		
公園のスケッチ	公園のスケッチ、／お上手ねえ、ど なたでせう。	①9	43		
はじめての蛍	ねえやが、田舎で、とつて来てくれ た／ほんとの蛍でございます。	①9	44		
こぼれさうな燕の子	燕の子供が、大きくなつて、／小さ な巣から、のり出して、	①9	46		いつもにここにこ
姉さんのかへる日	いつもは聞えぬ汽車の音／姉さんが	①9	47	掲載紙誌の切抜貼付	スバル
初蟬	ことしはじめて、蟬の声、／どこで ないてる蟬の声、	①9	48		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
昼間の蜚	かごの中、／蜚がのつそりのつそり こ、	①9	49		
豆の皮むき	豆の皮むき、バクツ、バクツ、／鞘 (さや)の外から、ふくらみを	①9	50		
お日様のしづく	海は、きらきら金の海、／海から上 つたお日様は	①9	51		
コップのサイダー	コップについだら／シユツ、シユ ツ、はねる	①9	52	目次の標題は「コップ についだサイダー」	いつもにここにこ
先生のお家で先生は	先生のお家で先生は／おきものめし ていらつした	①9	53		「おとづれ」
私のお顔とお口	私のお顔は すぐ、画にかける、／ お鼻は角ばつて大きいお鼻	①9	54		
夕立だしぬけ	大夕立だ、だしぬけだ、／ばちば ち、ばちばち、大きな音で	①9	55	目次の標題は「夕立大 粒」	
子猫と雀	二階の出窓の格子の中に／子猫一び き、坐つてる	①9	56		
うちの燕	うちのつばめは海山こえて、／古巢 忘れず、今年も[もどり][かへり]	①9	58		
運動会	朝から今日は日本晴で、／待ちかね てみた運動会、	①9	60		
田植	田ん圃、ひろびろ、田植時、／田植 せわしや、忙しや	①9	62		
金ノ斧	オ池ニ オトシタ マサカリハ／コ レカト トハレテ 正直ニ	①9	64		
浦島さん[浦島][太郎] さん	浦島さん、[浦島][太郎]さん／御恩 返しに、私が、	①9	66	目次の標題は「浦島さ ん浦島さん」。「(十 四年三月、改作)」と 注記	
新那須詠草(その四)	川の瀬と音をきそひては山蟬／のな きしきるなりたえ間あらせず	①9	68	短歌13首	
こほろぎ	獨り静かに、お復習(さらへ)してる ／お窓の下に、今夜も来ては	①9	71		
軍旗	尊とい軍旗、尊とい軍旗、／兵士 は、みんな銃剣つけて	①9	72		
ラヂオ	JO[A][B][C]K、さアさアきかう／子 供の時間でございます	①9	73	目次の標題は「ラヂオ (子供の時間)」	
潜水艦	海の底をもぐつては／敵鑑狙つて発 射する	①9	74		
豊年(稲刈)	今日も朝から上天気／田ん圃一面、 金の波	①9	75		
富士の山	何の山よりも高い山／どちらの方 から、見上げて	①9	78		二年
神風	大きな船で、大海埋め／小さな日本 を一のみと、	①9	80		三年
千早城	兵は何んなに、わづかでも／かまへ は、小さく、せまくとも	①9	82	「(十四年改作)」と注 記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
新那須詠草(その五)	谷わたり、くりかへしなく鶯はその 節いま／だ気にみたぬとや	①9	84	短歌38首	
若葉	野山の花は ちりはてゝ／若葉 あ まねく萌え出でぬ	①9	91		五年
曾我兄弟	をさなく父を失ひて／夢にも父をし たひつゝ	①9	92		尋四
夜があけた	夜があけた、夜があけた／日の光、 日の光、	①9	94		尋五
楽しい小川	さらさら、さらさら、さらさら、小 川は流る／わき目もふらずに、休ま ず流る	①9	96	目次の標題は「小川は 流る」	
金魚	ゆらりゆらりと、つれなつて／すん で、つめたい 水の中	①9	98		
牛若丸	明るさ月にさそはれて／牛若丸が只 ひとり	①9	99	「十四年改作」と注記	
かけっこ	そら、／一せいに かけ出した	①9	101		
土生雑詠	島山にこたま朗らに朝早う今日／も 出船の東し西す	①9	104	短歌9首	
兎舟狸舟	兎の船は兎舟、／狸の舟は狸舟、	①9	106		
岩戸開き	岩屋におかくれ遊ばしたので／世界 が急に、くらやみなので	①9	108		
広島県土生町 尋常／高 等 小学校々歌	朝夕映えて、天狗の山も／絵にさへ まさるほまれも高き	①9	112	目次の標題は「No.177 土生小学校々歌」	
琵琶歌「肉弾飛行自爆 大尉」	東亜の空に輝く日、／蔽ひ勝なる妖 雲を、払はんとして、	①9	114	目次の標題は「肉弾飛 行自爆大尉」	
広島県因ノ島／土生高 等女学校々歌	清らに澄める碧空に／矜も古き青影 山の	①9	120	目次の標題は「No.178 土生高女校歌」	
自爆大尉	東亜の妖雲払はんと／奮ひ起ちたる 皇軍は	①9	122		
土生小唄	春は浜にもかげろふもえて／渚伝ひ の通路の衆と、ソレ	①9	124		
図書祭	遠くの遠くの国のこと、／昔の昔の 古いこと、	①9	134		
家の光、いろは歌留多	一番のりの日[章旗][の御旗]／いつ もニコニコ旭日をあびて、	①9	136	目次の標題は「家の光 支那／事変 いろははか るた」	
あひる軍	集れ集れ、あひる軍／勢ぞろひして 進軍だ	①9	153		コドモアサヒ 十三 年二月号
日本子供のうた	どこからみても、いつみても／気高 く、清く、美しく、	①9	154	目次には標題の記載は ない。「(P.158に改 作)」と注記	
日本の子供	波は、きらきら金の波／海の向かふ に昇る日の		158	目次の標題は「日本子 供の歌」	コドモテキスト 十 三年正月号
かちどき	勝ちぬ勝ちぬ、御軍勝ちぬ／海に、 陸に、はた空に	①9	160		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
京都府女子師範／ 立桃山高女 校歌	桃山の みさゝぎ仰ぐ／学び舎の、 ほまれ[は][を]永久の	①9	162	「(十三年、P. 45に改作す)」と注記。目次の標題は「No.179 京都府立女子師範／桃山高女校歌」	
海	どこまで つづく[海原][大海]ぞ、 ／世界のはての はてまでも	①9	164		尋四
いなばの白兔	兎よ、おまへ、ないてるね／おやおや、 どうし[て][た] 丸はだか	①9	166	「(十四年三月、改作)」と注記	尋二
かちかち山	日和は よくても、はれてても／何だか、 疲れたやうすだね	①9	168	「(十四年三月、改作)」と注記	尋二

◆ 創作ノート⑳(昭和13年)

鬼ごっこ	ジャンケンポンよ、アイコでしょ、 ／鬼が きまるか、きまらぬに、	⑳	1		
羽衣(A)	波も静かな三保の浜／松原つゞき、 見上げれば	⑳	3	「(BはP. 9)」と注記	
大江山(A)	昔、都の京都へと／大江山から出て 来ては	⑳	5	目次の標題は「大江山」	
—(B)—	女や子供を とつてくふ／鬼 [の][は]名前[は][も]、おそろしや	⑳	7	目次の標題は「大江山」	
羽衣(B) (三保の漁士)	富士を見上げる三保の浜、／松の小枝に、 めづらしい	⑳	9	「(A、P. 3にあり)」と注記	
青葉	山の木、野の木、木といふ木には／ 円い葉、長い葉、みな青々と、	⑳	11		
遠足	いつもに まして よく晴れて／今日は、 楽しい遠足日	⑳	12	「(十四年改作ス)」と注記	(小学国語読本 巻五、七による)
少彦名のみこと	出雲の海の波の上、／浮んだ舟は、 豆のさや、	⑳	15	「(十四年改作)」と注記	
汽車汽車速い	汽車、汽車、速い、汽車速い、／満員 列車も、煙を長く後にして	⑳	17	目次の標題は「汽車々々速い」	
田植	二三日続いた[雨降][よい雨]で／池にも 川にも、水一ぱい	⑳	19		
お玉じやくし	お玉じやくしは、[池][水]の中、／ ぞろぞろつゞいた行列で	⑳	21		
水の旅	山の木の葉で休んでた／雨の小さな 一しづく	⑳	23	「(十四年P. 20改作ス)」と注記	小学国語読本 巻五、十五
夏休み	早く来い来い夏休み／毎朝早くおきて 行こ	⑳	25	「(十四年、P. 26 改作)」と注記	
軍用犬金剛那智	満洲事変の最初の夜、／日本軍にした がった、	⑳	27	「昭和十四年、P. 25に改作」と注記	
麦まき	畑一面の黒い土、／深くほりかへし、 麦をまく(麦をまく)。	⑳	29	「(改作、十四年、P. 29)」と注記	
二つの玉	火照の命は、お兄さま／釣竿、釣針、 大切に	⑳	30		
村祭	今日こそ村のおまつりで／空は、朝 から 日本晴	⑳	35		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
雪の夜	入日と共に、風落ちて、／しづかにしづかに、日はくれぬ	㊟	37		
梅の花	人知れず、咲きてあり、／吹く風寒き庭の隅、	㊟	39		
東郷元帥	東京の、半ばをば／焼きつくしたる大震災、	㊟	39		
大東京	天地てら[すと][して]、ひんがしに／日の出づる国、大日本。	㊟	41		
三種神器	東に国あり大日本／世界にほこる三種の神器、	㊟	43	目次の標題は「三種の神器」	
水兵さんの慰問袋	小さな軍艦、駆逐艦、／水兵さんのおへやにも	㊟	44		
京都府女子師範／桃山高等女学校 校歌	日夜の歩み、ひたすらの／希望に勇みて、息むなき	㊟	45	目次の標題は「京都女師／桃山高女校歌」	
無言の勇士／一、軍用犬	世界にほこる大日本の／陸軍部隊に加はつて	㊟	47	目次の標題は「無言の勇士 軍用犬／軍馬／軍用鳩」	愛国唱歌
無言の勇士／二、軍馬	吹雪も、闇も 物とせず／山路も、沼地も、ましくらに	㊟	48	目次の標題は「無言の勇士 軍用犬／軍馬／軍用鳩」	愛国唱歌
無言の勇士／三、軍用鳩	小さな翼に力の限り／砲煙うづまく大空高く	㊟	49	目次の標題は「無言の勇士 軍用犬／軍馬／軍用鳩」	愛国唱歌
号外	出た、出た、号外。／「号外」、 「号外。」	㊟	50		愛国唱歌
もし春風になれたなら	もし春風になれたなら／御国の為に戦場で	㊟	51		「愛国唱歌」第一集
風船玉	風船だま はづむよ／ ポーン、ポンと、はづむよ	㊟	52		
夢の汽車	春のまひるの夢の中／コツトンコツトンコツトンコツトン	㊟	53		
朝鮮雑詠	成歓は日清役に覚えし名、勇／ましかりし松崎大尉	㊟	54	短歌32首	
満洲漫詠(その一)	汽車来れば土手に草はむ子供牛／親をはなれて独りにげて行く	㊟	60	短歌44首	
その二	泥水に泳ぐ子らあり、大人らは物かげ／に逃げゆく真昼日に	㊟	68	目次の標題は「 」（その二）」。短歌15首	
広島県／沼隈郡 金江尋常／高等 小学校々歌	緑いろこき山松も、／容姿も、崇く懐しき	㊟	71	目次の標題は「金江小学校々歌」	
東京市／小石川区 竹早小学校	[朝日まづさす][昇る日の国]日の本の／[さかゆく][はえある][かがやく]都に、向上の	㊟	73	目次の標題は「竹早小学校々歌」	
満洲、興安東省／博克図日本 尋常／高等 小学校々歌	満洲(ます)の天地(あめつち)明らけく、／日[朝]毎 さし出づる日の如く	㊟	75	目次の標題は「博克図小学校々歌」	
京城公立中学校々歌	慶熙ガ丘の朝風に／仰げ、旭日(きよくじつ)、あまねき光	㊟	77	目次の標題は「京城中学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
新那須詠草(一)	鶯は今日も来啼くや梅ならぬ白百合 ／めづや夏の新那須	㊟	79	短歌5首	
ばくげき中止	大満洲の広い空／どこにも浮いてる 雲もなく	㊟	80		
[露][ソ]満国境にて (その一)	曙はやき大黒河／洋々たりや松花江	㊟	83	目次の標題は「ソ満国 境にて」	
満洲国吉林市朝日尋常 小学校々歌	朝毎、東にのぼる日の／輝やかしさ よ、正しさよ、	㊟	85	目次の標題は「吉林朝 日小学校々歌」	
満洲国満洲里小学校々 歌	矜も高く 度ましく／ 翳すは御国 の象徴(シルシ)の桜花(サクラ)	㊟	89	目次の標題は「満洲里 小学校々歌」	
奉天高等小学校々歌	満洲(まんしふ)大野(おほの)、昇る 日に／北陵の松、こみどりはえて、	㊟	91		
琵琶歌「鉄兜の桃」	(序) 大凡人のすむ所、春(し)来 [りな][ら]ば花は咲く。／花し咲き なば、人[は][の]愛づ。されども、 明日の命をば	㊟	93	目次の標題は「鉄兜の 桃」	
満洲撫順新屯小学校々 歌	濃緑はえて、若松の／平地に岡に、 また山に	㊟	101	目次の標題は「撫順新 屯小学校々歌」	
広島県／芦品郡 府中東 尋常／高等 小学校々 歌	日毎笑みては昇りては、／希望を、 力を、よろこびを	㊟	103	目次の標題は「府中東 小学校々歌」	
馬の出征	明日こそ、お前も出征だ。／今朝か ら、一日、お家では	㊟	105		
銀紙集め	ぎんぎら銀紙集めませう。／煙草の 銀紙、すてないで、	㊟	107		
満洲奥の汽車の中	北満州の奥の奥／汽車は一日一回 [よ][ね]。	㊟	109	目次の標題は「北満洲 の国民行進歌」	
新設／青島飛行場	出来[てる][たよ]出来[てる][た よ]、飛行場／土もり、地ならし、 立派にすんだ、	㊟	111	目次の標題は「青島飛 行場」	
飛行場の草むしり奉仕	匪賊だ、馬賊だ、敗残兵だ、／皆 が、勢、盛りかへした[ぞ][よ]	㊟	112	目次の標題は「飛行場 の草むしり」	
満洲国／熱河省 承德 尋常／高等 小学校々 歌	輝き昇りて 天地照らす／朝日ぞ、 祖国日本の象徴、	㊟	113	目次の標題は「承德小 学校々歌」	
哈爾浜桃山 尋常／高等 小学校	日毎あまねく天地に／みちわたる日 の光とも	㊟	115	目次の標題は「哈爾浜 桃山小学校」	
竹のうた／(私立 竹原 幼稚園のうた)	風に サラサラ竹の葉が／うたをう たふよ、よろこんで。	㊟	117	目次の標題は「竹のう た」	
私立竹原幼稚園／全出 席の祝賀歌／(お祝ひ 行列の行進曲)	皆[元気で][丈夫で]、皆ニコニコで ／休みなしだよ、誰一人	㊟	118	目次の標題は「竹原幼 稚園全出席祝賀行列」	
友の戦跡(新戦場弔歌)	風が吹く一只、しゅうしゅうと吹 く。／心ありや、なしや。	㊟	121	目次の標題は「新戦場 弔歌」	
愛国花瓶	きれいなお花を 二三輪／投入して ある此の花瓶。	㊟	123		
蜂も非常時応召	村の[鎮守][お宮]の裏山の／大楠木 の洞にもゐない	㊟	124	目次の標題は「蜂も非 常時」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
汽車は生きてる	汽車は生きてる、生きて走つてる／ 息をはきはき、ドンドン走つてる。	㊟	125		「おとづれ」 第二卷 第四号(十四年四月一 日)
汽車の煙の白い蛇	長い大きい白蛇が、／おぼけが、緑 の松原を	㊟	126		
飛行機と地面	飛行機、々々々、高い空／プロペラ 唸らせ、空ばかり	㊟	127		「おとづれ」 第二卷 第三号(十三年十一月 一日)
固めよ銃後／をみなご なれど(銃後のうた— 女子のうた)	かよわしと、いはるれど、／われら は、をみなごなりけれど、	㊟	128	目次の標題は「をみな ごなれど」	
汽車にも勲章	汽車にも勲章やりませう／よし、戦 争はしなくても	㊟	129		「愛国唱歌」 第三集
固めよ銃後／皆は子供 (銃後子供のうた)	(男兒)僕等は子供、小さい子供／大 人でないから、男だけれど	㊟	131	目次の標題は「皆は子 供」	
固めよ銃後／友は戦場 (銃後男子のうた)	昇る日の国、日の本の／使命新に、 銃とりて、	㊟	133	目次の標題は「友は戦 場」	
二重橋	二重にかかった立派な橋と、／昔の まんまの大きな御門。	㊟	135		
新那須漫詠	裾野五里白く目につく[丸][長]屋根 は去歳／も親しみ見なれたる家	㊟	136	目次の標題は「新那須 詠草(二)」。短歌7首	
軍用列車の通る度	軍用列車の通る度、／日の丸ふつ て、とび出して	㊟	138		「愛国唱歌」 第四集
出征途上	小さな村のまん中に／大きな国旗を おしたてて、	㊟	139		戦友文庫
長期抗戦建設	畑や田圃の作物が／雨でも風でも日 でりでも	㊟	140	「(十四年)民謡に改 作」と注記。目次の標 題は「長期抗戦」	「子供の天下」
笛の名人	恐ろしき／海賊どもが 乗りうつり	㊟	141		
船が出る	船が出る出る、船が出る、／朝日を 浴びて、意気高く、	㊟	143		
どこでも目につく日章 旗	朝鮮どこでも目につくは／立木まば らの丘のかげ、	㊟	144	目次の標題は「異郷の 日章旗」	
川辺の螢	里の小川の夕暮を／岸の小草に光る あり	㊟	145		
青空	風にゆらめく畑のもの／野原に茂れ る草みなが、	㊟	146		
扇的	波やゝ高き屋島潟、／平家方より、 緋袴の	㊟	147	「(昭和十四年八月、 改めて新作P. 73)」と注 記	
菊	寒さに堪へ、／霜にもおごり、	㊟	150		尋四
戦死したパパのお写真 (伴田伍長を悼みて)	たつた一人の坊やの写真／ポケット にして、戦死した	㊟	151		
耳の謎	東に一人／西にも一人	㊟	153		「おとづれ」 いつ もにここに
大きな大牛	大きな大きな大牛が／お水をのみに 来たときゝ	㊟	154	「昭和十四年P. 24に改 作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
高知県／高岡郡 宇佐町 小学校々歌	四方にあまねく明るき日かげ、／御 光あびては、新しく	㊉	155	目次の標題は「No.193 高知県宇佐小学校々 歌」	
神奈川県湯河原 尋／高 小学校	よるづの国を、天地を／てらす日に 映え、香も清く	㊉	157	目次の標題は「No.194 湯河原小学校々歌」	
むかで競争	むかでだむかでだ、大きなむかでだ ／大へんな むかでだ、	㊉	159		
番号合せの二人三脚	東より、東人、幾人／西より、西 人、幾人	㊉	160	目次の標題は「二人三 脚」	
カハイイ勇士	オセナニ ハイノウ、トツゲキダ／ オカタニ テツポウ、トツカンダ	㊉	161		コードモアサヒ
買物競争	今日はせはしい買物日／年一回の出 買ひの日	㊉	162		
日本コードマーチ	東洋一の大国の／支那と戦ひ、大勝 利、	㊉	163	目次の標題は「日本コ ドマーチ(その 一)」。 「(改作 P. 167)」と注記	
ジョアンダークを送る	少女(をとめ)なれども ジョアン ダーク	㊉	166		
日本子供マーチ	明治昭和の大いさ／いつも、必ら ず大勝利、	㊉	167	目次の標題は「日本コ ドマーチ(その二)」	
新京桜木尋常小学校々 歌	日毎 栄ゆく皇国(くわうこく)の／ 新らしき代の御民われ	㊉	169	目次の標題は「No.196 新京桜木小学校々歌」	
岡山県第一岡山高女校 歌	朝日に夕日に、濃緑はゆる／龍の口 山、操山、	㊉	171	目次の標題は「No.196 岡山第一高女校歌」	
岐阜県立／大垣中学 校々歌	美濃平原の朝ぼらけ／旭光、さんと 輝[きて][くや]	㊉	173	目次の標題は「No.197 大垣中学校々歌」。 「(昭和十四年P. 34に 改作)」と注記	
小さな鬼ごっこ	さらさら海から風が吹く、／小波、 浜辺へ、はひ上る、	㊉	175		
神田のおうち	ながいお休み、只ひとり／田舎の一 番仲よしの	㊉	176		

◆ 創作ノート㊉(昭和14年)

満洲国／牡丹江 円明 尋／高 小学校々歌	光あまねく、天(てん)に地(ち)に／ 望を笑まひを力みたす陽の	㊉	1	目次の標題は「円明小 学校々歌」	
満洲国／三江省 佳木斯 日本 尋／高 小学校々 歌	朝日に匂ふ桜花／御国のしるし、わ がほこり、	㊉	2	目次の標題は「佳木斯 小学校々歌」	
鶯さんと雪江ちやん／ なきつくら	お祖母さんのおへやで鶯さん／お母 さんのおへやで雪江ちやん	㊉	4	目次の標題は「鶯さん と雪江ちやん」	
金魚のお家	大きな広い金魚のお家、／金魚の親 子のガラスのおうち	㊉	6		
そら豆	私の好きなそら豆さん／皆、青く て、やらかくて、	㊉	8		
少彦名命	着物は、虫の皮衣、／のつてる舟は 豆の莢、	㊉	9		
東京市／青山南町 御茶 の水家庭寮々歌	天地に、あまねくも／光を、望を、 満たす陽を	㊉	10	目次の標題は「御茶水 家庭寮々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
噫、彌富航空兵中尉	大天地にあまねくも、光を力を／歓喜を、満ち溢らせて、天照らす。	㊴	12	目次の標題は「噫彌富中尉」	
千早城	兵はどんなにわづかでも／構は、どんなにせまくても	㊴	18		
牛若丸(五条橋)	刀が千本ほしいのに／一本足らぬ弁慶が	㊴	19	目次の標題は「牛若丸」	
水の旅	山の木の葉の一しづく／落ちて、つどひて 行く中に	㊴	20	「昭和十三年、P. 23改作」と注記	
麦まき	どちら向いても黒土畠／今に、きれいな青麦畠、	㊴	21	「昭和十三年、P. 29の改作」と注記	
遠足	今日は朝から、日本晴、／待ちかねてみた遠足日、	㊴	22	「昭和十三年、P. 12の改作」と注記	
じまんの大蛙	お腹が大そう大きくて／何より自慢の大蛙、	㊴	24	「昭和十三年、P. 154の改作」と注記	
軍用犬那智金剛	満洲事変の最初の夜／日本軍のまつ先を	㊴	25	「昭和十三年、P. 27改作」と注記	
夏休み	早く来い来い夏休み／ラヂオ体操、草むしり	㊴	26		
いなばの白兔	「兎よ、お前は、泣いてるね、／オヤオヤ、どうした丸裸」	㊴	27		
かちかち山	(狸)「兎君、兎君、／かちかち いふのは何の音」	㊴	28		
一寸法師	一寸法師は、小さな体、／お椀の船で、お箸の櫂で、	㊴	30		
浦島さん浦島さん	浦島さん浦島さん／御恩返しに、竜宮へ、	㊴	32	目次の標題は「浦島さん」	
大垣中学校々歌	美濃平原の朝ぼらけ／旭光あびて、大伊吹、	㊴	34	「(前年末から改作)」と注記	
深川区／千石町 川南尋／常 小学校々歌	朝日に匂ふ山桜／大和心か、わが校章(しるし)	㊴	36	目次の標題は「川南小学校々歌」	
室積(むろづみ)学園の歌	御空にゆるく波うちて／朝日に映ゆる峯つゞき	㊴	38	目次の標題は「室積学園々歌」	
照宮様の三人四却(その一)	聖戦三年、日本が／上下心を合せては、(一にして)	㊴	40	目次の標題は「三人四脚(照宮様御競争)」	
照宮様組(その二)	三人並んで脚六本の／中の四本を二本づゝ	㊴	41		アサヒグラフ 六月七日号
奉天千代田尋常／高等 小学校々歌	朝日に匂ひ気高きは／大和心か桜花	㊴	42	目次の標題は「奉天、千代田小学校々歌」。「(昭和十五年P. 71に改作)」と注記	
満洲国間島省／延吉(エンキチ)尋常／高等 小学校々歌	朝日に高き城子山／つよき光に天地の	㊴	44	目次の標題は「満洲、延吉小学校々歌」	
和歌山県白浜陸軍療養所の歌	浜木綿(はまゆふ)薫る白浜に／朝、明るき陽を浴びて	㊴	46	目次の標題は「和歌山県白浜療養所々歌」。掲載紙誌の切抜貼付	
福井県吉田郡／東藤島村、大和田尋常小学校歌	朝に仰ぐ 白山の／高きは永久の理想(りさう)にて	㊴	48	目次の標題は「福井県大和田小学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
いくさに負けた国のこと	大きな大きな親豚が／弾丸にあたつて死んだ[とは][こと]	㊴	50	目次の標題は「いくさにまけて」	
新民謡 長期建設	野では、田のもの、畠(はたけ)のものが、ヨ／程よい雨に、程よい風に、	㊴	52	「(十三年、69の改作)」と注記	
ウンドウクワイ	ヂメンニ リヨウテラ、 カルクツ [キ][ケ]／オトナノ トホリノ スタートダ、	㊴	54		コドモアサヒ 十四年十月号
銃後の女性	かよわけれども、をみな子なれど／父を、夫を、はらからを	㊴	56		愛国唱歌 第四集
靖国神社	都の真中、[宮城近き][九段の岡に]／[九段の岡の][神々しきは] 靖国神社	㊴	58		朝鮮総督府「初等唱歌」第四学年用
東亜のコドモ行進曲／アジアの子供(原作)	日かげ あまね[く][き]、[天地][大陸]は／広く、はるけし、となりして。	㊴	60	目次の標題は「アジアの子供(一)」。「(36に改作)」と注記	
国技相撲	劔なし、銃なし、兜なし／それでも兵士が、戦場へ	㊴	62		朝鮮総督府 初等唱歌 第四学年
アジアの子供うた	アジアは広い、海広い／広い海から、日がのぼる	㊴	64	目次の標題は「アジアの子供うた(二)」。「(34の改作)」と注記	大日本レコード 興亜童謡
紫雲院百日忌	百日忌それはうつゝか、日毎夜毎、こゑ／も笑まひも目に耳にあるを	㊴	66	目次の標題は「和歌一紫雲院百日忌」。短歌7首	
温泉宿の大玄関	温泉宿の大玄関／ハイヤで、バスで、ブラブラで	㊴	68		
新那須漫詠(一)	よろこぶは那須の五峯か、子供らか／幾日振なる[この朝晴(あしたはれ)を][今日のあさばれ]	㊴	70	目次の標題は「新那須詠草(1)」。短歌11首	
岩戸開き	岩屋の外の賑はひが／如何にも面白さうなので、	㊴	72	目次の標題は「岩手開き」	
扇的	平家方なる船の上／棹の先なる的は何、	㊴	73		
空の勇士	天空無礙に、颯爽と／翔けて、一億同胞の	㊴	74		
秋	一羽(ひとり)空飛び行く鳥は何、／はるけく 行[けるに][きても]尚見ゆる	㊴	76		
雲／天なる魔術師	空の広きに、面白く、／形[も][を]たへず、異(こと)にして、	㊴	77	目次の標題は「雲」	
童謡／今こそ二千六百年	金のとんびが、お弓から／いきほひするどく、とんで行き	㊴	78		
唱歌／輝やく二千六百年	天地と共に きはみなく／栄ゆく御国の礎を	㊴	80		
合唱／皇紀二千六百年	燦たり、／日の如、東海に	㊴	82	「(改作、P.148)」と注記	
[をば様のおうち][お久しぶりね]	お久しぶりね、／をばちやまのお家	㊴	84	目次の標題は「をば様のおうち」	「青い窓」
お父様往診のお伴	お父様往診の自動車は／今日からおはつの流線型	㊴	86		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
民一億の奉讃歌	あだ波も／醜草も	㊴	88		
新那須漫詠(二)	声あげてぢやれつく、犬を逃げ来しは、／宿の浴衣に伊達巻の人	㊴	90	目次の標題は「新那須詠草(2)」。	短歌14首
噫手島少佐	聖戦二年 皇軍の／海陸空の協力に	㊴	92	掲載紙誌の切抜貼付	
大塚講話会(子供会の歌)	子鳩も ホロホロ来てうたへ／兎もピョンピョン来てをどれ	㊴	98	目次の標題は「大塚講話会—子供会—の歌」	
満洲から来た妹	会ひたかつた会ひたかつた妹が、／遠い満洲から来たのです。	㊴	100		
お弁当袋	きれいな おべん当袋です、／赤い大きなお花の模様、	㊴	102		
嵐の翌朝／つつかい棒	お庭の梅の木、もみちの木／高い松の木 強いのに	㊴	102	目次の標題は「嵐の翌朝」	
はだしの水まき	はだしの水まき 涼しいな／バケツに冷たい水一ばい	㊴	104		
雨つゞき	空に向つてどなりたい／今日で雨ふり幾日目(いくにちめ)、	㊴	106		「青い窓」
わらびひげ	女猫です、子猫です。／それでもたまは、口ひげを	㊴	107	目次の標題は「猫のわらびひげ」	(のべちてんま)
はい、[おめでたう][あけまして]	「はい、おめでたうございます」／大きなお口をあけたまゝ	㊴	108	目次の標題は「はい、おめでたう」。掲載紙誌の切抜貼付	「小学生新聞」 十五年一月 十
羽子板かざり	母様、姉さまお二人に、／今年は、私も手伝つて、	㊴	110		
雨もり	ざアざア、雨もり、大さわぎ／廊下だ、納戸だ、お二階だ	㊴	112		
ラジオ体操のはじまる前	静かなこと、／ラジオ体操 はじまるすぐ前、	㊴	114	目次の標題は「ラジオ体操始まる前」	
門松とれて	門松とれて 淋しいな／お正月さんが、かへる時	㊴	115		
毎日あるといゝ誕生日	毎日 あると[いいんだけど][うれしいな]／誰かの めでたい誕生日	㊴	116		
ほんとのたどん	たどん箱のたどん／みんなが黒い	㊴	117		二十三年 シヤボン玉 新年号
とんぼのとむらひ	お庭の五葉の松の下／熊笹のきれいな葉の上に、	㊴	118	目次の標題は「とんぼのおとむらひ」	
植木屋の畠	うゑ木やさんの 畠(はたけ)は広い／はたけに一ばい、きれいに並ん	㊴	119	目次の標題は「植木屋の畠」	
朝がほしぼつて	朝顔の／しぼんだお花を、しぼりませう	㊴	120	目次の標題は「朝顔しぼつて」	(のべちてんま)
縄とびのおもち	一だん、二だん、三だん、四だん／五だん 六だん、皆と、どんどんと	㊴	120		
雲をみる子／夕やけ雲	夕日まともに まぶしくて、／遠くの見える物干台、	㊴	122	目次の標題は「雲を見る子供」	(青い窓)
庭木も霜焼	ことしの初雪まだきえぬ／積つたまんまで、日もてらず	㊴	124		
霜やけ	私にあんよは、しもやけあんよ／毎年きまつて、可愛さうなあんよ	㊴	125	掲載紙誌の切抜貼付	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
赤ちやん	お隣の赤ちやん、大へん可愛いゝ女 のお子さん／いつでも、一人でも、ニツコニコ	㊴	126		
朝のお母様	毎朝、私が学校へ、出かけるまでのお母様／おいしいおいしいおべんたう	㊴	127		
かなりやさん	カナリヤさん お早うさん／きれいな、かごに 朝日がさして、	㊴	128	目次の標題は「カナリヤさん」。掲載紙誌の切抜貼付	
港のとんび	とんび、ヒョーロロ、ゆつくりね、／出船、入船、見下して、	㊴	129		のべちてんま
小さな小さなおひな様	小さな小さなおひな様／皆、そろつて行儀よく	㊴	130		
鳩の波	鳩は、パツパツパツパツ、おやねから／下りては、下りては、肩に来て	㊴	132		(のべちてんま)
鎌倉	去年も行った鎌倉へ、今年も夏中、[行くので][参ります]。／八幡様がありますね	㊴	133		
ポーとサイレン	ポーとサイレン、長いこゑ／一つながりに、なってます	㊴	134		
おひな様へのおそなへ	おひな様へのお供への／あられ、菱もち、お白酒	㊴	135	目次の標題は「おひな様へのお供へ」	
霜やけ指	霜やけ指は、可愛さう／少しふくれて、はれてきて、	㊴	136	掲載紙誌の切抜貼付	
紀元二千六百年奉祝／ 国民歌	天地とともに きはみなく、／昇る旭日(きよくじつ)、さながらの	㊴	138		
新那須小唄 三十八景	来たぞ、黒磯 ゆつくり、下りよバス／も迎へに[下りてるぞ][来てゐるぞ]、	㊴	140	目次の標題は「新那須小唄」	
(P. 82)47の改作[合唱 ／皇紀二千六百年]	燦たり、日の如、東海に／輝く御国、大日本、		148	目次には標題の記載はない	
大きな車輪	大きな大きな、大車輪／小旗のまはりを一まはり	㊴	150	「九段精華運動会、以下三篇」と注記	
小車輪(職員レース)	なんて、かはいゝ小車輪／仲よし小よしの汽車ごっこ	㊴	151	目次の標題は「小車輪」	
敷島行進曲	シ、キ、シ、マの／やまとおとめら、	㊴	152	目次の標題は「シキシマ行進曲」	
バレーボール	円く、軽くふくらんだるボール一つに／ネット隔てゝ、九人と九人が	㊴	153		
舞踊／詩 八つ手の舞扇	A. 中央の祠の賽銭箱の塵に入る／ B. C. 上手、下手より中央斜前に踊り	㊴	154	目次の標題は「舞踊詩、八つ手の一枝」	
子供[同志][仲間]のお約束	いらつしやい、遊びませう、／お国は別でも、違つても、	㊴	164	目次の標題は「子供仲間のお約束」。「昭和十六年十二月二十七日改作あり」と注記	
をりますね	あなたの国にも、をりますね、／雀[は][が]ゐますね、なきますね。	㊴	165		
すてきなお国(A)／ (支那をほめて歌ふ歌)	お国は、すてきな国ですね、／海かと見ま[が][よ]ふ、大河が、	㊴	166	掲載紙誌の切抜貼付	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
おとなり同志／アジアの仲よし	お国とお国[は][と]、陸つゞき、／お船で半日、海つゞき	㉑	167	目次の標題は「おとなり同志」	
すてきなお国(B)／(日本をほめて歌ふ歌)	お国もすてきな国ですね／四方[に][は][が]、広々、すんだ海、	㉑	168		
白衣の兵隊さん	白衣の[白衣の][おちさん]兵隊さん／お体、すつかり、いゝです	㉑	169		
すてきなお国(C)／日満支…オールアジアの子供うた	[みんなりつばな][どちらも、すてきな]国ばかり／朝日が、きらき ら昇るのを	㉑	171		
東京駅	東京駅は日本一／大東京のお玄関	㉑	172		
すきな猫	ぬくぬくだいてねた小猫／朝おきたらば、あなかつた	㉑	173		
春をのせて	ひらりひらり、風もないのに、／身 がるに 気がるに、	㉑	174		

◆ 創作ノート㉒(昭和14年～15年)

門松日の丸千万本	初日をあびて、門松の／葉ごとが、 するどい剣のやう	㉒	1	掲載紙誌の切抜貼付	養護教育 昭和15年1 月号
門松ことしは	門松、ことしは とくべつに／初日 を あびて、[みば][光]つてる。	㉒	2		
大きな正月	いつでも、めでたい お正月／中 でも、今年は、一番の	㉒	3	掲載紙誌の切抜貼付	「小学生新聞」 十 五年一月九日
福岡県／八幡夜間中 学々歌	洞海湾にささやくか／玄界灘に、雄 叫ぶか	㉒	5	目次の標題は「No.207 福岡県八幡夜間中 学々歌」	
群馬県渋川高等女学 校々歌	朝日夕日にそゝりたつ／赤城、榛名 の笑ましくも	㉒	7	目次の標題は「No.208 群馬県渋川高女校歌」	
すべり台のぼり台	すーっと一息 はやいこと、／両手 はなしの すべり台、	㉒	9		コロンビア／幼稚園 ／モハンレコード
兵隊さん、お元気でー	「兵隊さん、お元気でー」／いよいよ 今日こそ 出征ね、	㉒	10		
目立つ日の丸	日本、朝鮮 満洲の／野山も海も大 空も	㉒	11		
お国とお国	海なら、お船で のり出して／渡れ ば、近いお国とお国	㉒	12		
台湾、台南州曾文郡／ 麻豆尋常高等小学校	大野せましと流れ来て、／ひるよ る、そゝぐ曾文溪。	㉒	13	目次の標題は「No.209 台湾一麻豆小学校々 歌」	
天神様まあり	天神様の太鼓橋、／二つ並んで 二 つ橋	㉒	15		
山梨県北都留郡／聯合 女子青年団々歌	朝日夕日に仰ぐも尊と／国の志づめ の富士の嶺。	㉒	17	目次の標題は「No.210 山梨県北都留郡聯合女 子青年団歌」	
満洲／安東高等女学 校々歌	日かげ 明るき 鎮江山、／桜 紅 葉の 麗はしく	㉒	19	目次の標題は「No.211 満洲、安東高等女学 校々歌」	
学校の小リス	学校の／小使さんの 三びきの	㉒	21		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
インチキ富士山	東京の、まん中の公園に／お池をほ つて出た土を	㊹	23		
まつりだみこしだ／子 供みこし	祭だ、御輿だ、学校は休みだ、／朝 から元気に、わつしよいわつしよ わつしよ	㊹	25	目次の標題は「子供の 御輿だ」	
非常時姿の鍾馗さん／ 端午の図画	端午のお節句、まだだのに／端午の 節句のスケッチだ	㊹	27	目次の標題は「端午の スケッチ」	
長期建設(その一)	見る見る見る、聞く聞く聞く／非常 時だからこそ、見る見る見る	㊹	29		ビクターレコード 「子供の天下」
長期建設(その二)	野では 田のもの、畑のもの／生え て、のびては、みのりては	㊹	31		ポリドールレコード 「子供の天下」
神保院長／鈴木篤三郎 先生／喜の字の祝歌	院長先生、おめでたう／紀元は二千 と六百年	㊹	33	目次の標題は「神保院 長、おめでたう／喜字 の祝」	
新潟市流作場／北越商 業学校々歌	一路正しき不断の歩み／無言の旅路 も、希望に勇み	㊹	35	目次の標題は「212 新潟市北越商業校歌」	
大分県速見郡／立石町 尋常高等小学校々歌	朝夕仰ぐ城山(じやうやま)[や][の] ／気高く聳えて さとすなり	㊹	37	目次の標題は「213 大分県立石小学校々 歌」	
東京市大森区／東調布 第一尋常／高等 小学 校々歌	朝日夕日に照りはゆる／神山富士の すがたにも	㊹	39	目次の標題は「214 東京市東調布第一小学 校々歌」	
水に感謝の歌(一)	きれいな水を鉢一ぱい／ほんとに 有難うございます	㊹	41	目次の標題は「水に感 謝の歌(その一)」	
(二)	真夏 真昼の峠みち／したゝりたま る岩清水	㊹	42	目次の標題は「水に感 謝の歌(その二)」	
〃 (その三)	流れる汗[もしらないで][に気もつ かず]／勤勞奉仕を終へてから	㊹	43	目次の標題は「水に感 謝の歌(その三)」	少女クラブ 十五年 八月号
山梨県北都留郡上野原 尋常／高等 小学校々 歌	清き流の桂川／日夜休まず	㊹	45	目次の標題は「215 山梨県上野原小学校々 歌(儀式用)」	
福山市川口尋常／高等 小学校々歌	大天地を照らして昇る／朝日の如く 栄え行く	㊹	47	目次の標題は「216 福山市川口小学校々 歌」	
和歌山市中之島尋常／ 高等 小学校	流も清き紀の川に／日夜不断の歩あ り	㊹	49	目次の標題は「217 和歌山市中之島小学校 歌」	
一年生	帽子も かばんも新らしい／一年生 だ、ニコニコだ	㊹	51	「(昭和五年同題の改 作)」と注記	
山梨県上野原尋常／高 等 小学校々歌	四方の山々見下して／雲表抽出る芙 蓉峯	㊹	55	目次の標題は「218 山梨県上野原小学校々 歌(野外用)」	
名古屋市中区東田町／ 雲龍幼稚園々歌	天にも地にも一ぱいの／明るい明る い日の光、	㊹	57	目次の標題は「219 名古屋市雲龍幼稚園々 歌」	
朝鮮全州／北公立中学 校々歌	キリンの峯に日は昇り／気高き理想 の輝きに	㊹	59	目次の標題は「220 朝鮮全州北中学校々 歌」	
松山市北予中学校々歌	旭光燦たる碧空に／仰げ、近くは金 亀城、	㊹	61	目次の標題は「221 松山市北予中学校々 歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
東京市神田区／神田小学校々歌	日毎栄ゆく皇国の／都の真中、いはれある	㊹	63	目次の標題は「222 東京神田小学校々歌」	
横浜市中区山下町／市立女子高等専修学校	千代の濃緑いろはゆる／松の操に浜楸(ひさぎ)	㊹	65	目次の標題は「223 横浜市立女子高等専修」	
樫の実幼稚園々歌	小さい樫の実、樫の木が／生えては、根を張り、枝を張り、	㊹	67	目次の標題は「224 東京樫の実幼稚園々歌」	
満洲三江省／牡丹江高等女学校々歌	永劫に、豊けく、たゆみなく／注ぎに注ぐ 牡丹江、	㊹	69	目次の標題は「225 満洲牡丹江高女校歌」	
奉天千代田尋高校々歌	天地てらし さしのぼる／朝日のすがた 大日本	㊹	71	目次の標題は「(改作) 奉天千代田小学校々歌」	
静岡県清水市江尻桜木町／女子商業学校々歌	朝日夕日に気高く清く／近く聳ゆる富士の峯	㊹	73	目次の標題は「226 清水市女子商業学校歌」	
護れ大空	護れ大空、断じて護れ。／皇国(みにくに)の青空、東も西も	㊹	75		朝鮮総督府(初等唱歌 第五学年用)
瀬戸内海	煙のこして [いでて][遠く]行く／汽船追[ひてか][ふごと] 飛ぶ鴉	㊹	77		朝鮮総督府
樫原まうで	大御代のかしこさ、子等と吾妹子と／真昼日にする樫原まうで	㊹	79	目次の標題は「樫原まうで」。短歌8首	
鞆の浦にて	故さとのこの海この島今年また子等／とみてあり、妻とみてあり	㊹	80	短歌8首	
あひるじやぶじやぶ	すーるり、すーるり、子供のあひる。／並んで泳いで、くわつくわつ	㊹	81		尋三
ぬれ坊主	雨にじやぶじやぶ、ぬれてゐる／お地蔵様の石あたま	㊹	82		「子供の青空」へ
天狗松	八尋村での高い山／(向かうの山の)葛原山のとつぺんに	㊹	83		
青竹兄弟	大きな竹藪、藪垣の／外へのぞひて、お揃ひで	㊹	85	目次の標題は「兄弟青竹」	
おぼろお月様	東のお山を出はなれた／おぼろお月様 お、ねむさう	㊹	86		
星の眼々	地面は下で／空は上、	㊹	87		白眉社
星の子とゴム風船	星の子供よ、早く出よ／涼しい風だよ、天の川、	㊹	88	目次の標題は「星の子と風船玉」	
かくれん坊	もういゝかい、もういゝかい／まあだゞよ。まあだゞよつたら、まあだゞよ。	㊹	89		いつもにここにこ
はつばがちつた	はつばがちつた。／どつちからちつた。	㊹	90		二十三年年鑑 二十三年改作して「ぎんのすず」
よく鳴る太鼓	ことしや豊年、祭は近い、／買物帰りのお土産に、	㊹	91		「銀の鈴」五・六年 二十二年十月号
雪空	雪になりさうな日暮れ方、／お宮の小庭の空つ風	㊹	92		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
夕立やんだよやんだよと	夕立やんだよ、やんだよと／蟬 [が][の]大声[あげてみる][鎮守森]	㊹	93		「こども朝日」
雀よ来い	雀よ 来い／下りて 来い	㊹	94		ナカヨシクラブ 二十三年
南天のおよめ[さん][入]	南天、今日は およめ入、／ふーわり、きれいな綿帽子、	㊹	95		
いつも牛飼	何日も、牛飼 めづらしないよ／毎朝早起、手綱持つて	㊹	96		いつもにここにこ
田舎のダンス	風の吹く日の田舎のダンス／藪では、ゆーらり、ゆーらりと	㊹	97		ナカヨシクラブ 二十三年
いやーな雨	一日おきか 二日おき／よくも 降る降る、	㊹	99		
燕のほゝづき	燕が気どつて、チピイ、チピイ／どこかの海のほゝづきね	㊹	100		ぎんのすず 二十三年 いつもにここにこ
村長さんの夏羽織	村長さん[は][の]夏羽織／かたびら蟬の羽根のやう	㊹	101		
姉さんおよめに	姉さん お嫁にどこいった／東京へいつて暮らしてる	㊹	102		
空には星が	空では星が きらきらと／水にうつつて、きらきらと	㊹	103		
土瓶ちいさん	土瓶ちいさん よいきげん／いつも大鉢の火の上で	㊹	104		シヤボン玉 二十三年三月号
風の吹く日は	風の吹く日は／[木の葉][はつぱ]が[動く][ゆれる]	㊹	105A		
鯉[の][は]風好き	何より鯉は風好き、踊好き／風さへ来ればよろこんで	㊹	106A	目次の標題は「鯉は風好き」	
「お」の字のつく名	お乳のんでる「お子さん」の／ほんとの名まえは、「およしちゃん」	㊹	105B		
波の箒	波のほうきが、さーらり、さらさらと／ひつきりなしに浜掃除。	㊹	106B		
芒と里芋	芒、細い手、やさしい手／おいでおいでと、招いてる	㊹	106C		
お月様のお子さん	お月様／円い笑顔のお月様	㊹	107A		
意地悪木枯	意地悪木枯し、夜の風／お背戸のまきのてつぺんに	㊹	107B	目次の標題は「意地悪木枯し」	いつもにここにこ
卑怯だぞ地震	男だらう、こら地震／大きな音をたてるのは、	㊹	109	目次の標題は「卑怯な地震」	二十三年 童謡年鑑
大きなシヤボン玉	大きな大きなシヤボン玉／くるくるまはつてふくれるね	㊹	110	目次の標題は「大きなシヤボン玉自爆」	
お薬缶二つ	学校中の長廊下／午すぐ前の長廊下	㊹	111		
入日ををがむ妹	早く 明日が来ればよい／早く 明日にな[れば][ると]よい	㊹	113	目次の標題は「入日ををがむ妹」	
芽尽し畠	二三日つづいた雨上り、／五月の畠は、芽尽し畠	㊹	114		
田舎の畠でお芋ほり	田舎の畠の、芋畠／学校の畠のお芋ほり	㊹	115	目次の標題は「田舎でお芋掘り」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
雨ふりダンス	雨の小人の雨降ダンス／町中、屋根中、ダンスの競争	㊸	117	目次の標題は「雨ぶりダンス」	
今日がさめた、はたらくぞ	今日がさめた、エンヂン動くぞ／工場の汽笛が、ポー ポー	㊸	118	目次の標題は「今日がさめた」	銀の鈴 三年 二十四年六月号
[天の][するする]長糸	天から するする、／長糸 するする、	㊸	119	目次の標題は「空の長糸」	
湯どこの湯の文字	妹の湯の文字は、「サクラ」／僕のは太い「日本一」	㊸	120		シヤボン玉 二十三年 復活号
蜘蛛の電話	桜の木から 梅の木へ／梅の木からは、桃の木へ	㊸	121	目次の標題は「蜘蛛の電信」	二十三年 ぎんのすず
元日元朝(いよいよ新年)	時計がなつた、何時がなつた／元日、元朝、今、 六時、	㊸	122	目次の標題は「元日元朝」	
雀鈴なり	鈴なりに なつてみた／赤い柿 みなとつて	㊸	123	「(二十二年、改作／七月四日)」と注記	
那須五山	五つならんだ那須五山／五人家族のまん中は	㊸	124	掲載紙誌の切抜貼付	15. 11. 24. (小学生新聞)
蜘蛛の網・雲の網	下界で、蜘蛛が網をはる／枝から枝へ、細い網	㊸	125		
観音道路	夕[風][方]寒い 狭い道／観音道を、急ぐ人	㊸	126	目次の標題は「観音堂道路」	
雀のお宿	藪をやかれて宿なしの／雀親子が泣いてみた	㊸	127	目次の標題は「柳宿(雀のお宿)」	
鼻つまみ蟬	いつでも、風をひいたこえ、／きのふも、今日も、ミーンミン	㊸	128		二十三年 ぎんのすず
お山のあの子	[お山のあの子は][山の子供が]、笛を上手に吹いてみた／自分で作った笛だといった	㊸	129	目次の標題は「山の子供」	二十三年 童謡年鑑
仔馬の目、仔馬の尾	仔馬の目、かはいゝ目／かはい、小さい目の中に	㊸	130		「ナカヨシクラブ」二十三年
とんびと宿題	ヒヨロ、ロ、ピーヨロ、ピーン、ヨロー／くーるり、くーるり、輪をかいて、	㊸	131		
霜やけた指	肥えたのではない、ふくれた指、／赤ちやん みたいで	㊸	133		
雪のかへりみち	雪ふり、雪ふり、かへりませう／かさは、かうもり、軽いかさ	㊸	134	目次の標題は「雪のかへり道」	
お月様円い(円いポンポン)	お月様円い、お山も円い、／円いお山に、円い音がしてる、	㊸	135	目次の標題は「お月様円い」	二十三年、改作「ぎんのすず」
バスと電車	バスはバス路、電車は、レール／並んで走る、どちらも速い	㊸	136		
お友達のほくろ	おかほの写生、／お友達の似顔	㊸	137		二十三年 童謡年鑑／二十四年六月号 銀の鈴 三年
日曜の洗濯	今日は日曜、めづらしや／朝から、うれしや よい天気	㊸	138		
鉛筆の役目	鉛筆 絵をかく 文字をかく／頭で、絵をかく、文字をかく、	㊸	139		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
ぐみの実	ぐみのあかい実、[はちきれさ う][あかい粒]/つやつや、きれい な 丸いほほ	㊹	139		
汽車の意地悪	速く走って、汽車の意地悪、/きい ろいお花は、菜種でせう	㊹	140		
蛙どちらがすきですか	蛙、どちらが好きですか。/びよん びよんとぶのと、泳ぐのと、	㊹	141	目次の標題は「蛙、ど ちらがすきですか」	
ポストあめぐり	ポストあめぐり、くひしん坊/いつ でも、ポカんと、開けてるお口は、	㊹	142		
さげかばん	私は小学生、ランドセル、/姉さ ん、女学生、さげかばん。	㊹	143		
さくらの絵	桜の咲[くのは][いた]四月です/一 年前の四月には、	㊹	144		
マッチ一本	真黒頭にパツと火が、出る。/マツ チ一本、シユツ、シユツ、	㊹	145		「子供の青空」へ
お花見べんたう	お花見べんたう、うれしいな/いつ ものんとは、違ひます。	㊹	146		
ニコニコ坊や・ばアば ア坊や	弟一郎、年二つ/まるまるこえた男 の児	㊹	147	目次の標題は「弟一郎 年二つ」	
おねんね	お母さんに だつこして/ゆきえち やん、おねんね、	㊹	148		
海のパラシュート	海にフーフリ パラシュート/波に フーフリ、フーフリと。	㊹	149		
大雷雨と「鳥と避雷 針」	ごろごろ、ざアざア、大雷雨/雀ち りぢりにげてつて	㊹	150	目次の標題は「大雷雨 と鳥」	
お姉さまのお琴(お琴 好き)	お姉様、ずみ分 お琴好き/朝ひ き、午後ひき、夜もひき	㊹	151	目次の標題は「お琴好 き」	
ごろごろびかびか	ごろごろ、がらがら、がたがたが た、/大さうな音だ。	㊹	152		
庭の青葉	もう幾日も雨[なしで][ふらず]/お のどがかはいて をるでせう	㊹	153		
自転車で急ぐ少女	電車の十字路赤信号/皆止つてるの 一番前で	㊹	154	目次の標題は「自転車 で急ぐ女の子」	
どこかのひきこし	どこかの引こし、トラツクは/荷物 のお山でございます	㊹	155		
とんがりお耳	ろばのお耳は、とんがりお耳/とん がりお耳の とんがつた先に	㊹	157		二十三年 童謡年鑑 /ナカヨシクラブ 二十三年
絵の具皿	ゑをかく ゑかきの ゑの具皿/み んなおんなじ形して、	㊹	157		
遠足帰り	三日月様が出てました/遠足帰りの 西の空、	㊹	158		
その部隊長桃太郎	大猿雉子の三びきの/小さな小さな 部隊です	㊹	159	目次の標題は「部隊長 桃太郎」	
青田圃	村中ひろい青田圃/朝日朝風、青 畳、	㊹	160		銀の鈴 二十四年六 月(三年)
空中ケーブル	電信線の雨しづく、/空中ケーブル 忙しい	㊹	161		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
鹿の頭の鹿の角	鹿の頭の鹿の角、／枝振すつかりお揃ひで	㉒	162		
目かくし鬼	鬼さん どちら、手の鳴る方 [へ][よ]／目かくし鬼の腰曲り、	㉒	163		
朝鮮大邱／徳山(とくさん)公立尋常小学校々歌	清き流の琴湖江／日夜たゆまず、一すぢに	㉒	165	目次の標題は「No.227 朝鮮大邱徳山小学校々歌」	
増成動力工業株式会社々歌	旭光燦たり、大東亜、／盟主日本、新らしき	㉒	167	目次の標題は「No.228 増成動力工業株式会社々歌」	
東京市浅草区／小島尋常小学校々歌	日毎 栄ゆく日の本の／すがた、さながら昇る日に	㉒	169	目次の標題は「No.229 東京小島小学校々歌」	
満洲国間島省龍井街／間島尋常高等小学校々歌	高き勲の追思の碑、／間島富士の名のなつかしさ、	㉒	171	目次の標題は「No.230 満洲間島小学校々歌」	
朝鮮 鎮南浦公立高等女学校々歌	明暮[[はるけき][ゆたけき] 希望に勇[み][む]][希望の大洋(おおなだ)[さして][めざす]]／大綱江[[は][も]注ぎに注[ぎ][ぐ]][の[不断の][倦むなき]旅も]	㉒	173	目次の標題は「No.231 朝鮮鎮南浦公立高女校歌」	
ひなまつり	まうせん まつかな ひなだんの／一番上で、行儀よく	㉒	175		文部省 国民学校 初二唱歌用

◆ 創作ノート㉓(昭和15年～17年)

朝鮮全羅南道光州府／光州師範学校々歌	旭輝やく無等山／巖、気高くそびえずや	㉓	1	目次の標題は「No.232 朝鮮光州師範学校々歌」。「P. 15改作」と注記	
凧三つ	すごいぞすごいぞ、凧凧凧／空一ぱいの凧の中、	㉓	3		
雪降の日の雪だるま	また降出した、降出した／大雪だるまも うれしさう	㉓	4	目次の標題は「雪ふりの日の雪だるま」。掲載紙誌の切抜貼付	
広島市第二高等小学校々歌(南観音町)	流、不断の太田川、／幾筋、道は分るれど	㉓	5	目次の標題は「No.233 広島市第二高等小学校々歌」。「P. 35に改作」と注記	
台湾(高雄州屏東市旭町)／屏東(ヘイトウ)師範学校々歌	かがやき昇る 旭日(きよくじつ)に／大武(だいぶ)の峯のいや高く	㉓	9	目次の標題は「No.234 台湾屏東師範学校々歌」	
福山市樹徳 尋常／高等 小学校々歌	朝日かがやく葦陽城／御民われらに教へずや。	㉓	11	目次の標題は「No.235 福山市樹徳尋常高等(国民)学校々歌」	
新潟市宮浦高等小学校々歌	四時、御空に、聳[ゆるに][ゆれど][えて[は][も]]／正しき姿、か[は][ゆ]るなく	㉓	13	目次の標題は「No.236 新潟市宮浦高等小学校」。「(P. 33に改作)」と注記	
朝鮮光州師範校歌	旭輝く無等山／巖、気高く聳えずや		15	目次の標題は「光州師範校歌(改作)」。「P. 1の改作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
広島市外井の口村／広島商業実践女学校々歌(第一)	朝日さしそふ鈴が峯／理想も高くさと[さすや][すなり]、	㊸	17	目次の標題は「236 広島商業実践女学校々歌(第一)」。「P. 29に改作」と注記	
大阪府立鳳中学校々歌	大空高き金剛の／永劫(トハ)に不動の姿かな	㊸	19	目次の標題は「237 大阪府立鳳中学校々歌」	レコード吹込(奥田良三氏)
大阪府立／市岡夜間中学校歌(添削)	(補)恵あまねき大御代に／遺賢なかれと魁けて、	㊸	21	目次の標題は「238 大阪府立市岡夜間中学校々歌」	
満洲国／錦州富士国民学校々歌	朝日輝やく紫金の山を／高き希望に仰ぐなり	㊸	23	目次の標題は「239 満洲錦州富士国民学校々歌」	
秋田県山本郡能代市／能代湊城(のしろていじやう)第二国民学校々歌	日夜、不断の歩をつゞけ／希望遥けき大洋へ	㊸	25	目次の標題は「240 秋田県能代市湊城第二国民学校々歌」	
二日月	二日月、ほそい月、糸のやう／さはると、	㊸	27		
雀が雀が	雀が、雀が ちゆうちゆうちゆう／びよんぴよんなきなきとんでゐる	㊸	28		
広島商業実践女学校々歌(第一校歌)	朝日にはえて、鈴が峯、／永劫に気高く聳えずや	㊸	29	目次の標題は「広島商業実践女学校々歌(改作)」。「[P. 17の改作]」と注記	
広島商業実践女学校第二校歌(野外行進曲)	とはに緑の色かへぬ／松の操の気高きよ	㊸	31	目次の標題は「241 同上、第二校歌」。「P. 44に改作」と注記	
新潟市／宮浦国民学校(高等)々歌	仰げ霊峯、弥彦の[すがた][たかね]／永劫不動(に)何をいふ	㊸	33	目次の標題は「新潟市宮浦校々歌(改作)」。「(P. 13の改作)、(P. 59に改作)」と注記	
広島市第二国民学校々歌	清流大田の不断の(旅路)／よるひる進みて、休まず、うまず。	㊸	35	目次の標題は「広島市第二国民学校(改作)」。「(P. 5の改作)」と注記	
ヒカウキバンザイ	アレアレ、キタキタ、ヒカウキガ／三ダイ、三ダイ、マタ 三ダイ	㊸	37		
ヘイタイサン	ヘイタイサン ヘイタイサン/ラッパニアハセテ、一、二、一、二	㊸	38		
親波子波	沖カラ、沖カラ、カケテキテ、／スナハマ、キレイニ、サウジスル	㊸	39		
ブランコ、シツカリ	ブランコ、シツカリ、コギマセウ。／シツカリ、オテテで、つなもつ	㊸	40		
砂山のトンネル	サラサラ、スナヲ、モリアゲテ、／タカイ オ山ガ デキマシタ	㊸	41	目次の標題は「砂山トンネル」	
金魚と金魚	ユラユラ、ユラリ、／仲よく並らんで、	㊸	42		広島師範『学窓』P. 65の「地面の朝顔」と共に
朝顔と蜂	朝顔さいた、よく咲いた、／きのふの夕方、[まいて][のびて]みた	㊸	43	目次の標題は「朝顔さいた」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
広島県佐伯郡井口村／ 広島商業実践女学校第 二校歌	こがね、しろがね、色はしき／菊の 薫の尊とさよ	㊸	44	目次の標題は「広島商 業実践第二校歌(改 作)」。「(P. 31の改 作)」と注記	
お月様	お月様、お月様、ねえお月様、／は つきりお見えになるでせう	㊸	45		
お月さま見ると	きれいな、きれいなお月さま／だま つて、みてると しらぬまに	㊸	47		「銀の鈴」二十三年 十月号
もう出てピカピカ	もう出て ピカピカ、よろこんで／ 一番星が まつてゐる	㊸	48		童謡鑑賞アルバム
金星銀星	空一ぱいに金砂を／また銀砂を、ば らまいて、	㊸	49		
星の国	夜の夜空、星ばかり／大星小星、一 めん	㊸	50		銀の鈴
星の光りっこ	よくはれてゐる夜の空、／星が一め ん 光りっこ	㊸	51		
星星ピカピカ	父さま母さま、おばあ様、／子供 の時でも 昔でも	㊸	52		
サイダ瓶の風鈴	ガラスの風鈴、チリリンリン／胴切 にしたサイダ瓶	㊸	53	目次の標題は「サイ ダー瓶の風鈴さん」	
齊々哈爾宮前／在満国 民学校々歌	流豊かに嫩江(ノンコウ)は／うまず たゆまず 注ぐなり、	㊸	55	目次の標題は「241 満洲齊々哈爾宮前在満 国民学校々歌」	
若竹幼稚園々歌	のびるのびる、日をあびて、／風に 吹かれて、若い竹、	㊸	57	目次の標題は「242 若竹幼稚園々歌」	
新潟／宮浦国民学校々 歌	揚げ、霊峯、弥彦の高嶺／旭光浴び ては、しめすなり。		59	「(P. 33の改作)」と注 記	
島根県／浜田高女校歌	昇る日の国、日の本の／清き光と、 天地に	㊸	61	目次の標題は「243 島根県浜田高女校歌」	
人形のうば車	小さな小さなうば車／お人形さん でございます。	㊸	63		
[地面の][ほつといた] 朝顔	つつかい棒を一本も／立てゝもやら ず、ほつといた	㊸	65	目次の標題は「地面の 朝顔」(広島師範の学 窓)「P. 42「金魚」と 共に」と注記	
お久しぶりづくし	長いお休みも、今日かぎり／明日か ら、いよいよ 学校です	㊸	66		
ひるまの電燈	ぱつと明るい電気燈／それは、いつ でも夜のこと。	㊸	67		
時計の入院	かつちん、こつちん、朝から晩まで ／はたらきつづけた お居間の柱の	㊸	68		
色やさん	色紙ぬらして、しぼつては／つくる おもちゃのソーダ水	㊸	69	目次の標題は「いろや さん」	
それ、いよいよだ／大 東亜戦	それいよいよだ、それやるぞ／今度 は強いぞ、 大きいぞ、	㊸	70	目次の標題は「大東亜 戦争(それ、いよいよ だ)」	報知新聞 十二月十 五日
日本刀	右から来るなら 右の手で、／左か らなら、左手で、	㊸	71	目次の標題は「 〃 (日本刀)」。掲載紙誌 の切抜貼付	少国民新聞 十二月 二十六日

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
兵隊さんの正月	かつちん、こつちん、うれしいね／ 内地の正月、そつくりね。	㊸	73		
名古屋市／第一幼稚園々歌	お日様、きらきら高い空、／小鳥 も、花も、よろこんで	㊸	74	目次の標題は「244 名古屋市第一幼稚園々 歌」	
アジアのお友達	皆来たまへ、いらつしやい／アジア の子供のとなり組	㊸	75		
日本の正月	女の子が集まつて、／かつちん、 かつちん、ついてゐる	㊸	77		
群馬県新田郡太田町／ 沢野国民学校(初／高) 々歌	上げよ 上毛三山の／世に秀でたる 人たれと、	㊸	79	目次の標題は「245 群馬県沢野国民学校々 歌」	
大阪府泉北郡大津町／ 府立大津高等女学校	御空に聳ゆる金剛の／姿、気高く、 しめすなり。	㊸	81	目次の標題は「246 大阪府立大津高女校 歌」	
朝鮮／平壤 私立 正義 高女	朝日に笑まふ 南山岨(けん)／光、 あまねく、よろこびと	㊸	83	目次の標題は「247 朝鮮平壤正義高女校 歌」	
さくらの心	さくら、さくら、花ざかり／さくら の花の 真つさかり。	㊸	85		家の光
岸辺福雄翁古稀の祝ひ うた	お伽噺の兎の御くに因幡生れ／のお ぢいさま	㊸	87	目次の標題は「岸辺先 生古稀お祝ひ唄」	
シンガポールかんらく	大昔から、よくばりで／いぢわる つゞきのイギリスが	㊸	90	目次の標題は「シンガ ポール陥落(その一)」	
シンガポールかんらく (その二)	紀元二千六百二年／あゝ、紀元節の 朝はやく、	㊸	91	目次の標題は「 〃 (その二)」。掲載紙誌 の切抜貼付	十七年二月十七日 少国民新聞
(その三)	東洋一の大要塞／シンガポールも、 かんらく、かんらく、	㊸	93	目次の標題は「 〃 (その三)」	
生れ出た昭南島	太平洋の西南／お手々つないで、並 んでる	㊸	95		
昭南島誕生	誕生、誕生、昭南島／昭和の大御 代、日本が	㊸	97		
奉天 長沼高女校歌	大天地を照らす日の／光に映えて貞 淑の	㊸	99	目次の標題は「248 奉天長沼高女校歌」。 「[P. 103に改作]」 と注記	
長崎県立／口加高等女 学校々歌	日出づる御国、肥のみ崎、／あやめ が丘[に][の]風[すみて][きよく]	㊸	101	目次の標題は「249 長崎口加高女校歌」	
奉天 長沼高女校歌	古都瀋陽に、新らしき／文化、集ひ て匂ふ如、		103	「[P. 99の改作]」と 注記	
東京府北多摩郡吉祥寺 ／武蔵野第四国民学 校々歌	朝日をあびて、朝風うけて、／日 毎、明るき心につどひ	㊸	105	目次の標題は「250 武蔵野第四国民校々 歌」	
特殊の爆弾・探照燈	畑は広いな、大きいな／見渡す限り の、西瓜畑	㊸	107	目次の標題は「特殊爆 弾」	
豆飛行隊	日本晴の天空[に][は]／空一ぱい [に][の]赤とんぼ	㊸	109		
湘南学園々歌	波路遙けき相模瀨／たえず、しめす は、遠き行手。	㊸	111	目次の標題は「251 湘南学園々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
吾子自爆(その一)	妻よ子よ、泣くこと勿れ吾子の自爆、泣く／こと勿れ勝ち抜く日まで	㊸	113	短歌30首	
山の温泉、[流れつばなし][出つばなし][山の水]	山の温泉 出つばなし／大地の底から、湧出して	㊸	119	目次の標題は「山の温泉出つばなし」	
秋の風	萩の小枝が、ゆらゆらゆらゆら／かはいゝ花が、ゆらゆらゆらゆら	㊸	121		
傘の音楽会	からかさ、雨傘、蛇の目傘、／ばらばら雨の日、姉さまと	㊸	123		
夕刊くばり	ギリギリ、ビリビリ／ギリギリ、ビリビリ	㊸	124		
トンネルつゞき	トンネル、トンネル、又トンネル／少し長い、短い、	㊸	125		
登ってみたい庭の松	登って見たいな、庭の大松／広い芝生のまん中に	㊸	126		
針と糸	仲よし小よしの針と糸／針ばかりでは つまらない	㊸	127		
冬服冬帽	お部屋に はいれば 黒々と／皆、今日から、冬の服。	㊸	129	目次の標題は「冬帽冬服」	
星だらけ	空は一面 星だらけ、／皆、キラキラ光ってる。	㊸	130		コドモ朝日
お作法	私は初等科五年生、／この頃、お作法習ひます。	㊸	131		
バス故障	あら、又今日も、バス故障、／とつとことつとこ、かけ足で	㊸	132		
りんごの皮むき	林檎の皮むき習つたばかり／ずみ分上手になりました	㊸	133	目次の標題は「林檎の皮むき」	
お彼岸団子	お彼岸のお団子は、／姉さまが、母さまに、	㊸	134		
をがみませう／母様のおいのり	拝みませう、お神棚／おあかり上げて、ていねいに	㊸	135	目次の標題は「をがみませう」	
坊やの病気	坊やが病気でねてゐます。／一日おきに、ごしんさつ	㊸	136		
顔のポツポツ	手鏡のぞいて よく見たら／私の顔にありました。	㊸	137	目次の標題は「お顔のポツポツ」	
軍用道路	何か大きな荷を積上げた／軍用トラック 何十台	㊸	137	目次の標題は「軍用トラック」。「(十八年に改作)」と注記	
豆たどん	まつかまつか、たどんが、まつか、／真黒だった たどんが、まつか。	㊸	139		
ピアノの上のばらの花	ピアノの上のばらの花／私のすきな赤いばら	㊸	140		
原つば原つば	原つば 原つば すばらしい原つば／原つばの中では 何十組も	㊸	141	目次の標題は「原つば」	年鑑
陸戦隊の行進	陸戦隊だ、行進だ。／つよい日本海軍だ。	㊸	143		
晩ごはんの後	夕刊よみよみ、お菓おのみ、／お菓おのみのみ、夕刊およみ、	㊸	145	文末に「(一慰問文に添へて)」と注記	少国民の為の大東亜戦争詩(桑田氏へ)

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
お机のさうじ	日曜なのに、今日は雨ふり／つまらないわと、いふのをきいて	㉓	147		
◆ 創作ノート㉔(昭和17年～18年)					
どこかのお姉さま	どこかの きれいな お姉様、／仲よささうな お姉妹	㉔	1		
ねんど細工の象	象さん象さん、どこいった／ねんどさいくで、こしらえて	㉔	2		「ギンノスズ」へ
内遊び	今日は雨降、内遊び／遊び時間も教室で	㉔	4	目次の標題は「内遊のきまり」	銀の鈴
初夏(桜の青葉)	桜の枝は、どの枝も／この頃、毎日、葉のかずが	㉔	5	目次の標題は「(桜の青葉)初夏」	
煙さん	煙さん、／今吹いてるのは、北風ね	㉔	6		
お屋根の瓦	おやねの瓦の行儀よし／きちんと並んで、	㉔	7	目次の標題は「屋根瓦の数」	銀の鈴
折鶴だらけ	妹 この頃、折鶴上手／なんでもみんな、四角にきつて、	㉔	8		ギンノスズ
お角力さんのボートのり	公園のお池の貸ボート／いろんな人が、次々に、	㉔	9		
二階の縁側	お母様、／おふとんが、	㉔	10		
キの行列	田圃のまん中まつすぐに／どこまでつゞく電信柱	㉔	11	目次の標題は「キの字行列」	銀の鈴
あめんぼ	あめんぼ あめんぼ、どうしてね／どうして、水の上、歩けるの、	㉔	12		
夕の空に残るもの	夕日が沈んで 日がくれて／田圃も、おうちも見えないに、	㉔	13		
奉天、長沼高女校歌(第三稿)	古都瀋陽に集ひ[ぞ][も]来ては(集ひては)／文化、新に、かゞやくや	㉔	14a	目次の標題は「252 奉天長沼高女校歌」。(「前冊P. 103の改作」、(P. 82に改作)」と注記	
東京高等歯科医学校	旭光[燦たる][まづさす][明るき]湯島が丘[の][に]／歴史[も][は][に][はえある][古き]伝統の	㉔	14b	目次の標題は「253 東京高等歯科医学校々歌」	
こぼれ水	夏のお休み、もう飽きて、／雨ふりこんだ、おゑん側	㉔	16		童謡世界
お池の水の輪	キラリ、光つて、ポテリおちて、／あとからあとから、まあい輪	㉔	18		ギンノスズ
汽船のポー	長く尾を引く、汽船のポー、／遠くか、近くか、港の方。	㉔	19		銀の鈴
鼠の鬼ごっこ	天井裏で、まつびるま／大きな音たて、にくらしや	㉔	20		
弟と写生	写生は、今日は うゑ木鉢、／一年生の弟には	㉔	21		
なでしこ村／海水浴のはりの日	海水浴のをはりの日／少し、はなれた松原へ	㉔	22	目次の標題は「なでしこ村(海水浴の終りの日)」	
久しぶりの東京	夏中、海へいつてゐて／お久しぶりの東京は	㉔	24		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
はつゆき	ゆきゆき、初雪、／地面ですぐきえ	㊹	25	目次の標題は「初雪」	
インチキ八つ手	八つ手、八つ手、／八つ手の葉つば	㊹	26		
野ぶだう	するする のび出て、やさしい蔓 は、／野に生えるから、名が野ぶだ う。	㊹	27		年鑑
私が竹の子	のび[た][る]、のび[た][る]よ、竹 の子のび[た][る]。／私を とつく に、追ひこして、	㊹	28		
なでしこ山、びわ山	いとこのおうちの名なし山／海を見 下す円い山、	㊹	29		
浴衣のとんぼ	とんぼ、すいすい、涼しい風に、／ 上手に、うかんで、スーイスイ	㊹	30		童謡世界
カタリと貯金	カタリ、貯金が一銭ふえた／カタリ カタリで、ふえたよ、二銭、	㊹	31		
夢の珠	キラ、キラ、夜あけの露の玉／金の たま、銀のたま、るりの玉、	㊹	32	目次の標題は「夢の 球」	童謡世界
となりの火事	オ、ヤ、おとなりの勝手元、／急 に、	㊹	33		
花火	ドン、ドン、つゞいてドン、／花 火、ドン、ドン、又、ドンドン	㊹	34		
徴発馬	町中の／所々の広つ場に	㊹	35		
カナリヤ病気	雨ふりで／うすら寒い日、カナリヤ の	㊹	36		
小さな小さなブランコ	小さなブランコ、フラリンフラリン 高い空で／宙ぶらりんの ブラン コ、ブラリンコ、ブラリンコ	㊹	37		童謡世界
色屋さんごっこ	色屋さんごっこ、ござの上／お庭に 繁つた桐の木の	㊹	38		
ひげととげ[小さいく せに]	子供だのに、／子猫が、ピンピン、 幾本も	㊹	39	目次の標題は「(小さ いくせに)ひげとと げ」	
ギャンプごっこ	山からかへつた兄さんの／天幕を借 りて、裏庭で	㊹	40		
笑はせ灰	枯木に花を咲かせたは、／花咲翁さ んの花咲かせ灰、	㊹	42		
浜辺の競争	浜辺で砂地で競争だ／小さい仲間は ポチャポチャと	㊹	44		
雨傘行列	赤や、黄いろや、紫や、／だんだら 模様、はで模様	㊹	45		
海のおたより	兄様、今年は臨海団／出かけて行つ た三日目から、	㊹	46		
縁側のすべり台	雨の降る日のお縁側／何より楽しい すべり台、	㊹	48		
玉ねぎ料理	父さまおすきの玉ねぎの／料理を、 今日こそ、をしへてね、	㊹	50		
朝顔の蔓の杖	どつちへ伸びて いゝものか、／分 らなくつて、困つてた。	㊹	52		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
高津幼稚園々歌	高い高い雲の上に、／すがたも正しく、そびえ立つ	㊤	53	目次の標題は「254 高津幼稚園々歌」	
三木(ミツギ)国民学校々歌	朝日かがやく貴船の[森][宮]に／誓、新に、祈りては	㊤	54	目次の標題は「255 三木国民学校々歌」	
頼山陽の母、梅颯夫人追慕	百とせも後の世にして、いやましにかぐはし／きかな園の白うめ	㊤	56	目次の標題は「梅颯夫人追悼和歌」 短歌3首	
新年／童謡 かゝしの見張	すげ笠 すつかり 破れても／弓弦(ゆづる)は すこうし ゆるんでも	㊤	57	目次の標題は「案山子の見張」。掲載紙誌の切抜貼付	少国民新聞 十八年一月六日
村の正月	朝から 今日 田に畑に／一人も見えない お百姓	㊤	58	掲載紙誌の切抜貼付	(少国民新聞 十八年元旦号)
日の丸の旗と日本語	満洲奥地、蒙古の奥地、／北支や、中支や、南支は、おろか	㊤	61		
めでたい日本	二千六百三年の／元日、めでたい大日本、	㊤	62		
めでたいめでたい初歩哨	何千キロもの波こえて／南太平洋上に、	㊤	63		
哈爾濱／満鉄青年学校々歌	旭日はゆる蒼空の下／御稜威にあげゆく大陸に	㊤	64	目次の標題は「256 哈爾濱、満鉄青年学校々歌」	
京城府敦岩町、旭丘公立中学校	旭光燦たる旭ヶ丘に／大空高く、放てよ、眼	㊤	66	目次の標題は「257 京城旭丘公立中学校々歌」	
へんな猫ちゃん	猫ちゃん、時々、外あるき／外に出たがる、くせがある、	㊤	68		銀の鈴
人間だらけ、うじやうじやだらけ	お正月には、とくべつに／銀座通は、人間だらけ。	㊤	69		
小鳥は大好きなだけど	小鳥は、本当に、可愛いゝの。／可愛いゝ口ばし、	㊤	70		
こわいことし海	去年の真夏、一と月中／毎日かゝさず、よろこんで	㊤	71	目次の標題は「こわい海」	
満洲／吉林省懷徳県／范家屯在満国民学校々歌	天地に、光(も)あまねくも／日は昇る、いとさやかに ほがらかに。	㊤	72	目次の標題は「258 満洲范家屯、国民学校々歌」。「[P. 112 二改作]」と注記	
興亜通信工学院々歌	朝日夕日にそゝり立ち／富士の霊峯、をしふらく	㊤	74	目次の標題は「259 興亜通信工学院々歌」。「(P. 138に清書)」と注記	
英霊通過	駅の拡声器がいひました／只今、つきます、急行が、	㊤	76		
夏の休みもをはりです	夏の休も をはりです／明日と、あさつて、二日だけ	㊤	79		
おねんね	私はおねんね、まつしろの／シーツの上に、上むいて、	㊤	81		
奉天、長沼高女校歌(第四稿)	古都瀋(しん)陽に新しき／文化、集ひて、かゞやけば、	㊤	82	「P. 14の改作」と注記	
電車がとまつて	電車がとまつて、戸があいて、／一番先に、下りるのは	㊤	84		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
バスが止った	「お次、ストップ願ひます」 のやさしい高いこゑ、	車掌	②4	85	
チューリップ畠	チューリップ畠に咲いた花／チュー リップばかりでございます。		②4	86	
チューリップの花片	チューリップ、チューリップ／きれ いな花びら、		②4	87	
除夜のかね、中々(ま だまだ)	待つてた、待つてた 除夜のかね。 ／一いつ		②4	88	目次の標題は「除夜の かね、中々」
私の勤労奉仕	お家で、勤労奉仕です。／私をはじ めて、足袋はだし、		②4	90	
勝手口のコゑ	母さん、夕方、買出しに／私を残し て、御出かけで		②4	92	
縄またぎ	運動会の縄またぎ／十本あるから、 十べんまたぐ		②4	93	
坊やお芋	ぷくぷく、まるまる、ころころと、 ／生れたばかりの坊やです。		②4	94	
黒い猫どろ棒	どこからはいつか、知らぬ間に／ 音もたてずに、来てをつて		②4	95	目次の標題は「黒猫ど ろ棒」
柚子湯	柚子湯の晩は、柚子の匂ひ／湯どの は、廊下から柚子の匂ひ		②4	96	
帰りみち	お母さま、まーだ、御入院／今日も 私、お見まひに。		②4	97	
熊ン蜂の巣	蜂が、大きな巣をかけた／高いおや ねの棟の下		②4	98	
雨の手品師	雨は ポツンポツン、おちて来て／ 砕ける、きれいな 水の玉。		②4	99	作歌者協会 (二 二. 八. 二二)
風鈴と短冊	チリ、リン、チリ、リン、風鈴が／ だあれも見てみぬ日くれ方		②4	100	
帰りの電車	居のこり当番、／大へんよくでき て、		②4	101	
大人も羽根つき	カッチン、コッチン、はねの音／正 月、まだまだ来ないのに、		②4	104	
小つぶの大仕事	小さな小さな雨のつぶ／雨の小粒が 集つて、		②4	105	目次の標題は「小さな 雨粒」
田んぼの中みち	稲が、黄いろく熟しはじめて／田圃 あぜみち、昼の風、		②4	106	
冬の手品	椿の葉つば、八手の葉つば、／緑の 葉つばが、夜の中に、		②4	108	
早いお客さま	青桐 涼しい裏庭で／花ごさしい て、おまゝごと。		②4	110	目次の標題は「早いお 客様」
東京はいゝね	兄妹ばかりで、お休み中、／遠くへ 行つてゝ、久しぶり		②4	111	
満洲／范家屯国民学 校々歌	さやかに、ほがらに、かがやかに、 ／天地、てらして日は昇る。		②4	112	目次の標題は「范家屯 校歌(改作)」。 「[P. 72の改作]、 「P. 134に再改作」 と注記

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
をかしの鳩[のうち][さん]	おうちの庭に、平気で下りて、／お首ひよこひよこ、何だか、拾つては、	㊤	114	目次の標題は「をかしの鳩さん」	作歌者協会
山羊さん親子	山羊さん、親子、／どちらが親山羊、どちらが子山羊。	㊤	115		作歌者協会
先生の肩たゞき／たんたんたん	たんたん、たんたん、たんたんたん、／お弁当すんだ お教室	㊤	116	目次の標題は「先生の肩たゞき」	
短かく古くなる鉛筆	新しくつて長かつた／鉛筆、次々、へつて行く	㊤	118		
夏の宿題	夏の休の夏の宿題は／自分の好きな果物、写生、	㊤	119		
お父さまのヨツト	風に、一ぱい、三角帆／おんなじやうに、ぴんと張つて、	㊤	120		
新聞や	朝起、早起、庭さうじ／御門の内をはいてると、	㊤	121		
朝の公園	朝のお散歩、父さまと、／早起して来た、公園は、	㊤	122		
六かしいシヤボン玉作り	赤、青、紫、金銀の／きれいなきれいな模様入り、	㊤	123		
芝焼き	もく、もく、煙、／きいろの煙、	㊤	124	目次の標題は「芝焼き」	作歌者協会
草ひばり	いゝこゑ、ね、高いこゑね。／家中、ひゞく草ひばり	㊤	125		作歌者協会
冷蔵庫	冷蔵庫、々々々、／日に ほされてる冷蔵庫、	㊤	126		
へうたんとおぢいさま	大きいへうたん、ぶーらりん／小さいへうたん、ぶらぶらりん	㊤	127	目次の標題は「へうたんとおぢいさん」	
お召列車	レールの柵の外側に、／柵から、はなれて一列に、	㊤	128		十九年 年鑑 日本詩年鑑
とんぼの薄羽根	とんぼのうすばね、すゞしいね／四枚が四枚、おんなじね、	㊤	130	目次の標題は「とんぼの薄羽」	
玉虫	金に紫、ぼたん色、／背中のきれいな玉虫さん	㊤	131		
今日から長やすみ	今日から、いよいよ長休み、／やっぱり早く目がさめて、	㊤	132		
伊勢えびさん	大きくて 立派な いせえびさん／びんびん伸ばした長いひげ	㊤	133		
満洲連京線／范家屯在満国民学校長	さやかに、ほがらに、かがやかに、／天地 てらして、日は昇る	㊤	134	目次の標題は「范家屯、校歌(改作)」。「(P. 112の改作)」と注記	
長い夏休み	今日から 長い夏休み／ゆつくり、ゆつくり朝ごはん	㊤	136	目次の標題は「長い夏やすみ」	
水まき	水まき さらさら 涼しいな／日照つた日くれ方	㊤	137		
興亜通信工学院々歌	朝日夕日にそゝり立ち／富士の霊峯、をしふらく	㊤	138	目次の標題は「興亜通信工学院々歌(改作)」。「(P. 74より)」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
銚子市／高神(たかがみ)国民学校々歌	大天地を あまねく照らし／とはに、かはらず、[歓喜][希望を]みたし	㊸	140	目次の標題は「No.260 銚子市高神国民学校々歌」	
(前頁より)改作	大海原に昇る陽の／とはに、かはらぬ 輝きよ。	㊸	142		
(前頁の改作)	大海原に昇る陽の／とはに、かはらぬ輝きよ。	㊸	144		
◆ 創作ノート㊸(昭和18年～19年)					
神辺国民学校々歌	常盤の松に、色はゆる／桜紅葉に、しめすなり、	㊸	1	目次の標題は「No.261 広島県神辺国民学校々歌」	
大津野国民学校々歌	郷頭山の風きよく／輝く朝日に、皇民われ、	㊸	2	目次の標題は「262 広島県大津野国民学校々歌」。「P.14に改作」と注記	
和歌山市／文教高等女学校々歌	大空高くわたり来る／田鶴に豊けき和歌浦。	㊸	4	目次の標題は「263 和歌山県立文教高女校歌」	
広島市南観音町／旭兵器工業株式会社々歌	天地てらして 輝く旭／光輝(ひかり)よ、[希望(のぞみ)][生命(いのち)]よ、誇の社章(しるし)。	㊸	6	目次の標題は「264 広島市旭兵器興業株式会社々歌」	
旭兵器工業／中心練成隊々歌	大みこ[ころを][とのり]、畏みて／御国の使命、新らしく、果さんと	㊸	8	目次の標題は「265 広島市旭兵器興業株式会社練成隊歌」	
広島県神辺町／桑田織物合資会社々歌	日は照る 神国 大日本、／明るく、浄き するしにて、	㊸	10	目次の標題は「266 広島県神辺町桑田織物工場歌」	
空の兵隊さん	光る光る 銀のはね／アレアレ三台、又三台	㊸	12		初、三、四年
大津野国民学校々歌	郷頭山の空高く／輝く朝日は、をしふなり	㊸	14	目次の標題は「大津野、校歌(第二稿)」。「[P.2の改作]」と注記	
幼年ニコニコピンピン	オ日サマ、キラキラ(ヨイテンキ)／カゼハ、ソヨソヨ、(ヨイキモチ)	㊸	16	目次の標題は「幼年ニコピン」	ウタトヲドリノホン(巻一)
ブルルンブルルン	朝は毎朝、はやくから／ブルルンブルルン	㊸	17		
松山市／私立、新田中学校々歌	永劫 不動の高縄山は／かたるか、忠烈	㊸	18	目次の標題は「267 松山、新田中学校歌」	
海の古戦場	風は吹かぬに、うねりは高く／しきりに砕くる波がしら、	㊸	20		
軍用道路(改作)	大きな貨物を (積上げた)／軍用貨物自動車、後から後から、続いて	㊸	26	「(十七年、P.34の改作)」と注記	
海軍記念日	空は青々 はれてるに／波のうねりの高かった	㊸	28	掲載紙誌の切抜貼付	少国民新聞 十八年五月二十六日
うねりの歌	大空高く、雲もなく／風さへなきに波さわぎ	㊸	30	「(次頁へ、改作P.32)」と注記	放送局 国民合唱
うねりの歌	御空は晴れて 風なきに／波のさわぎで、荒るゝ海。	㊸	32	目次の標題は「全上」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
田辺尚雄先生／華甲祝歌／大東亜和楽	清らに、ほがらに、昇る日に／御空も、大地も、海原も	㊥	34	目次の標題は「268 田辺尚雄先生華甲祝歌」	田辺先生還暦記念「東亜音楽論叢」掲載
トンビ	ピーン ヒヨロロー ヒヨロロー／ニツボンバレノ アラソラデ	㊥	36		
地下鉄電車	ゴーゴー、シャーシャー 地下鉄電車、／走つても走つても、トンネルばかり	㊥	37		
ウサチヤン	ウサチヤン、ウサチヤン、ヲカシイナ。／オメメハ、ドチラモ、ナゼアカイ。	㊥	38		
戦捷記念のゴム毬	新しいまり、ゴムのまり／久しぶりです、はづむまり	㊥	39	目次の標題は「戦捷記念のゴムまり」	
龍宮踊(その一)	龍宮中のおさかなが／ひらめ[や][と]鯛を、まん中に、	㊥	40	目次の標題は「龍宮をどり(一)」	
[その二]	タンララ、ヒンララ、龍宮踊／鯛も、ひらめも、上手なをどり	㊥	40	目次の標題は「Ⅱ(二)」	
島根県立／江津工業学校々歌	旭光燦たる星高山と／われらの学舎理想は崇し	㊥	42	目次の標題は「269 島根県江津工業学校々歌」	
朝鮮忠清北道／忠州公立中学校々歌	南山麓の旭光に／仰ぐは、ほこりの日章旗、	㊥	44	目次の標題は「270 朝鮮、忠州中学校々歌」	
福山市／手城国民学校々歌	天当山の風清く、／朝日輝く日の御旗、	㊥	46	目次の標題は「271 福山手城国民学校々歌」	
悼吾子自爆	燃ゆる機に焰となりて自爆せし吾子／を思ひて真夏たへをり	㊥	48	短歌20首	
松の木応召	応召してゆく太い松、／「応召」の二字、太い文字。	㊥	52		
石つころの相談	不思議に目につく、足もとの小石、／でこぼこ小道は、石つころ小道	㊥	53	目次の標題は「石つころ」	
砂利のみち	毎朝急ぐ、砂利のみち／駅まで一キロほどのみち	㊥	54		
じゅんめんのりまき	じゅんめんのりまき 久しぶり／海苔の句で ございます。	㊥	56		
お縁日	おうちのすぐそば三丁目／おえんま様のおえん日	㊥	58	目次の標題は「おゑん日」	
インチキ富士山	大きなお池をほつた土／もり上げもり上げ出来た山	㊥	60		
日本製靴株式会社々歌	朝日照り映え、玲瓏の／[神山][霊峯]富士と、いや高き	㊥	62	目次の標題は「272 日本製靴会社々歌(添作)」	
北海道／樫保炭礦之歌	山は三富士、そゝりぞ立てる／海はオホツク、遙けき波路	㊥	64	目次の標題は「273 樫保炭鉱之歌(Ⅱ)」	
満洲国錦州省阜新市／阜新海州在満国民学校々歌	あまねくも、天地を／てらし昇る朝日、	㊥	68	目次の標題は「274 満洲阜新海州在満国民学校々歌」。「P. 90に改作」と注記	
尾道市／市立高女校歌(尾道市栗原町)	朝日夕日に、明るくも／海路陸路のたよりよく	㊥	70	目次の標題は「275 尾道市立高女校歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
山形県北村山郡／宮沢村／国民学校校々歌	晴れて明るき大空に／月山仰ぎで徳を磨き	㊥	72	目次の標題は「276 山形県宮沢村国民学校歌」	
東京府立／神代高女校歌	朝[日][な]夕[日][な]に聳えたち／正しき姿も動かさる	㊥	74	目次の標題は「277 東京府神代高女校歌」	
県立／和歌山中学校々歌	日夜不断の希望の歩、／邁進つづくる紀の清流に	㊥	76	目次の標題は「278 和歌山中学校々歌」。「P. 84に改作」と注記	
殊勲甲	ほまれなり、殊勲甲とはかたじけな吾子／にたまひし上なきほまれ	㊥	78	短歌9首	
神戸市／私立、六甲中学校歌	旭光燦然 雲に映え／朝風きよ[し][き]、伯母野[台][山]。	㊥	80	目次の標題は「279 神戸六甲中学校々歌」	
京城府／京城師範学校々歌	日毎 わが進む 教の道に／光とあふぐ 大みことのり。	㊥	82	目次の標題は「280 京城師範学校々歌」	
和歌山中学校々歌	日夜不断の希望(のぞみ)の歩、／邁進つづくる紀の清流に	㊥	84	「P. 76の改作」と注記	
北の護り	[旭をあびては][東に向いては] 宮城を／[東に][毎朝]拝んで思ひます	㊥	86		放送協会(麴町区内幸町)音楽部(三枝健剛)
日本太郎の歌	日本、島国、海の国／太平洋に、広々と	㊥	88	目次の標題は「日本太郎のうた」	
満洲／阜新海州在満国民学校々歌	あまねくも、天地を 照し昇る朝日。／皇御国の久遠の姿、	㊥	90	「[P. 68の改作]」と注記	
清水市／岡国民校々歌	朝日さしそふ神山富士の／雪は、久遠に、気高く、はえて、	㊥	92	目次の標題は「162 清水市 岡国民校々歌(第十七冊／昭和十一年の改作)」と注記	
広島県上下町、県立上下農学校	雛鵬丘(ひなどりをか)に風すみて／旭かがやく翁山(おきなやま)。	㊥	94	目次の標題は「No.281 広島県立上下農学校々歌」。「(P. 110に清書改作)」と注記	
東京都北多摩郡大和村／大和国民学校々歌	朝日夕日に、霞に、雲に 清く正しく、聳えて笑まふ	㊥	96	目次の標題は「282 東京都大和国民学校々歌」。「P. 106 改作」と注記	
東京厚生女子専門学校々歌	御民われ、生けるしるしのちかひもて、／八紘為宇のみことのり	㊥	98	目次の標題は「283 東京厚生女子専門学校々歌」。「P. 102 清書」と注記	
起てり大日本	東に国あり 大日本／日の本の国、神の国、	㊥	100		
東京女子厚生専門学校々歌	御民われ／生ける験(しるし)の誓もて、	㊥	102	「P. 98ヨリ」と注記	
今こそ	今こそ われらの起つ時ぞ／南に、北に、聞えずや	㊥	104		
大和国民学校々歌	武蔵大野に、天地に、／光(を)みたして、昇る陽あびて、	㊥	106	「(P. 96改作)」と注記。(高等科モアリ)	
福岡第一師範校歌	天つ日を／あびては 目ざめ、栄えゆく	㊥	108	目次の標題は「284 福岡第一師範校歌」。「P. 114に改作」と注記	
広島県立／上下農学校々歌	雛鵬丘に風すみて、／朝日かがやく翁山。	㊥	110	「P. 94ヨリ」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
福山市立高女校歌	日毎新たに陽をあびて／昔忘れず、 (身も霊も)	㊥	112	目次の標題は「285 福山市立高女校歌」	
福岡第一師範校歌(改 作)	天津日を、あびては、目ざめ栄えゆ く／世界をひきゐ、新しく		114	「P.108ヨリ」と注記	
広島県立／神辺農学 校々歌	日夜休まず注ぎゆく／高やの流にち かふなり。	㊥	116	目次の標題は「286 神辺農学校々歌」	
日紡東航社歌	朝風清き碧空に／へんぼん高し、日 章旗	㊥	118	目次の標題は「287 日紡東航社歌」。大日 本紡績東京航空機工場	
日紡東航女子寄宿舎／ 洗心寮々歌	豊けき流、一すぢに／まことの歩、 [ひたすらに][ましぐらに]	㊥	120	目次の標題は「288 同 洗心寮々歌」	
日紡東航／自彊寮々歌	谷間を野原をましくらに／日夜不断 の旅ゆ[きて][くや][くに]	㊥	122	目次の標題は「289 同 自彊寮々歌」	
丘、靖国神社臨時大祭 として、第六十四回目 に合祀せらる	いと静かにいと厳かに靖国の神まつ り／せさず戦争(いくさ)の[真 中][さなか]に	㊥	124	目次の標題は「和歌一 靖国神社臨時大祭 (一)」。短歌21首	
天皇陛下／皇后陛下 御親拝	御車を迎へまつると、神鳩[も][は] よろこび／よろこび低く舞ひ舞ふ	㊥	128	目次の標題は「〃 (二)」。短歌29首	
群馬県／高崎市 佐藤 高等技芸女学校	木の葉、岩根をくぐりつゝ／はざま を縫ひて、楽しくも	㊥	134	目次の標題は「290 高崎市佐藤高等技芸女 学校々歌」	
東京都立／第五商業、 国立工業学校々歌	朝日に映えて、らんまん／万朶の 桜、春うらら、	㊥	136	目次の標題は「291 東京都立第五商業国立 工業校歌」	
福山市盈進工業学校々 歌	眼四海に放ちては／偉容儼たり、 熊ヶ峯	㊥	138	目次の標題は「292 福山盈進工業学校々 歌」。「(No.145 盈進 商業、校歌改作)」と 注記	
英米撃滅の歌(その一)	討ち滅さないでおくものか、／お日 様[出ない][照らぬ]日はないと、	㊥	140	目次の標題は「英米撃 滅の歌 一」	京城放送協会
米英撃滅の歌(その二)	討たておくべきや、イギリスを／さ まで昔にあらぬ時、	㊥	142	目次の標題は「英米撃 滅の歌 二」	

◆ 創作ノート㊥(昭和20年～24年)

新潟市立上所島中学 校々歌	百川集へて、水豊満に／躍進続ける 久遠の流。	㊥	0	目次の標題は「No.293 新潟市立上所島中学 校々歌」。「P.8に改 作」と注記	
広島県呉市仁方町国民 学校々歌	旭に匂ふさくら花／かざす校章(し るし)ほこらしく	㊥	2	目次の標題は「No.294 呉市仁方町国民学校々 歌」	
東京都渋谷区／代々木 国民学校々歌	代々木の杜の朝日かげ／風は清ら に、気は澄みて	㊥	4	目次の標題は「No.295 東京都代々木国民学 校々歌」	
高橋家の初孫、勝子と 命名	大東亜みちびき進む御軍の勝／つゞ く日の高き産声	㊥	6	目次の標題は「高橋家 の初孫」。短歌8首	
市／立 新潟中学校々 歌	百川集へて、水洋々と／躍進つゞく る久遠の流、		8A	目次の標題は「全上 改作」。「(P.1の改 作)」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
満洲富士綿株式会社々歌	高く 貴く 天地の／分れし時ゆ、 神さびて	㊦	8C	目次の標題は「No.296 満洲富士綿社歌」	
昭和二十年二月二十四 日夜七時、神田末広町 にて、博士阪本恒雄国 手、米鬼B29の爆風に あひて、無傷なり	助け来し人の命の千よろづが、おの が／一つの命すくひし	㊦	10	目次の標題は「阪本博 士の命拾」。短歌8首	
神辺町青年団々歌	明けゆく天地にあまねく新らしく／ 輝く光、もゆる熱	㊦	14	目次の標題は「No.297 広島県神辺町青年団々 歌」。印刷物の貼付	
紅葉は花ではないんだ よ(孫ヒデ子の所謂よ り)	紅葉は、花ではないんだよ／きれい できれいで、まつかでも、	㊦	16	目次の標題は「紅葉は 花ではないんだよ」	
お母様(その一)	おそばにみると、どうしてか、／い つでもおうち[が][は] 温かい	㊦	18		
(その二)	朝早くから、イソイソと、／夜おそ くまで、イソイソと、	㊦	18		新日本保育 二十一 年四月号
(その三)	母さま、いつでも／一人でせつせと	㊦	19		
神辺町女子青年団々歌	真澄の空に、大日輪の／久遠の光、 みたしては	㊦	20	目次の標題は「No.298 広島県神辺町女子青年 団々歌」	
広島県深安郡／御野村 女子青年団々歌	日毎 緑の色 映えて／松の操ぞ ときはなる	㊦	22	目次の標題は「No.299 広島県御野村女子青年 団歌」	
広島県芦品郡／大正村 国民学校々歌	[うまず][日夜]たゆまず 誠の歩、 ／競ふも楽しき流にて、	㊦	24	目次の標題は「No.300 広島県大正村国民学 校々歌」。「P.44改 作」と注記	
芦品郡駅家村／万上青 年会々歌	朝日夕日に不動の姿、／峻嶺、蛇 園、仰ぎては	㊦	26	目次の標題は「No.301 広島県万上青年会々 歌」	
至誠塾理事長／出原靖 太氏弔歌	風の流に冷えゆく涙／ぬぐふにすべ なきこの秋、この日、	㊦	28	目次の標題は「No.302 至誠塾主、出原靖太郎 弔歌」	昭和二十一年十月八 日執行 葬儀式場に て斉唱
鈴木賢吾氏によせて／ 今の日本・今の府中	今の日本ほど、よき生き方をしたい と、誰も／が念願してをる時は、恐 らく、古来	㊦	30	目次の標題は「今の日 本・今の府中」	
三原市々歌(当選歌の 補作)	朝日に映ゆる桜山／瀬戸内海のまほ 片ほ	㊦	32	目次の標題は「三原 市々歌(補作)」	
瀬戸内海の新春	ほのほのと、夜霧のはれて、／う らゝかに、あけはなれゆく	㊦	34		
今の日本・今の福山	今の日本ほど、よき生き方をしたい と、誰もが念願してをる時は、恐ら く古来、無／かつたかと案ぜられ る。それほど今の日本は、どの方面 も、不安と焦慮と、闊躍にさへ	㊦	36	昭和21年12月22日開催 の「音楽を家庭で楽し む集ひ」(鈴木賢吾一 家)のプログラムへの 献辞。印刷物の切抜貼 付	
ほほえみ会によす	ほほえみ会一神辺中心の音楽愛好若 人たちのほほえみ会一が、この度、 まづ音楽を通／じて、心からなるほ ほえみを、大方へ、お分ちし、御伝 へしようといふ。	㊦	37	昭和22年1月18日開催 の「第一回郷土音楽 会」(神辺国民学校講 堂にて開催)のプログ ラムへの献辞。印刷物 の貼付	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
黎明(あけぼの)の曲	ほのかに明るく大天地(おゝあめつち)の／いづかたよりか、	㊦	38	目次の標題は「No.303 黎明の曲」。印刷物の貼付	二十二年四月二十七日、東京・東宝小劇場にて初演
広島県深安郡／大津野小学校々歌(改作)	郷頭山の空高く／輝く朝日は教ふなり、	㊦	40	目次の標題は「大津野小学校々歌(改作)」	
ペンピンパン	富士山の絵に、「フジサン」と／ペンで、はつきり、かいた文字、	㊦	42		
広島県／大正小学校々歌(改作)	日夜たゆまず 誠の歩、／競ふも楽しき流にて。	㊦	44	目次の標題は「大正小学校々歌(改作)」。「P.24ヨリ」と注記	
大分県立／臼杵中学校々歌	虚空に巍然、鎮南の／高峯、永劫、さとすらく	㊦	46	目次の標題は「No.304 大分県臼杵中学校々歌」。「P.66に改作」と注記	
雀鈴なり	鈴なりに、／よく熟してた赤い柿	㊦	48	目次の標題は「雀雀なり」。「(昭和十五年一P.123の改作)」と注記	
柿	あのえだ、そのえだ／かき、かき、すずなり。	㊦	50		
盆踊りうた／八尋小町	備後 八尋は よいところ／春よし、夏よし、いつもよし、	㊦	51	目次の標題は「盆踊唄一八尋小町」	
(改作)大分県立／臼杵中学校々歌	御空に聳え鎮南の／高峰さとすやとこしへに、		66	目次の標題は「臼杵中学校々歌(改作)」。「(P.46ヨリ)」と注記。印刷物の貼付	
岡山県小田郡／大江村青年団体育大会／第一支部応援歌	黄金花咲くきびの空／一きは高く、気は澄みて	㊦	68	目次の標題は「岡山県大江村青年団第一支部応援歌」	
神辺農学校々歌—改作	日夜休まず 注ぎ行く／高屋の流れ [に][と] [ちか][きそ]ふなり。	㊦	72	目次の標題は「広島県神辺農学校々歌(改作)」。「(昭和十九年原作)」と注記	
広島県佐伯郡／津田農学校々歌	明暮仰ぐ勝成の／峯にたぐへて高きは理想	㊦	74	目次の標題は「No.305 広島県津田農学校々歌」	
広島県御調郡因ノ島／中庄中学校々歌	とはに不動の青影(山)に／崇き理想をたぐえつつ	㊦	76	目次の標題は「No.306 広島県中庄中学校々歌」	
広島県神石郡／牧村立牧中学校々歌	朝日夕日に聳え立ち／松の濃緑弥栄え	㊦	78	目次の標題は「No.307 広島県牧中学校々歌」	
市立新潟中学校々歌	百川集えて、水洋々と／躍進つづくる久遠の流、	㊦	80	目次の標題は「新潟市立高等学校々歌(改作)」。「(P.8Aの改作)」と注記	
広島県芦品郡新市町／至誠学園、至誠音頭／四誓音頭	いつもびんびん、はね出すほどに／手足に、心に、力わき	㊦	82	目次の標題は「No.308 至誠学園四誓音頭」	
東京都北多摩郡／東村山町立／化成小学校々歌	武蔵大野の朝ぼらけ／霊峰富士を仰ぎては	㊦	88	目次の標題は「No.309 東京都東村山町立化成小学校々歌」	
広島県芦品郡／至誠学園々歌	よろづの花に さきがけ咲きて／色香も めでたき 白梅紅梅、	㊦	90	目次の標題は「No.310 広島県至誠学園々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
至誠小唄(春のうた)	春が来た来た、至誠の[園][学舎] に、胸にも開くは 何の花、	26	92	目次の標題は「至誠小唄(トトテン節)」	
あひるの子	ならんで うかんだ あひるの子/ 一羽が くるり、じやぶじやぶ と、	26	97	「昭和十五年の26「あひるのじやぶじやぶ」改作」と注記	「銀の鈴」へ
はつばがちつた	はつばがちつた、どつちからちつた	26	98	「(15年の改作)」と注記	「銀の鈴」へ
円い音	お月さま円い お山も円い/円いお山で、円い音	26	99	「(十五年の改作)」と注記	
みなと	おふね おふね/大きいおふね	26	100		プレイメート六月号
広島県芦品郡/府中西校々歌	朝日あまねき片山に/わが学舎ぞ輝やける	26	102A	目次の標題は「311府中西小学校々歌」	
谷	右も山山山山、山つゞき/左も山山山山、山つゞき	26	102C		
うねくね谷	お山が右から左から/はさんだ谷間の白いみち	26	104		
久留島武彦先生/童話生活五十年讃歌	むかしむかしのおはなしを/はなしはなして、五十年	26	105	目次の標題は「久留島武彦先生童話五十年讃歌」	童話集「海に光る壺」に掲出
空(その一)A	高いな 広いな 大きいな/なんにも [さわる][じやまする]ものゝない	26	108	目次の標題は「空」	
空(その二)B	すみきつた大空/[青][秋]空、一ぱい うならせて	26	109		
東京/女子厚生専門学校々歌(改作)	あかつきを/つげて聖なる鐘の音に	26	110	目次の標題は「東京女子厚生専門学校(改作)」	
広島県御調郡向島西村/有道小学校々歌	とはにそびえてゆるぎなき/白方山の気高きを	26	112	目次の標題は「No.312 有道小学校」	
鐘供養のうた	鐘が鳴る/今ぞ新たに、	26	114	目次の標題は「No.313 鐘供養のうた」	
広島県御調郡/(因島)大浜中学校々歌	四時の眺を世にほこる/瀬戸内海のただ中	26	118	目次の標題は「No.314 広島県大浜中学校々歌」	
広島県世羅郡東大田村/大田中学校々歌	山幸 野幸 みちみちて/日ごと 栄ゆる わが郷土、	26	120	目次の標題は「No.315 広島県大田中学校々歌」	
広島市/大河小学校々歌	眺絵に似る瀬戸内海の/遠く七つの大海に	26	122	目次の標題は「No.316 広島市大河小学校々歌」	
広島県/世羅郡 東大田小学校	とはに聳ゆる新山に/高き理想をたぐえつゝ	26	124	目次の標題は「No.317 世羅郡東大田小学校々歌」	
高屋小唄	日にち、毎日、表に路次に/金のわく音、機音	26	126		
有磨小学校々歌	夜ひるやすまず、注ぎても/たゆまず、うまざる有地川	26	128	目次の標題は「No.318 芦品郡有磨小学校々歌」	
至誠学園中学三年生、四国旅行に、岡山より宇野線にのる。	さげかばん リュック、 トランク とりとりに、荷も/楽しげの修学旅行	26	130	目次の標題は「至誠学園修学旅行詠草」。短歌14首	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
広島県豊田郡／本郷高等学校々歌	朝日かがやく高山の／不動不易の巨巖(おゝいわ)に	②6	132A	目次の標題は「No.319 豊田郡本郷高等学校々歌」	
広島県芦品郡新市町／中央中学校々歌	谷川、野川 集えては／夜ひる、休まず注ぎては	②6	132C	目次の標題は「No.320 芦品郡新市町中央中学校々歌」	
◆ 創作ノート②7(昭和24年～33年)					
広島復興音頭 右改作	朝日まだ出ぬ 大広島にや／はやも高鳴る 槌の音	②7	3	目次の標題は「広島復興音頭補作」。掲載紙誌の切抜貼付	「文化ひろしま」(昭和24年7月10日号)
高屋小唄	日にち毎日、リズムも軽く／ソレ、ソレ、ヨイトナ、	②7	9	目次の標題は「高屋小唄」	
広島県／双三郡 三次町／三次小学校々歌	比熊の山の高きにも／低きよりこそ登るべく	②7	15	目次の標題は「広島県三次小学校々歌」。「次々に改作」と注記	
改作／三次小学校々歌	尾関の花と、年ごとに／きそふ心の美しさ	②7	17		
広島県／芦品郡 網引小学校々歌	とわにかはらず、蛇園山(ざん)／強く正しく聳えつゝ	②7	19	目次の標題は「広島県網引小学校々歌」	
広島県／沼隈郡 松永町々歌	路次にちまたに、工場に／唸るモーター、のこの音。	②7	23	目次の標題は「広島県松永町々歌」	
竹尋音頭	竹田上下、八尋と組んで／昔ながらに平和な郷土よ	②7	29	目次の標題は「広島県竹尋音頭」。掲載紙誌の切抜貼付	
広島県西福寺／神辺町いろは保育所の歌	いろはのいの字は、いい子のいの字／ことばもぎようぎも みないい子	②7	37	目次の標題は「広島県神辺いろは保育所々歌」。「【次頁に改作】」と注記	
右、改作	いろはのいのじは、いい子のいのじ／ことばのぎようぎも みないい子	②7	39		
三次小学校々歌	尾関の花と、年毎に／きそう心の美しくしさ	②7	41	「P.17の改作、(次頁に又改作)」と注記	
三次小学校々歌	尾関の花と、年毎に／きそうか、心の美しさ	②7	43	「改作第三回」と注記	
竹尋小学校々歌	朝日に映えて聳え立つ／権現山の朝ぼらけ	②7	47	目次の標題は「広島県竹尋校々歌—改作」。「(往年の東安校々歌改作)」と注記	
東京都文京区／東京学芸大学竹早分校／附属中学校々歌	大空高[く][き]富士の嶺の／朝日に、夕日に 照りはえて	②7	51	目次の標題は「東京学芸大学竹早附属中学校」。「次頁に改作」と注記	
右改作	大空高[く][き] 富士の嶺を／朝日に、夕日に 仰ぎては	②7	53	前項「東京学芸大学竹早分校／附属中学校々歌」の改作	
[右清書]	大空高き 富士の嶺を／朝日に 夕日に 仰ぎては	②7	55	前項の清書	
広島県／高田郡／吉田高等学校々歌	躍進[やすまぬ][うむなき]可愛川も／希望に勇む 可愛川も	②7	57	目次の標題は「広島県吉田高等学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
大阪市東淀川区相川町 ／大阪学園高等学校々 歌	日に夜に、不断に、大海へ／希望の 旅路(を)、[ましくら][一すぢ]に	㊹	63	目次の標題は「大阪学 園高等学校々歌」。 「P. 101へ改作」と注 記	
桑原会復活第一回演奏 会によす	文化国家ニツボン再建の曙光、ほの かながら、／たしかに輝きそめて迎 えたこの年二月、今日五日、	㊹	65	目次の標題は「桑原会 へ」。「東京、目白 徳川義親侯邸内」	
呉市／片山小学校々歌	よるひる休まずたゆみなく／先をゆ づりて、低きにつきて、	㊹	69		
ジュニア中国制定／新 こども唄	朝だ、夜明だ、日が昇る／日本中 に、キラキラと	㊹	75	目次の標題は「ジュニ ア中国「日本の子 供」」。掲載	(中国新聞社からの依 頼を受けて)
福山市川口小学校々歌 改作	大天地を照らして昇る／朝日の如く さわやかに	㊹	87		
広島県／音戸高等学 校々歌	とわに絵の如うるわしき／[この海 この陸(おか)][郷土の弥栄]ほこ[ら しく][りては]	㊹	89	目次の標題は「音戸高 等学校々歌」	
安芸郡／矢野町 矢野中 学校々歌	朝日夕日に、聳え立ち／目路いと広 き野間城は	㊹	95	目次の標題は「矢野中 学校々歌」	
広島県／深安郡 御野小 学校々歌	稚松 姫松 色映えて／栄行く郷土 (さと)のしるしぞと	㊹	99	目次の標題は「御野小 学校々歌(修正)」。 「P. 183に改作」と注 記	
大阪学園高等学校々歌	夜昼倦まず大海へ／自由の歩もまし ぐらに	㊹	101	目次の標題は「大阪学 園高等学校々歌(修 正)」。「P. 63ヨリ改 作」	
岡山県小田郡／大江村 ／明星寺のうねり松に 名づけていこいの松と いふ。	明郷の峯に昇るや朝彦のまづ照らし ／見るこれの寺松	㊹	103	目次の標題は「大江村 明星寺の松」。短歌25 首、「いこいの松」に ついての随筆2編	
明石市明石局区内／市 立播陽幼稚園	ゆく舟 くる舟 広い海／小さいお 舟[も][の] 元気よく	㊹	115	目次の標題は「明石幡 陽幼稚園々歌」	
放送用短文／初夏の備 南より		㊹	119	標題のみ記載	ラジオ絵葉書BK(五月 十三日／六月五日放 送)
放送用短文／備南の夏		㊹	119	標題のみ記載	季節の声(六月二十四 日午前七時十五分よ り十三分間)
広島県／芦品郡 府中町 ／府中高等学校々歌	谷間のせゝらぎ、野の小川／協せに 協せて、流れ来て	㊹	121	目次の標題は「府中高 等学校々歌」。「(次 に改作)」と注記	
右、改作	谷間のせゝらぎ、野の小川／合せに 合せて旅ゆくに	㊹	123		
福山市立／東中学校々 歌	朝日夕日にうるわしく／とわに正し く聳[ゆるを][えたち]	㊹	125	目次の標題は「福山東 中学校々歌」	
右改作(福山東中学 校々歌)	朝日夕日にうるわしく／とわに正し く聳ゆるを	㊹	127		
御調郡／市村 東部中 学校々歌	力を心を協せに協せ／谷川 野川、 集いに集い	㊹	131	目次の標題は「御調郡 市村東部中学校々歌」	
広島県／御調郡 市(イ チ)高等学校々歌	朝日夕日に、風雪に／とわに、不動 に、明朗に	㊹	135		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
象さん	象さん 太いね じまんだね／四本のあ[んよ][し]が、柱のようね	㊴	139		弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
縄とび(A)	なわとび、なわとび ピョーン、ピョーン／大波小波、とびこえとびこえ	㊴	141		弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
縄とび(B)	一だん、二だん、三だん 四だん／並んだみんなが、次々とんで	㊴	142		弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
お友だち(一年一学期)	がつこうの お友だち／おゝぜいでうれしいな	㊴	143	目次の標題は「お友だち」	弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
お手つだい(二年二学期)	稲刈、々々、日本晴／村は総出の忙しさ	㊴	144	目次の標題は「お手つだい」	弘田龍太郎氏編「小学唱歌新作」(東京書籍)
一寸法師	一寸法師のおわんのおふね／おはしのかいで川のぼり	㊴	145		
象さん	象さん おはなが手のようね／おはなのさきで 拾っては	㊴	146	「P. 140の改作」と注記	
広島県三川局区内／世羅郡三東中学校々歌	せせらぎ小川を谷間に野[辺][原]に／集えてきよき芦田の流。	㊴	147	目次の標題は「三東中学校々歌」	
車の後押し	エンサカ、ウンサカ、エンサカ、ウンサカ、／車の後押し、こんな坂、なんだ坂	㊴	151	「(別作P. 167)」と注記	
もみずり機	まわるベルトだ、モートルだ／馬力のかゝつた、もみずりき	㊴	152	目次の標題は「もみずり機」	
一ねんせい(A)	うれしいうれしい一年生／毎日、[うれしや学校][学校、おきまり]で	㊴	153	目次の標題は「一ねんせい」	
一ねんせい(B)	一年生、一年生／仲よし小よしのお友だち	㊴	154	「P. 169改作」と注記	
つよい子よい子	体も丈夫[で][な]、元気な子／[誰とも][皆と]仲よし、すなおな子	㊴	155		
夏やすみ	夏がきて、今にくる夏やすみ／毎日楽しい[お休みつゞき][夏休み][長休み]	㊴	156	「P. 171に改作」と注記	
球入れ	赤組、手に手に、赤い球／とりまく赤い竿	㊴	157		
おもちつき	もう[すぐ][ちき]来ます お正月／うちでも[みんなで][楽しい]おもちつき	㊴	158		
ひなまつり	みごとな りつばな だいらさま／きれいに かざつて ひなまつり	㊴	159	「P. 170に改作」と注記	
もうすぐ二年生	もうすぐ[ぼくたち][わたしら][みんなが]二年生／おもしろかつたー	㊴	160		
海	ひろく、とおく、つゞく、つゞく。／海[が][と]、海[に][と]、つゞく、つゞく	㊴	161	「二年用」と注記	
ゆうびん屋さん	今日ももう来た おやつ時[急ぎ足][ニコニコと]／手紙をくばつて、はがきをくばつて	㊴	162		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
サンタクローズ	チロン、カララン、遠い音／雪ぞりすべらせ 大急ぎ	㊴	163	「P. 168短かくして」と注記	
まりつき	手まり、てんまり、てんとてんとん。／身軽に、気軽に、はづむまり	㊴	164		
雪だるま	雪だ、雪だ、大雪だ／夜の間につんでた大雪だ。	㊴	165		
車の後押し	皆来い、とんで来い、こいこい、すぐこい／どこかの をぢさん 荷車ひつばつて	㊴	167	「別作 P. 151、改作— P. 179」と注記	
サンタクローズ	チロン、カララン、遠い音／雪ぞりすべらせ、[年(に)一度][大急ぎ]	㊴	168	「P. 163の改作」と注記	
一年生	うれしいうれしい一年生／友だち大ぜい仲よし小よし	㊴	169	「P. 153の改作」と注記	
ひなまつり	ひなだん きれいな たいりさま／いろいろ かざつたお人形	㊴	170	「P. 159の改作」と注記	
夏やすみ	今に来る来る夏休み／ことしも行きます、水泳[ぎ][に]	㊴	171	「P. 156の改作」と注記	
春の遠足(A)	青々波うつ麦ばたけ／菜花畠も そこここに	㊴	172		
春の遠足(B)	今日こそ、[今日こそ][まつた]遠足 々々／肩には、すみとう、おべんとう	㊴	173		
お誕生会	△△さん、[今日は][△△さん]おめでとう／△年前の今日[こそは][です]ね]	㊴	176	「三年」と注記	
ボート	こげこげ、ボート、／両手を しつかり はなすな オール	㊴	177		
ぞうのじまん	[ぞうさんぞうさん、じまんだね][ぞうのじまんだ、大じまん]／目[が][は]ポツチリと小さく[て][ても]	㊴	178		
車の後押し	皆来い 皆来い、すぐ来い来い／どこかのおじさん荷車ひつばつて	㊴	179	「P. 167の改作」と注記	
広島県／芦品郡 栗生小学校々歌	明暮親しみ仰ぎ見る／南宮山はとこしえに	㊴	181	目次の標題は「栗生小学校々歌」	
広島県／御野小学校々歌(改作)	若松姫松色まして／郷土(さと)の栄ゆるしるしぞと	㊴	183	目次の標題は「御野小学校々歌(改作)」	
島根県立／江津工業高等学校々歌(修正)	旭光燦たる星高山と／我等の学舎、理想は崇し。	㊴	185	目次の標題は「江津工業高等校歌(改作)」	
高知県香美郡(山北局区内)／組合立大忍(オホサト)中学校々歌	朝日に 夕日に 雨風に／不動の姿とこしえに	㊴	187	目次の標題は「大忍中学校々歌」	
広島県御調郡因ノ島／田熊小学校々歌	来る日も、来る日も つどひ来て／朝は とくより、日暮まで	㊴	193	目次の標題は「No.342 田熊小学校々歌」	
[右、清書]／田熊小学校々歌	来る日も 来る日も 集い来て／朝は とくより 日暮まで	㊴	195		
楽の音	楽の音は小鳥に、虫に、風に、また絃なき／胸の小琴にぞきく	㊴	197	目次の標題は「和歌、楽の音」。短歌3首	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
藤野綿業株式会社々歌	高く 貴く 天地の／わかれし時 ゆ、神さびて	㊿	199	「(満洲綿業の改作 昭和二十年原作)」と 注記	
石川五右衛門	旅の役者で賑やかな／村の祭の芝居 小屋	㊿	201		
砂川土手のそば畠	砂川土手路草の路、／草をむしつ て、砂ほつて	㊿	203		
影とスタコラ	駅まで[一キロ][真西へ]田圃みち／ 毎朝 後に、日が昇り	㊿	205		
南備後は機織どころ	南備後は機織どころ／福塩線の どの 駅の	㊿	207	目次の標題は「備後南 部は」。掲載紙誌の切 抜貼付	中国朝報 昭和28年1 月1日
広島県／沼隈郡 柳津 (やないづ)小学校々歌	雨[の日][にも] 風[の日][にも]、 [かわる][動きなく][そびえたち]／ [すがた][とわに] 雄々しく、気高 くも	㊿	209	目次の標題は「No.343 柳津小学校々歌」。 「P.219に改作」と注 記	
尾道西高等学校々歌	海路に、陸路に、玉の浦／年毎 栄 ゆく よろこびて	㊿	211		
広島県／御調郡 田熊中 学校々歌	朝日夕日に、緑こく／永劫の姿の、 気高く、美しく	㊿	213	目次の標題は「田熊中 学校々歌」	
広島県／沼隈郡 水呑中 学校々歌	朝日に映えて、晴々と／目路いと広 く、眼を放ち、	㊿	215	目次の標題は「No.346 水呑中学校々歌」	
改作 広島県柳津小学 校々歌	雨にも、風にも、そびえたち、／明 暮、かわらずしめさずや	㊿	219	「(二〇九頁ヨリ)」と 注記	
広島県芦品郡／戸手小 学校々歌	谷川野川を協せては／おのれのみち をば一すぢに	㊿	221	目次の標題は「戸手小 学校々歌」。「(次頁 へ改作)」と注記	
右改作	谷間や野中のいささ小川／協せて、 元気に、夜も昼も	㊿	223		
岡山県後月郡／青野小 学校々歌	朝日てりそう 穴尾山／雨にも風にも もふぶきにも	㊿	227	目次の標題は「青野小 学校々歌」	
福山市御門町／ドレス メーカー女学院／晴華 学園々歌	谷川、野川を一すじに／努めてあわ せて芦田川	㊿	231	目次の標題は「福山ド レスメーカー女学院々 歌」	
神石郡／来見中学校々 歌	とわに動かさずゆるぎなく／高丸山の 聳えたち	㊿	233	目次の標題は「No.350 来見中学校々歌」	
岡山県児島局区内(味 野(アジノ)町)／児島 海員養成所々歌	大槌堅場もほゝえみて／つらなり つらなる島々と、	㊿	235	目次の標題は「岡山 県、児島海員養成所々 歌」	
三原市／第三中学校々 歌	谷川野川を集え来て／沼田の大川た ゆみなく	㊿	237	目次の標題は「三原三 中校歌」	
福山市警察の歌	日毎栄ゆく文化都市／香も高き福山 [に][の]	㊿	239	目次の標題は「福山市 警のうた」	
吉田晴風君／追悼演奏 会へ電送	晴れやかに、／天つ御苑(みその)の 楽の音を	㊿	241	目次の標題は「故吉田 晴風君追悼」	
至誠学園／鐘の銘	風に風音 瀬に瀬音／鐘に鐘の音 面白や	㊿	242	目次の標題は「至誠の 鐘」	
日の丸のはた	朝日朝風 日本晴／日の丸のはた美 しや	㊿	243		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
広島県深安郡／市村青年団々歌	朝日(あさひ)あびては雄叫ぶや／永劫不動の蔵王山	㊹	245	目次の標題は「No.354 市村青年団歌」。「P. 251 改作」と注記	
京都市歌	山は紫 水きよら／人も巷もうるわしく	㊹	247		
同	日毎新に かゞやかに／日の出づる国 日本に	㊹	249	前項の「京都市歌」の別作品か	
市村青年団歌	朝日 あびては雄叫ぶや／永劫不動の蔵王山	㊹	251	「(P. 245の清書改作)」と注記	
雲雀の学校の校長さん	雲雀の学校の校長さん／お年を召してもお元気で	㊹	253		
広島県／呉阿賀高等学校々々歌	朝日に映えて聳えたつ／永劫不動の灰ヶ峯	㊹	255	目次の標題は「No.355 呉阿賀高校々々歌」	
文化窯のうた	文化の世の中、有がたや／炊事しながら、聞えるは	㊹	257		
追放解除を祝ううた／雲と富士山	雲にかくれた富士山が／時々 晴れ間に見えるたび	㊹	259	目次の標題は「追放解除(富士山と雲)」	
広島県沼隈郡／瀬戸村小唄	瀬戸はよいとこ、絵のような所、／山の緑に、色[そ][は]えて	㊹	260		
瀬戸村村歌	朝日に 夕日に聳え[ては][たち]／[尾根][峯]また[尾根][峯]の連なり	㊹	265	目次の標題は「No.356 瀬戸村々々歌」	
福山市霞銀座小唄	日毎ひろがる大福山の／まんまん中の新大通り	㊹	267	目次の標題は「福山、霞銀座音頭」	
福山東高校第一校歌(儀式用、荘重調)	うるわしの／備南の大地、野に山に	㊹	273	目次の標題は「No.357 福山東高校第一校歌」	
右、第二校歌(野外用、明朗調)	朝日に映えて気高くも／理想をしめすか、蔵王山	㊹	275	目次の標題は「No.358 右、第二校歌」	
右、第一校歌(清書)	うるわしの／備南の大地、野に山に	㊹	277		
広島県芦品郡／常金丸中学校々々歌	朝日に映えてとこしえに／不動の姿、気高くも	㊹	279	目次の標題は「No.359 常金丸中学校々々歌」	
世羅郡／西大田小学校々々歌	日毎 ほこりのしるしぞと／野幸 山幸、[いやます][さかゆる]郷土に	㊹	281	目次の標題は「No.360 西大田小学校々々歌」。「P. 287、P. 289 改作」と注記	
萩	糸萩 小萩 みだれ咲くを／ちらさず ゆすらず	㊹	283	目次の標題は「山の萩」	
山の萩	山路小径 通れぬほどに／したれて咲いて、きれいなつゆに	㊹	284	目次には標題の記載はない	
かげろう	どこまで こめてるあやがすみ／雲雀の、ひるのごはん時	㊹	285		
右、改作	近くの山もかすんで、／蝶が、頭で[眠つ][休ん]でる	㊹	286	前項「かげろう」の改作	
西大田小学校一第一案	野幸 山幸きわみなく／栄ゆるさとに、かざしては	㊹	287	目次の標題は「西大田校歌改作1」。「原作 P. 281」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
右、第二案	野幸 山幸 [つくる][きわみ]なく ／榮ゆる 郷土(さと)に、かざして は	㊹	289	目次の標題は「西大田 校歌改作2」	
電話	ヂリヂリヂリン、ヂリヂリヂリン／ それぞれ、電話、々々、すぐ出まし よ	㊹	291		
ひばり	今日も一にち、高い空で／金の鈴 を、誰が振るのか、	㊹	292		
むかしばなし	こわい顔の大男、弁慶が、弁慶が、 ／小さな小さな牛若に、牛若に、ま けた	㊹	293		
カナリヤ	小さな体で、大きなこえを／はりあ げ、はりあげ、カナリヤなくよ、	㊹	295		
ラツセル車	大雪、大雪、／シグナル柱を短かく 見せ見せ	㊹	296	目次の標題は「ラツセ ル機関車」	
青い鳥	どこかにどこかに、いる[でしよ か][のでしょう]／青い色した青い	㊹	297		
人形の国のお客さま	こどもが、みんなが おきやくさま ／おきゆうじやくは おにんきやう	㊹	299	目次の標題は「人形の お国のお客様」	キンダーブック 二 十七年三月号
わたしの花壇 (旧作)	きれいにさいたよ、私の花が、／ 紫、赤、白 桃いろ きいろ	㊹	300	目次の標題は「わたし の花壇」	
(新作)	毎日、おいしいお水を[やっ][かけ] て／[大事に][私が]そだてた[私 の][いろんな][花が][花だん]	㊹	300	前項「わたしの花壇」 の新作	
広島県神辺高等学校々 歌	清流高屋、只ひとすちに／自由の歩 は 正義をしめし	㊹	301	目次の標題は「No.361 神辺高校々歌」	
アンデルセンのお話	大雪[うづめた][つもつた][大寒] 夜[ふけ][なか]の[町で][軒端]、 売れない マツチを残らずたいて	㊹	303	目次の標題は「アンデ ルセンのお話(外曲に 合せて)」	
広島県佐伯郡(能美島) ／大柿高等学校／生徒 逍遥歌	緑に映ゆる能美島／瀬戸内海に、 [かげやどす][うるわしく]	㊹	305	目次の標題は「大柿高 校、生徒逍遥歌補 作」。「生徒原作、補 正／(P. 321ニ改作)」 と注記	
広島県神石郡／油木高 等学校々歌	天照らす日の光を熱を／あまねく注 ぎみたす如、	㊹	307	目次の標題は「No.362 油木高等学校々歌」	
広島県神石郡／油木中 学校々歌	権現山の朝夕に／雨風嵐も物かわと	㊹	309	目次の標題は「No.363 油木中学校々歌」	
盲人によせる言葉	私には盲人の仲よしが幾人もある。 皆、盲人たる事／を少しも悲しんで いない。私の祖父もそうであつたが	㊹	311	寄稿文の原稿	「点字毎日」新年号
教科書の中のうれしい 幼児童話	童話の中でも、本当に六／かしく て、本当に扱いにく	㊹	312	掲載紙誌切り抜き貼 付。目次の標題は「教 科書中の幼児童話」	
神奈川県足柄下郡／湯 河原小学校々歌	年ごと、春ごと、正しくも／よろづ の花に、さきがけて	㊹	313	目次の標題は「No.364 湯河原小学校々歌」	
日章旗	初春の旭を浴びて、へんぼんと翻る 日の丸／の旗、あゝ、日章旗。	㊹	315	掲載紙誌切り抜き貼付	中国朝報 新年初刷
一姫二姫三太郎	「一姫二姫三太郎」というのは／ 「一姫二太郎」という言葉から	㊹	316	掲載紙誌切り抜き貼付	中国新聞一月三日

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
おやすみ番組		㊸	317	NHKラジオの番組表の切抜貼付	
高知県香美(カミ)郡赤岡町／赤岡中学校々歌	真澄の空に、そびえたつ／秋葉の高嶺を、明暮仰ぎ	㊸	319	目次の標題は「No.365 高知県赤岡中学校々歌」	
広島県佐伯郡／大柿高校生徒道遥歌	早緑はゆる能美島／瀬戸内海に影やどし、	㊸	321	目次の標題は「大柿高校生徒道遥歌」	
陶山定人君に寄す	芸術は自然の子なりという、自然に生るゝ／もの、詩歌しかり、音楽しかり、絵画彫刻最も	㊸	323	目次の標題は「陶山定人君によす」	
みどり幼稚園々歌	明るい明るい日をあびて／どの木も、この木も、すくすくと	㊸	325	目次の標題は「No.366 東京、みどり幼稚園々歌」	
広島県神石郡／福永小学校々歌	昼間も、夜の間も、たゆみなく／まことの歩、一すぢに、	㊸	327	目次の標題は「No.367 広島県福永小学校々歌」	
広島県世羅郡／大見学園(大見中学校／大見小学校／徳市小学校)	谷川 野川を集えては／希望の海へたゆみなく	㊸	329	目次の標題は「No.368 広島県大見学園々歌」	
和歌山県伊都郡／隅田小学校々歌	谷のせゝらぎ、野の小川／集えて清き宮川の	㊸	331	目次の標題は「No.369 和歌山県隅田小学校々歌」	
祖父の日記	祖父の日記を孫が読む。祖父の／日記何十冊全部が明確な楷書体の	㊸	333	掲載紙誌切り抜き貼付	中国新聞 一日一想への寄稿(昭和27年7月5日)
中村孝也博士入院を慰めて	風の音も 小鳥のこえもかけ下の青葉かくれ／の家に、まちてあらん	㊸	335	目次の標題は「中村孝也博士入院慰問」。短歌3首	
御調郡／羽和泉小学校々歌	嵐 吹雪も たえしのぎ／芽ぐみ、伸びいで、しげりては	㊸	337	目次の標題は「370 広島県羽和泉小学校々歌」	
岡山県後月郡／芳井町婦人会々歌	流も清き小田川の／瀬音床しき、何の唄、	㊸	339	目次の標題は「371 岡山県芳井町婦人会々歌」	
広島県深安郡春日村／培遠中学校々歌	朝日夕日に笑みたちて／濃緑さかゆる蔵王山	㊸	343	目次の標題は「372 培遠中学校々歌」	
雨にぬれぬ法	「わたしがまだ十五歳のとき「絶／対に雨にぬれない法」という書物	㊸	345	掲載紙誌の切抜貼付	中国新聞「一日一想」(昭和27年9月24日)
池坊学園短期大学校歌	朝日に夕日に真澄の空に／黙し聳えて大比叡も、	㊸	347	目次の標題は「373 京都池坊大学校歌」	
天神の紅葉狩の帰途。笠岡／の国手の車にのせられし折	吾妹子と紅葉狩して自用車に只二人／なる家路も楽し	㊸	349	目次の標題は「天神の紅葉狩」。短歌4首	
広島県沼隈郡山南村熊野村組合立／至誠中学校々歌	真澄の空に聳えては／気高き姿、かわるなく	㊸	351	目次の標題は「374 至誠中学校々歌」	
呉市／阿賀小学校々歌	朝日夕日に 聳えたち／姿も正しく、動きなく	㊸	353	目次の標題は「375 呉市阿賀小学校々歌」	
広島県沼隈郡／浦崎小学校々歌	大空高くそびえたち／とわの姿のかわるなき	㊸	355	目次の標題は「376 浦崎小学校」。 「P. 367改作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
山野小唄	備後山野は 山幸野幸／川にや川幸 満ちみちて	㊹	357	目次の標題は「377 山野小唄」	
ニコピン志るこの讃	それ「ニコピン」はニコニコピンピ ンにして「平和円／満、進取活動」 なり。略してニコピンとこそ。人、 凡そ、	㊹	362	印刷物の貼付	福山とらや本舗謹製 「ニコピン志るこ」
広島県深安郡／市村婦 人会々歌	野辺に、山辺に、草も木も／嵐に、 霜に、雪にたえ、	㊹	363	目次の標題は「No.378 市村婦人会々歌」	
広島県沼隈郡山南村／ 沼南高等学校々歌	朝日に、夕日に 聳え起ち／しめす は、自立か剛健か	㊹	365	目次の標題は「No.379 沼南高校々歌」	
浦崎小学校々歌	大空高く 陽をあびて／とわに聳ゆ る龍王を	㊹	367	「P. 355の改作」と注 記	
広島県カモ郡／竹原中 学校々歌	朝日にはえて朝日山／さとすか、と わに、はれやかに	㊹	369	目次の標題は「No.380 竹原中学校々歌」	
児童詩というもの		㊹	371	標題のみ。目次には標 題の記載はない	「広島文学協会／編 集部 梶山季之」
広島ゴム・とんど祭の 踊りうた	備後福山 ゴム靴自慢／ツバメ印が 大じまん	㊹	372	目次の標題は「広島ゴ ムKK ソーラン節」	
本紙の創刊にあたり	わが至誠女子高校本科第／二期生の 卒業を機に、わが	㊹	375	掲載紙誌の切抜貼付。 目次には標題の記載は ない	至誠新聞No.1
気持のよい学校	初めての当校訪問者の誰／もが、い つでも、	㊹	376	掲載紙誌の切抜貼付。 目次には標題の記載は ない	至誠新聞No. II
女でもなかなかやるの う	先日の運動会を見て、某／高校の男 子生徒が、話し合	㊹	376	掲載紙誌の切抜貼付。 目次には標題の記載は ない	至誠新聞No. III
随筆 赤い屋根	新市町の相方部落の／中ではあるが ここ大平	㊹	378	掲載紙誌の切抜貼付。 目次には標題の記載は ない	新市町広報第29号 昭和28年2月15日
童話にも詩と科学とを	詩と科学とい／うより、詩的内	㊹	379	掲載紙誌の切抜貼付	朝日新聞社「朝日児 童文化」第1巻第4号 (昭和28年7月1日)
広島県／芦品郡／駅家 中学校々歌	朝夕 気高さ きそいつゝ／蛇園に つゞく 山なみも	㊹	381	目次の標題は「381 駅家中学校歌」	
東京都文京区西片町／ 文京第一幼稚園々歌	クルクル、クルクル風車、／いつ も、クルクル、うれしそう、	㊹	383	目次の標題は「382 東京文教第一幼稚園」	
広島県沼隈郡／本郷 (小学／中学) 学園校 歌	谷間のせゝらぎ 野の小川／集え協 せて、ましぐらに	㊹	385	目次の標題は「383 広島県沼隈本郷学園校 歌」	
広島大学三原分校／幼 稚園々歌	仲よし小よし、ならべたえがお／ふ じの[房][花]	㊹	387	目次の標題は「384 三原、大学附属幼稚 園々歌」。「次頁に改 作」と注記	
右、別作	胸のマークの桜も、えがお／えがお にえがおで、よい、よい、よい子、	㊹	389		
入院中の妻へ	ひとりねの病院にして此の雨を如何 に／きくらんあわれわが妻	㊹	391	短歌6首	
備南平野のここのみの り	稲の穂波ゆたけく、備南平野、こ しも豊年／真夏の真つびるま、防毒 マスク、ゴム手袋、	㊹	393	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「ここの みのり」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
百号に寄せて	本紙が、創刊三周年、／第百号を重ねたという。	㊸	394	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「文化百号によせて」	備南文化新聞(第102号)27. 11. 1
備南の校歌	由来、校歌は、その学校独自のもの、その環境の表現と、その校訓と／もいうべき教育内容の提示とは、他の何校のとも、別でなくてはならぬ。	㊸	395	掲載紙誌の切抜貼付	備南文化新聞(第109号)昭和28年1月21日
備南の校歌(二)	神辺と福山は、私の第／二の郷里、ではない、私	㊸	397	掲載紙誌の切抜貼付	備南文化新聞
鐘の音	どこからか かねが 今日もひびく／誰がつくかねか、音[の][も]さえて、	㊸	400	目次の標題は「鐘の音(曲に合せて)」	小学唱歌
世羅郡甲山小学校々歌	朝日夕日に そびえたち／新山城山[とこしえに][笑みかわし]	㊸	401	目次の標題は「385世羅郡甲山小学校」	
弘田龍太郎先生／追悼讃歌(子供うた)	日本国中、どこでも／子供ばかりか、大人まで	㊸	403	目次の標題は「386弘田先生のうた」	
赤い屋根(第二)	本紙に、又『赤い屋根』を／かく偶然が、私の「物好	㊸	406	掲載紙誌の切抜貼付	新市町広報第39号 昭和28年11月15日
広島県／神辺中学校々歌	春夏と、秋冬と／季節はかわれど久遠の姿に	㊸	407	目次の標題は「387神辺中学校々歌」	
年賀状	五十何年昔、高等小／学三年の時、年賀状の	㊸	409	掲載紙誌の切抜貼付	中国朝報 昭和29年1月1日
船石保太翁のうた	又春をむかへて遂に九十年／よる年波に身をまかせつゝ	㊸	410	目次の標題は「和歌」。短歌2首	
矢沢天馬君のうた	湯に入れて我をやすませ足の爪／短かく切ると世話やく滋	㊸	410	目次の標題は「和歌」。短歌3首	
世羅郡／甲山小学校々歌	朝日に夕日にそびえ[ては][たち]／高く 大きく[うれしげに][ほこらしく]	㊸	411	目次の標題は「388甲山小学校々歌」。「P. 415=清書改作」と注記	
神石郡／西城高校々歌	朝日 夕日に 笑まい立つ／峻峰大富、不動の[おしえ][さとし]。	㊸	413	目次の標題は「389西城高校々歌」。「P. 417=改作」と注記	
甲山小学校々歌	朝日 夕日に 照り映えて／高く聳える新山の	㊸	415	「P. 411ヨリ」と注記	
西城高校々歌	朝日 夕日に そゝりたつ／大富山の、さとすらく	㊸	417	「P. 413の改作」と注記	
目の役目、耳の役目	目の役目は、孔は二つで、役目は一つ、見る役目／耳の役目も、孔は二つで、役目は一つ、聞く役目	㊸	419	「P. 541に別作」と注記	
手の指／五本指	親指 太くて強いから／背は低くても 父さん指	㊸	421	目次の標題は「五本指」	
岡山県児島市味野／児島高校々歌	朝日 夕日に そそりたつ／峻峯龍王、しめすらく	㊸	423	目次の標題は「390岡山県児島高等学校々歌」	
交響楽「建築完成」	その昔富士山の頂上から／下界を見下して、小泉八雲	㊸	425	掲載紙誌の切抜貼付	
二度目の初対面 清水画伯追悼	至誠高等女学校第一学年／二〇〇名募集に、四六二名	㊸	426	掲載紙誌の切抜貼付	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
世羅郡小国町／小国小唄	備後小国はすみよい町よ／来よい、行きよい、くらしよい(ヤレ、ホレホレ)	㊹	427	目次の標題は「391 世羅郡小国小唄」	
至誠女学校卒業式々辞		㊹	433	標題のみ、目次には標題の記載はない	
清水良雄画伯追悼「壺前にて」		㊹	433	標題のみ、目次には標題の記載はない	
広島県遺児靖国神社来拝感想文／「靖国の子」を編みて		㊹	433	標題のみ、目次には標題の記載はない	
近藤君新婚の挨拶状のうたにかへすとて	西京の宿にきく瀬の音のよさ蜜月の／旅のいねがての夜半	㊹	434	目次の標題は「新婚の人にかへして(和歌)」。短歌3首	
宮城道雄／音楽生活五十年祭に打電	今から約四十年昔、日本の音楽箏曲／が、日本に於てさえ、とかく、かげが薄くなるかの頃、	㊹	435	目次の標題は「宮城道雄君の[音楽生活][五十年]祝歌」。短歌1首あり	
片ことにも立派な詩	童謡は、幼児の世界を／楽しく美しく、また	㊹	436	掲載紙誌の切抜貼付	朝日(昭和二九、六、四日)
静岡県／伊東市 野間幼稚園々歌	いつもきれいな花が咲き／いつも温泉わいている	㊹	437	目次の標題は「392 野間幼稚園々歌」。「P. 441に清書」と注記	
神石郡／豊松中学校々歌	朝日に聳え、夕日に笑まう／米見の嶺の ゆるぎなき	㊹	439	目次の標題は「393 神石郡豊松中学校々歌」	
野間自由幼稚園々歌	いつもきれいな花がさき／温泉いつもわいていて	㊹	441	「P. 437より」と注記	
プロスペリテイ	昭和二十九年四月、新入／生百四十七名を迎えて、本	㊹	443	掲載紙誌の切抜貼付	至誠新聞 第5号 昭和29年7月15日
福山西小学校々歌	朝日 夕日に、山田山／眼を四方にはなちては、	㊹	445	目次の標題は「394 福山西小学校々歌」。「(P. 459へ改作)」と注記	
広島大学／福山分校附属中学／高校 校歌	陽光、明るく、風清く／四時、朗らのこの郷土に	㊹	447	目次の標題は「395 福山広大附属中学校々歌」	
広島県賀茂郡西条町／賀茂高校々歌	真澄の空に 濃緑映えて／希望の高峯と、白鳥山ぞ、	㊹	449	目次の標題は「396 賀茂高校々歌」。「P. 455ニ改作」と注記	
福山附属中／高	陽光明るく 風清く／四時ほがらのこの郷土に	㊹	451	「清書と別案」と注記	
広島市牛田町／牛田小学校々歌	朝日 夕日に 緑映え／雨にも風にも かわるなき	㊹	453	目次の標題は「397 広島市牛田小学校」	
賀茂高校々歌	真澄の空に濃緑映えて／希望の高嶺と白鳥山ぞ	㊹	455	「P. 449の改作」「次頁にまた改作」「改作P. 475」と注記	
賀茂高校々歌(第三回案)	真澄の空に 濃緑映えて／希望の高峯[よ][と]、白鳥山よ	㊹	457	「改作P. 475」と注記	
福山西小学校校歌	朝夕 四方を見わたして／広く世の為つくさんと	㊹	459	目次の標題は「福山西小学校」。「P. 445の改作」と注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
芦品郡新市町／自進 会々歌	朝日 夕日に 聳えたつ／亀寿の山 と、理想は高く	㊹	461	目次の標題は「398 新市自進会々歌」	
三原市立／糸崎小学 校々歌	朝日に、夕日に てりはゆる／瀬戸 内海の島々も	㊹	463	目次の標題は「399 三原市糸崎小学校々 歌」。「改作P.477」 と注記	
望の湯の讃		㊹	465	標題のみ、目次には標 題の記載はない	
噫平川大三君		㊹	465	標題のみ、目次には標 題の記載はない	
野間自由幼稚園のお子 さんへ		㊹	465	標題のみ、目次には標 題の記載はない	
私の読書一昔と今と。		㊹	465	標題のみ、目次には標 題の記載はない	
音楽光の会		㊹	465	標題のみ、目次には標 題の記載はない	
児童と読書		㊹	465	標題のみ、目次には標 題の記載はない	
看護婦さん	・・・さんは 白い服／白い靴下、 白い靴	㊹	466		
今と昔と	六十何年もの昔、今の／誠之館高校 の前身「福山	㊹	469	掲載紙誌の切抜貼付。 目次には標題の記載は ない。「私達の読書」	葦陽読書新聞 昭和 29年11月29日
広島県深安郡／中條中 学校々歌	大地に深くも根ざしつつ／日毎明る き陽をあびて	㊹	471	目次の標題は「No.400 中條中学校々歌」	
うたの誕生	歌ううた、すなわち、曲のある歌 詞、／歌詞のある曲、いずれも、お のずから	㊹	474	目次には標題の記載は ない。掲載紙誌の切抜 貼付	講談社 教科書局
広島県／賀茂高校々歌	真澄の空に濃緑はえて／希望の高峯 よ、白鳥山よ	㊹	475	目次の標題は「賀茂高 校々歌(改作)」。 「P.455の改作」と注 記	
広島県／糸崎小学校々 歌	朝日に 夕日に 絵にまさる／瀬戸 内海よ、長井の浦よ。	㊹	477	目次の標題は「糸崎小 学校々歌(改作)」。 「P.463の改作」 「P.463の原作に決 定」と注記	
因島市／三庄小学校々 歌	朝日に 夕日に うるわしく／えま いて、高き 浅間山(せんげんさん) も	㊹	479	目次の標題は「401 因島市三庄小学校々 歌」	
岡の松	お寺の後は松林、／藪のつづいた岡 の上	㊹	481	備南文化新聞の切抜も 貼付、新聞では「丘の 松」と表記	備南文化新聞 昭和 30年1月1日
苺とり	苺島は 苺ばかり／苺ばかりで花ざ かり	㊹	483		
巨人福山	東京駅さえ、こんなにすっきり／し た広場をもたないほどの、広	㊹	485	掲載紙誌の切抜貼付。 「言いたい放題」	(中国新聞新年号)
児童と読書 自らよむ もの一よんで聞かすも の	児童に善い本一児童自らが読／むの に善い本、従つて、児童に読 の	㊹	486	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「児童と 読書」	学校図書館速報版 昭和29年12月5日

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
至誠の九年	昭和三十年、四月、本校／正に十年 目を迎える。	㊴	487	掲載紙誌の切抜貼付	至誠新聞 昭和30年1 月29日
噫 平川大三君	ことし秋／まだ残暑中	㊴	488	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「平川大 三君」	至誠新聞 昭和30年1 月29日
新しい新市町礼讃	新市町と、常金丸、／網引、戸手の 三村とが	㊴	490	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「新しい 新市町」	新市町広報 昭和30 年2月20日
広島市外東海田町／広 島電機高校々歌	朝夕仰ぐ 日の浦山の／自らなる気 高さよ	㊴	491	目次の標題は「No.402 広島電機高校々歌」	
広島市外／府中南小学 校々歌	明るい日かげ、清い風／[大][青]空 [はれて][わたる]白い雲	㊴	493	目次の標題は「No.403 広島市外府中学校」。 「P. 531改作」と注記	
広島市外／東海田／小 ざくら保育所のうた	咲いたよ、咲いた／お宮の森にも、 よく咲いた	㊴	495	目次の標題は「404 東海田、小桜保育所」	
尾道市美ノ郷町／三成 小学校々歌	小さな流も次々に／力を合せて、一 すじに	㊴	497	目次の標題は「No.405 尾道市三成小学校」	
私の十代／母の泣顔	中学一年の時、同じ下宿の／上級生 に、英国た	㊴	499	目次の標題は「私の十 代」。掲載紙誌の切抜 貼付	朝日新聞 四月二十 七日
尾道市／日比崎小学 校々歌	[大地][地面]の底から わき出ては ／空から降つては、一すじに	㊴	501	目次の標題は「No.406 尾道市日比崎小学」。 「P. 509に改作」と注 記	
広島市尾長町／松本商 業高校／中学校 々歌	[秀峯][秀麗][霊峯]二葉 久遠の姿 ／永劫 黙し、何しめす、	㊴	503	目次の標題は「No.407 広島、松本商業高校 歌」。「次に改作」と 注記	
改作、松本商業高校々 歌	あけゆく空に 響きぞわたる／平和 の鐘は 何さとす	㊴	505		
東京都深川公園／文教 幼稚園々歌	どの葉も この葉も きらきらり／ どの窓、この窓、日の光	㊴	507	目次の標題は「No.408 東京、文教幼稚園歌」	
尾道市／日比崎小学 校々歌	大地にわく水 草のつゆ／雨水集え て流れゆく	㊴	509	目次の標題は「日比崎 小学校々歌」。 「P. 501の改作」と注 記	
尾道市美ノ郷町／美木 中学校々歌	朝日に 夕日に [並びたち][相そ びえ]／大平、竜王、しめすらく	㊴	511	標題の部分×で消し てある。(目次の標題 「409 尾道、美木中 学校」も、取消線がひ いてある)	
いずみ讃歌	泉、泉、／大地の深きより	㊴	513	目次の標題は「泉讃 歌」	昭和三十二年二月二 十五日午後四時四十 五分放送 「ラジオ 中国」
跡見時代の後をみて	二昔も三昔も昔のこと、最初一年間 は国語を、約十一年	㊴	515	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「跡見時 代回顧」	跡見学園「汲泉」第 三号 昭和三十年八 月一日
松永市歌	国の内外の人みなに／やすらい、い こいをささげんと	㊴	517		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
栄養ニコピン志るこの讃	それ「ニコピン」はニコニコピンピンにして「平和円満／進取活動」なり。略してニコピンとこそ。人、凡そ、ニコピ	㊹	519	目次の標題は「ニコピンしるこ」。印刷物の貼付。P.362の新装版	株式会社虎屋本舗謹製「ニコピン志るこ」
子供の願い	子供は、子供とあらしめよ。子供の世界には、大人は／手を出し、口を出してはならない。子供の世界には、大	㊹	520	掲載紙誌の切抜貼付	広島県公報
岡山県／井原市 高屋町 ／どんぐり童話会のうた	どんぐり とんぐり／あちらも どんぐり	㊹	521	目次の標題は「412 どんぐり童話会の歌」	
大分県／立石小学校々歌	小さき流 幾筋も／集えに集えて 何さとす。	㊹	523	目次の標題は「413 大分県立石小学校々歌」	
宮城道雄氏を語る (上・下)	新日本音楽の創始者で、邦楽界の／巨匠宮城道雄氏の演奏会は、誠之	㊹	525	掲載紙誌の切抜貼付	新聞
神石郡／神石町婦人会々歌	朝日夕日に笑ましくも／聳えに聳ゆる峯統、	㊹	527	目次の標題は「414 神石町婦人会々歌」	
因島市／土生中学校々歌	朝日 夕日に かゞやきて／青景山も見はるかす	㊹	529	目次の標題は「415 因島市土生中学校々歌」	
海田市／府中南小学校々歌	明るいひかげ、清い風／青空わたる 白い雲	㊹	531	目次の標題は「府中南小学校々歌」。「(P.493より)」と注記	
浮田辰平氏著「少年の日に」の出版記念会	老らくの恋ならなくに気もそぞろ／少年の日に心浮いた浮いた	㊹	533	目次の標題は「浮田辰平君の祝」。短歌2首	
大島祥丘画伯のために ／祥丘芸術の確立		㊹	533	標題のみ、目次の標題は「大島祥丘画伯」	
交通ひんばん	電車もバスもの交通網が／年々拡げられ、回数も次	㊹	534	掲載紙誌の切抜貼付	至誠新聞 第8号
松永正氏長男／弘三 (ヒロミ)君博子嬢と婚儀	梅[の][が]香[も][を][の]博く弘 [めて][まり]竹尋に／いや末広 [の][に]松永の[家][幸]	㊹	535	目次の標題は「松永君祝言」。短歌1首	
旭を浴びて	わが至誠女子高校の、広／い校地の東端に、新しく礼	㊹	536	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「旭をあびて」	至誠高校新聞
呉市／ルンビニ幼稚園	おはなは、おはなは よく咲いて／いつでも、どこでも、楽しそう	㊹	537	目次の標題は「416 ルンビニ幼稚園々歌」	
新年随想／七十の手習	「六十の手習が、本当／で 七十の手習は、う	㊹	538	掲載紙誌の切抜貼付。目次の標題は「七十の手習」	中国朝報 三十一年新年号
赤ちやん	小さなベッドに ねんねして／赤ちやん、お目目を あけていた	㊹	539	目次の標題は「あかちやん」。「(孫の眞にせがまれて)」と注記	
役目	お目目 二つで 役目は一つ／見る 役目	㊹	541	「[P.419の改作]」と注記	
福寿の[曲][(賦)][歌]	絃(いと)の音(ね)に／心のしらべかけてひく	㊹	543	目次の標題は「417 福寿のうた」	
安那中学校々歌	朝日 朝風 はれやかに／八畳岩山、権現山ぞ	㊹	545	目次の標題は「418 安那中学校々歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
世羅郡甲山町／甲山高 等技芸学校	旭に映えて 真澄の空に／姿、久遠 の新山を	㊦	547	目次の標題は「419 甲山高等技芸学校々 歌」	
広島市旭町／広島県広 島工業高校々歌	光を熱を 天地に／旭の、あまねく みたす如、	㊦	549	目次の標題は「420 広島工業高等学校々 歌」。「別案P.681」 と注記	
尾道市外／向島、津部 田小学校々歌	青空高く 睦じく／いつも向き合い 並び合い	㊦	551	目次の標題は「421 向島津部田小学校々 歌」	
でこぼこ並んで	稲束 つぎつぎはずされて／田圃に 残つて並んでる	㊦	553	目次の標題は「でこぼ こならんで」	
姫百合小百合	初夏の花多き中に、私の／最愛の 花、それは鈴蘭。ま	㊦	555	掲載紙誌の切抜貼付	至誠高校新聞
あゝあゝ宮城道雄先生	昭和三十一年六月二十五／日午前二 時五十三分頃、前	㊦	556	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「あゝ宮 城先生」	
ニコピンもなか	ニコピンもなかは ニコピンだるま ／お顔も円く お腹(なか)も円く	㊦	557	印刷物の貼付(虎屋本 舗)	
新神辺町讃歌	手に手をつなぐ 山々の／どの木も この木も どの川の	㊦	559	目次の標題は「422 新神辺町讃歌」	
うたのおばさん	うたのおばさん、有りがとう、／毎 あさ 九時前、待ちかねて、	㊦	561		松田トシ作曲 二百 曲記念発表会
福山／南婦人会々歌	御空にたかなる／何の樂ぞ、	㊦	563	目次の標題は「423 福山婦人会(南)」	
原島好文君へ	はがき毎よきうたもて来、来る毎に うれし／なつかし好文日より		564	目次の標題は「原島好 文」。短歌5首	
ニコピンだるま	遠い昔の大昔／そのまた昔の昔から	㊦	565		
お師匠さんにも認めら れ／た宮城道雄君を偉 大なら／しめたもの	跡見女学校の小石川柳町時代何かの 式後／若き日の宮城君が、尺八の吉 田晴風君と演	㊦	567	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「宮城」	
ニコピニズム	なに、ニコピニズム？／えつ、ニコ ピニズム？	㊦	569	掲載紙誌の切抜貼付	至誠高校新聞 第11 号
広島県双三郡／三良坂 (ミラサカ)小学校々歌	明けても暮れても 一すじに／注ぎ に注ぐ元気よさ、	㊦	571	目次の標題は「424 三良坂小学校々歌」	
童謡のゆくべき道	童謡はこどものものであり、こ／ど もの世界から生れる。作るとい	㊦	573	掲載紙誌の切抜貼付	
心のアンテナ	あまり古い昔ではない頃／の小学校 国語読本第一巻に	㊦	574	目次には標題の記載は ない。掲載紙誌の切抜 貼付	至誠高校新聞
神石郡／豊松小学校々 歌	双子に米見に 杉の木、檜の木／雨 には打たれ、	㊦	575	目次の標題は「425 豊松小学校々歌」	
広島県／世羅郡 甲山 町川尻小学校々歌	朝日に 夕日に 輝やいて／朝倉、 大平、大空に	㊦	577	目次の標題は「426 甲山町川尻小学校」	
広島県／世羅郡 甲山 町上原小学校々歌	朝日に ほゝえむ 桜の花か／鎮守 の森の小鳥の群か、	㊦	579	目次の標題は「427 甲山町上原小学校」	
(甲) 広島県郷土めぐり のうた	広島県は 広い県／広くて、よい 県、立派な県、	㊦	581	目次の標題は「428 広子ちゃん郷土めぐり の歌」	NHK (JOFK)
(乙) 全上、広子のう た	広島県に生れた広子／わたくし、う れしや、有りがたや	㊦	583		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
同じうた(丙)	名所に名所[の][が]続いでる／広い 広島[全県下][県全部]	㊹	585		
同じうた(丁)	広島県は[りつばな県][よい所]／ 海にも陸にも どこ[に][ま]でも	㊹	587		
広島県／山県郡 千代田 町立／八重小学校々歌	朝日 夕日に 肩をばならべ／[と はに][高く][四方に]聳[ゆる][え た][える][山][峯]また[山][峯]を	㊹	589	目次の標題は「429 山県郡千代田町／八重 小学校々歌」。 「P. 593改作」と注記	
岡山県後月郡／芳井町 ／明治中学校々歌	朝日に 夕日に 照りはゆる／峯ま た峯の深緑、	㊹	591	目次の標題は「430 井原市／明治中学校々 歌」	
山県郡千代田町／八重 小学校々歌	見わたすかぎりの田[に][も]畑 [に][も]／[田畑][田んぼ]に [田 畑][田んぼ]が [つらなつて][つづ いてて][つづいては]	㊹	593	「P. 489ノ改作」 「P. 595改作」と注記	
山県郡千代田町／八重 小学校々歌(改作)	見わたすかぎり田も畑も／ゆたかな みのり 年毎に、	㊹	595		
一事が万事	最近、某市某会社での一／事実談で ある。	㊹	598	掲載紙誌の切抜貼付	至誠高校新聞 第12 号
涙をこえての大結集		㊹	603	標題のみ記載	宮城道雄一周忌追慕 演奏会誌
みだしていないか児童 のことば		㊹	603	標題のみ記載	児童心理 三十二年 八月号
小学／一年生 新年号 のために	梅のつぼみがふくらんで／きたきた 正月 うれしいな	㊹	605	目次の標題は「小学一 年の正月(童謡)」	
竹田のとんど節	とんどとんどと、竹田のとんど／大 黒さまさえ、えびす顔	㊹	607		
井原市／西江原町、大 山恒氏夫人、急逝／弔 電	イロモカモ／トワニト キクハ メ デニシヲ	㊹	615	目次には標題の記載は ない	
高知旅行中ノ／至誠教 員団へ	ルスタクモ／ニコピンナレヤ 菊日 和、	㊹	616	目次には標題の記載は ない	
三重県婦人会のうた	朝日夕日に色はえて／三重の野山に 咲きみつる	㊹	617	「三輪玉尾の原作よ り」と注記	
世羅郡／甲山町 伊尾小 学校々歌	朝日に夕日に[すつきり][どつしり] と／高くそびえて 向かい合い	㊹	619	目次の標題は「No.431 世羅郡甲山町、伊尾小 学校々歌」	
広島市宇品町／広陵高 等学校々歌	ましぐらに／昼も夜も たえずうま ず	㊹	621	目次の標題は「No.432 広島市広陵高校々歌」	
広島市／工業高校々歌	大天地に光を熱を／みたす朝日の逞 ましき	㊹	623	目次の標題は「広島工 業高校々歌(改作)」。 「(P. 682ニ清書)」と 注記	
佐藤一夫氏よりのうた の返歌3首	親雀子雀むれて遊びに来(き)うたに ／踊にたのし大やぶ	㊹	625	目次の標題は「至誠の 現状(和歌)」。短歌3 首	
福山子供会のうた	広い[ね][よ] 高い[ね][よ] 大空 は／ 広くて、高くて 大きい	㊹	626	目次の標題は「No.433 福山子供会のうた」	
宮城道雄直伝の双壁		㊹	629	標題のみ記載	中国新聞 三三年四 月

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
福山市／千田町／千田小唄	春は 加賀良も蔵王の山も／ [桃][花]のしとねに、(ホラホラ、 ホラネ)	②7	631	目次の標題は「No.434 福山市千田小唄」	
広島県芦品郡／新市音頭	備後新市 織物どころ／備後がすりは 日本一	②7	644	目次の標題は「No.435 新市音頭」。「昭和三十 五年改作」と注記	
三楽音頭	明るい日かげ[で][に]、清らの水 [で][に]／澄んだ大気[で][に]、手 足も[ねれば][ねつて][きたえ]	②7	661	目次の標題は「No.436 三楽音頭(御領稲荷 歌)」	
備後緋小唄	またも出[ました][たぞよ]、ほら新 [柄][織]が、／この出来栄のすばら しさ	②7	663	目次の標題は「No.437 備後緋小唄」。金丸、 貝原織物KK	
至誠／スポーツ声援歌 (甲)	城山(じょうやま)下し、すさぶ日 に、／至誠魂、ちかいたる	②7	675	目次の標題は「No.438 至誠スポーツ声援歌」	
至誠／スポーツ応援歌 (乙ノ一)	富士の白雪ァ、ノーエ、朝日でとける、 ／とけて、流れて、ノーエ、	②7	677		
同 (乙ノ二)	チャンスが[来ました][来た来た]、 ／きつとかつチャンス、	②7	679		
広島市旭町／工業高 校々歌	大天地に、光を、熱を／みたす朝日 の逞ましさ	②7	681	「P.549より」と注 記。目次には標題の記 載はない	

◆ 創作ノート⑳(昭和33年～36年)

広島県／世羅郡 世羅西 町小国小学校々歌	来る日も来る日も かわりなく／朝 日 夕日に はれやかに	⑳	2	目次の標題は「No.439 広島県／世羅郡 世羅 西町、小国小学校々 歌」	
日本の乙女にかわりて	美智子さまの／およろこびの	⑳	4	掲載紙誌の切抜貼付。 目次の標題は「ことほ ぎのうた」	
広島県／双三郡 三良 坂／灰塚小学校々歌	よく晴れた日と おんなじに、／雨 風の日も、雪の日も	⑳	6	目次の標題は「No.440 広島県／双三郡 灰塚 小学校々歌」	
皇太子様／ことほぎの うた	大空に、大地に、あまねく新らしく ／光 明るく、みちみちて	⑳	8	目次の標題は「改作、 ことほぎのうた」	
(改作)福山市／蔵王小 学校々歌	朝日 夕日に 聳え立ち／姿 おお しき蔵王山	⑳	14	目次の標題は「改作 蔵王小学校々歌」	
竹原市高崎町／大乘小 学校々歌	仲よし小よしの大島小島／遠く、近 く、並んでる	⑳	16	目次の標題は「No.441 竹原市大乘小学校々 歌」	
印牧季雄先生／舞踊生 活／四十年を祝う歌	わたくしたちは 僕たちは／みんな 歌好き 踊り好き	⑳	18	目次の標題は「No.442 印牧先生舞踊生活／四 十年 の祝い歌」	
松永市／大成館中学 校々歌	きけや 清らの緑が丘に／松吹く風 のささやくを	⑳	20	目次の標題は「No.443 松永市大成館中学校々 歌」	
呉市／呉商業高校々歌	大空に 聳え立ち／四方を見わた し、見はるかし	⑳	22	目次の標題は「No.444 呉商高校々歌」	
広島市立三篠小学校々 歌	朝日に 夕日に 緑もはえて／明る い 大きな三瀧山、	⑳	24	目次の標題は「No.445 広島市三篠小学校々 歌」。「P.43改作」と 注記	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
神辺踊	揃ろた、揃ろたよ、踊り子がそろう た／ 神辺踊の踊り子がそろうた	㊸	26		
広島市三篠小学校々歌	朝夕 見上げる 三滝山／桜も 紅 葉も 美しく	㊸	43	目次の標題は「三篠小 学校々歌(改作)」。 「P. 24改作」と注記	
広島県／芦品郡 常金丸 小学校々歌	木の葉のしづく 草のつゆ／谷間の 流 仲よし小よし、	㊸	45	目次の標題は「No.446 広島市常金丸小学校々 歌」	
至誠学園創立二十五年 ／祝歌	この小春日を／備南の空に、備南の 大地に	㊸	47	目次の標題は「No.447 広島県至誠学園創立廿 五年祝歌」	
豊栄高等学校々歌	うらら ほがらの大空に／そびえて さとすか 灰が峯	㊸	49	目次の標題は「448 呉、豊栄高校々歌」。 「[P. 53ニ改作]」と 注記	
沼隈郡／熊野小学校々 歌	いつも、高くて、大きくて／風にも 雨にもどつしりと	㊸	51	目次の標題は「449 広島県、熊野小学校々 歌」	
豊栄高校々歌	光あまねき大空に／聳えてさとすか 灰が峯	㊸	53	目次の標題は「豊栄高 校々歌(改作)」。 「P. 49の改作」と注記	
三次市／十日市小学 校々歌	朝日に、夕日に、ほゝえむように／ 姿やさしく、大空高く	㊸	55	目次の標題は「450 三次市十日市小学校々 歌」	
近時／近況 八尋十二 首	あのころのあのことそのこと、その ころ／のそのことあのこと皆なつか しき	㊸	57	「八尋一麿」の署名。 短歌12首	宮城会報連載「宮城 先生のあのころその ころ」につけて
広島県／三原工業高 校々歌	桜紅葉に、濃緑に／自然の推移正し きに	㊸	61	目次の標題は「451 三原工業高校々歌」	
園長先生おめでとう	どなたも こなたも [どうした の][ニツコニコ]／何がそんなにう れしいの	㊸	63	「内山憲尚先生 児童 教化四十年幼児教育三 十五年 記念会祝 歌」。目次の標題は 「内山／憲尚 園長先 生おめでとう」	
[題未詳]	生れいでゝすぐ名づけしや「衛生」 と人の／命を衛れよとてや	㊸	67	岡田道一氏長男衛生氏 学位論文通過の祝。目 次には標題の記載はな い。短歌4首	
広島県／甲奴郡 総領中 学校々歌	春は 若葉の萌えいでて／秋は 紅 葉の色はえて	㊸	69	目次の標題は「452 甲奴郡総領中学校々 歌」。「(三、次頁へ 改作)」と注記	
甲奴郡／甲奴中学校々 歌	朝日 朝風 ほがらけく／姿不動 に、永劫に	㊸	73	目次の標題は「453 甲奴郡甲奴中学校々 歌」	
新市音頭	やさしかわいの平和の鳩と／色香め でたい白菊黄菊	㊸	75	目次の標題は「454 新市音頭」。「前年の 改作、追加」と注記	
新市町／上戸手 自重堂 音頭	太平洋の一孤島／日本備後の小さな 町の	㊸	87	目次の標題は「455 自重堂音頭」	
府中市／高木町 掛江織 布K.K.	谷川野川を集えた大川、／芦田のほ とりK. S. K.	㊸	93	目次の標題は「456 掛江織布K.K. 社歌」	

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
(御野)小学校と(安那)中学校／赤い屋根 青い屋根	小学校と中学校／どちらも長い二階建	㊸	99	目次の標題は「小学校と中学校」。貼付してある印刷物では「青屋根 赤屋根(御野小学校と安那中学校)」	
町うらの[みち][バス道路]	町の道路は一ぱいに／ほりかえされて、通れない。	㊸	101	目次の標題は「町のうらのみち」	
山守山の松三本	山守といふ名の村の山／うねうね高い峯続き	㊸	103	目次の標題は「山守山の松の木三本」	
砂川土手	砂川土手は 長い土手／土手の片側、広い路、	㊸	105		
こえがおちた	こえがおちた／ゲギゲギ、ゲギゲギ、ゲゲギギギ	㊸	109		
上衣のボタン	上衣のボタンのきまりは五つ／上衣のホールも[きまりは五つ][五つがきまり][五つのきまり]	㊸	113		
山羊と麦刈	山羊が ついてく／今日はや 三日目の	㊸	115	目次の標題は「山羊さんの麦刈」	
旧作／四つ地藏の追加	野路二つに分れる所／石の地藏[が][さま]、両手を合せ	㊸	118	目次の標題は「四つ地藏(増補)」。「P. 137へ改作」と注記	
旧作／「村の道ぶしん」補作	西へ、北へ、／東、南、	㊸	121	「「村」を「郷土(さと)」にかえて」と注記。目次の標題は「村の道ぶしん」	
岡山県／井原市 高屋第二小学校々歌	広い 広い 大空に／城山続きの山山が	㊸	123	目次の標題は「457 井原市高屋第二小学校々歌」	
広島県／神辺町 竹尋保育所のうた	いつでも高くて 大きくて／雨にも風にも つよい山	㊸	125	目次の標題は「458 竹尋保育所のうた」	
広島県御調町／御調音頭	桜咲かせて 紅葉を染めて／青葉若葉に つまじに、雪に	㊸	127	目次の標題は「459 御調音頭」	キングレコード(N-403)
井原市高屋町／第一小学校々歌	明るい日をあび[すくすくと][元気よく][あざやかに]／[伸びをきそうか][伸びて栄える][緑いや増す][若][姫][大]松小松	㊸	135	目次の標題は「460 井原市第一小学校々歌」	
[改作] 四つ地藏	野路二つに 分れるところ／石の地藏さま 両手を合せ	㊸	137	目次の標題は「四つ地藏(改作)」	
広島県御調郡／御調町民歌	四時(しいじ) 眺(ナガメ)は絵にまさり／瀬音、風音、鳥のこえ、	㊸	139	目次の標題は「461 御調町民歌」	キングレコード(N-403)
東京都／田園調布 姫百合幼稚園々歌	田園調布の／丘の上	㊸	143	目次の標題は「462 姫百合幼稚園々歌」	
双葉保育園々歌	いつも[晴々][広々]、気持ちよく／海の風ふく、久木の里。	㊸	145	目次の標題は「463 双葉保育園々歌」	
新潟県／荒沢小学校々歌	かゞやく空にそびえ立ち／守門ヶ嶽は	㊸	147	「原作、諸橋轍次 補作」、「P. 151改作」と注記	
富士山(その一)	いつ見ても／どこから見ても	㊸	149		
荒沢小学校々歌	[かゞやく][大]空にそびえたち／守門ヶ嶽は、	㊸	151	「P. 147の改作」「諸橋博士原作」と注記	
富士山(その二)	高い 高い、雲よりも／すつかり高く 大きくて	㊸	153		

作品名	うたい出し (冒頭)	ノート 番号	頁番号	備考	発表紙誌等のメモ
富士山(その三)	高い 高い、雲より高い／のぼつて 見たいな、	㊸	154		目次には標題の記載はない
浩ノ宮さま 二度目のお節句	ひろい ひろい 御所の庭／とつても も大きな鯉幟	㊸	155		
東京／阿部幼稚園々歌	高くて大きい富士山の／すそのに一 ばい[に下りてきて][の日をあびて]	㊸	159		目次の標題は「465 阿部幼稚園々歌」
八尋の二宮神社宮司／ 松永碩太郎氏／八十八 の賀に、祝電	八八モ一〇〇モコエマセ／イヤヒロ ニ	㊸	161		短歌1首
広島県新市町／常金中 学校々歌	朝日に映えて 明るくも／不動の姿 かわるなく	㊸	163		「校名変更改作」と注 記
妹尾正毅(まさき)君／ 大田明子嬢 結婚祝電	ヨマフ(華燭ノ盛典ヲ祝シ／御多幸 ヲ祈ル)	㊸	165		
富士山(その四)	高い空／雲の上	㊸	167		
富士山(その五)	高く(て) 大きく 美しく／すば らしい山、富士の山、	㊸	169		
誠之舎々歌	朝(あした)、夕(ゆうべ)、風清き／ 武蔵大野に 根ざしも深く、	㊸	171		